
令和4年度
「次期総合計画成果指標に関するアンケート」
調査結果報告書

令和4年9月
新潟市政策企画部政策調整課

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	3
2.	調査の設計	3
3.	集計・分析にあたって	3
4.	回答者の特性	4
5.	回答者の特性（区別集計）	5
II	調査結果	7
1.	地域の活動について	9
(1)	過去1年間の地域活動への参加回数	9
(2)	地域活動に参加しなかった理由	12
2.	男女の平等感について	18
(1)	男女の地位の平等感	18
3.	人権への意識について	21
(1)	人権への意識	21
4.	文化芸術活動について	24
(1)	文化芸術活動の鑑賞・実践	24
5.	文化的な環境について	27
(1)	文化的な環境への満足度	27
(2)	文化的な環境に満足していない理由	30
6.	スポーツの実施状況について	37
(1)	スポーツの実施状況	37
(2)	運動やスポーツを行っていない理由	40
7.	スポーツ環境について	46
(1)	スポーツ環境への満足度	46
(2)	スポーツ環境に満足していない理由	49
8.	生涯学習活動について	55
(1)	生涯学習活動で身に付けた知識や技能について	55
(2)	生涯学習活動についての考え	58
9.	健康について	63
(1)	健康状態	63
(2)	健康のために実行していること	66
10.	住み慣れた地域での安心な暮らしについて	72
(1)	安心して暮らし続けることができるか	72
(2)	安心して暮らし続けるために不足しているもの	75

1 1.	ワーク・ライフ・バランスについて	81
	(1) 働きやすい職場か	81
	(2) 働きやすいと思わない理由	84
1 2.	新潟市の農水産物への誇りや愛着について	90
	(1) 農水産物への誇りや愛着	90
	(2) 誇りや愛着がない理由	93
1 3.	新潟市の国際性について	97
	(1) 国際的なまちか	97
	(2) 国際的なまちだと思ふ理由	100
	(3) 国際的なまちだと思わない理由	106
1 4.	消費生活について	112
	(1) トラブル回避について	112
	(2) トラブル回避のための取組み	115
1 5.	災害に対する備えについて	120
	(1) 災害に対する備え	120
	(2) 災害に対する備えに取り組んでいない理由	123
1 6.	都心部の緑化について	128
	(1) 都心部の緑の変化	128
	(2) 緑や花が増えている部分	131
1 7.	身近な公園について	136
	(1) 安心・安全で快適に利用できるか	136
	(2) 安心・安全で快適に利用できると思ふ理由	139
	(3) 安心・安全で快適に利用できると思わない理由	143
1 8.	広域的な交通インフラの利便性について	147
	(1) 広域交通インフラの利便性	147
	(2) 利便性が良くなった広域交通インフラの種類	150
	(3) 利便性が良くなったと思ふ理由	154
1 9.	道路の整備や管理について	158
	(1) 適切に整備・管理されているか	158
	(2) 今後の道路の整備や管理で大事だと思ふこと	161
2 0.	生活環境について	165
	(1) 生活環境は良好か	165
	(2) 生活環境で良好ではないと思ふもの	168
2 1.	住環境について	172
	(1) 現在の住まい	172
	(2) 住環境は良好か	175
	(3) 住環境が良好だと思わない理由	178

2 2. 市民の意見を聞く市政運営について	184
(1) 市民の意見を聞く体制は整っているか	184
2 3. 行政サービスのデジタル化について	187
(1) 市民生活は便利になったか	187
(2) 行政サービスのデジタル化について不便だと思うこと	190
2 4. SDGs（持続可能な開発目標）について	195
(1) SDGs の達成に向けた取り組み.....	195
(2) 取り組む予定がない理由	198
2 5. 新潟市の持続可能なまちづくりについて	201
(1) 持続可能なまちづくりは進んでいるか	201
(2) 持続可能なまちづくりで進んでいないと思うこと	204

I 調査概要

1. 調査の目的

新潟市の次期総合計画では、成果指標を設定し、データを基に進捗管理を行っていくことから、現状を把握するために実施するもの。

2. 調査の設計

- (1) 対象者 : 市内に居住する満 18 歳以上の男女計 4,000 名
- (2) 調査方法 : 郵送法 (調査票の配付、回収とも)、インターネット調査
- (3) 調査期間 : 令和 4 年 7 月 21 日～8 月 7 日
- (4) 配付数・回収数・回収率

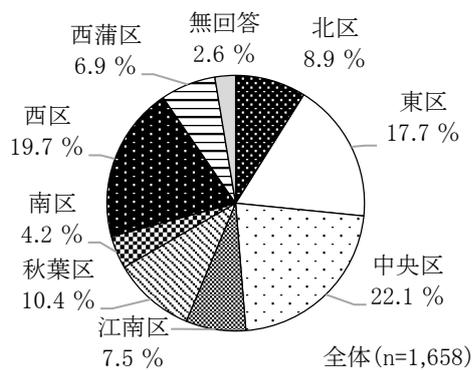
配付数	回収数	回収率
4,000	1,658	41.5%

3. 集計・分析にあたって

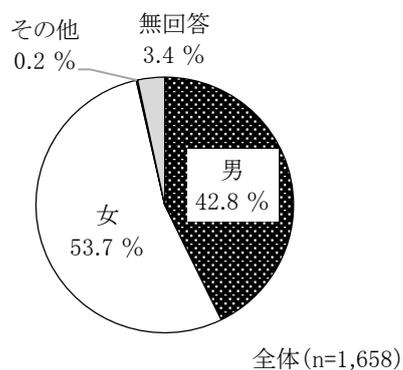
- (1) 図表中の「n」とは回答者総数 (または該当者質問での該当者数) のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 結果は百分率 (%) で表示し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計 100%にならないことがある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

4. 回答者の特性

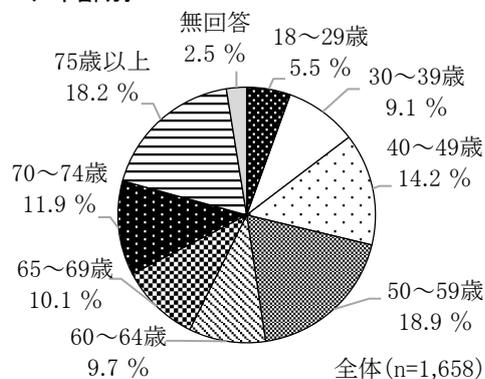
◆ 区別



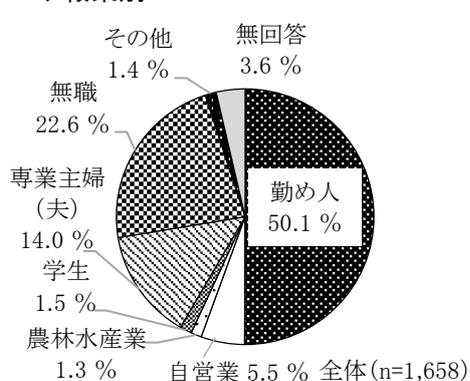
◆ 性別



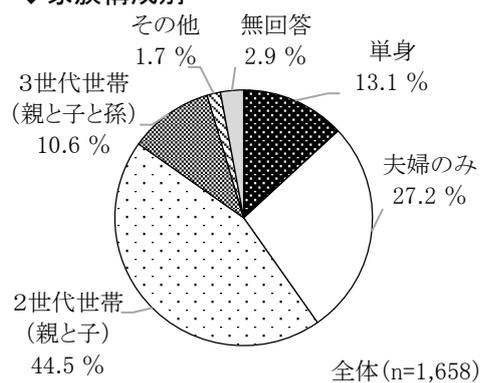
◆ 年齢別



◆ 職業別

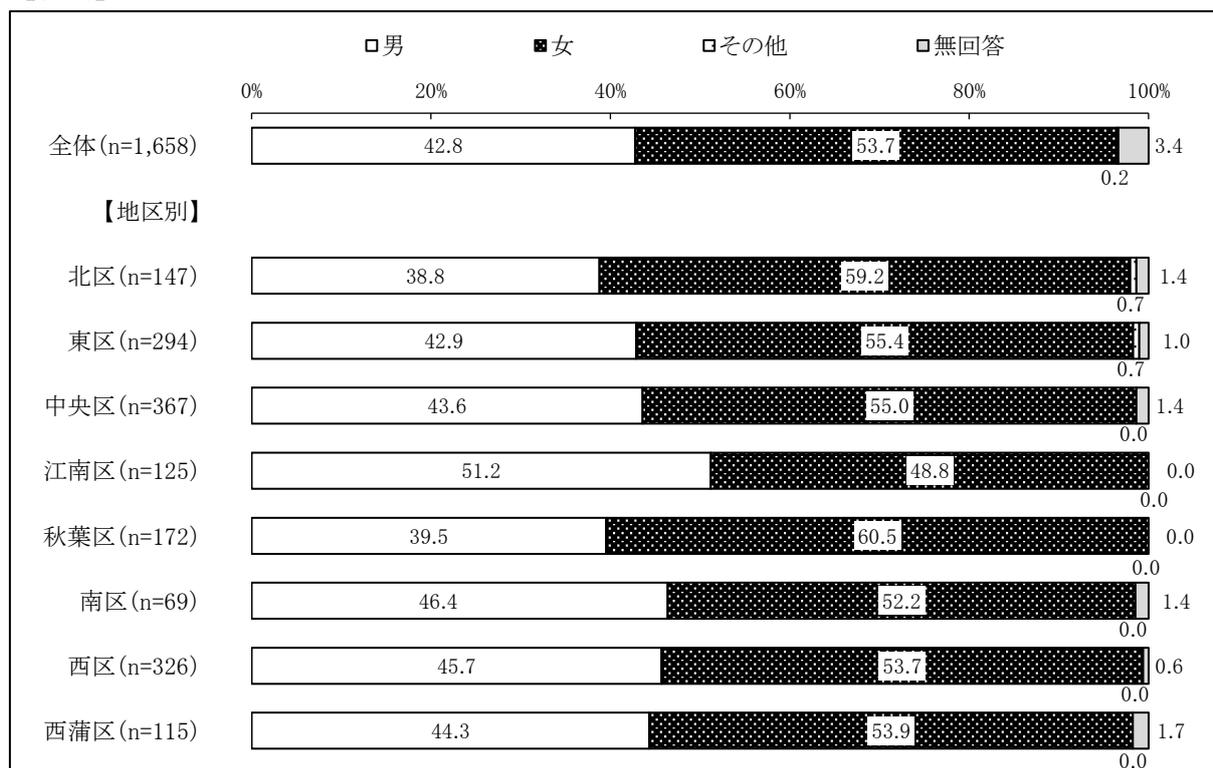


◆ 家族構成別

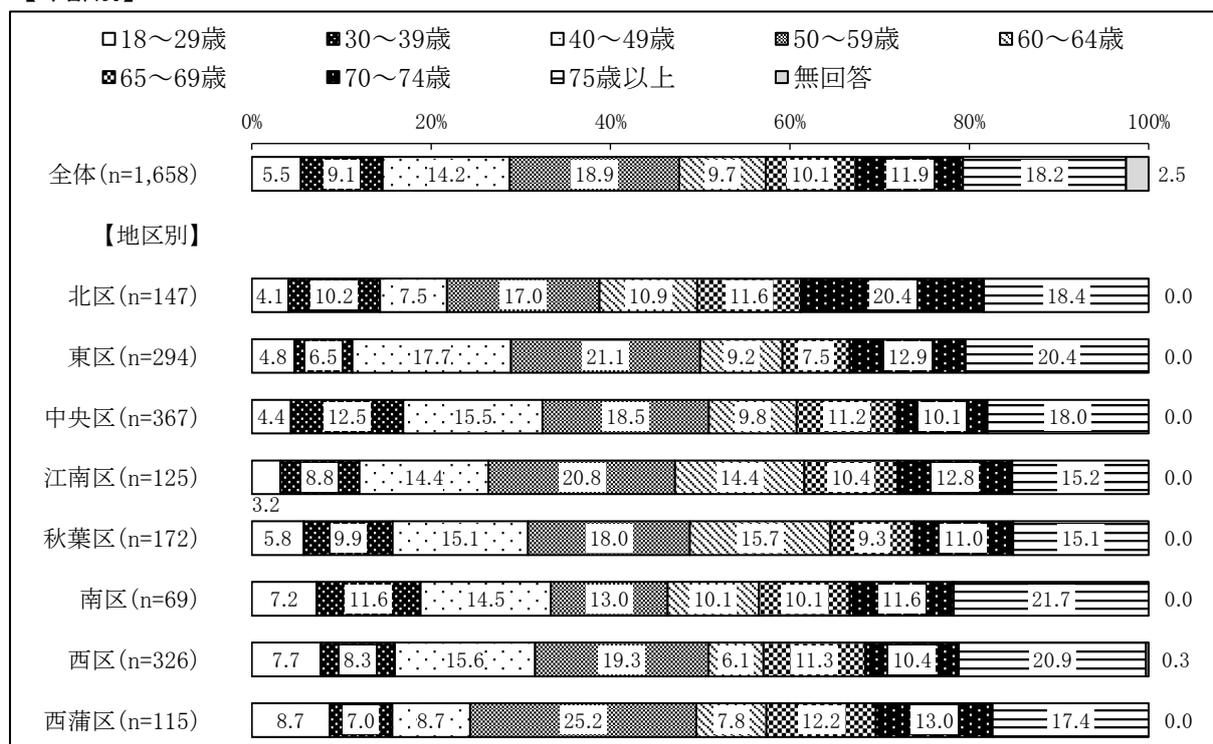


5. 回答者の特性 (区別集計)

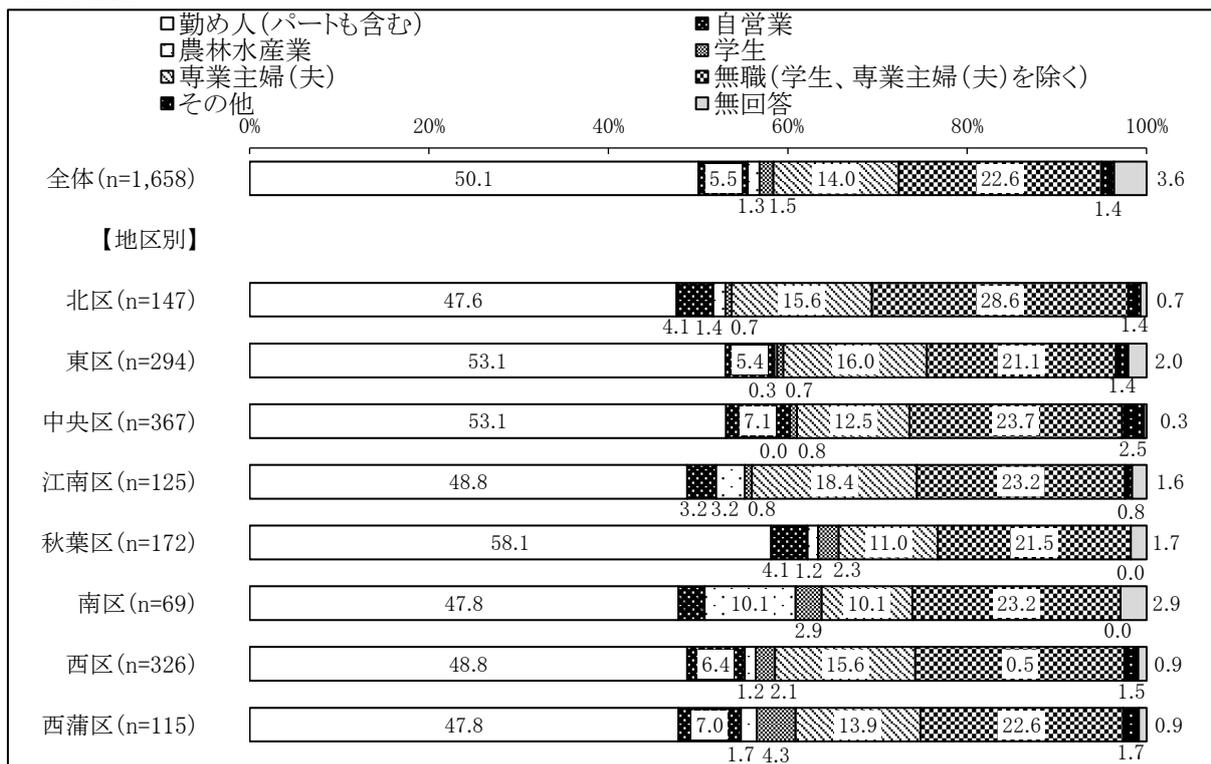
【性別】



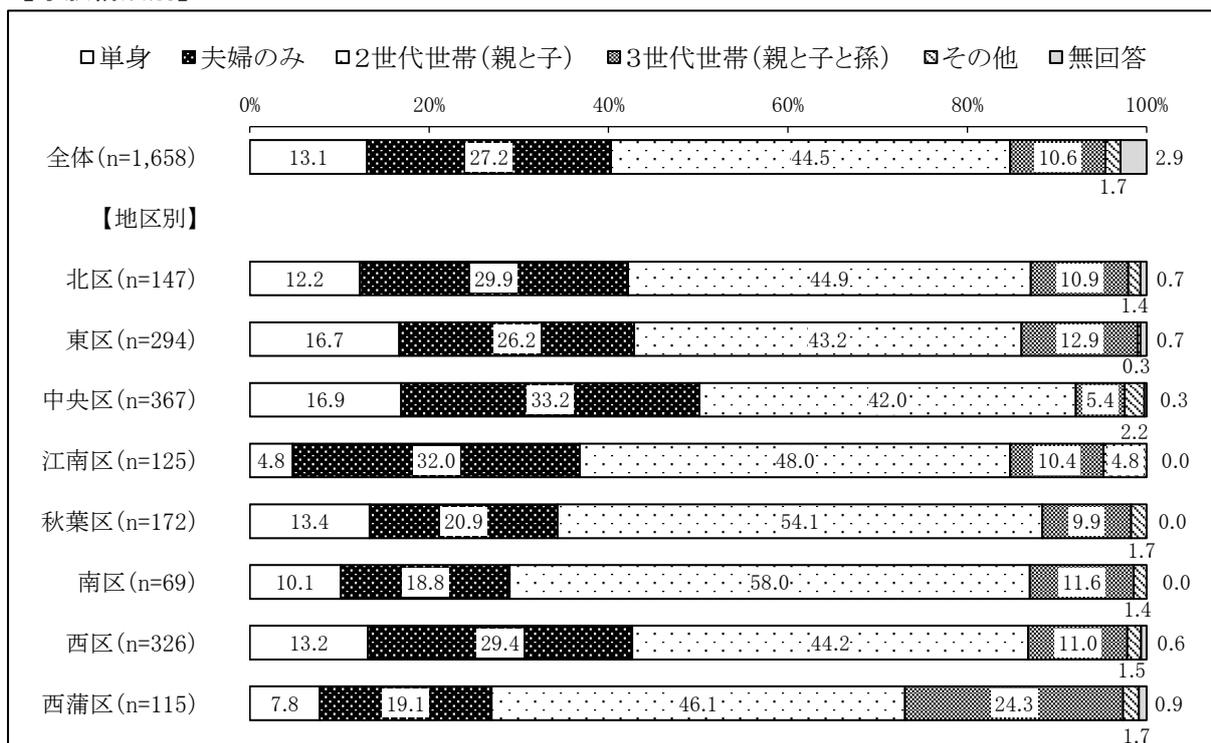
【年齢別】



【職業別】



【家族構成別】

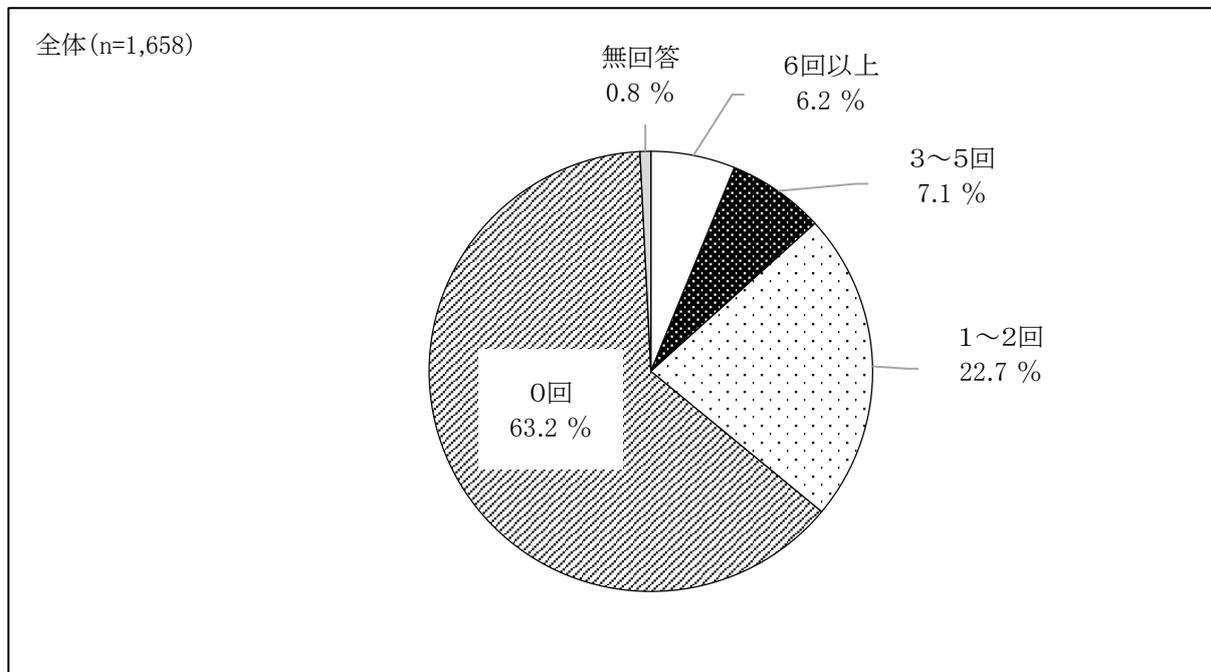


II 調査結果

1. 地域の活動について

(1) 過去1年間の地域活動への参加回数

1-1 あなたは、過去1年間に地域活動に何回参加しましたか。
仕事や客としての関わりでなく、活動のスタッフ・従事者として参加した回数をお答えください。（〇は1つだけ）



【全体結果】

過去1年間の地域活動への参加について、「0回」(63.2%)が最も多く、6割強を占めた。「1~2回」(22.7%)は2割強、「3~5回」(7.1%)、「6回以上」(6.2%)は1割未満となった。

【属性別結果】(次ページ図1.1参照)

① 区別

地域活動への参加が最も少なかったのは、中央区で7割強が「0回」(73.3%)と回答した。

② 性別

男性の方が女性より地域活動へ参加した割合が高い。

③ 年齢別

「6回以上」は75歳以上(11.6%)で最も高く、約1割となった。18~29歳の若年層で参加の割合が低い。

④ 職業別

「6回以上」は農林水産業(18.2%)で最も高く、約2割となった。「0回」(27.3%)の割合は3割弱と最も低かった。

⑤ 家族構成別

単身の地域活動への参加が最も少なく、7割以上が「0回」(76.5%)と回答した。

図 1.1 過去 1 年間の地域活動への参加回数

(区別/性別/年齢別)

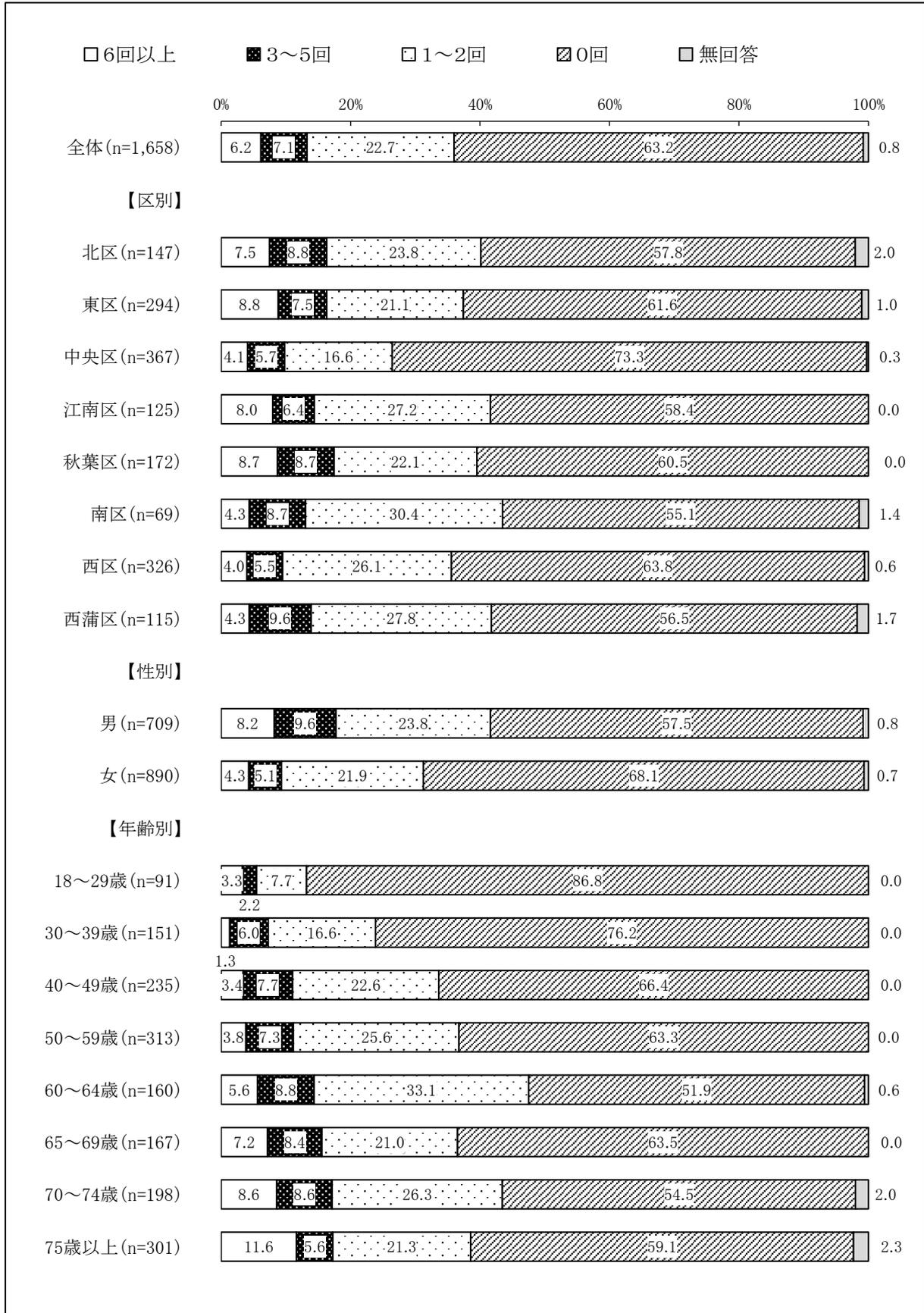
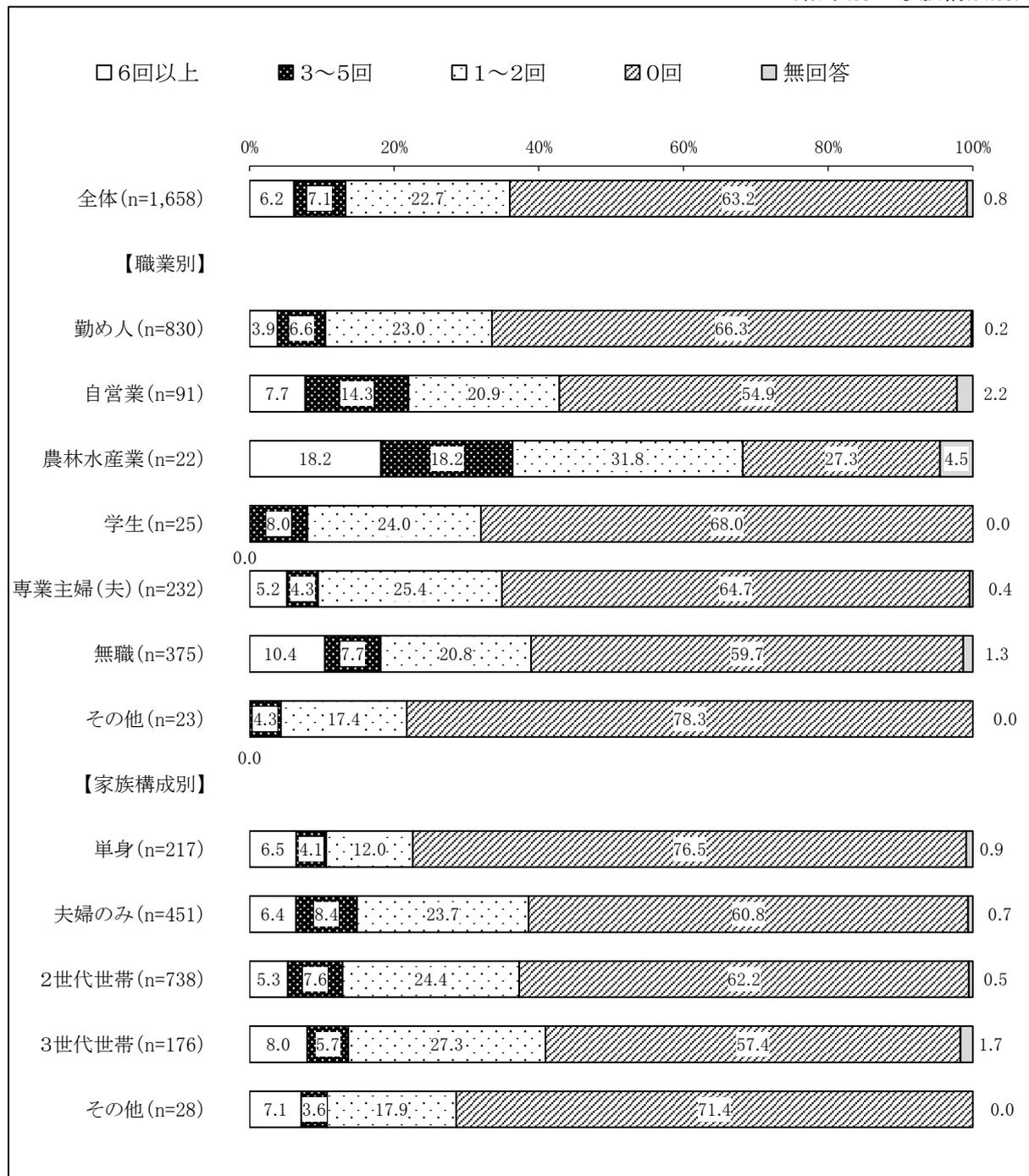


図 1.1 過去 1 年間の地域活動への参加回数

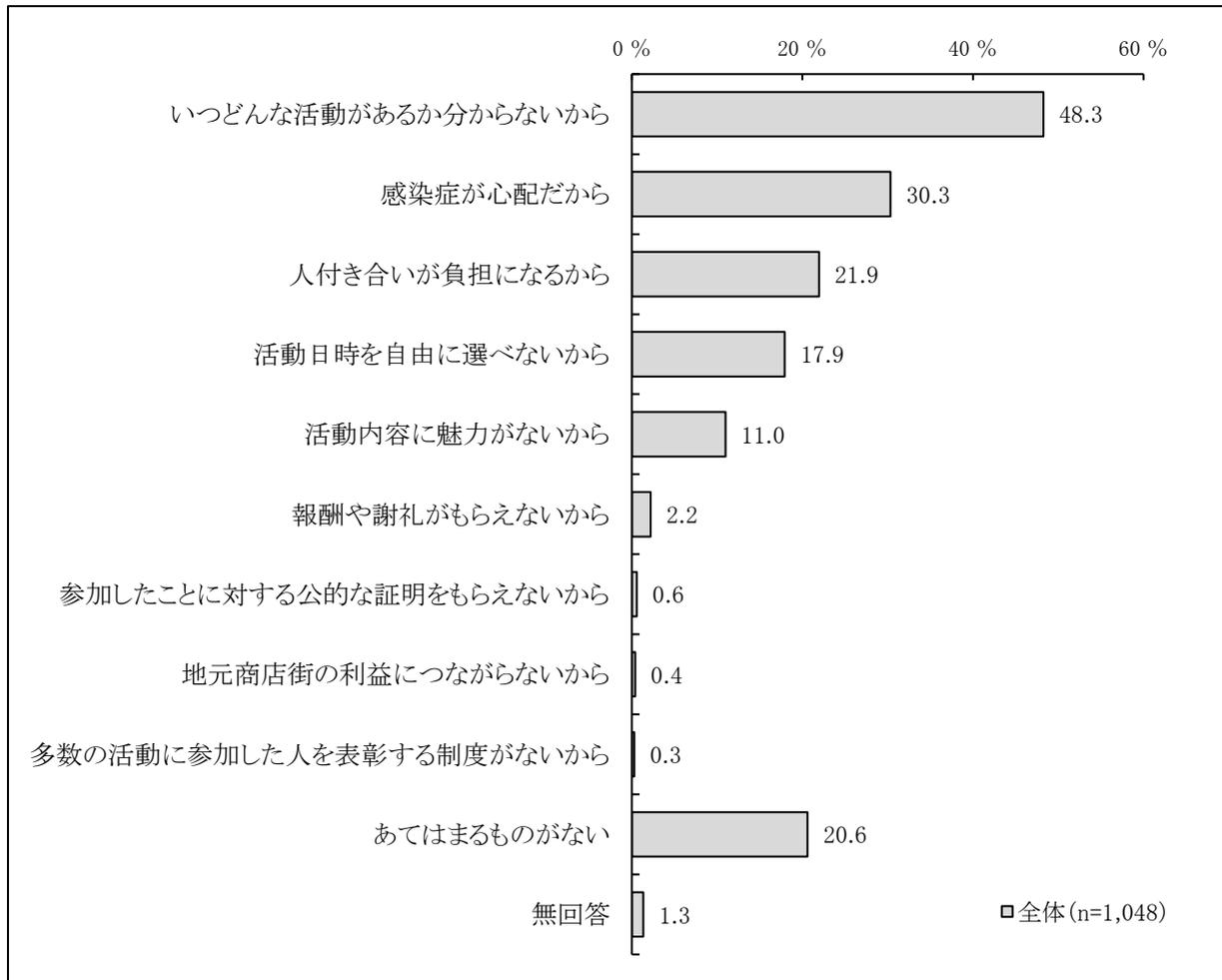
(職業別／家族構成別)



(2) 地域活動に参加しなかった理由

1-1で④を選択した方に質問です。

1-2 地域活動に参加しなかった理由について、あなたの考えに近いものはどれですか。
(〇はいくつでも)



【全体結果】

地域活動に参加しなかった理由として、「いつどんな活動があるか分からないから」(48.3%)が最も割合が高く、約半数を占めた。次いで「感染症が心配だから」(30.3%)、「人付き合いが負担になるから」(21.9%)、「活動日時を自由に選べないから」(17.9%)、「活動内容に魅力がないから」(11.0%)で続く。

【属性別結果】（次ページ図 1.2 参照）

① 区別

北区を除くすべての区で「いつどんな活動があるか分からないから」と答えた割合が最も高い。北区では、「感染症が心配だから」（42.4%）と答えた割合が最も高くなった。

② 性別

男女とも「いつどんな活動があるか分からないから」（各 52.2%、46.5%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

75歳未満では「いつどんな活動があるか分からないから」と答えた割合が最も高く、若年層ほど高い傾向にある。75歳以上では、「感染症が心配だから」（34.3%）と答えた割合が最も高くなった。

④ 職業別

すべての職業で「いつどんな活動があるか分からないから」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「いつどんな活動があるか分からないから」と答えた割合が最も高い。

図 1.2 地域活動に参加しなかった理由 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

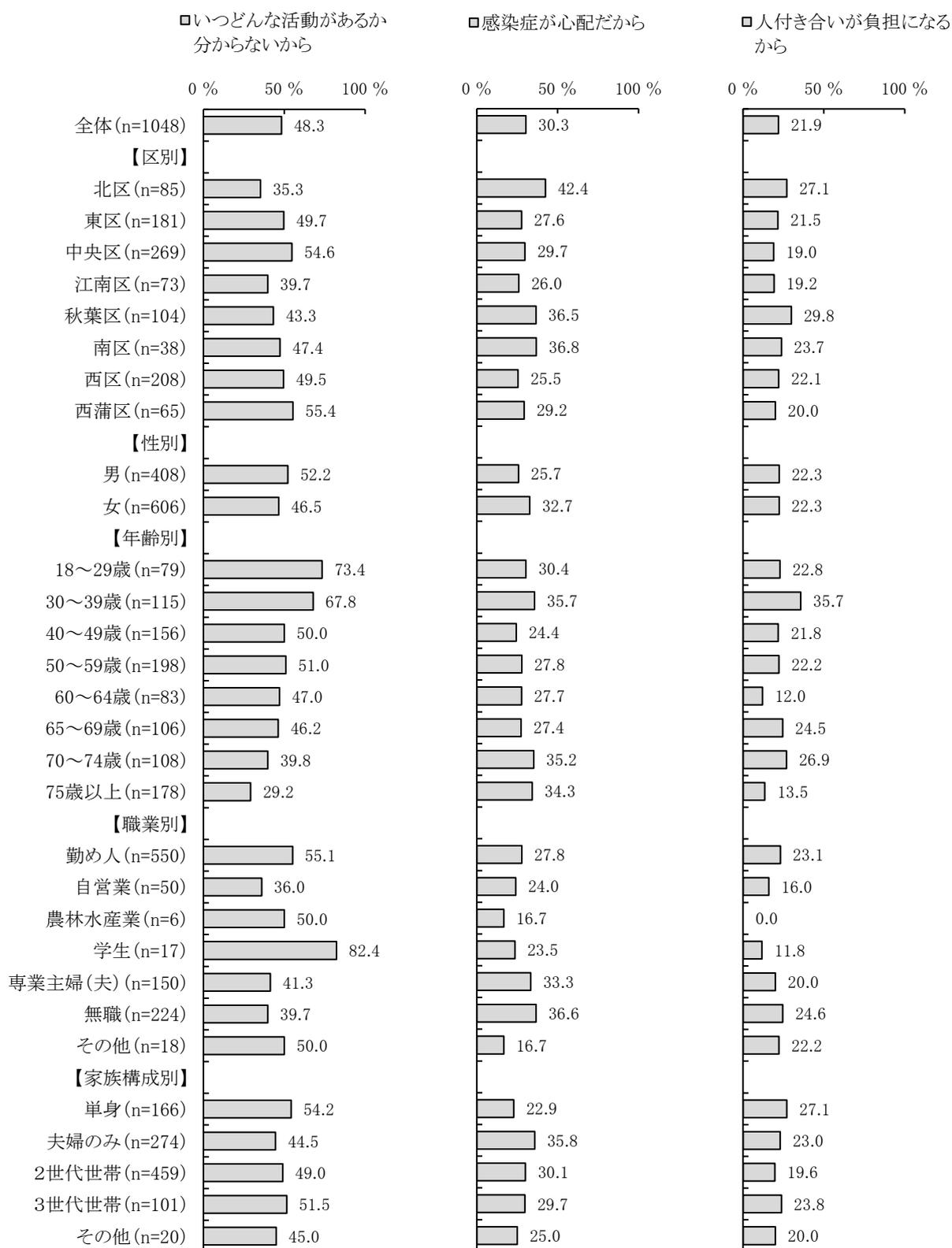


図 1.2 地域活動に参加しなかった理由 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

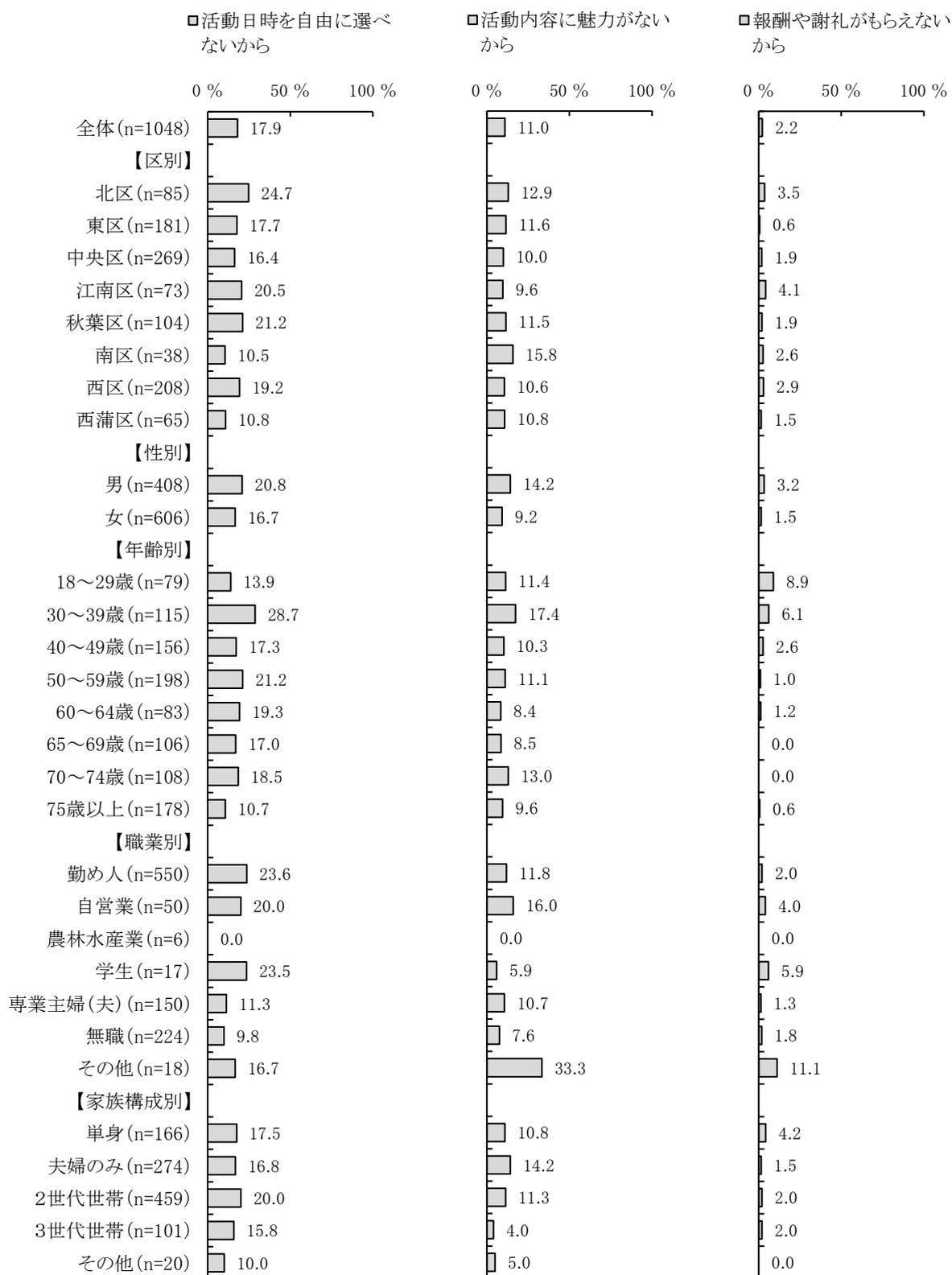


図 1.2 地域活動に参加しなかった理由 3/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

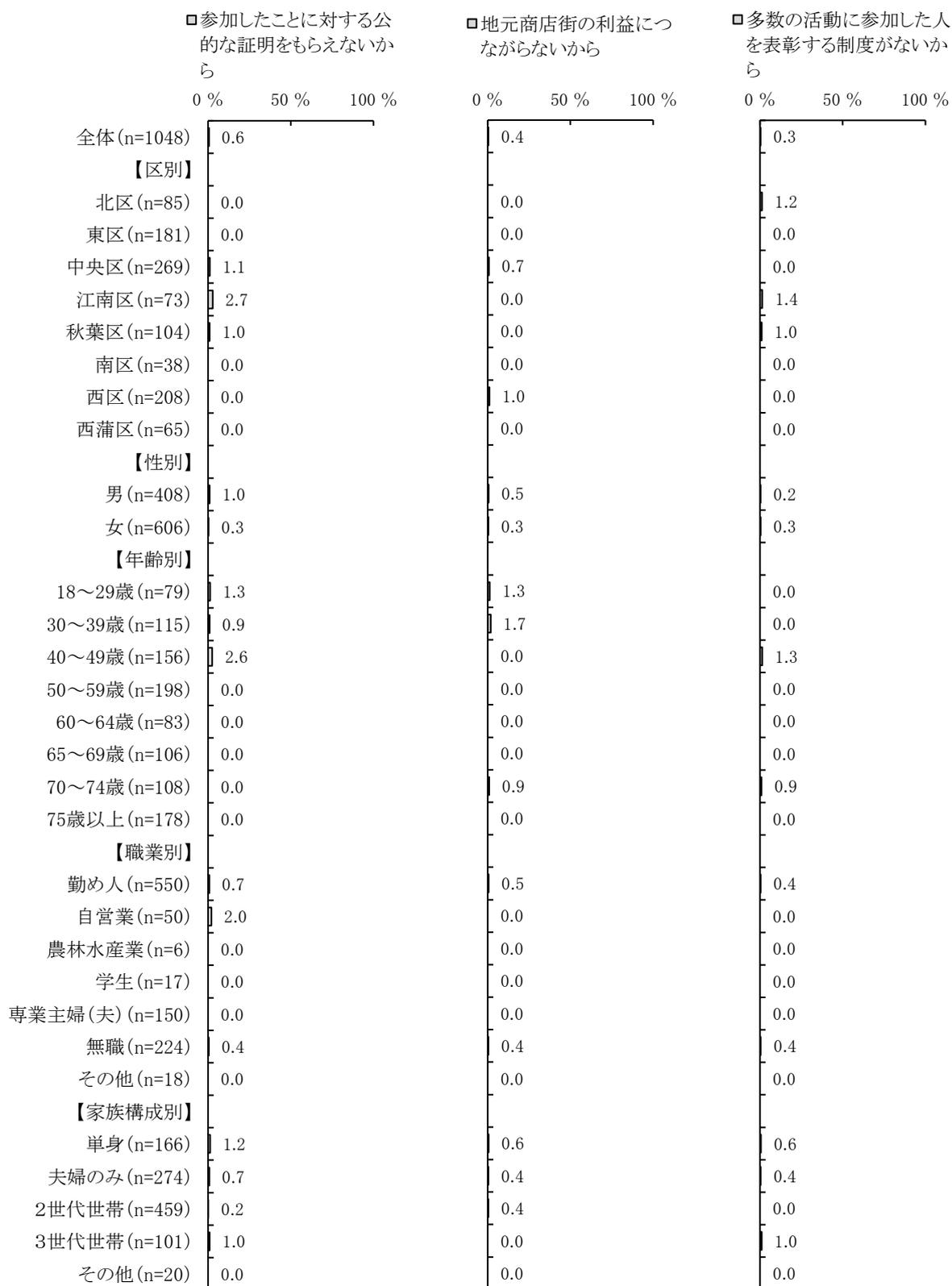
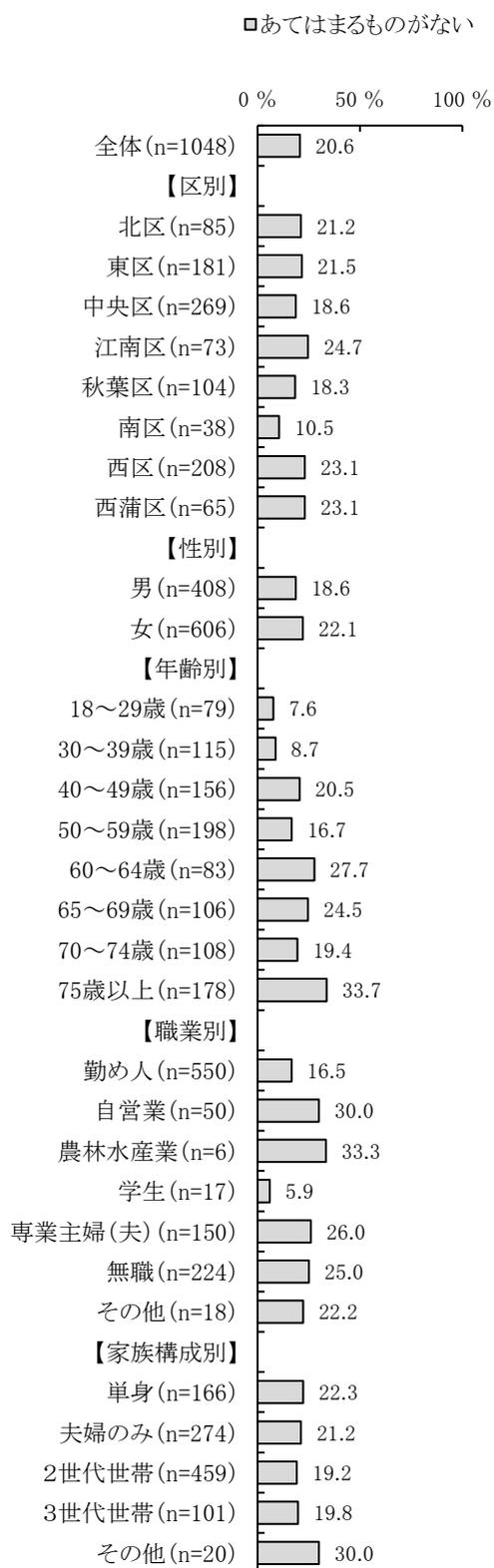


図 1.2 地域活動に参加しなかった理由 4/4

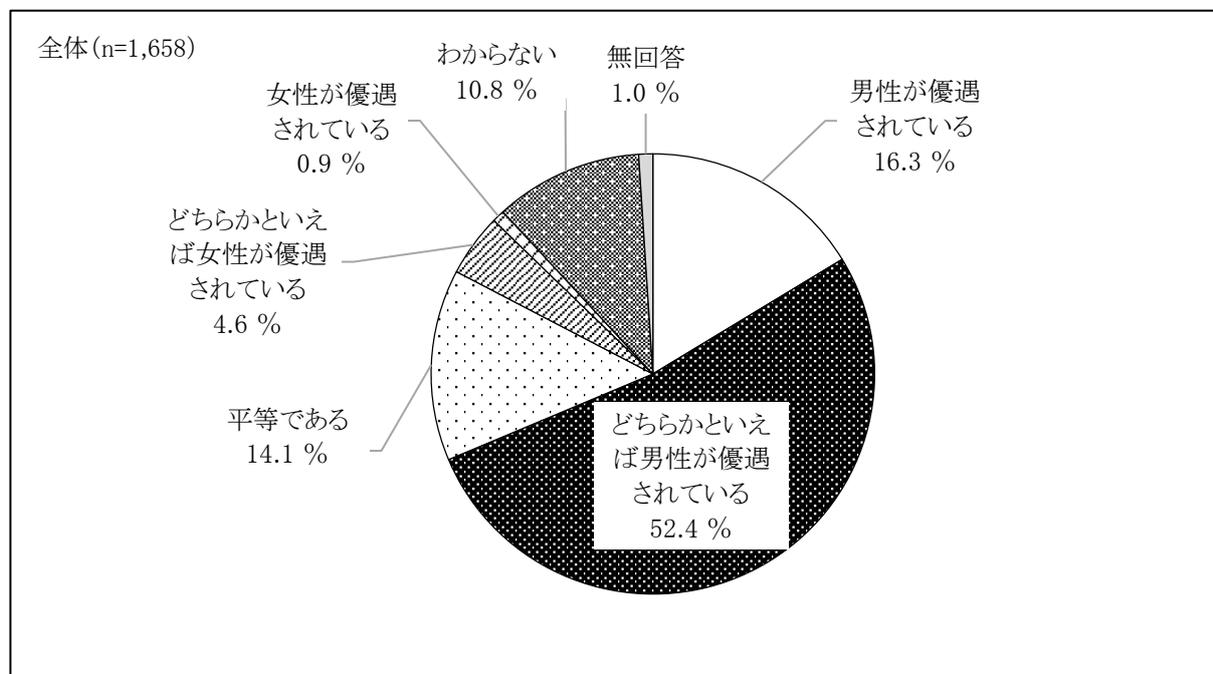
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



2. 男女の平等感について

(1) 男女の地位の平等感

2-1 家庭や職場、学校、政治の場や制度、慣習など、社会全体における男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを選択してください。



【全体結果】

男女の地位の平等感について、「どちらかといえば男性が優遇されている」(52.4%)と答えた割合が最も高く、過半数を占めた。「男性が優遇されている」(16.3%)、「平等である」(14.1%)は1割台、「どちらかといえば女性が優遇されている」(4.6%)、「女性が優遇されている」(0.9%)は1割未満となった。

【属性別結果】(次ページ図2.1参照)

① 区別

すべての区で「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた割合が最も高い。「平等である」と答えた割合は、女性(9.7%)と比べて男性(18.8%)で高い。

③ 年齢別

すべての年代で「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた割合が最も高い。

図 2.1 男女の地位の平等感

(区別/性別/年齢別)

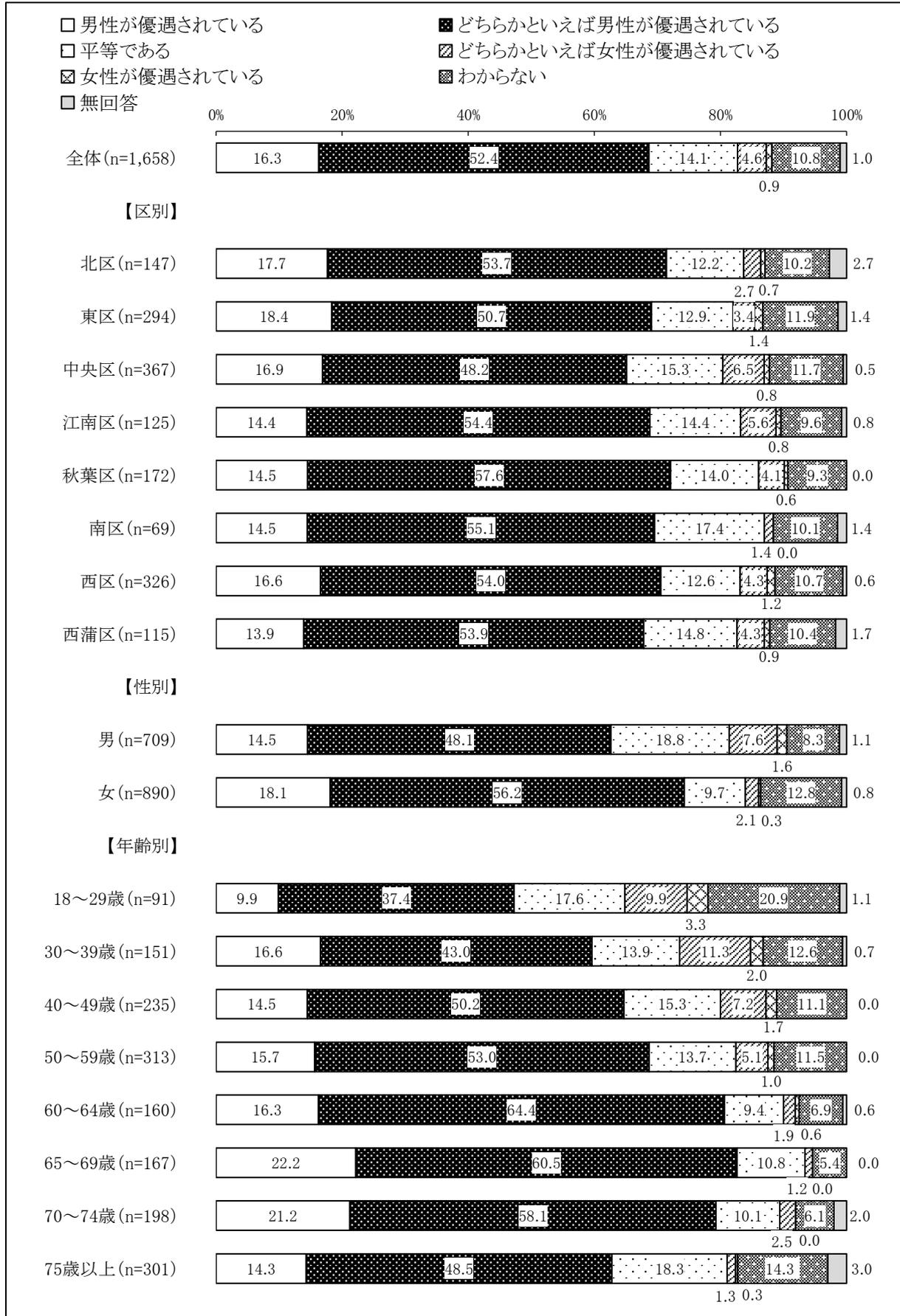
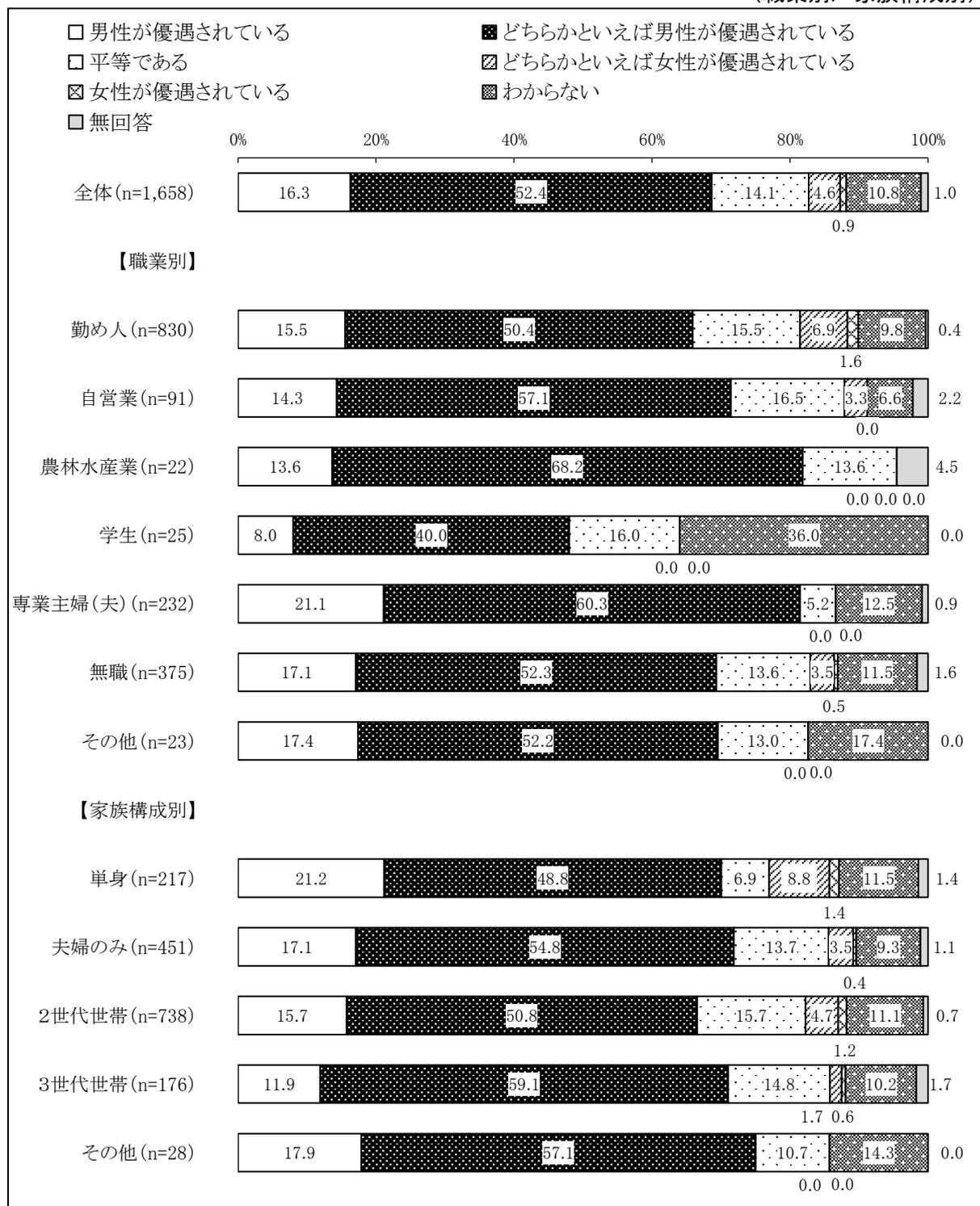


図 2.1 男女の地位の平等感

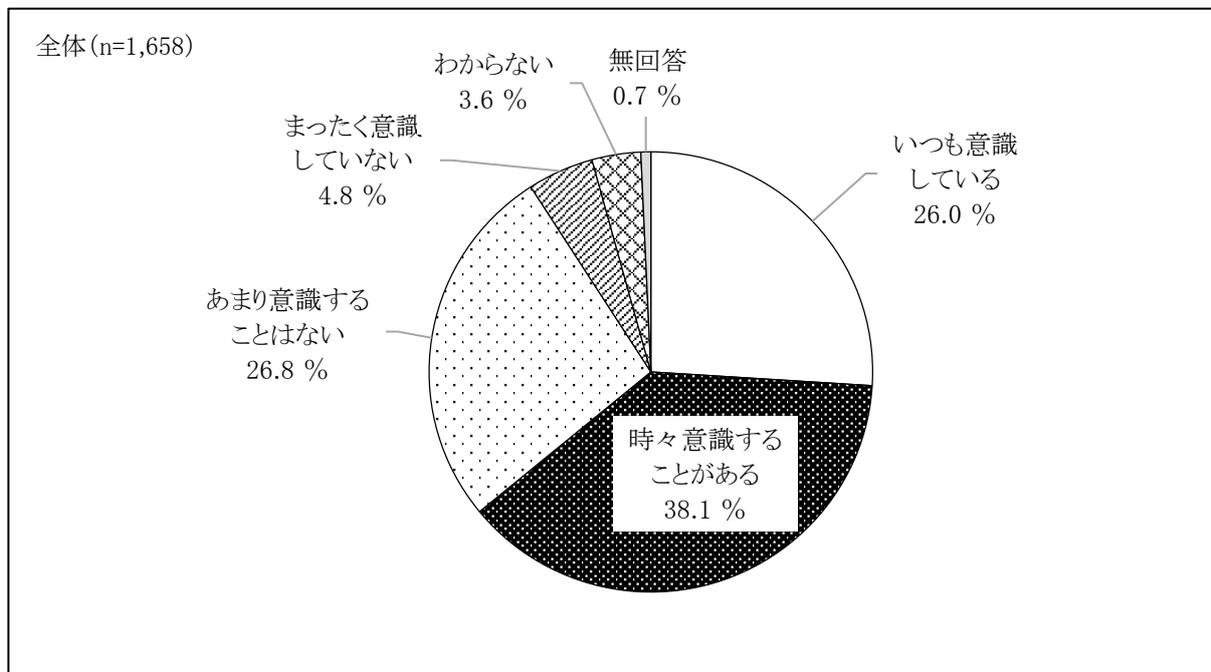
(職業別／家族構成別)



3. 人権への意識について

(1) 人権への意識

3-1 あなたは日頃、自分や周りの人の人権を意識しながら生活していますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

人権への意識について、「時々意識することがある」(38.1%)と答えた割合が最も高く、約4割を占めた。「いつも意識している」(26.0%)、「あまり意識することはない」(26.8%)は2割台、「まったく意識していない」(4.8%)と答えた割合は1割未満となった。

【属性別結果】(次ページ図3.1参照)

① 区別

南区を除くすべての区で「時々意識することがある」と答えた割合が最も高い。南区では、「あまり意識することはない」(34.8%)と答えた割合が高い。

② 性別

男性女性ともに「時々意識することがある」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

すべての年代で「時々意識することがある」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

農林水産業を除くすべての職業で「時々意識することがある」と答えた割合が最も高い。農林水産業では、「いつも意識している」(45.5%)と答えた割合が最も高く、4割半ばを占めた。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「時々意識することがある」と答えた割合が最も高い。

図 3.1 人権への意識

(区別/性別/年齢別)

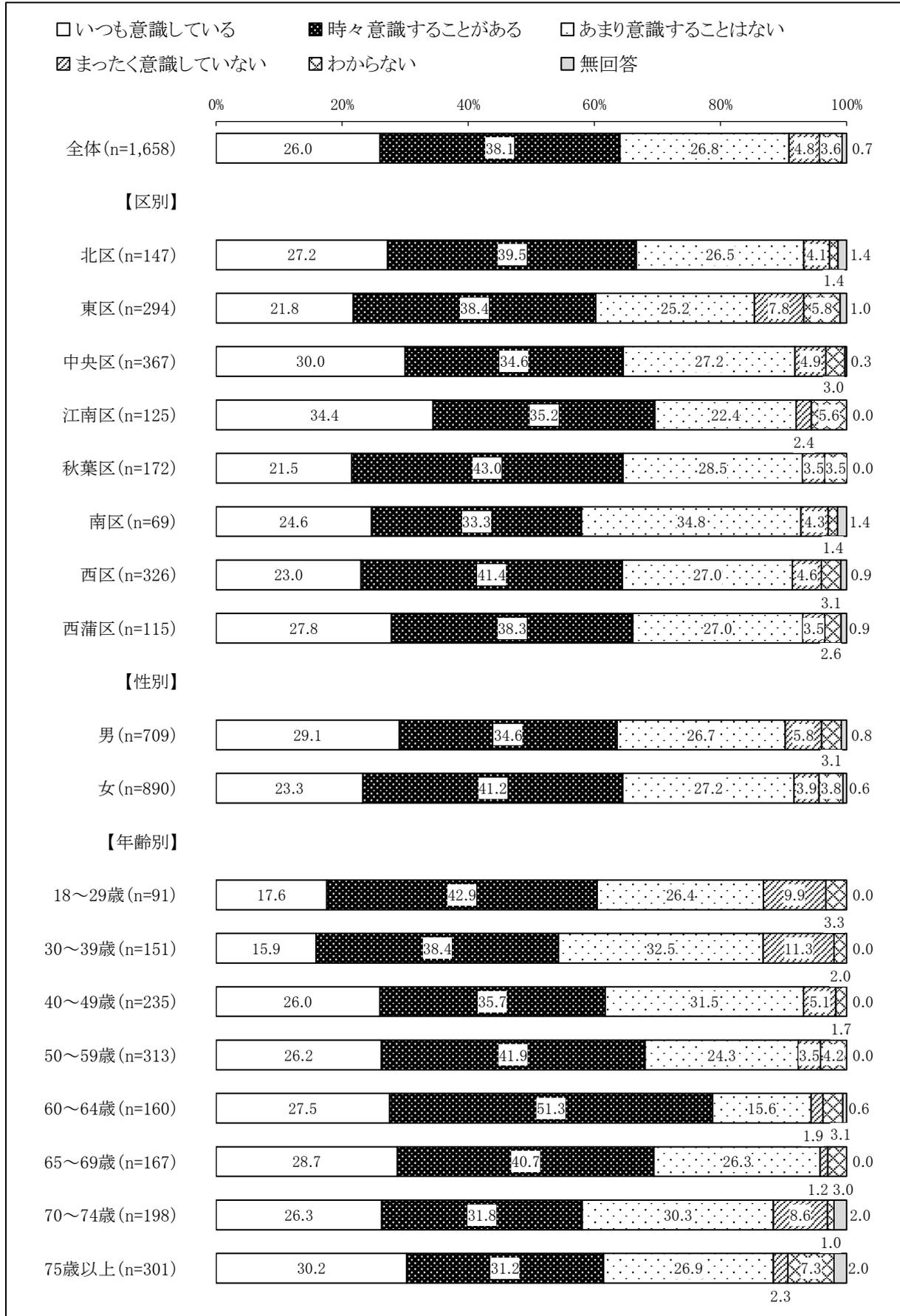
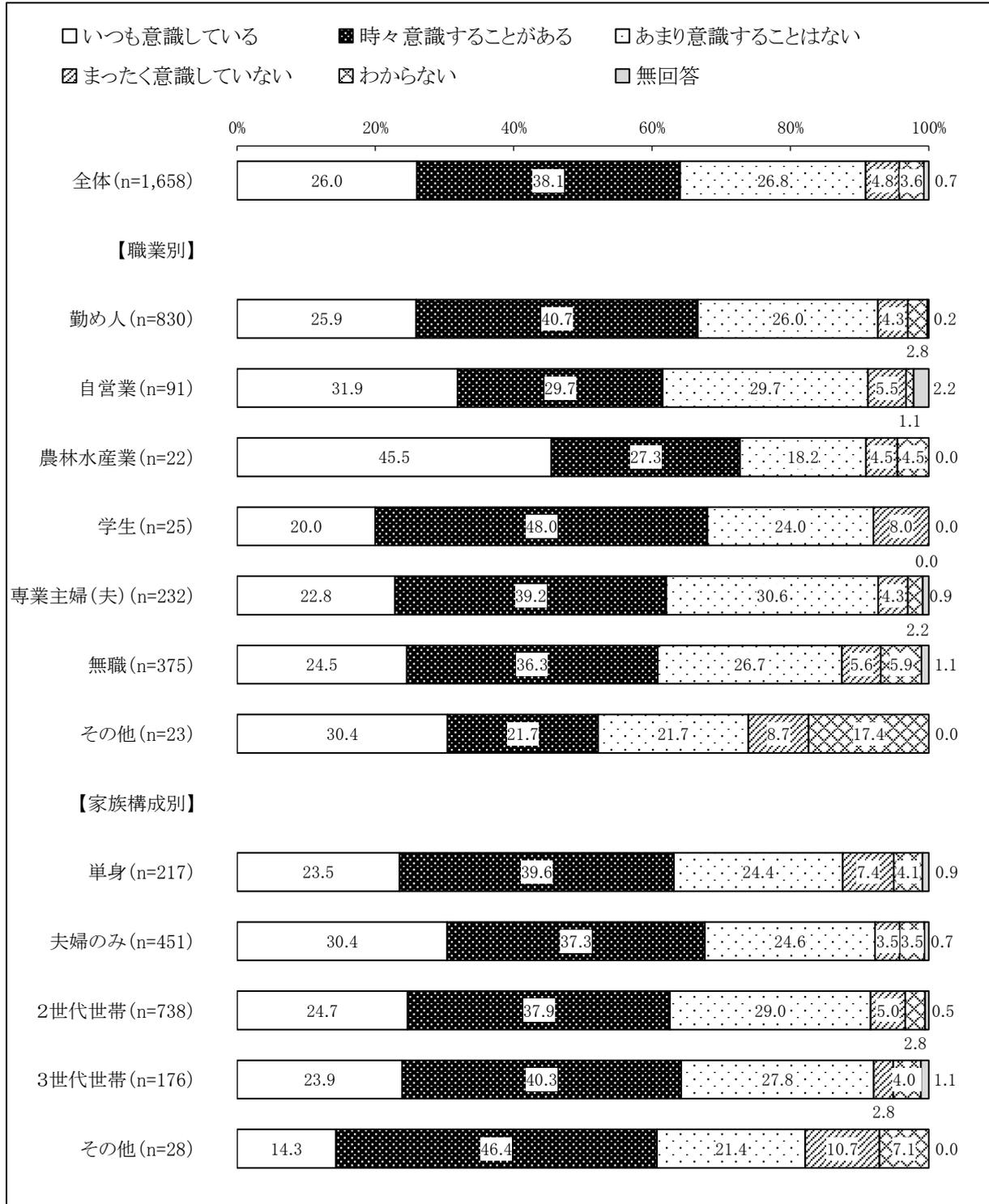


図 3.1 人権への意識

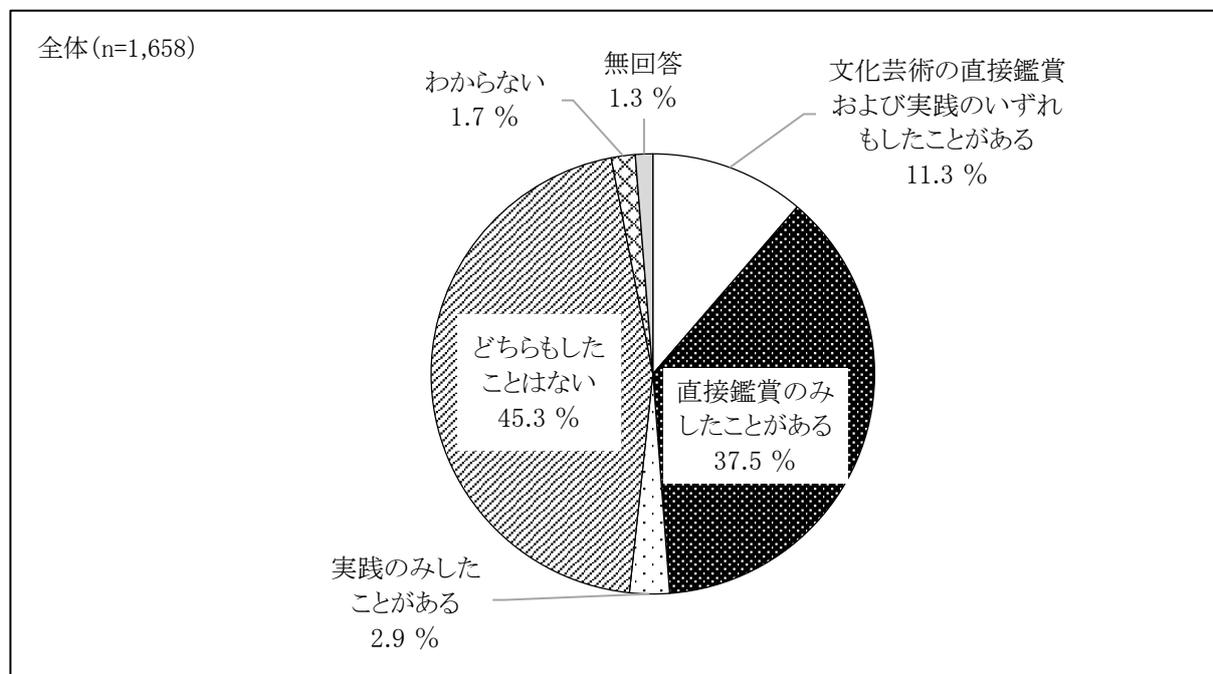
(職業別／家族構成別)



4. 文化芸術活動について

(1) 文化芸術活動の鑑賞・実践

4-1 あなたは、この1年間に文化芸術を直接鑑賞したり、活動を実践したりしたことがありますか。(○は1つだけ)



【全体結果】

1年間の文化芸術活動の鑑賞・実践について、「文化芸術の直接鑑賞および実践のいずれもしたことがある」(11.3%)と答えた割合が約1割、「直接鑑賞のみしたことがある」(37.5%)と答えた割合が4割弱、「実践のみしたことがある」(2.9%)が1割未満となった。「どちらもしたことはない」(45.3%)と答えた割合が最も高く、4割以上を占めた。

【属性別結果】(次ページ図4.1参照)

① 区別

「直接鑑賞のみしたことがある」と答えた割合は、南区(42.0%)と西区(41.4%)で高い。

② 性別

「文化芸術の直接鑑賞および実践のいずれもしたことがある」、「直接鑑賞のみしたことがある」と答えた割合は、男性より女性でやや高い。

③ 年齢別

65歳以上の高齢層では「直接鑑賞のみしたことがある」と答えた割合が4割未満と低い。

④ 職業別

「直接鑑賞のみしたことがある」と答えた割合は学生(60.0%)で最も高く、6割を占めた。

⑤ 家族構成別

「文化芸術の直接鑑賞および実践のいずれもしたことがある」と答えた割合は夫婦のみ(15.3%)で最も高い。

図 4.1 文化芸術活動の鑑賞・実践

(区別/性別/年齢別)

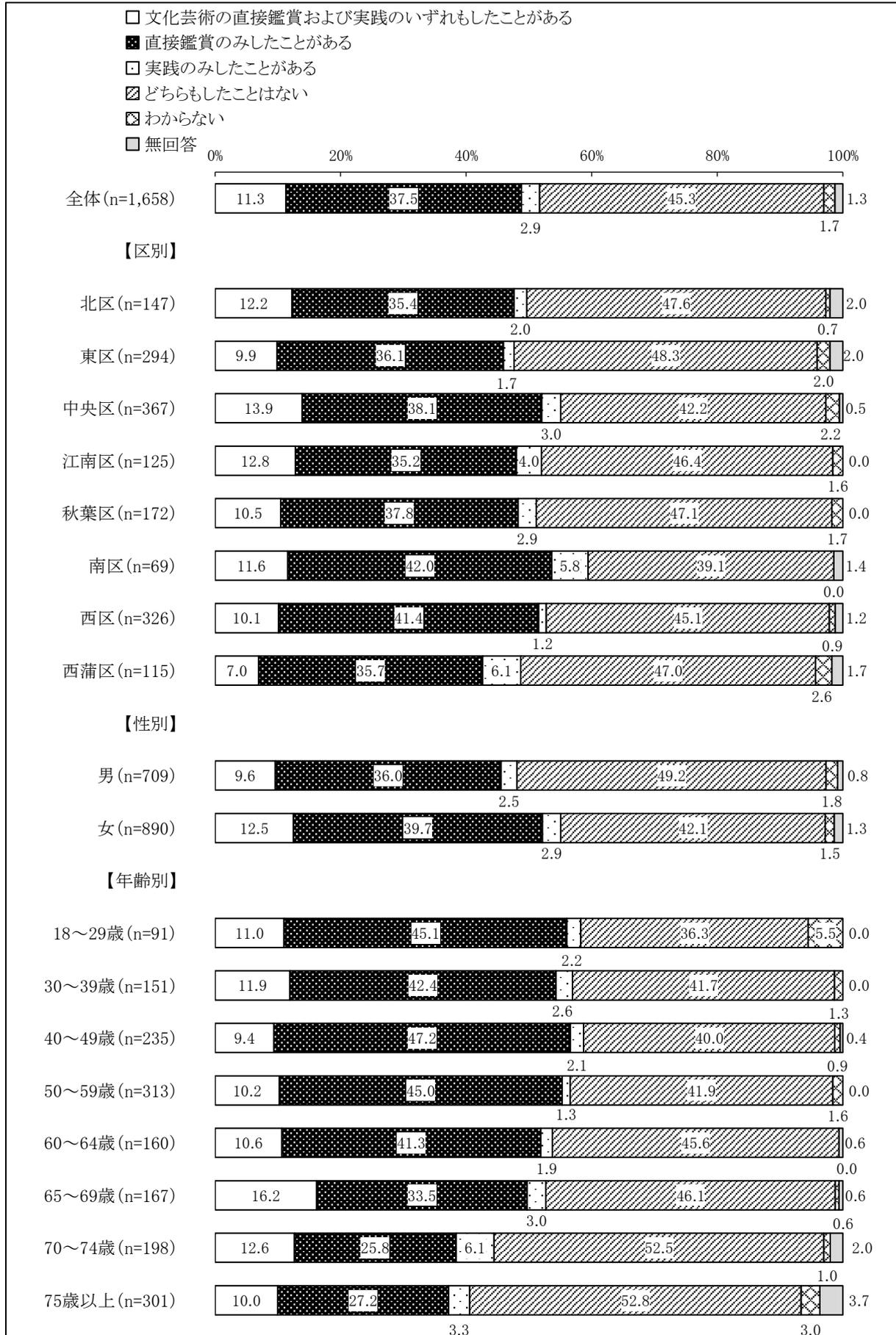
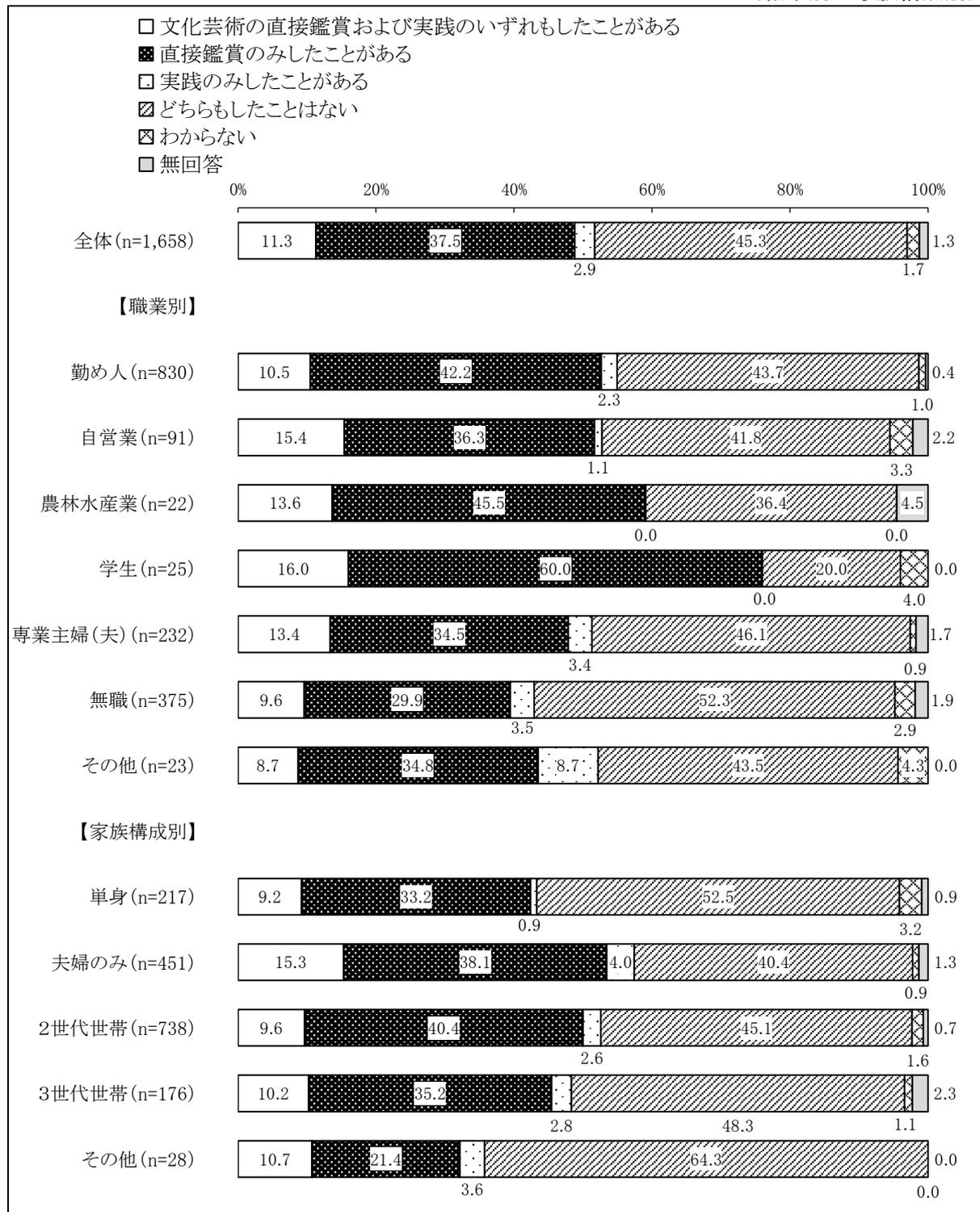


図 4.1 文化芸術活動の鑑賞・実践

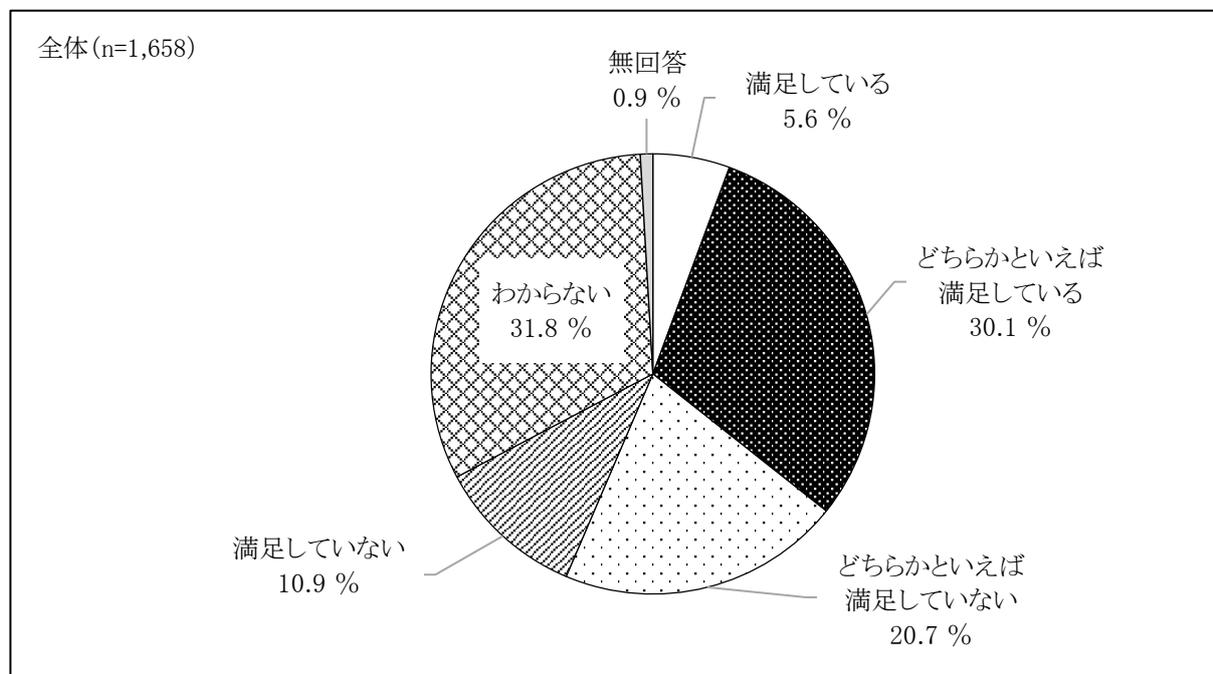
(職業別／家族構成別)



5. 文化的な環境について

(1) 文化的な環境への満足度

5-1 あなたは、本市の文化的な環境に満足していますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

文化的な環境への満足度について、「満足している」が 5.6%、「どちらかといえば満足している」が 30.1%、「どちらかといえば満足していない」が 20.7%、「満足していない」が 10.9%となった。また、「わからない」(31.8%)と答えた割合が約3割を占めた。

【属性別結果】(次ページ図 5.1 参照)

① 区別

「どちらかといえば満足している」と答えた割合は、北区(35.4%)と南区(37.7%)で高い。

② 性別

「どちらかといえば満足している」と答えた割合は、男性(26.9%)より女性(32.4%)で高い。

③ 年齢別

「満足している」と答えた割合は、18~29歳(17.6%)で最も高く、2割弱となった。

④ 職業別

「満足している」と答えた割合は、学生(24.0%)で最も高く、2割強となった。

⑤ 家族構成別

「満足している」と答えた割合は、単身(9.7%)で最も高く、約1割となった。

図 5.1 文化的な環境への満足度

(区別/性別/年齢別)

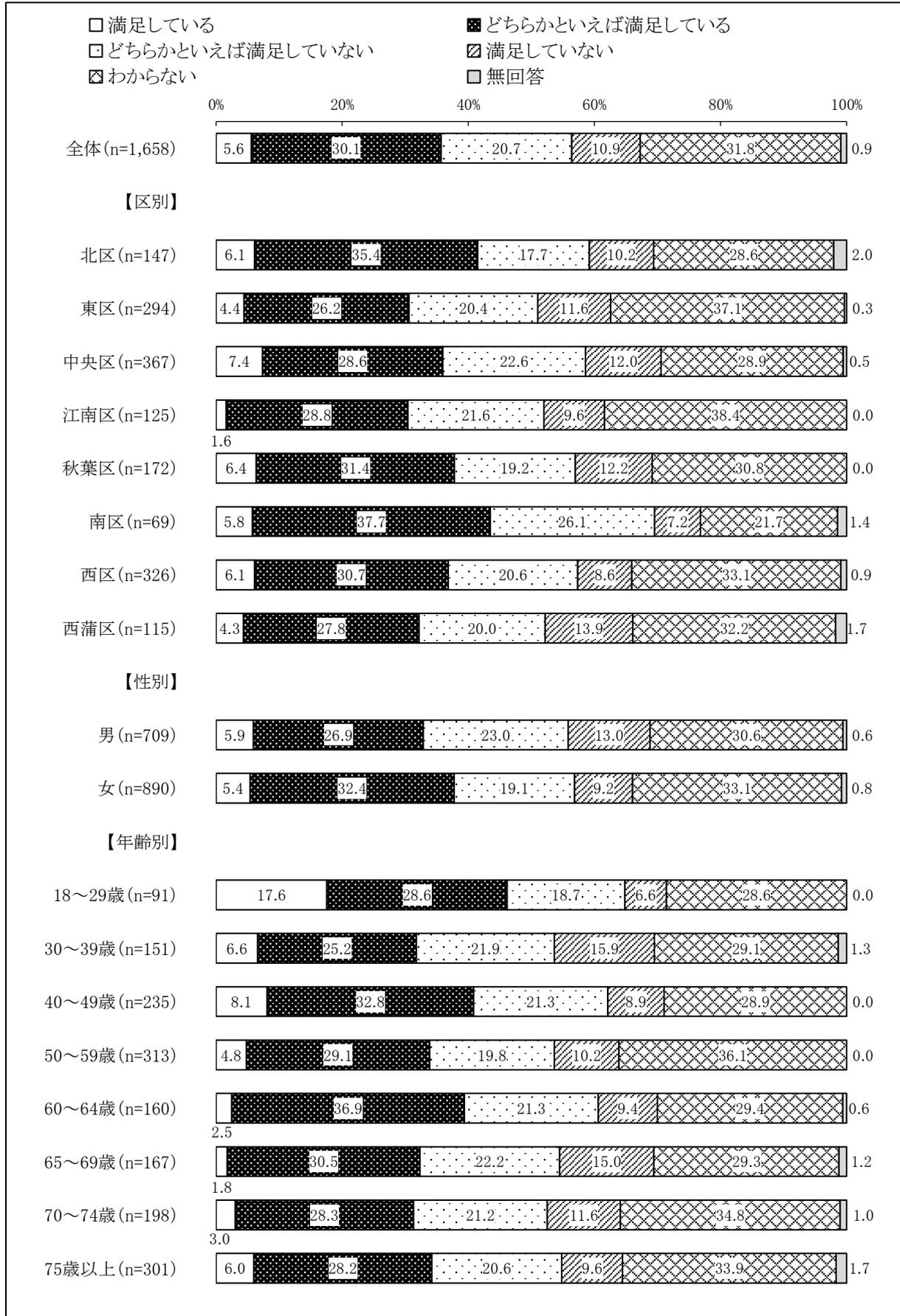
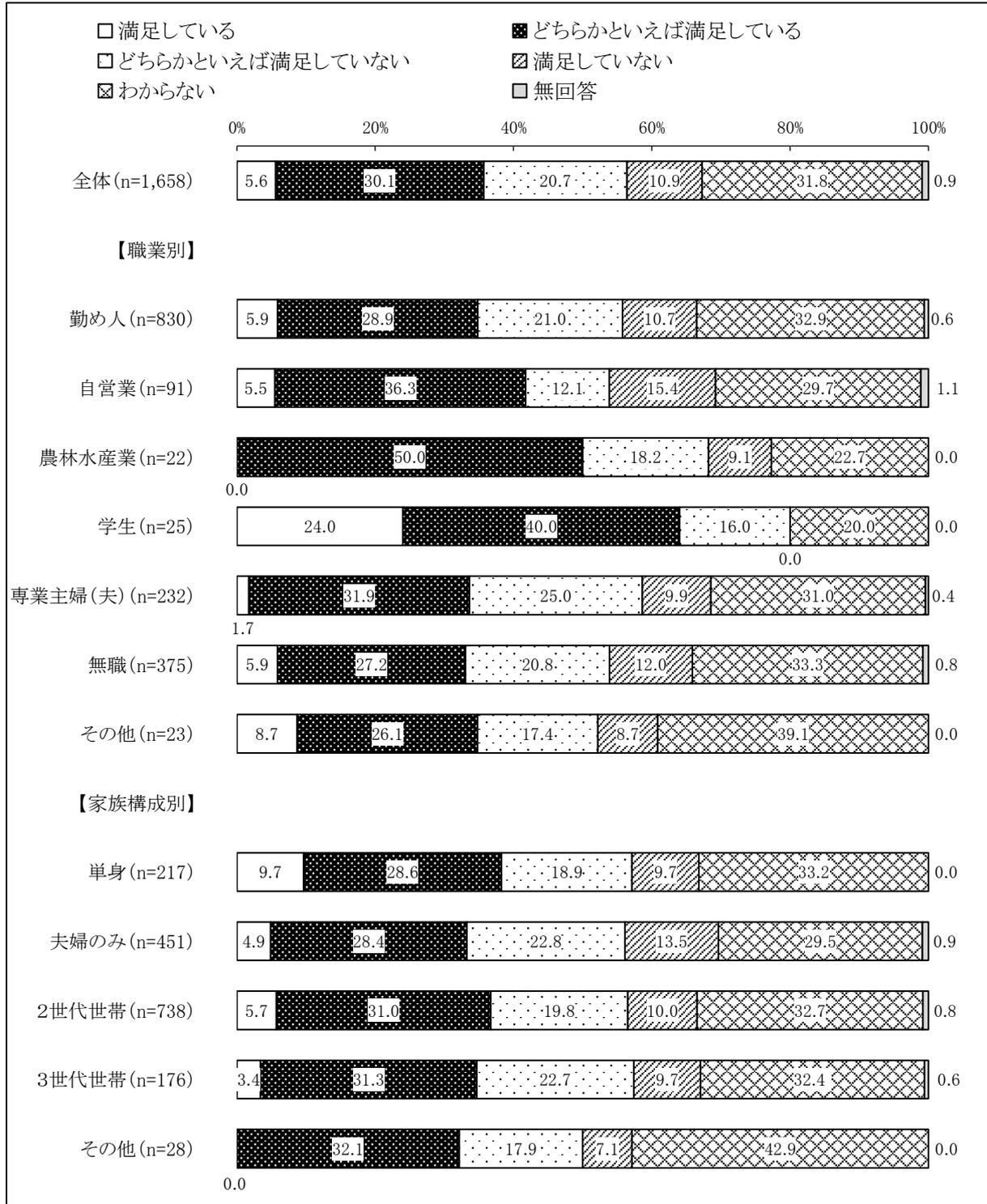


図 5.1 文化的な環境への満足度

(職業別／家族構成別)

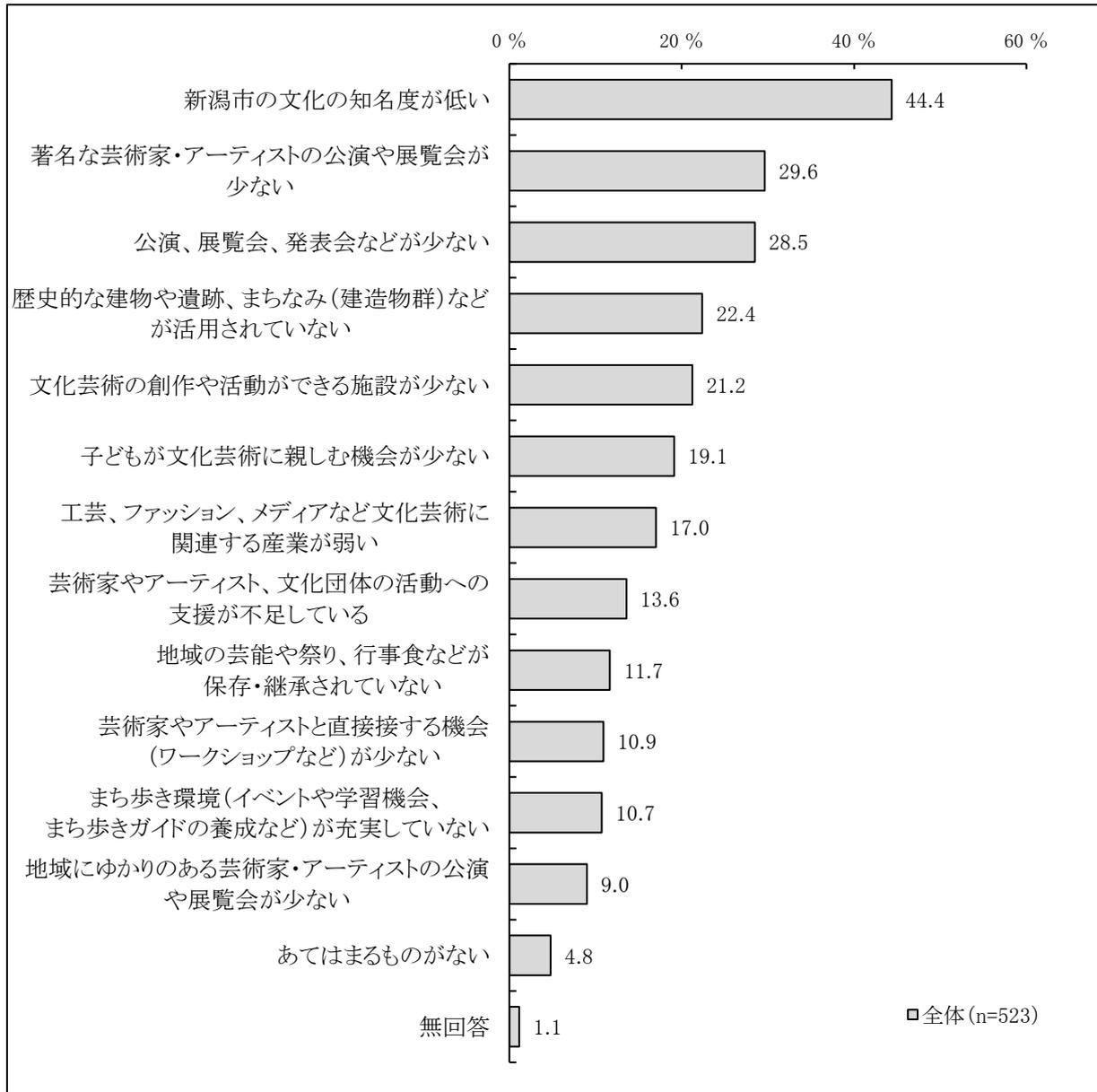


(2) 文化的な環境に満足していない理由

上記5-1で③または④を選択した方に質問します。

5-2 そう思う理由について、あなたの考えに近いものを選択してください。

(〇は3つまで)



【全体結果】

文化的な環境に満足していない理由として、「新潟市の文化の知名度が低い」(44.4%)と答えた割合が最も高く、4割半ばとなった。次いで「著名な芸術家・アーティストの公演や展覧会が少ない」(29.6%)、「公演、展覧会、発表会などが少ない」(28.5%)、「歴史的な建物や遺跡、まちなみ(建造物群)などが活用されていない」(22.4%)、「文化芸術の創作や活動ができる施設が少ない」(21.2%)が2割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 5.2 参照）

① 区別

北区を除くすべての区で「新潟市の文化の知名度が低い」と答えた割合が最も高い。北区では「公演、展覧会、発表会などが少ない」（36.6%）と答えた割合が最も高い。

② 性別

男女とも「新潟市の文化の知名度が低い」（各 47.5%、40.9%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

18～29 歳を除くすべての年代で「新潟市の文化の知名度が低い」と答えた割合が最も高い。18～29 歳では、「著名な芸術家・アーティストの公演や展覧会が少ない」（39.1%）と答えた割合が高い。

④ 職業別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「新潟市の文化の知名度が低い」と答えた割合が最も高い。

図 5.2 文化的な環境に満足していない理由 1/5

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

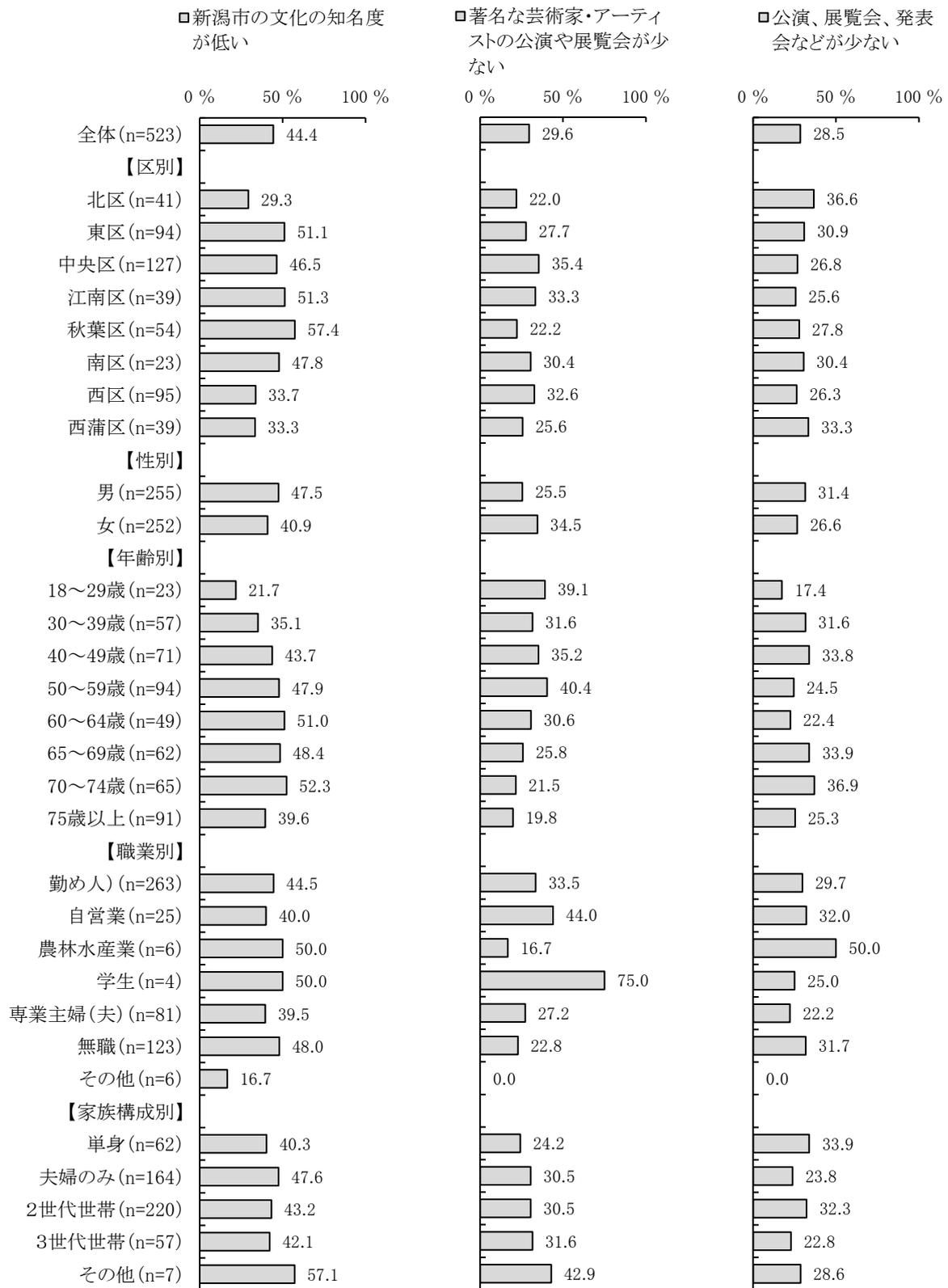


図 5.2 文化的な環境に満足していない理由 2/5

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

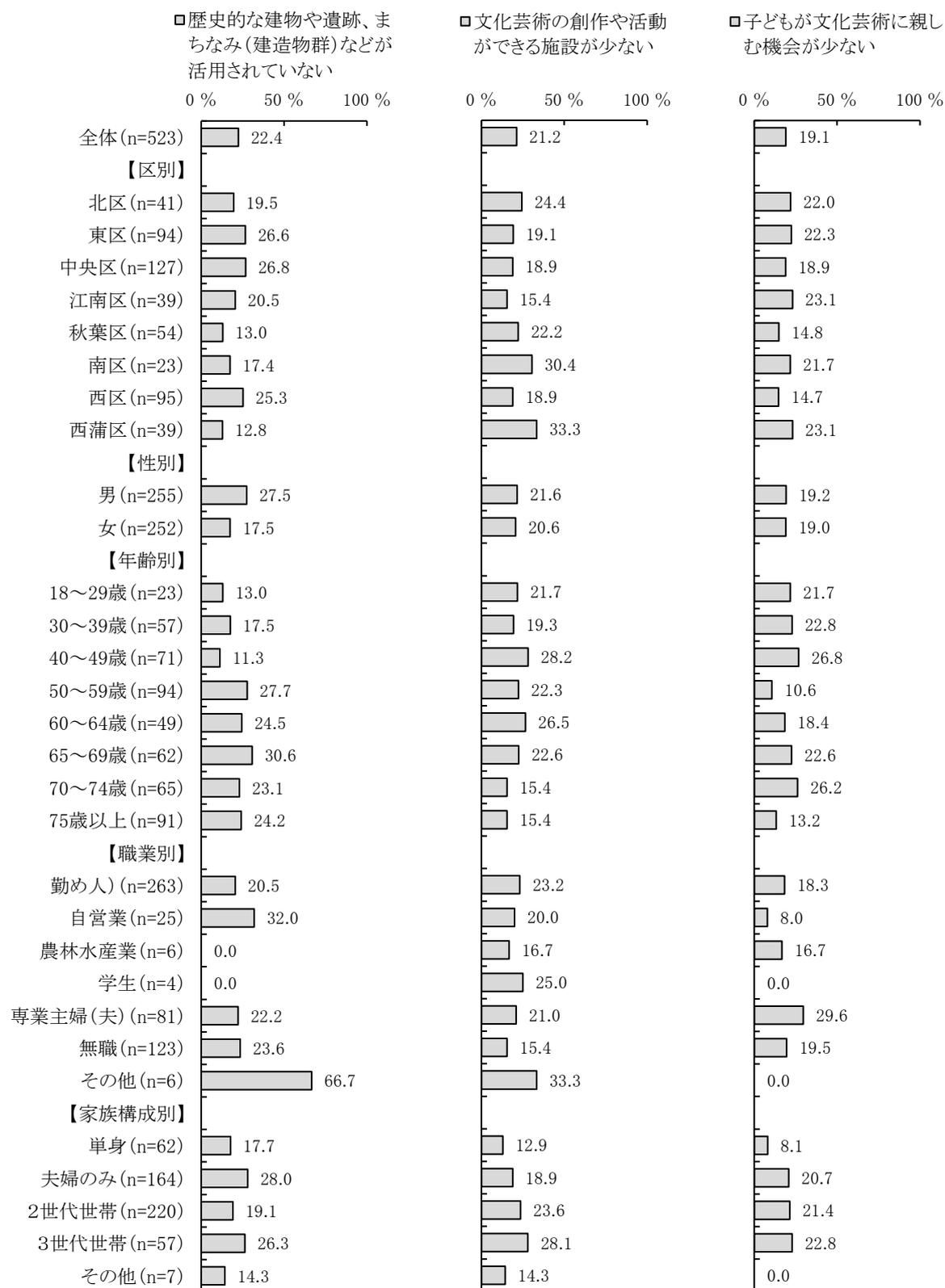


図 5.2 文化的な環境に満足していない理由 3/5

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

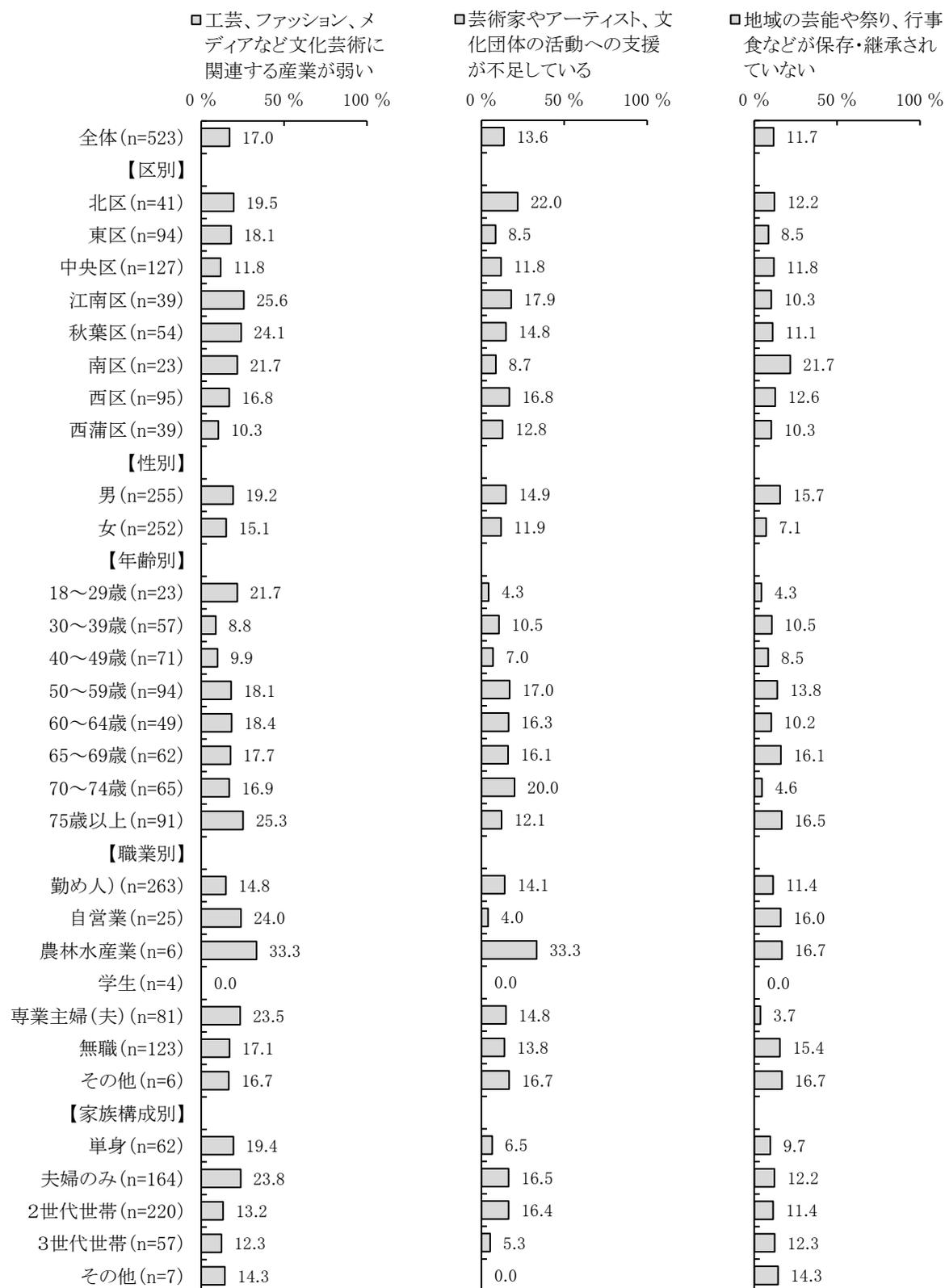


図 5.2 文化的な環境に満足していない理由 4/5

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

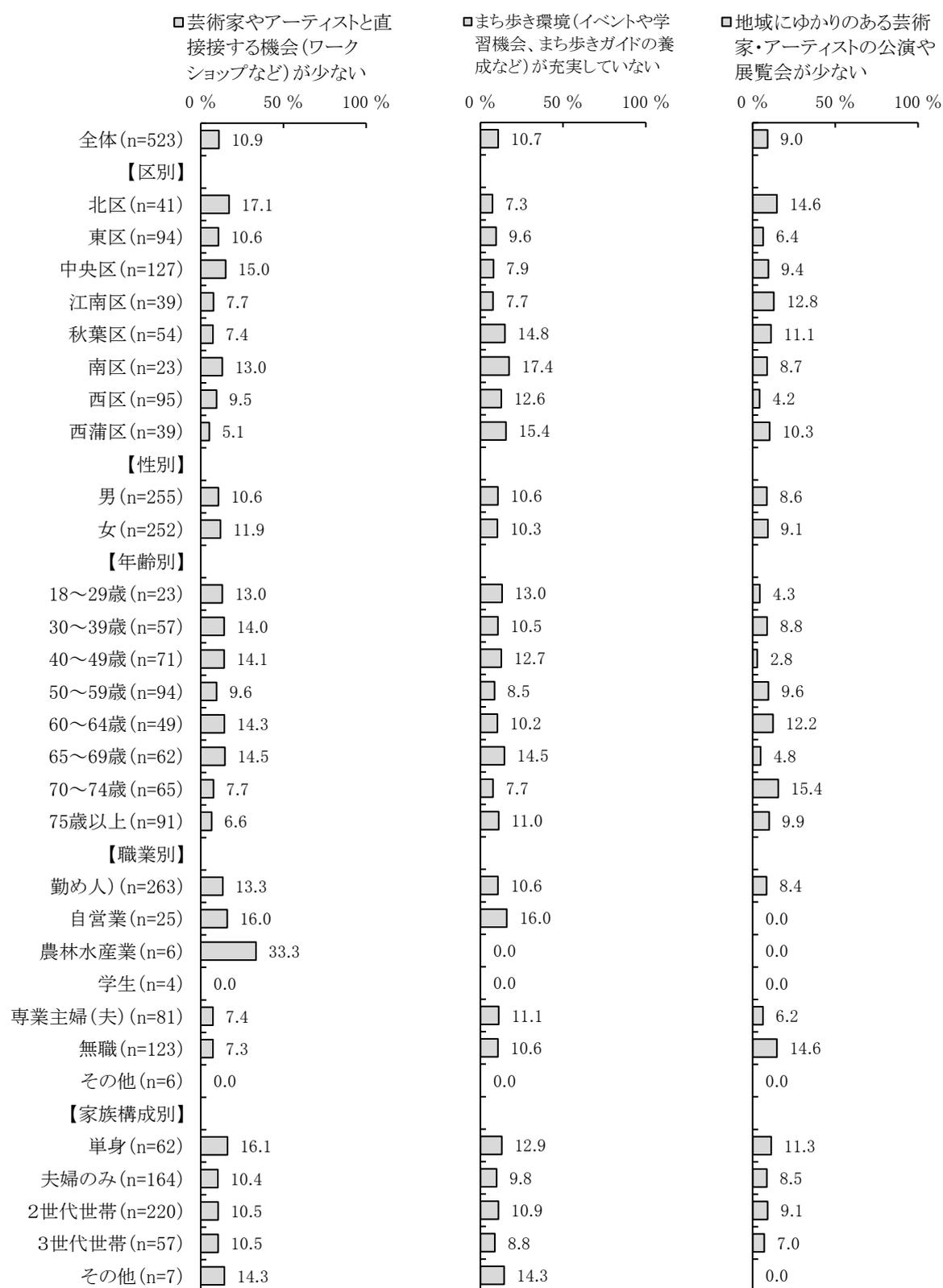


図 5.2 文化的な環境に満足していない理由 5/5

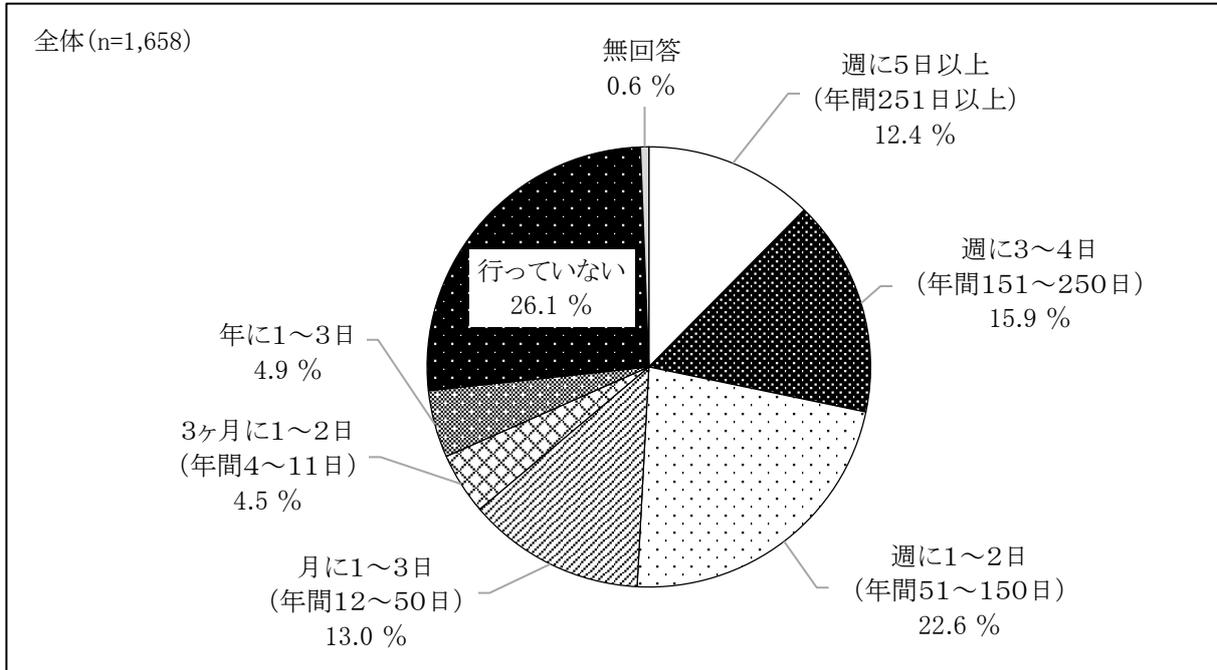
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



6. スポーツの実施状況について

(1) スポーツの実施状況

6-1 あなたは、この1年間に運動やスポーツをどの程度行いましたか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

1年間の運動やスポーツ実施について、「週に1~2日 (年間51~150日)」(22.6%)が2割強を占めた。「週に5日以上 (年間251日以上)」(12.4%)、「週に3~4日 (年間151~250日)」(15.9%)、「月に1~3日 (年間12~50日)」(13.0%)は1割台となった。

また、「行っていない」(26.1%)と答えた割合は2割半ばを占めた。

【属性別結果】(次ページ図6.1参照)

① 区別

「週に5日以上 (年間251日以上)」と答えた割合は、中央区(14.4%)で最も高い。

② 性別

性別による大きな差はみられない。

③ 年齢別

「週に5日以上 (年間251日以上)」と答えた割合は70代以上で高く、「月に1~3日 (年間12~50日)」と答えた割合は30代以下の若い年代で高い。

④ 職業別

「週に1~2日 (年間51~150日)」と答えた割合は、学生(44.0%)で最も高く、4割半ばとなった。

⑤ 家族構成別

「週に3~4日 (年間151~250日)」と答えた割合は、夫婦のみ(19.7%)で最も高い。

図 6.1 スポーツの実施状況

(区別/性別/年齢別)

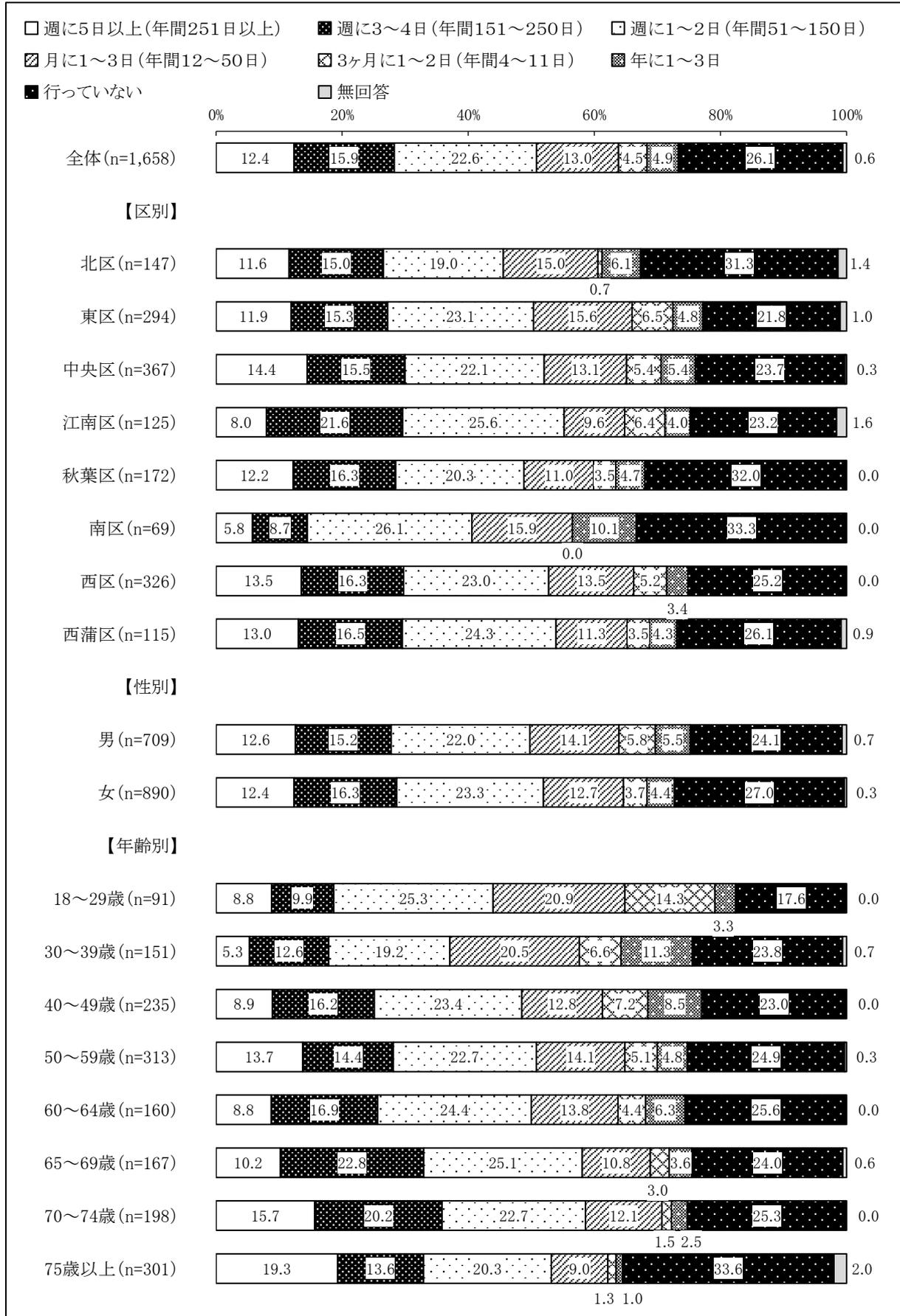
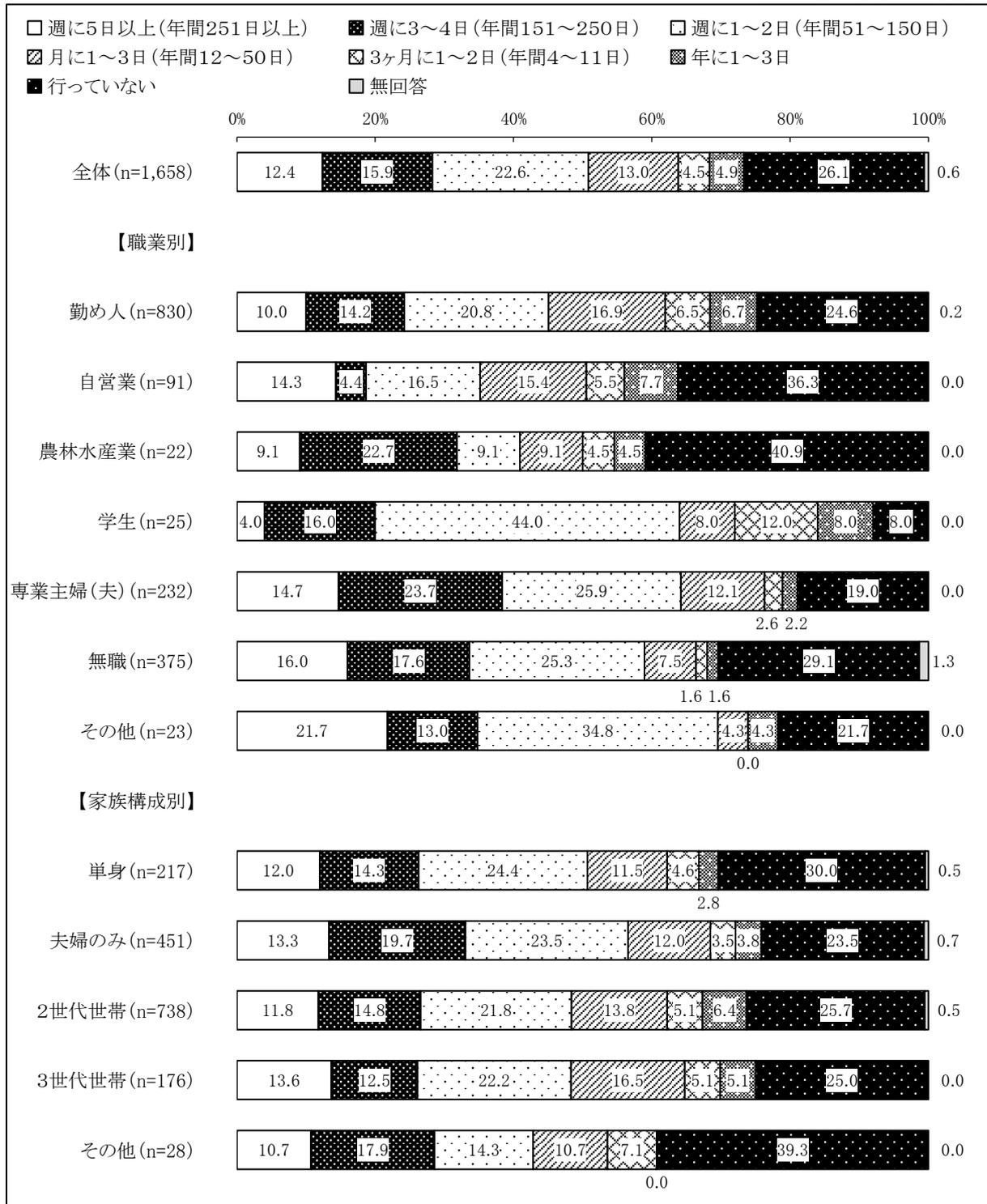


図 6.1 スポーツの実施状況

(職業別／家族構成別)

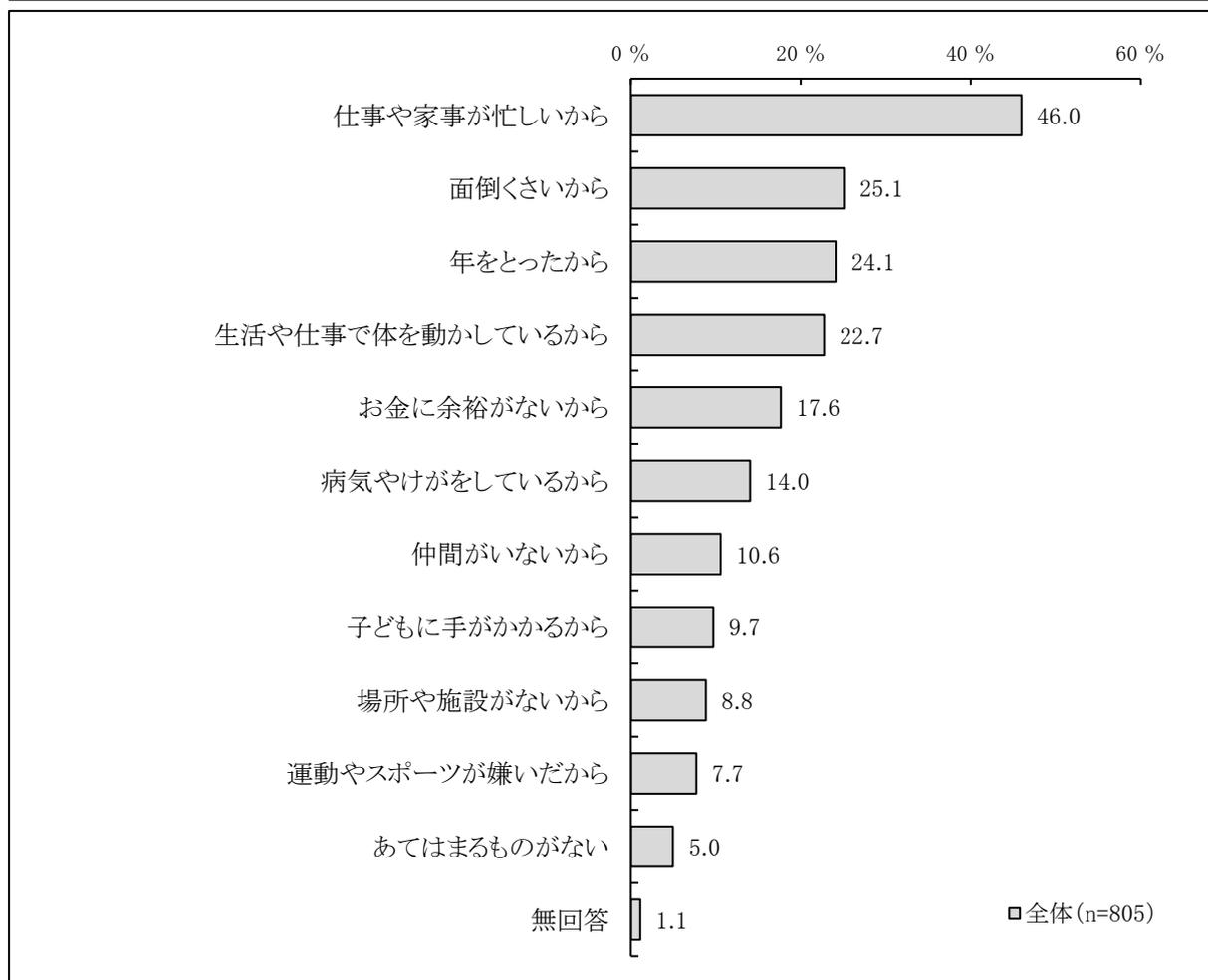


(2) 運動やスポーツを行っていない理由

上記6-1で④・⑤・⑥・⑦のいずれかを選択した方に質問します。

6-2 運動やスポーツを行っていない、または週に1日以上行わなかった理由は何ですか。

(○はいくつでも)



【全体結果】

運動やスポーツを行っていない理由として、「仕事や家事が忙しいから」(46.0%)が最も割合が高く、4割半ばとなった。次いで「面倒くさいから」(25.1%)、「年をとったから」(24.1%)、「生活や仕事で体を動かしているから」(22.7%)が2割台、「お金に余裕がないから」(17.6%)、「病気やけがをしているから」(14.0%)、「仲間がいないから」(10.6%)が1割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 6.2 参照）

① 区別

すべての区で「仕事や家事が忙しいから」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性ともに「仕事や家事が忙しいから」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

70歳未満では「仕事や家事が忙しいから」と答えた割合が最も高い。70歳以上では「年をとったから」と答えた割合が最も高くなった。また、18～29歳では、他の年代と比べて「面倒くさいから」と答えた割合が高く、過半数を占めた。

④ 職業別

勤め人（パートも含む）、自営業では「仕事や家事が忙しいから」と答えた割合が最も高い。専業主婦（夫）、無職では「年をとったから」と答えた割合が高い。

⑤ 家族構成別

単身を除くすべての家族構成で「仕事や家事が忙しいから」と答えた割合が最も高い。単身では「面倒くさいから」と答えた割合が高い。

図 6.2 運動やスポーツを行っていない理由 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

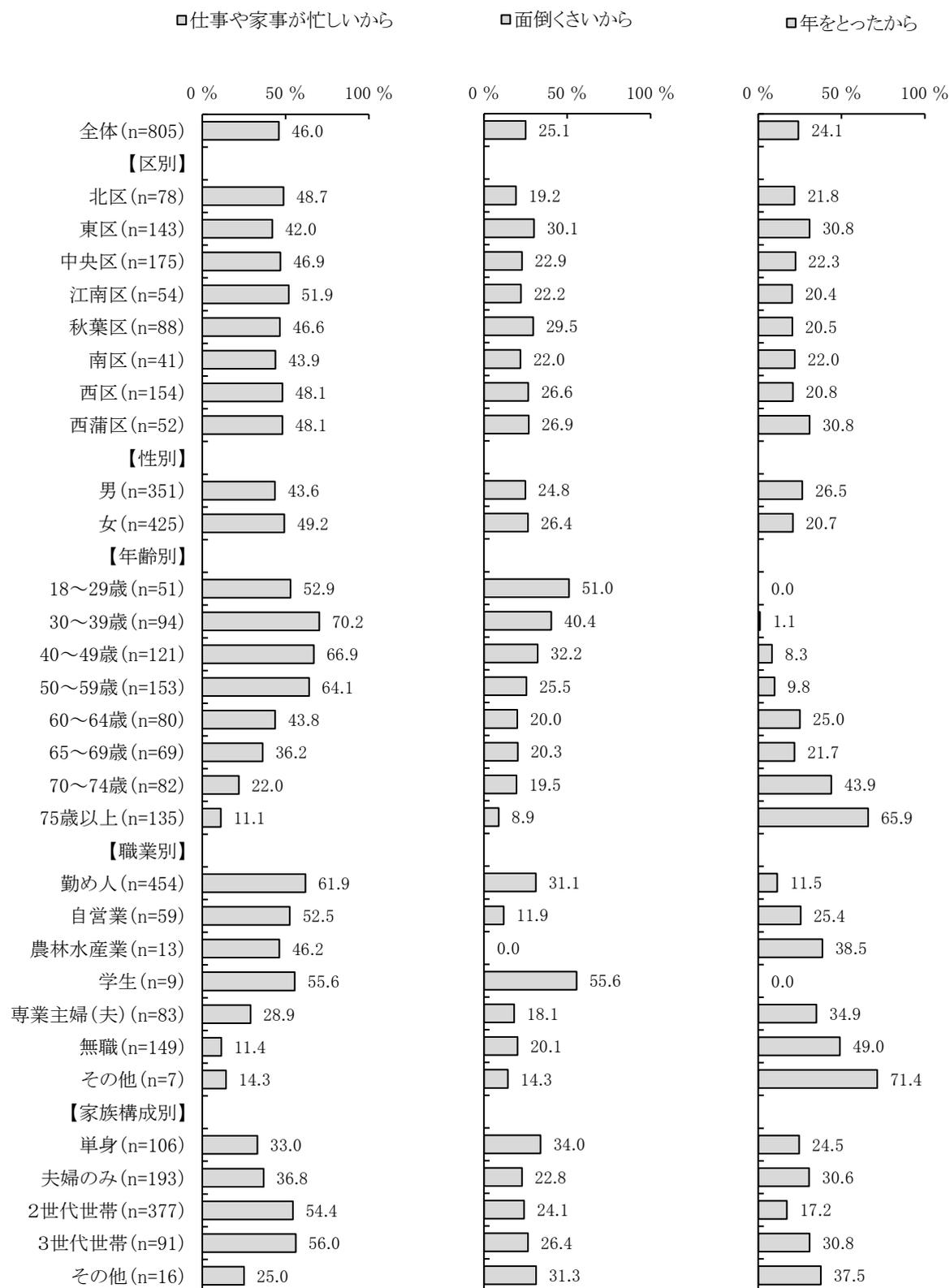


図 6.2 運動やスポーツを行っていない理由 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

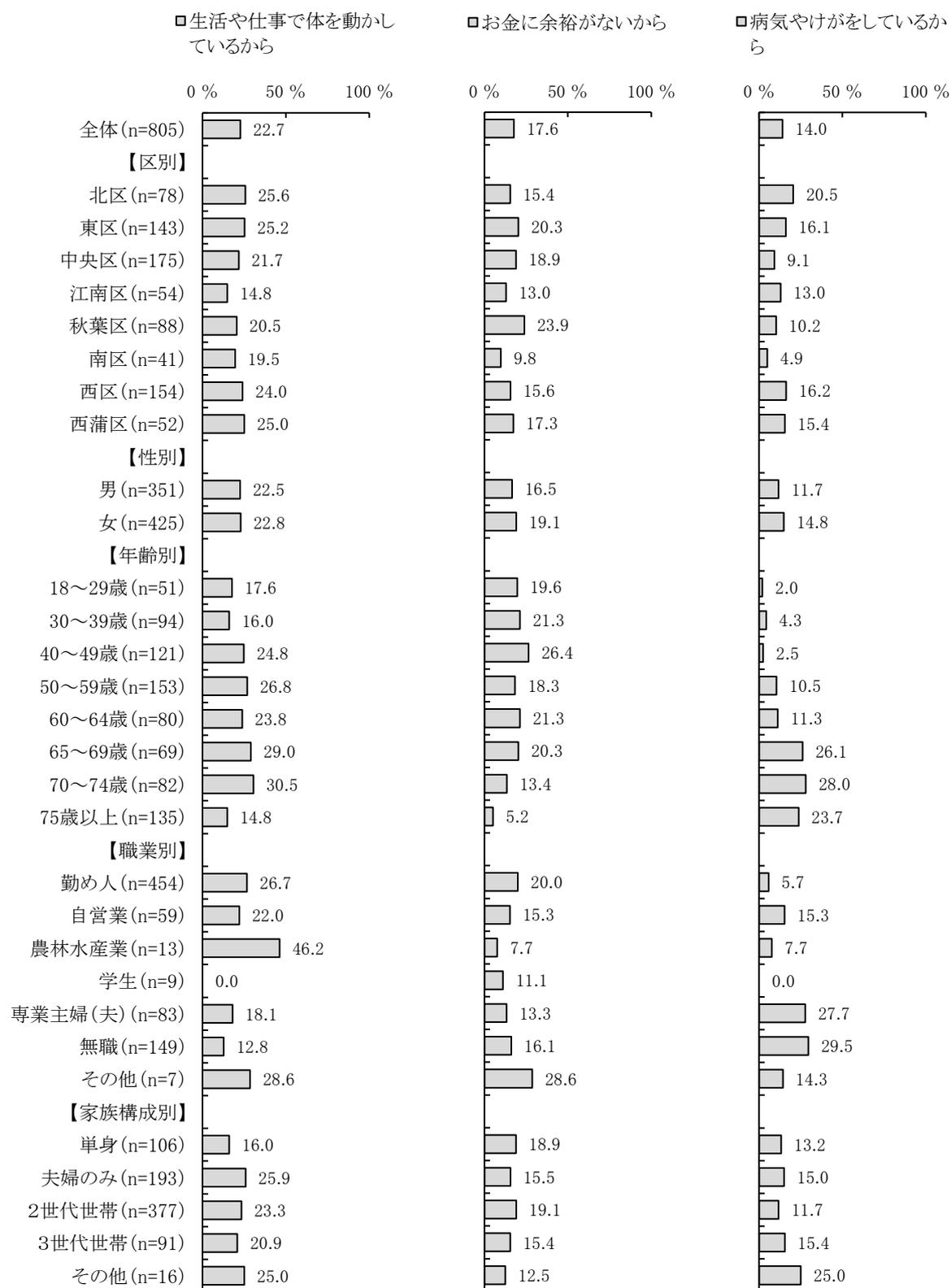


図 6.2 運動やスポーツを行っていない理由 3/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

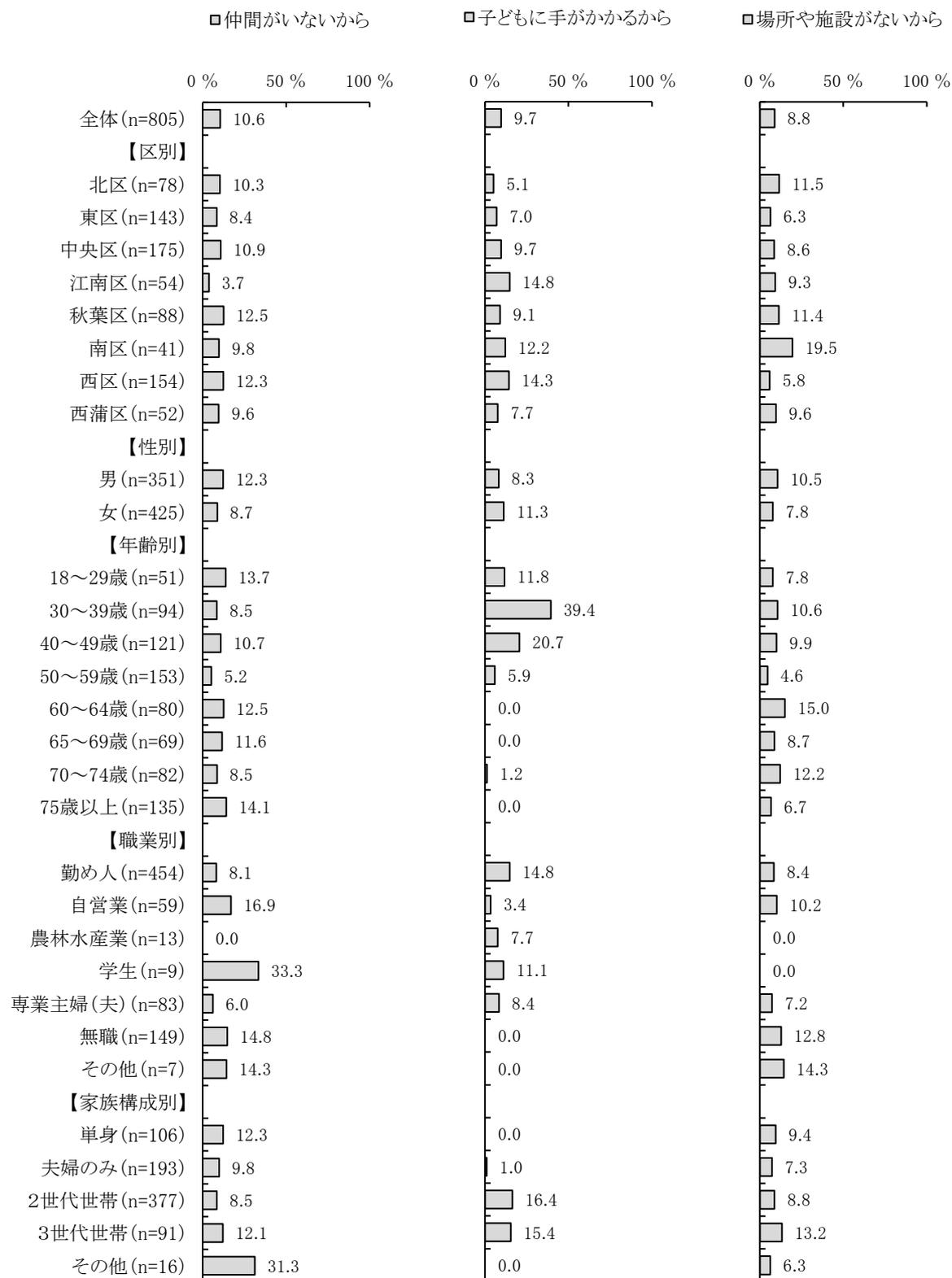
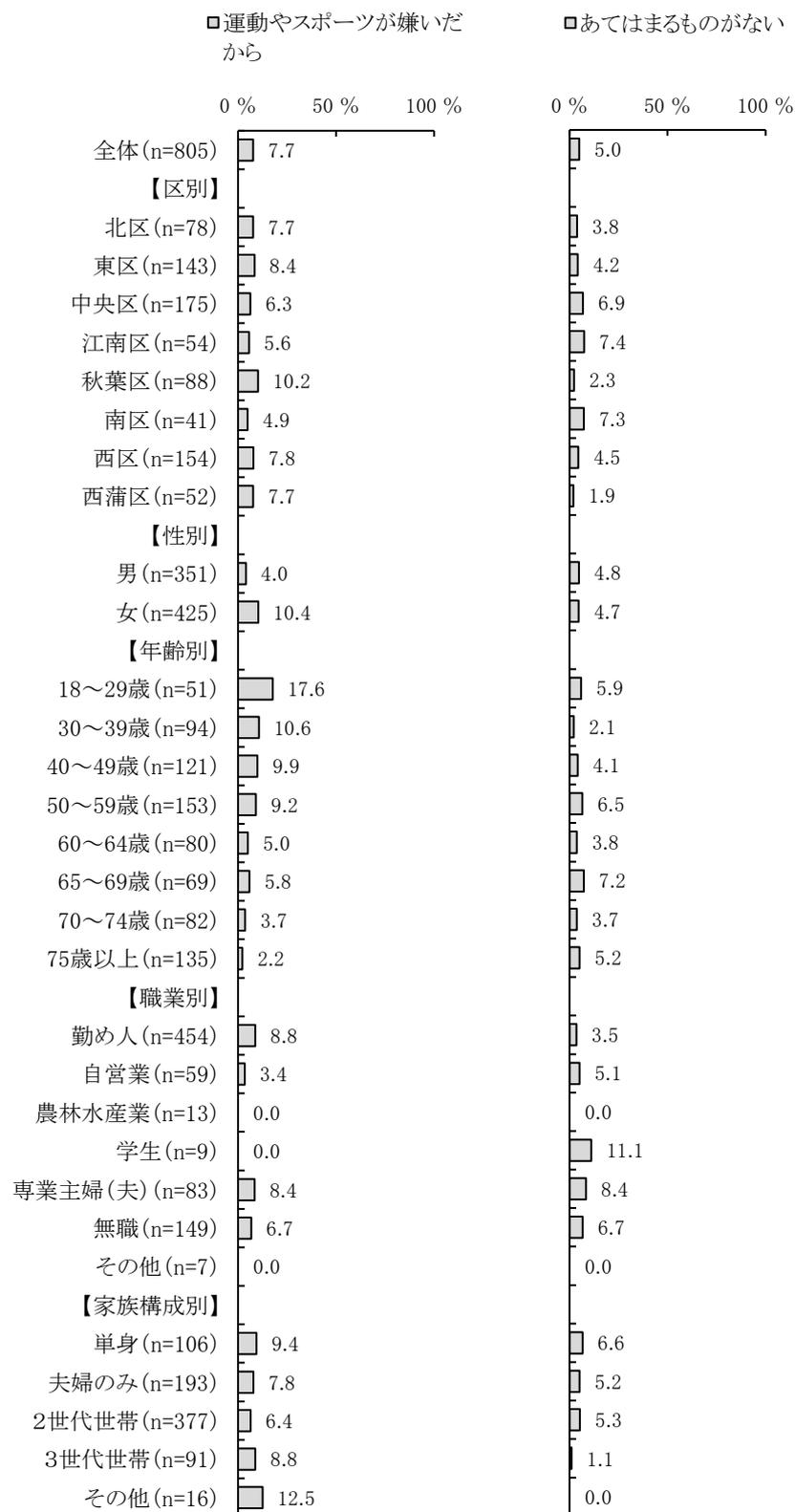


図 6.2 運動やスポーツを行っていない理由 4/4

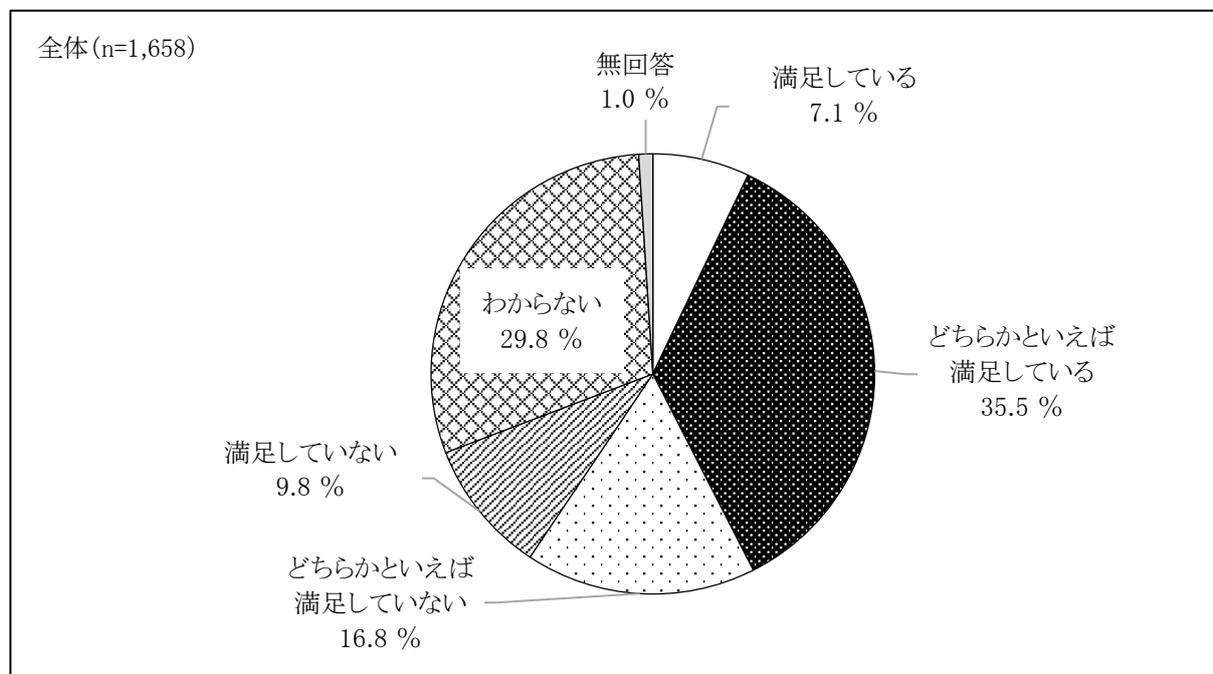
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



7. スポーツ環境について

(1) スポーツ環境への満足度

7-1 あなたは、本市におけるスポーツ環境に関して満足していますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

スポーツ環境への満足度について、「満足している」が7.1%、「どちらかといえば満足している」が35.5%、「どちらかといえば満足していない」が16.8%、「満足していない」が9.8%となった。また、「わからない」(29.8%)と答えた割合が約3割を占めた。

【属性別結果】(次ページ図7.1参照)

① 区別

「どちらかといえば満足している」と答えた割合は、東区(39.5%)で高い。

② 性別

「満足している」と答えた割合は、女性(6.0%)より男性(8.2%)でやや高い。女性では「わからない」(35.5%)と答えた割合が高い。

③ 年齢別

「満足している」と答えた割合は、18~29歳(20.9%)で最も高く、約2割となった。

④ 職業別

「満足している」と答えた割合は、学生(24.0%)で最も高く、2割強となった。

⑤ 家族構成別

「満足している」と答えた割合は、単身(11.5%)で最も高く、約1割となった。

図 7.1 スポーツ環境への満足度

(区別／性別／年齢別)

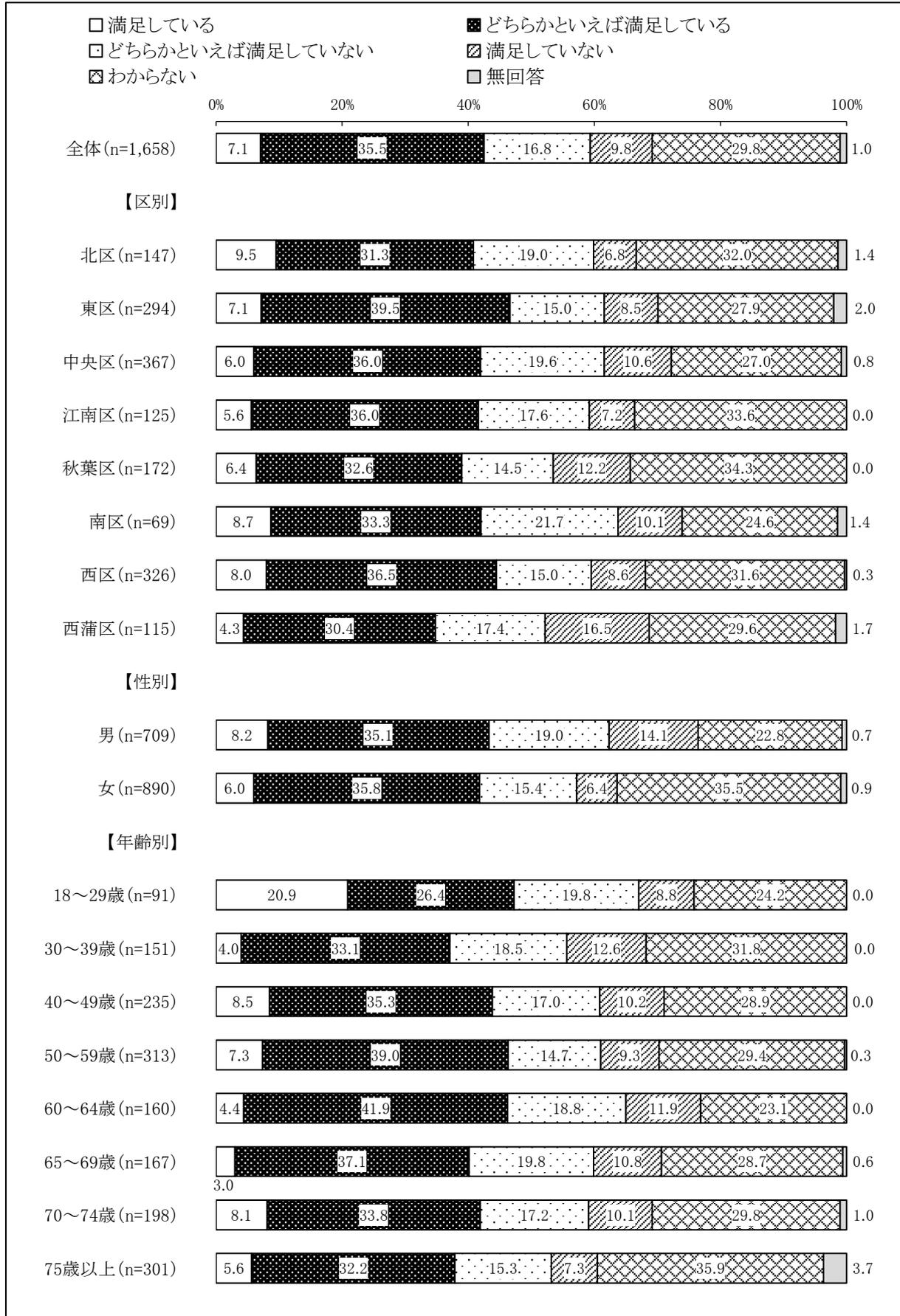
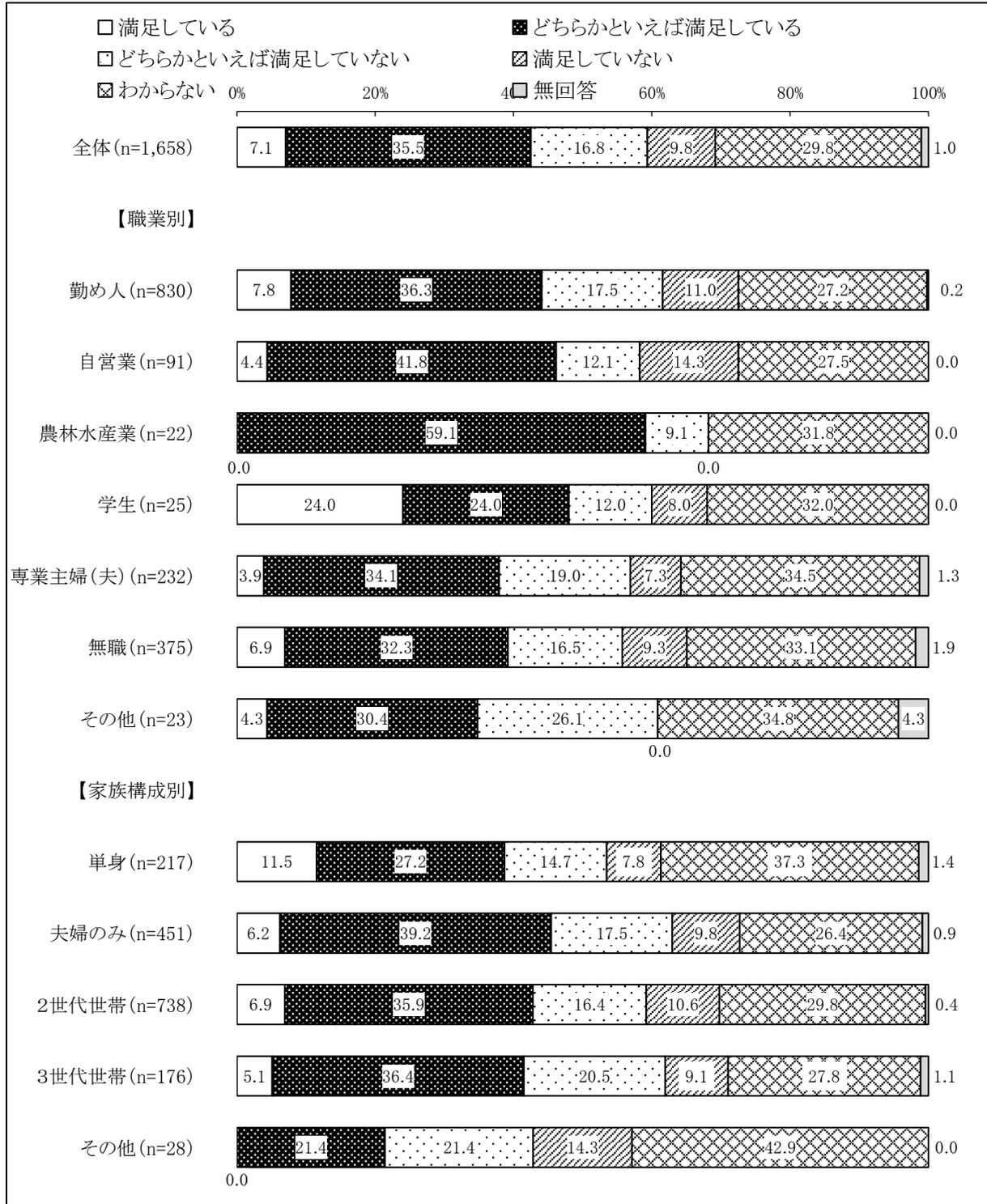


図 7.1 スポーツ環境への満足度

(職業別／家族構成別)

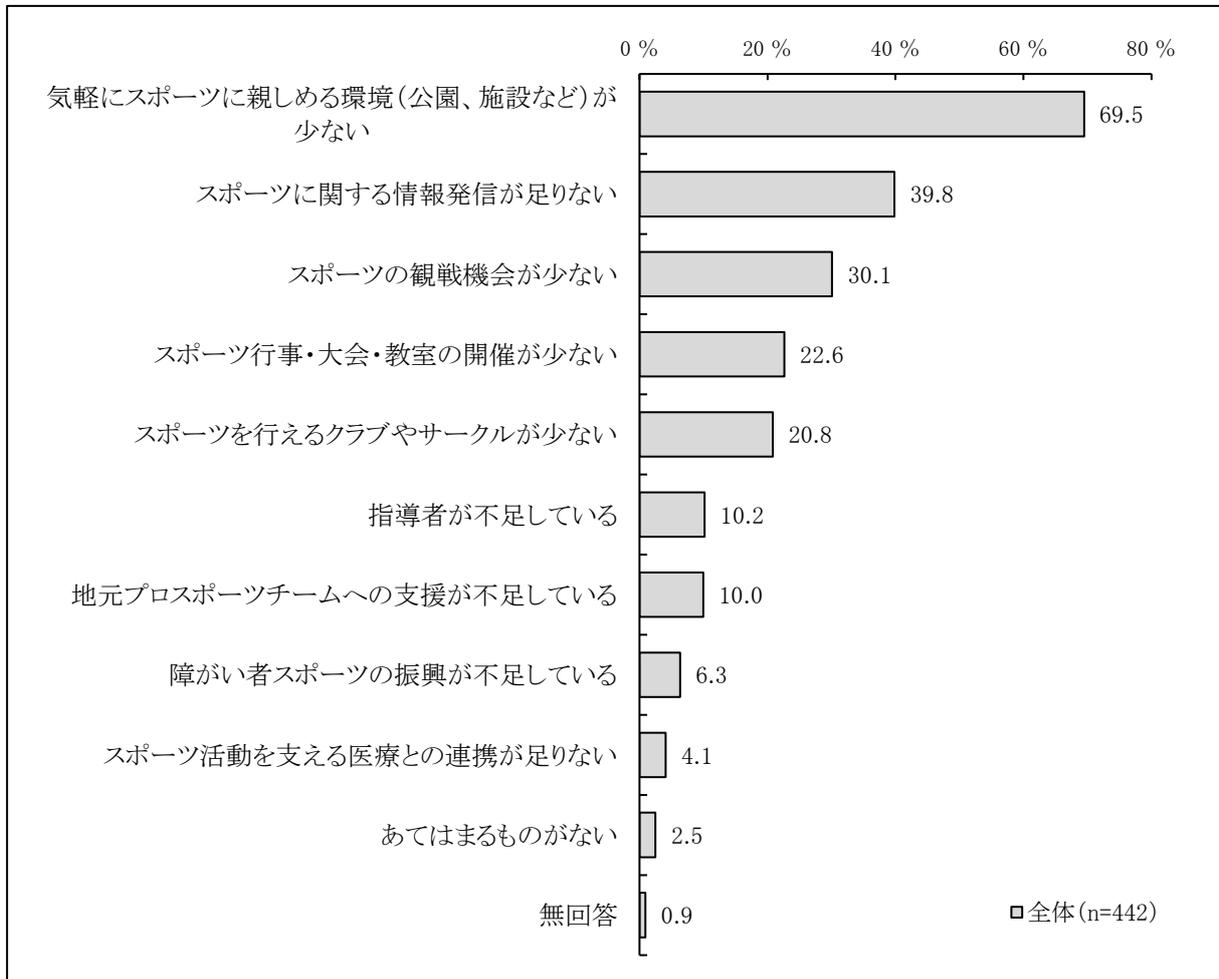


(2) スポーツ環境に満足していない理由

上記7-1で③または④を選択した方に質問します。

7-2 そう思う理由について、あなたの考えに近いものを選択してください。

(○は3つまで)



【全体結果】

スポーツ環境に満足していない理由として、「気軽にスポーツに親しめる環境(公園、施設など)が少ない」(69.5%)と答えた割合が最も高く、約7割となった。次いで「スポーツに関する情報発信が足りない」(39.8%)、「スポーツの観戦機会が少ない」(30.1%)が3割台、「スポーツ行事・大会・教室の開催が少ない」(22.6%)、「スポーツを行えるクラブやサークルが少ない」(20.8%)が2割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 7.2 参照）

① 区別

すべての区で「気軽にスポーツに親しめる環境（公園、施設など）が少ない」と答えた割合が最も高い。また、北区では「スポーツの観戦機会が少ない」（50.0%）と答えた割合が高い。

② 性別

男女とも「気軽にスポーツに親しめる環境（公園、施設など）が少ない」（各 66.4%、74.7%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

すべての年代で「気軽にスポーツに親しめる環境（公園、施設など）が少ない」と答えた割合が最も高い。また、50～59 歳では、「スポーツの観戦機会が少ない」（48.0%）と答えた割合が高い。

④ 職業別

すべての職業で「気軽にスポーツに親しめる環境（公園、施設など）が少ない」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「気軽にスポーツに親しめる環境（公園、施設など）が少ない」と答えた割合が最も高い。

図 7.2 スポーツ環境に満足していない理由 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

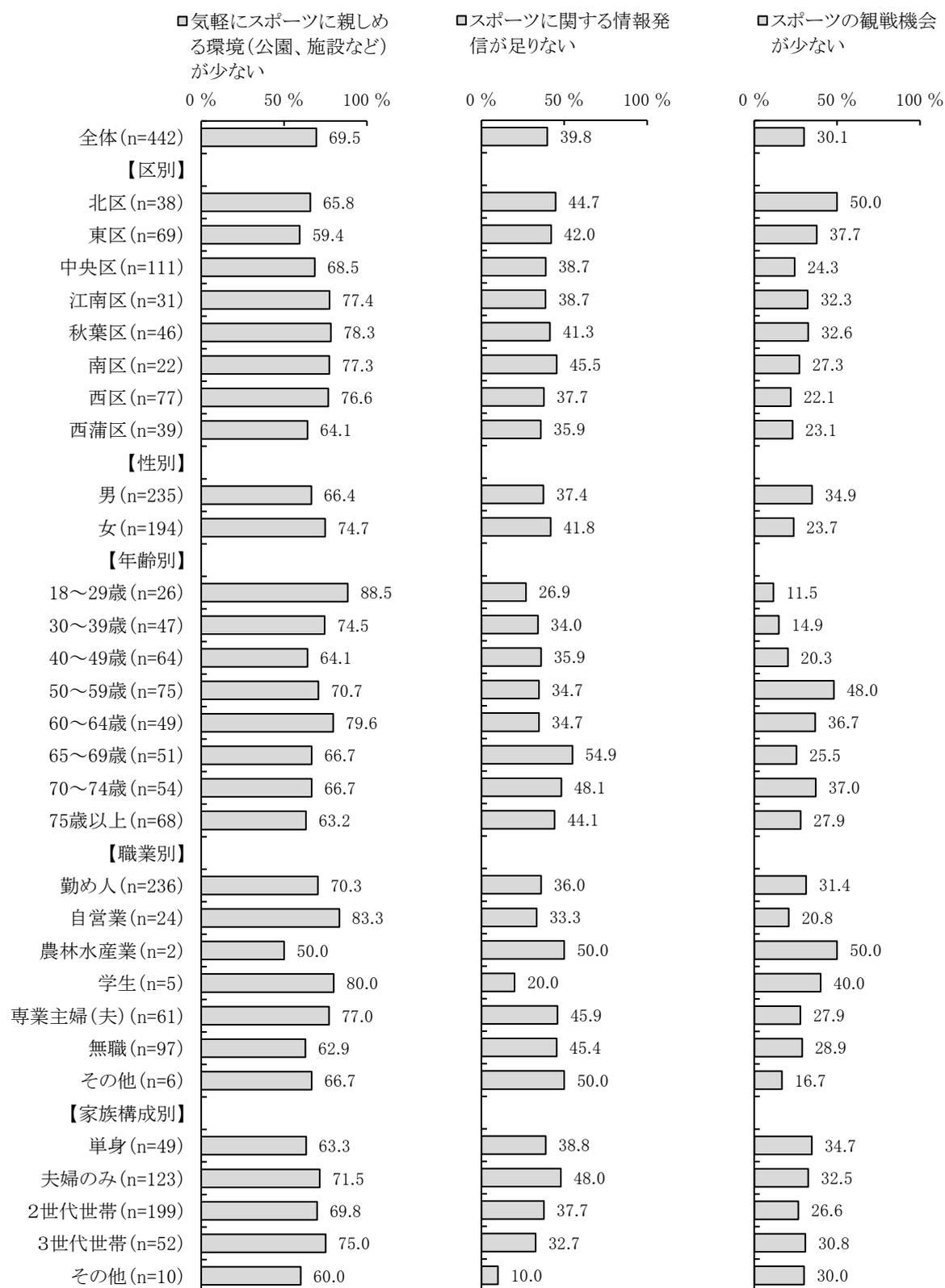


図 7.2 スポーツ環境に満足していない理由 2/4

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

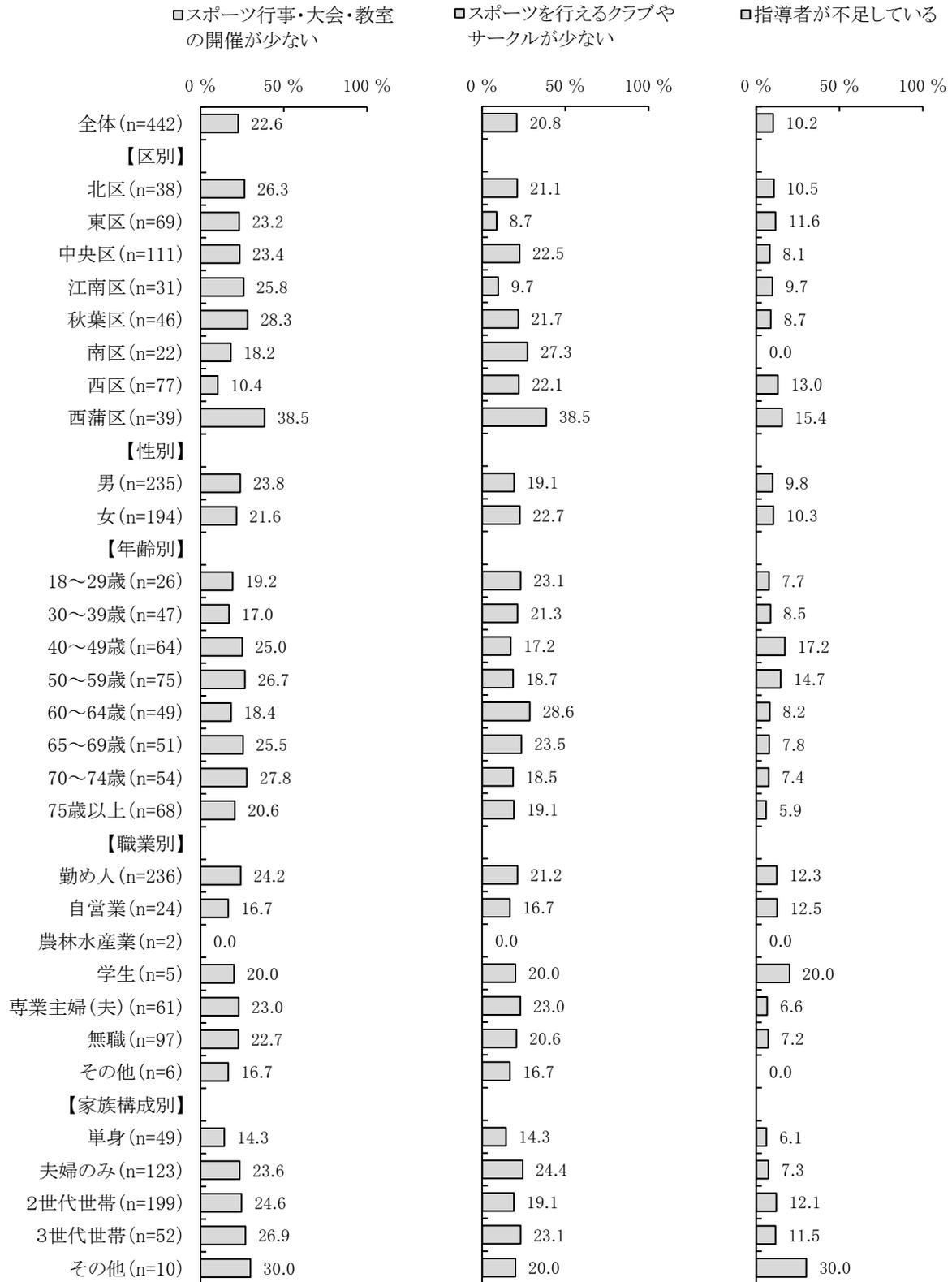


図 7.2 スポーツ環境に満足していない理由 3/4

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

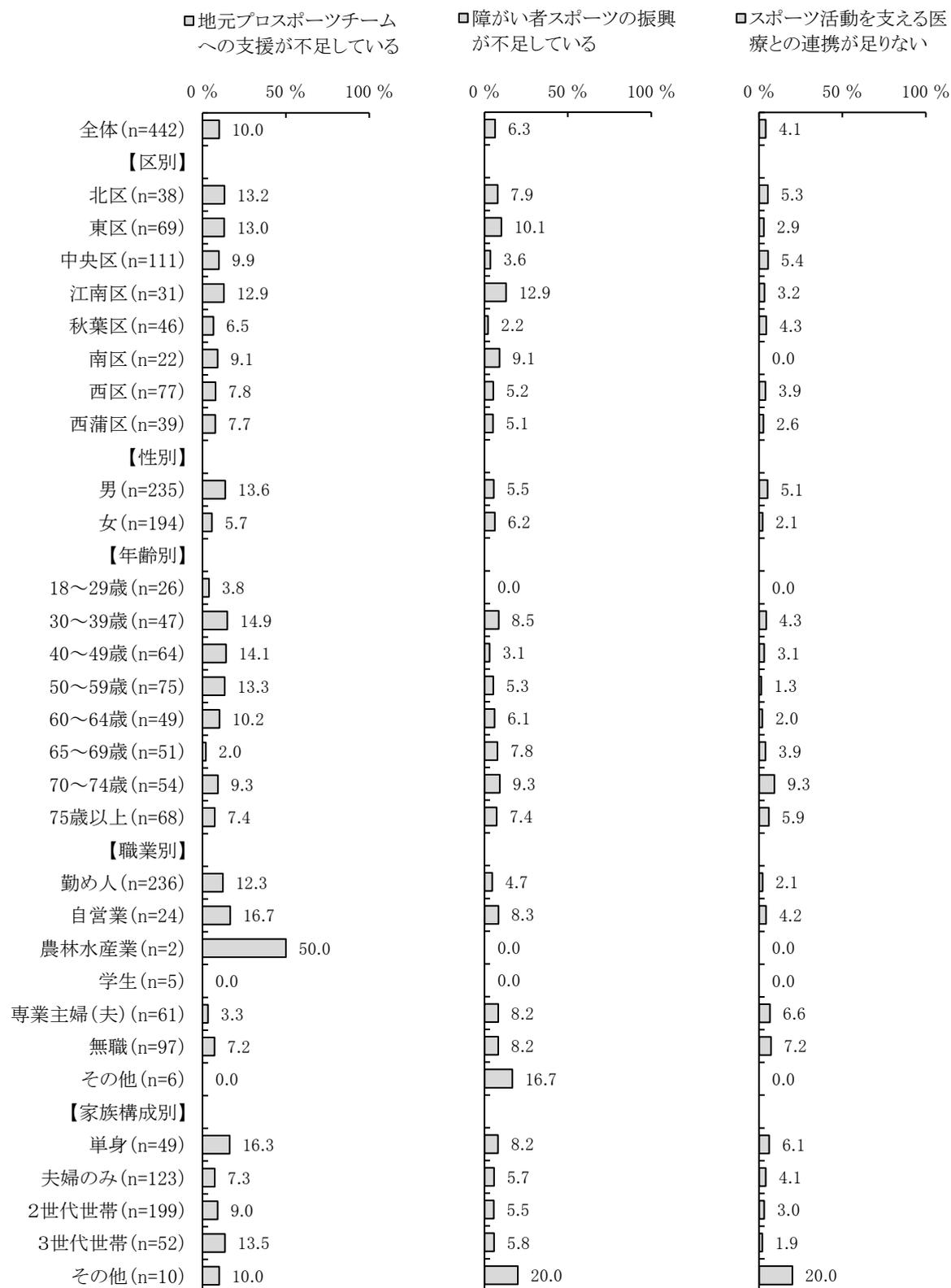
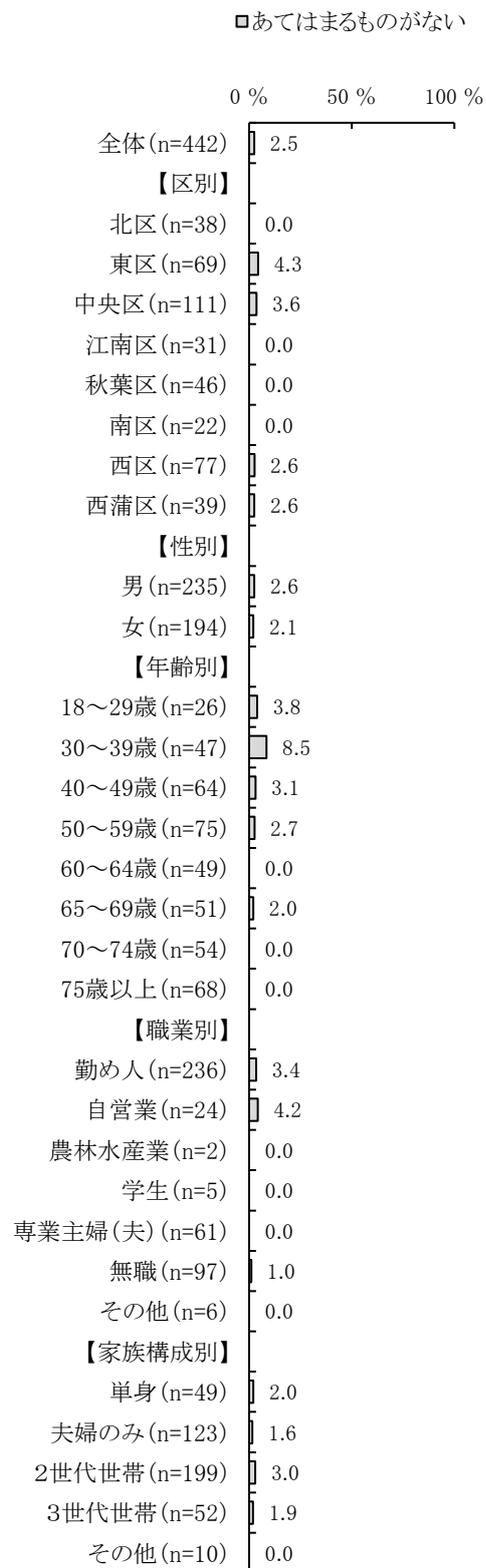


図 7.2 スポーツ環境に満足していない理由 4/4

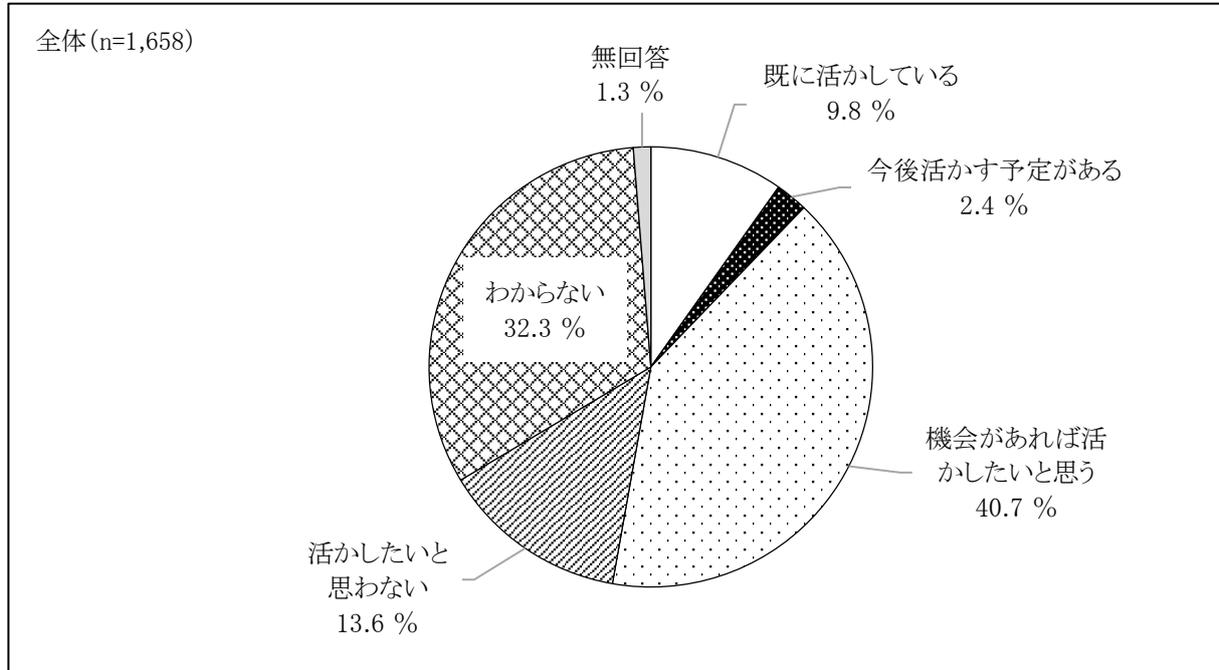
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



8. 生涯学習活動について

(1) 生涯学習活動で身に付けた知識や技能について

8-1 あなたは、生涯学習活動で身に付けた知識や技能を、地域や学校、ボランティア活動に活かしていますか。(○は1つだけ)



【全体結果】

生涯学習活動で身に付けた知識や技能について、「機会があれば活かしたいと思う」(40.7%)と答えた割合が最も高く、約4割を占めた。「既に活かしている」(9.8%)、「今後活かす予定がある」(2.4%)は1割未満、「活かしたいと思わない」(13.6%)と答えた割合は1割強となった。また、「わからない」(32.3%)が3割強を占めた。

【属性別結果】(次ページ図8.1参照)

① 区別

北区、秋葉区を除くすべての区で「機会があれば活かしたいと思う」と答えた割合が最も高い。北区、秋葉区では、「わからない」と答えた割合が高い。

② 性別

男性女性ともに「機会があれば活かしたいと思う」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

70歳未満では「機会があれば活かしたいと思う」と答えた割合が最も高い。70歳以上では「わからない」と答えた割合が高い。

④ 職業別

勤め人(パートも含む)、学生で「機会があれば活かしたいと思う」と答えた割合が高い。

⑤ 家族構成別

2世代世帯(親と子)で「機会があれば活かしたいと思う」と答えた割合が高い。

図 8.1 生涯学習活動で身に付けた知識や技能について

(区別／性別／年齢別)

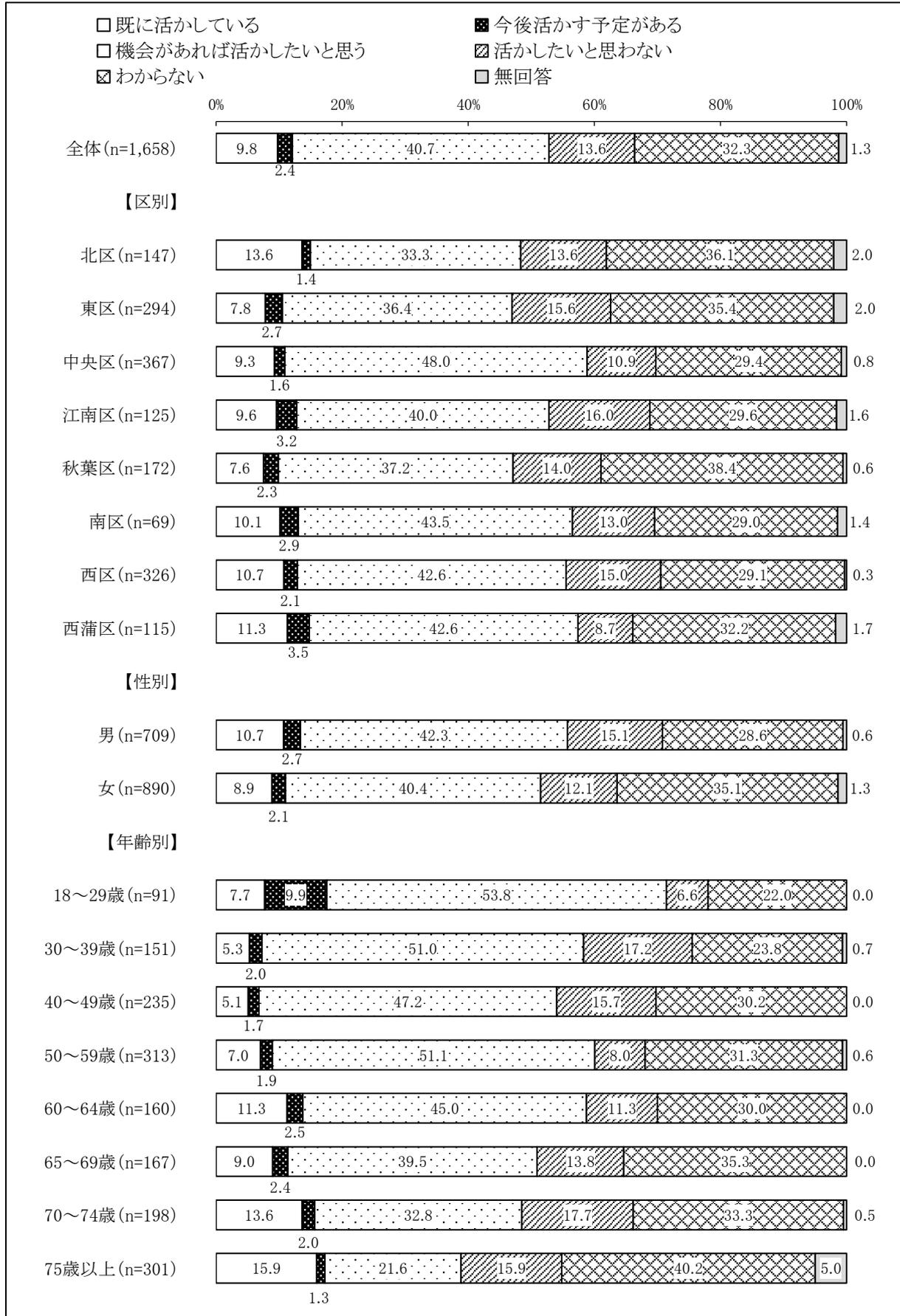
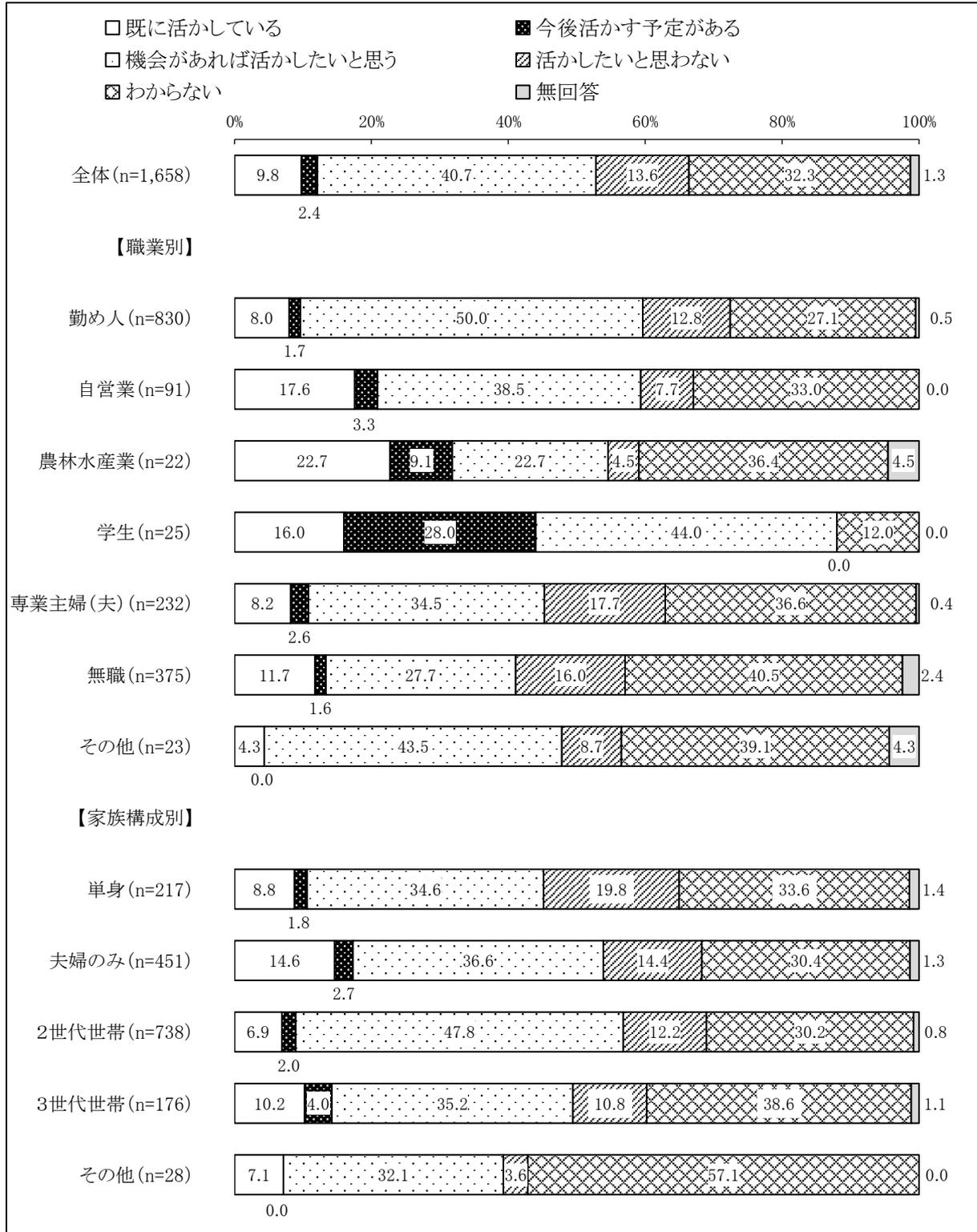


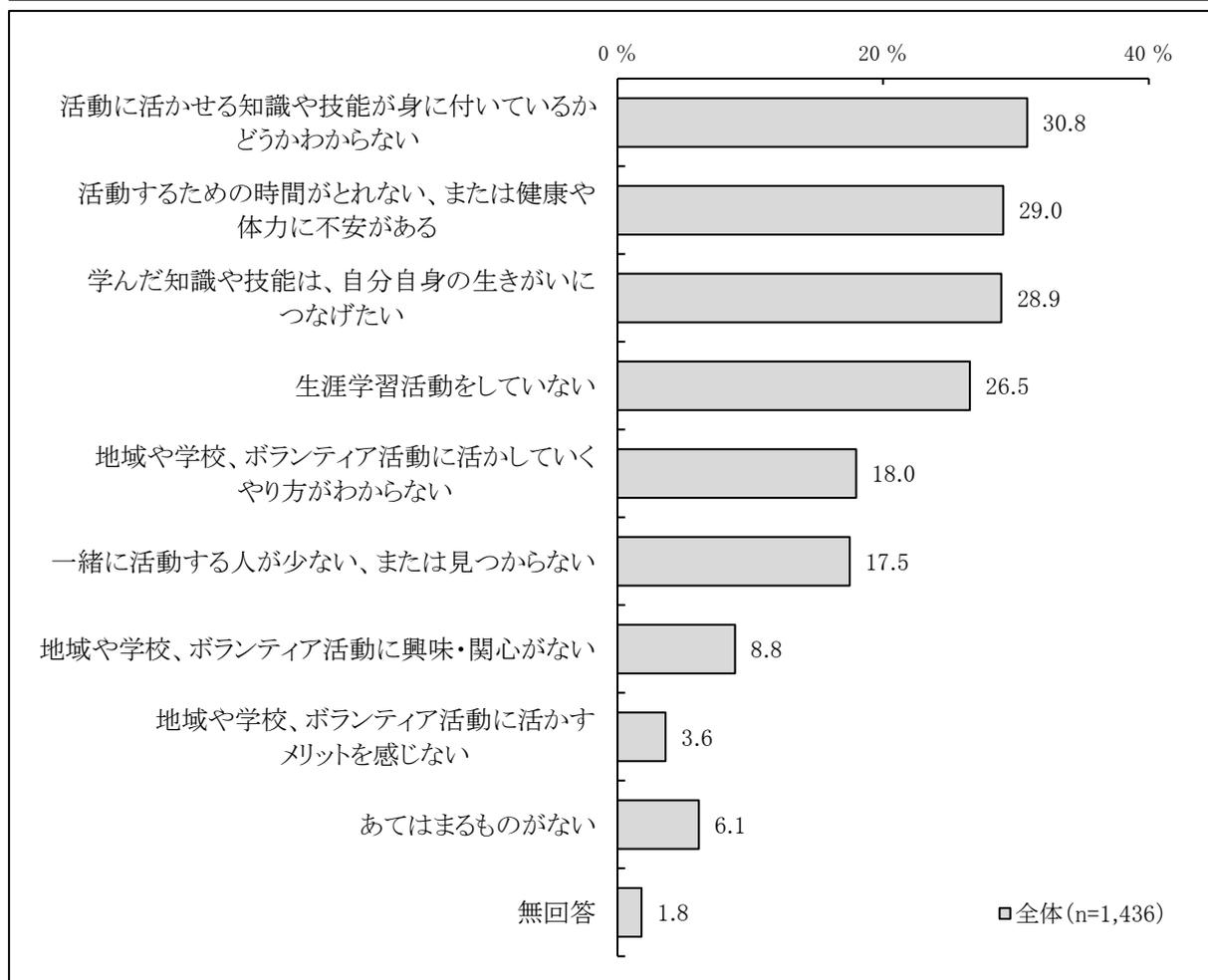
図 8.1 生涯学習活動で身に付けた知識や技能について

(職業別／家族構成別)



(2) 生涯学習活動についての考え

上記 8-1 で③・④・⑤のいずれかを選択した方に質問します。
8-2 次のうち、あなたの考えに近いものを選択してください。
(○は3つまで)



【全体結果】

生涯学習活動についての考えとして、「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」(30.8%)が最も割合が高く、次いで、「活動するための時間がとれない、または健康や体力に不安がある」(29.0%)、「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいに繋がらない」(28.9%)が続き、約3割となった。以下、「生涯学習活動をしていない」(26.5%)、「地域や学校、ボランティア活動に活かしていくやり方がわからない」(18.0%)、「一緒に活動する人が少ない、または見つからない」(17.5%)が続く。

【属性別結果】（次ページ図 8.2 参照）

① 区別

北区と秋葉区では「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」（それぞれ 35.2%、31.2%）、東区と江南区では「生涯学習活動をしていない」（それぞれ 30.4%、31.8%）、中央区と西区では「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいにつなげたい」（それぞれ 32.7%、31.1%）と答えた割合が最も高い。南区では「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいにつなげたい」と「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」（ともに 33.9%）、西蒲区では「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」と「活動するための時間がとれない、または健康や体力に不安がある」（ともに 31.3%）と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性では「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいにつなげたい」（29.3%）、女性では「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」（31.8%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

18～49 歳では「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいにつなげたい」と答えた割合が最も高い。50～59 歳、65～69 歳、70～74 歳では「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」と答えた割合が最も高くなった。また、60～64 歳、75 歳以上では、「活動するための時間がとれない、または健康や体力に不安がある」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

勤め人（パートも含む）では「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいにつなげたい」（30.8%）、自営業では「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいにつなげたい」、「活動するための時間がとれない、または健康や体力に不安がある」（ともに 33.3%）、専業主婦（夫）と無職では「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」（それぞれ 39.3%、30.7%）と答えた割合が最も高い。

農林水産業と学生は該当者数が少ないためグラフの掲載のみとする。

⑤ 家族構成別

単身、3 世代世帯（親と子と孫）では「活動するための時間がとれない、または健康や体力に不安がある」（それぞれ 31.9%、37.6%）、夫婦のみでは「活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうかわからない」（35.1%）、2 世代世帯（親と子）では「学んだ知識や技能は、自分自身の生きがいにつなげたい」（30.6%）と答えた割合が最も高い。

図 8.2 生涯学習活動についての考え 1/3

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

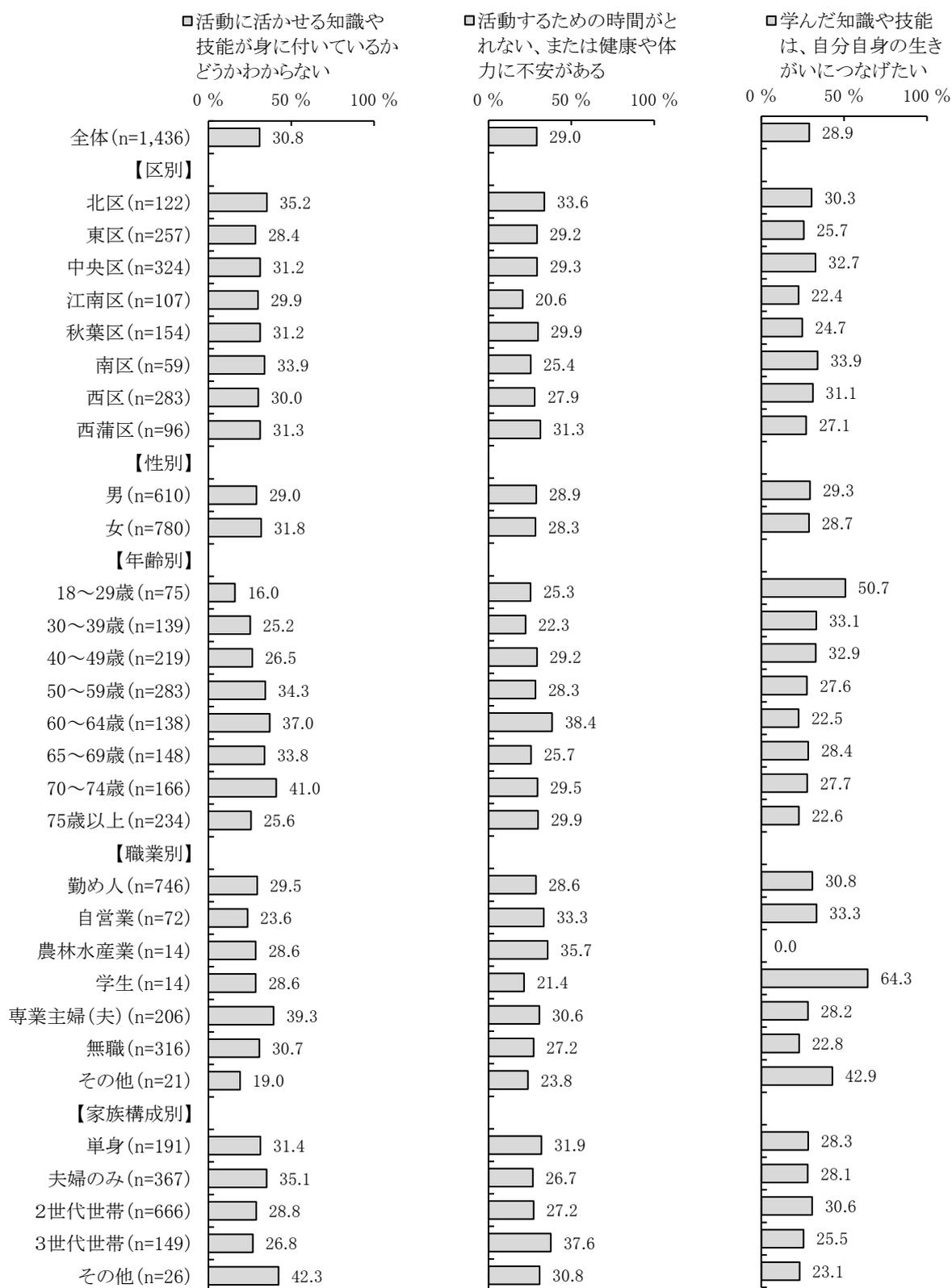


図 8.2 生涯学習活動についての考え 2/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

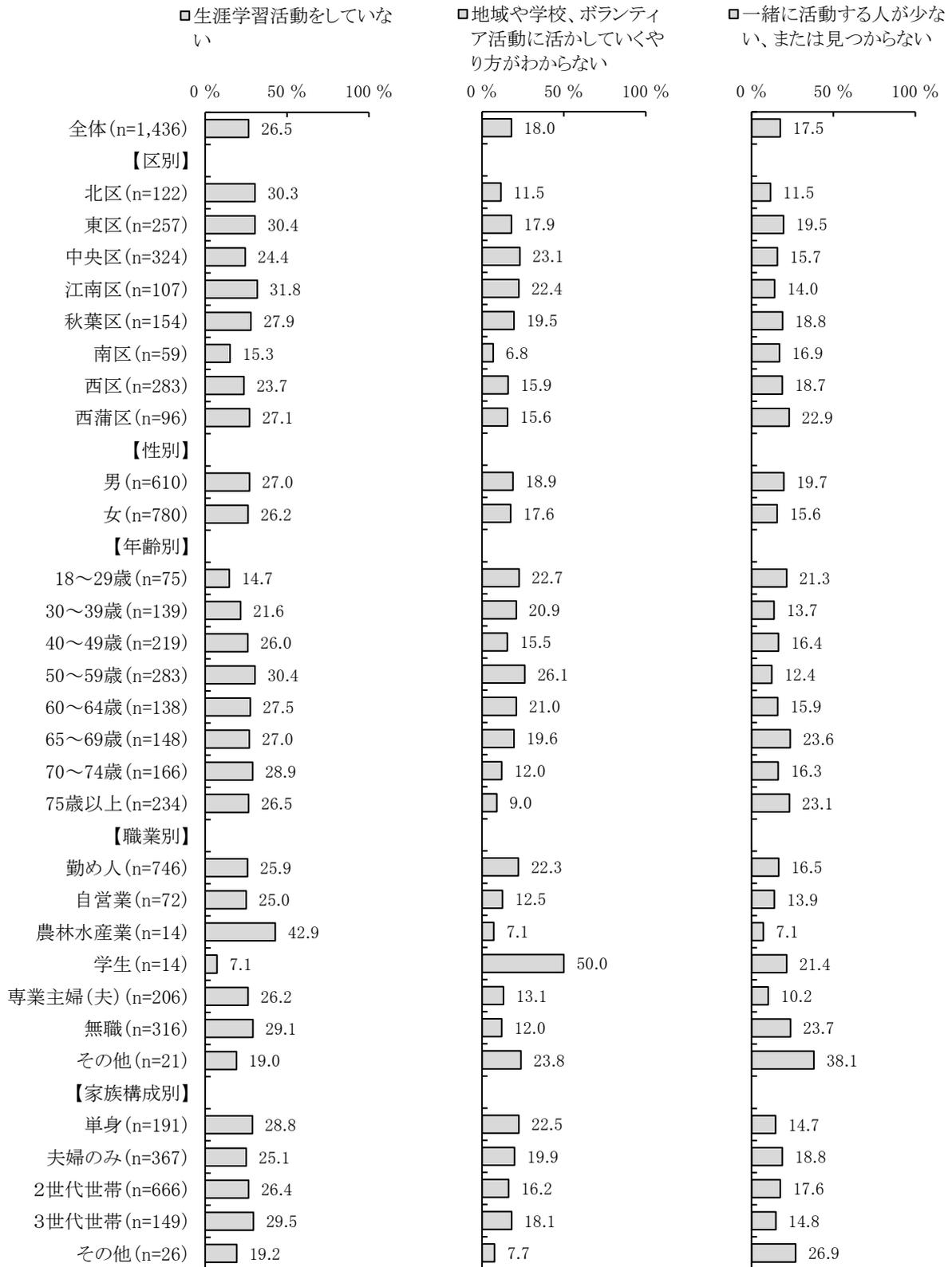
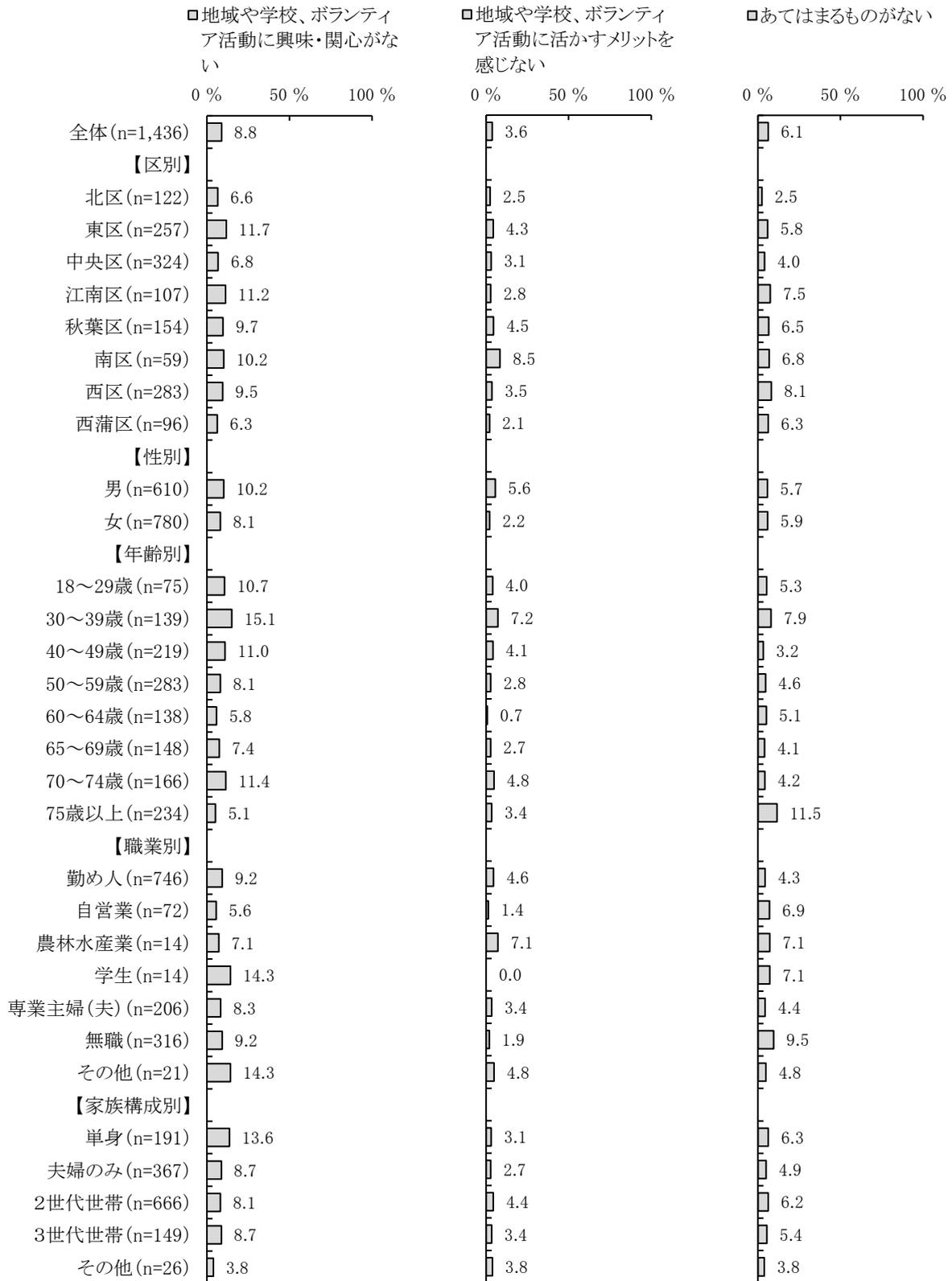


図 8.2 生涯学習活動についての考え 3/3

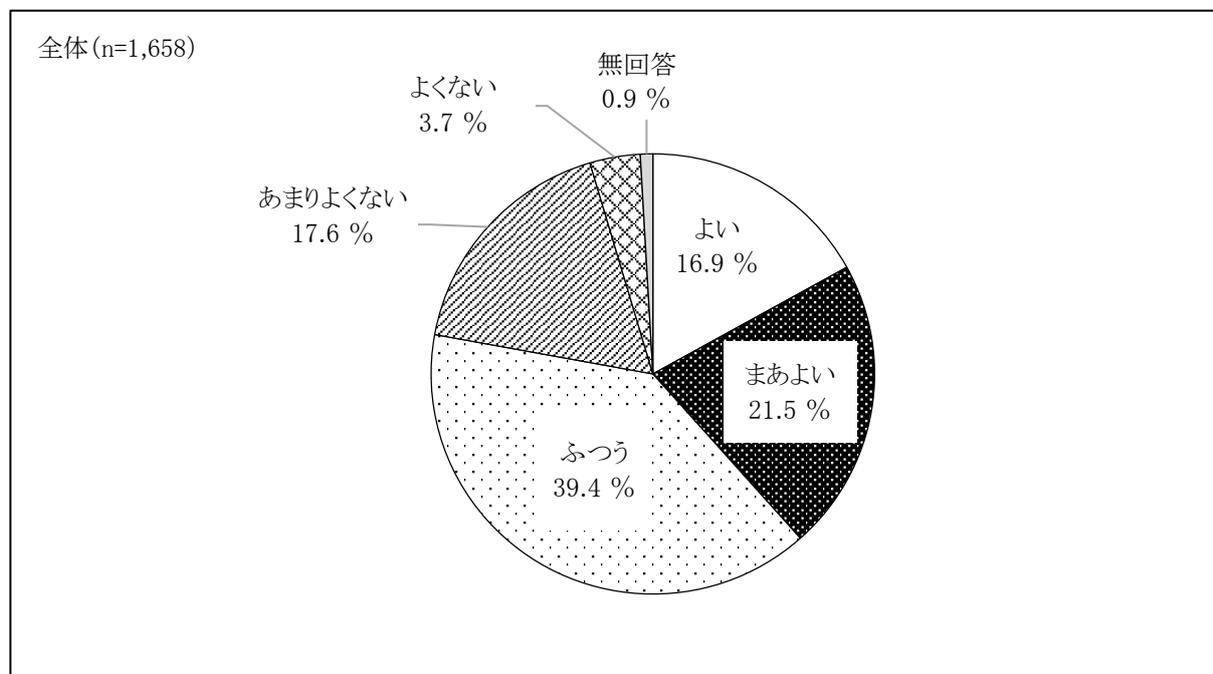
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



9. 健康について

(1) 健康状態

9-1 あなたの現在の健康状態はいかがですか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

現在の健康状態について、「ふつう」(39.4%)と答えた割合が最も高く、約4割を占めた。「よい」(16.9%)が2割弱、「まあよい」(21.5%)が約2割、「あまりよくない」(17.6%)が2割弱、「よくない」が1割未満となった。

【属性別結果】(次ページ図9.1参照)

① 区別

すべての区で「ふつう」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性ともに「ふつう」と答えた割合が最も高い。「あまりよくない」と答えた割合は女性(15.3%)より男性(19.6%)でやや高い。

③ 年齢別

18～29歳では「よい」、30～39歳では「まあよい」、40歳以上では「ふつう」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

学生を除くすべての職業で「ふつう」と答えた割合が最も高い。学生では「よい」と答えた割合が最も高く、過半数を占めた。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「ふつう」と答えた割合が最も高い。

図 9.1 健康状態

(区別/性別/年齢別)

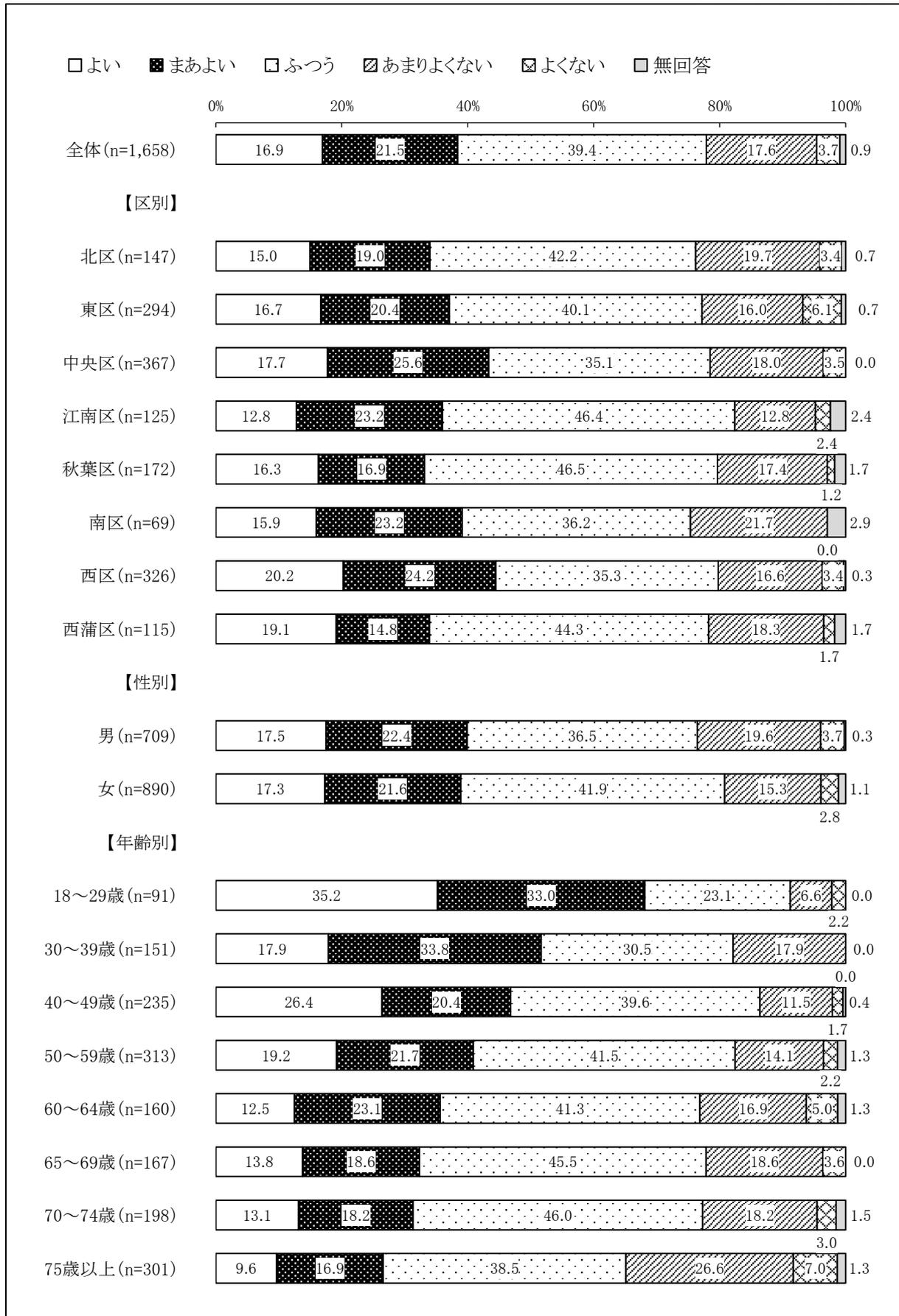
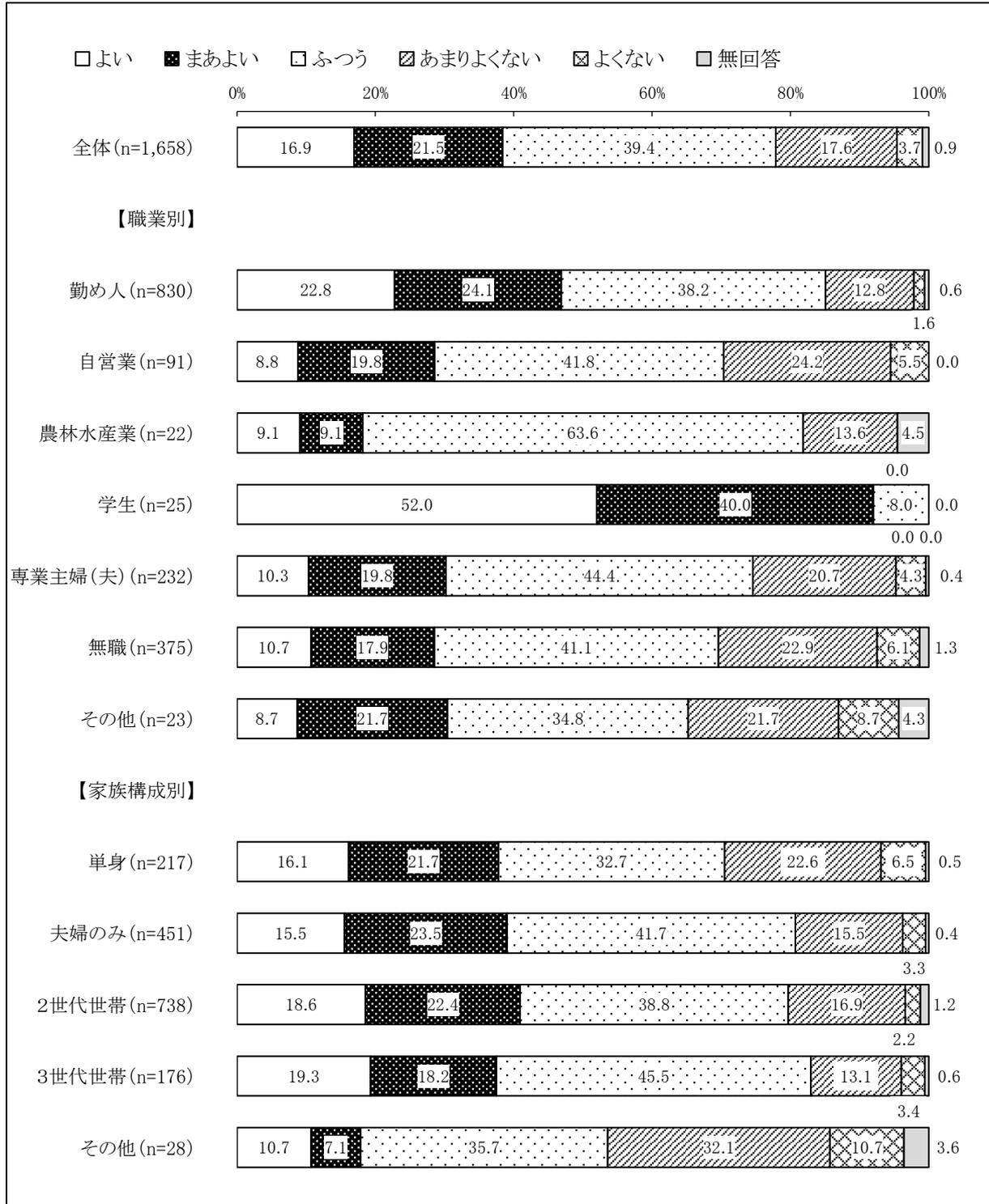


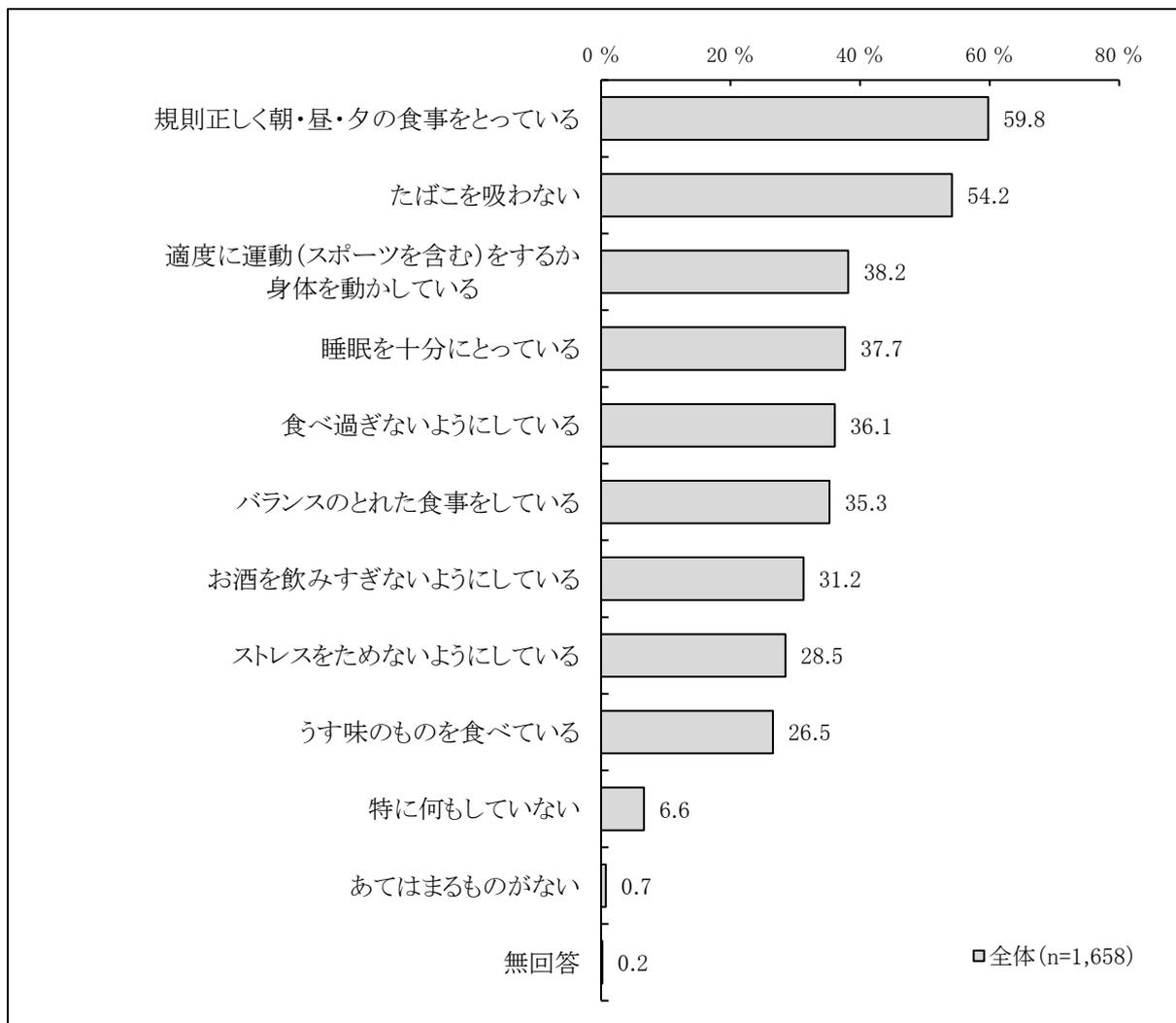
図 9.1 健康状態

(職業別/家族構成別)



(2) 健康のために実行していること

9-2 日頃健康のために実行している事柄について、あてはまるものを選択してください。



【全体結果】

日頃健康のために実行している事柄として、「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」(59.8%)が最も割合が高く、約6割となった。次いで「たばこを吸わない」(54.2%)が5割半ば、「適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」(38.2%)、「睡眠を十分にとっている」(37.7%)、「食べ過ぎないようにしている」(36.1%)、「バランスのとれた食事をしている」(35.3%)、「お酒を飲みすぎないようにしている」(31.2%)が3割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 9.2 参照）

① 区別

すべての区で「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」と答えた割合が最も高く、6割前後となった。

② 性別

男性女性とも「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

60歳未満では「たばこを吸わない」と答えた割合が最も高く、60歳以上では「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

勤め人（パートも含む）を除くすべての職業で「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」と答えた割合が高い。勤め人（パートも含む）では「たばこを吸わない」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

単身を除くすべての家族構成で「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」と答えた割合が高い。単身では「たばこを吸わない」と答えた割合が最も高い。

図 9.2 健康のために実行していること 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

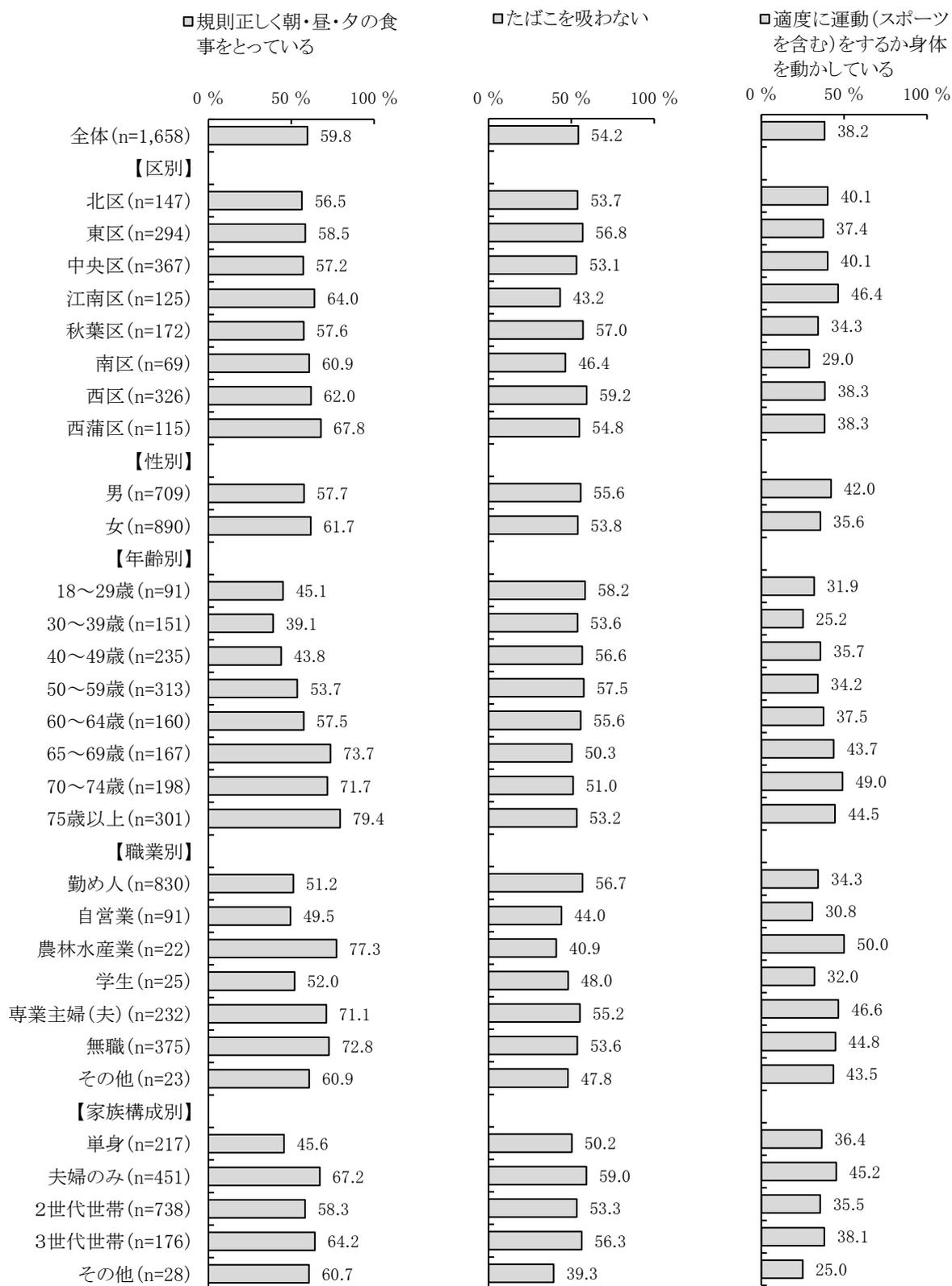


図 9.2 健康のために実行していること 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

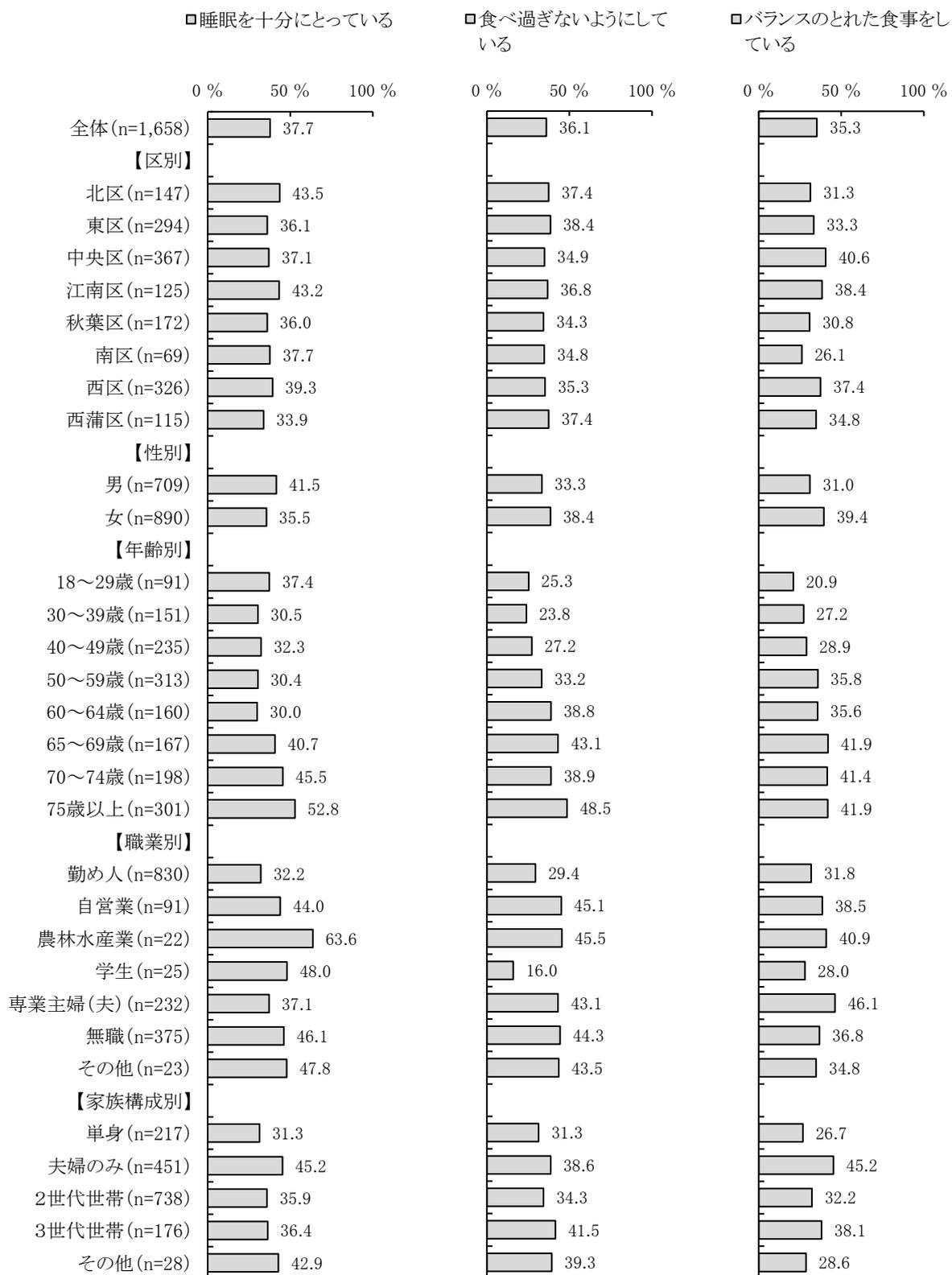


図 9.2 健康のために実行していること 3/4

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

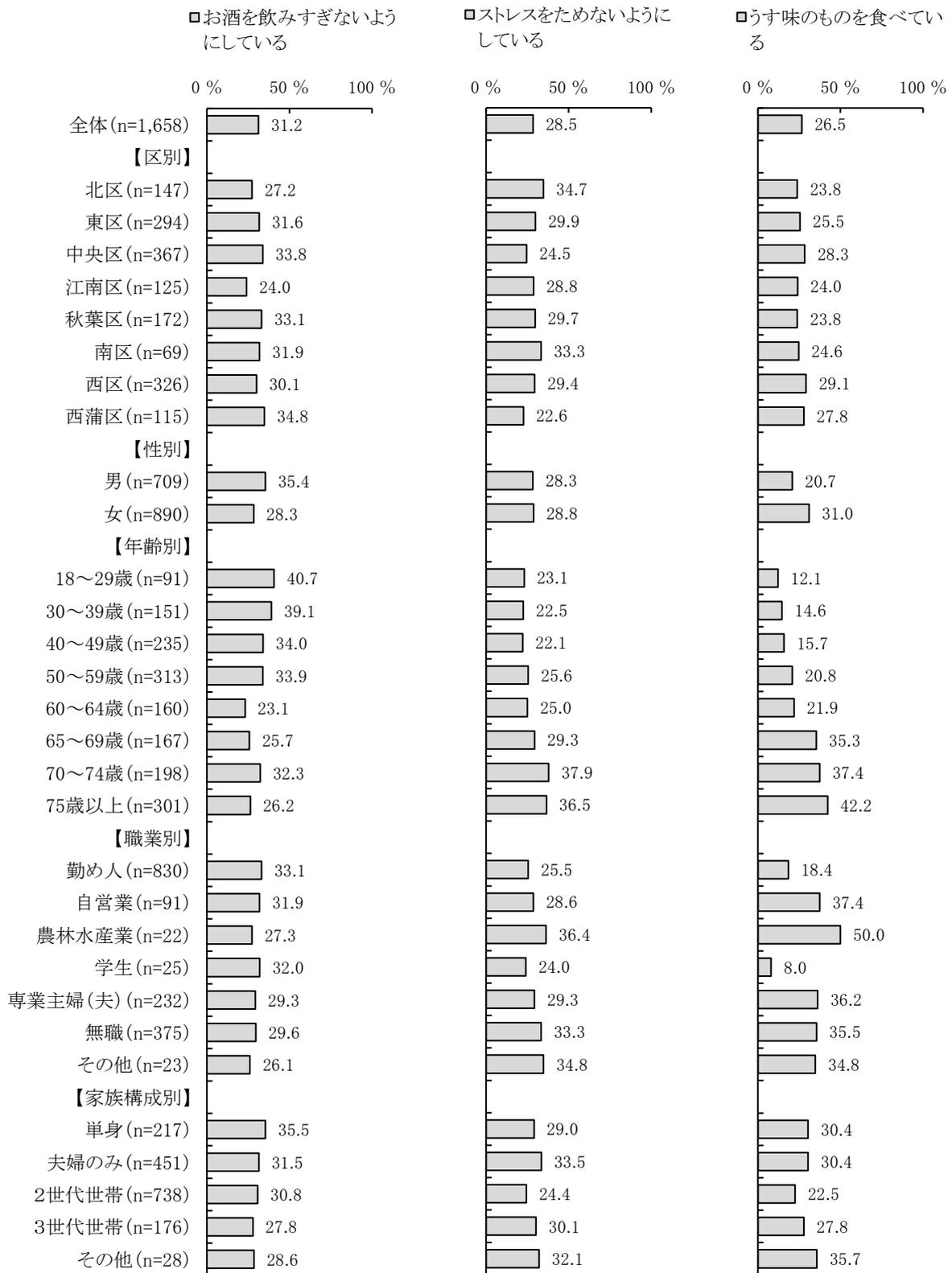
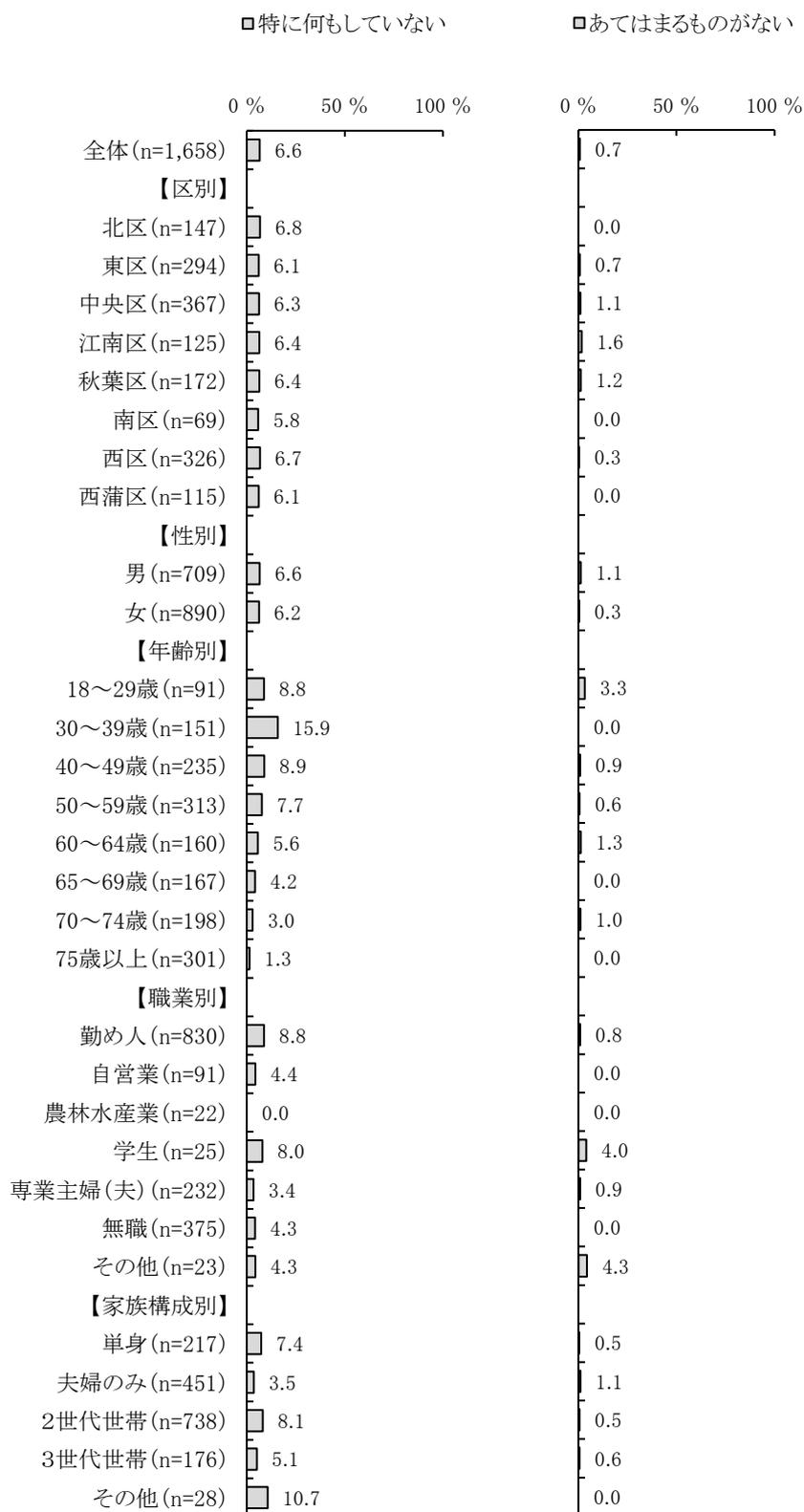


図 9.2 健康のために実行していること 4/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

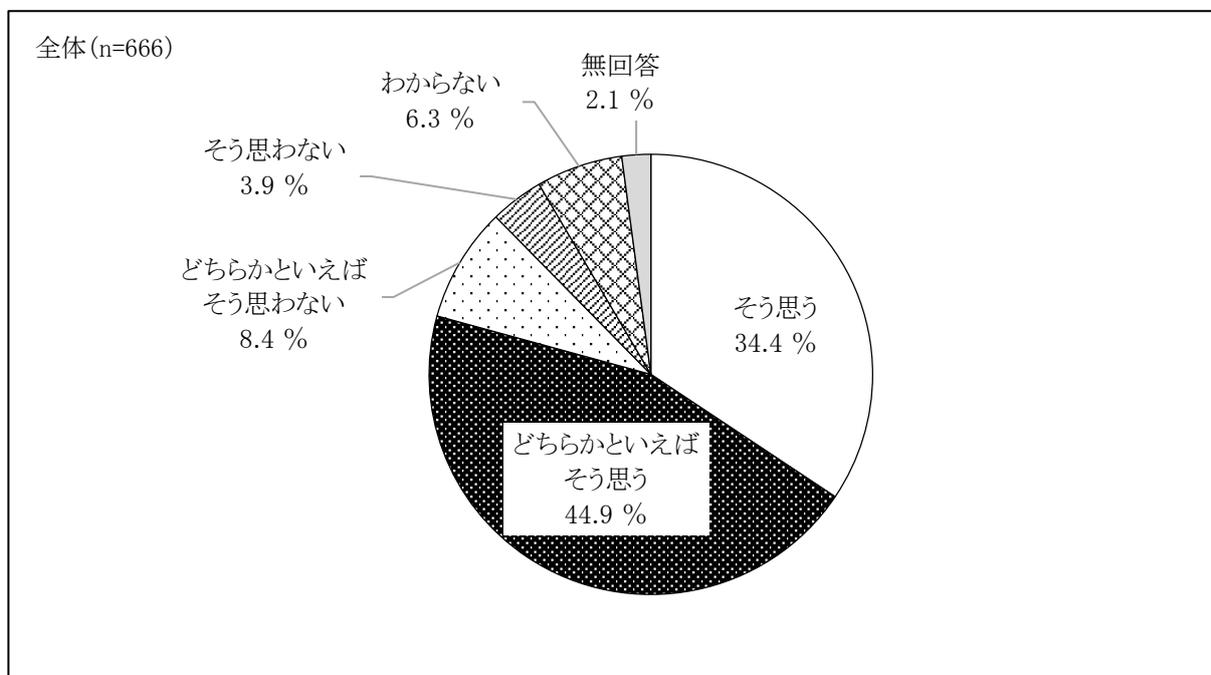


10. 住み慣れた地域での安心な暮らしについて

(1) 安心して暮らし続けることができるか

65歳以上の方のみお答えください。

10-1 あなたは、今お住まいの地域で安心して暮らし続けることができますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

地域で安心して暮らし続けることができるかについて、「そう思う」が34.4%、「どちらかといえばそう思う」が44.9%、「どちらかといえばそう思わない」が8.4%、「そう思わない」が3.9%となった。

【属性別結果】(次ページ図10.1参照)

① 区別

「そう思う」と答えた割合は、東区(45.0%)で高い。

② 性別

「そう思う」と答えた割合は、女性(31.5%)より男性(38.0%)で高い。

③ 年齢別

「そう思う」と答えた割合は、75歳以上(41.2%)で最も高い。

④ 職業別

「そう思う」と答えた割合は、農林水産業(52.9%)で最も高い。

⑤ 家族構成別

「そう思う」と答えた割合は、3世代世帯(親と子と孫)(49.3%)で最も高い。

図 10.1 安心して暮らし続けることができるか

(区別/性別/年齢別)

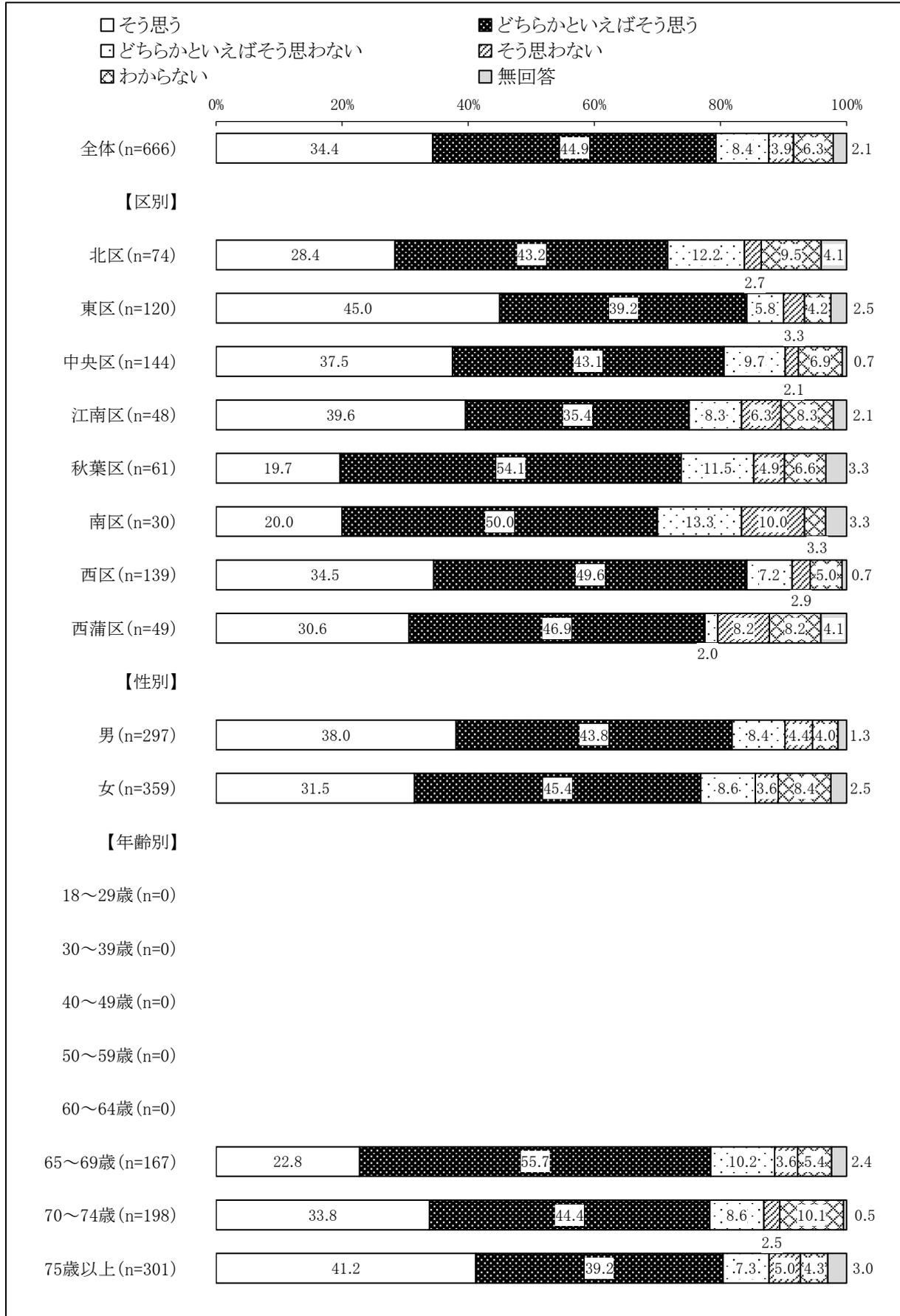
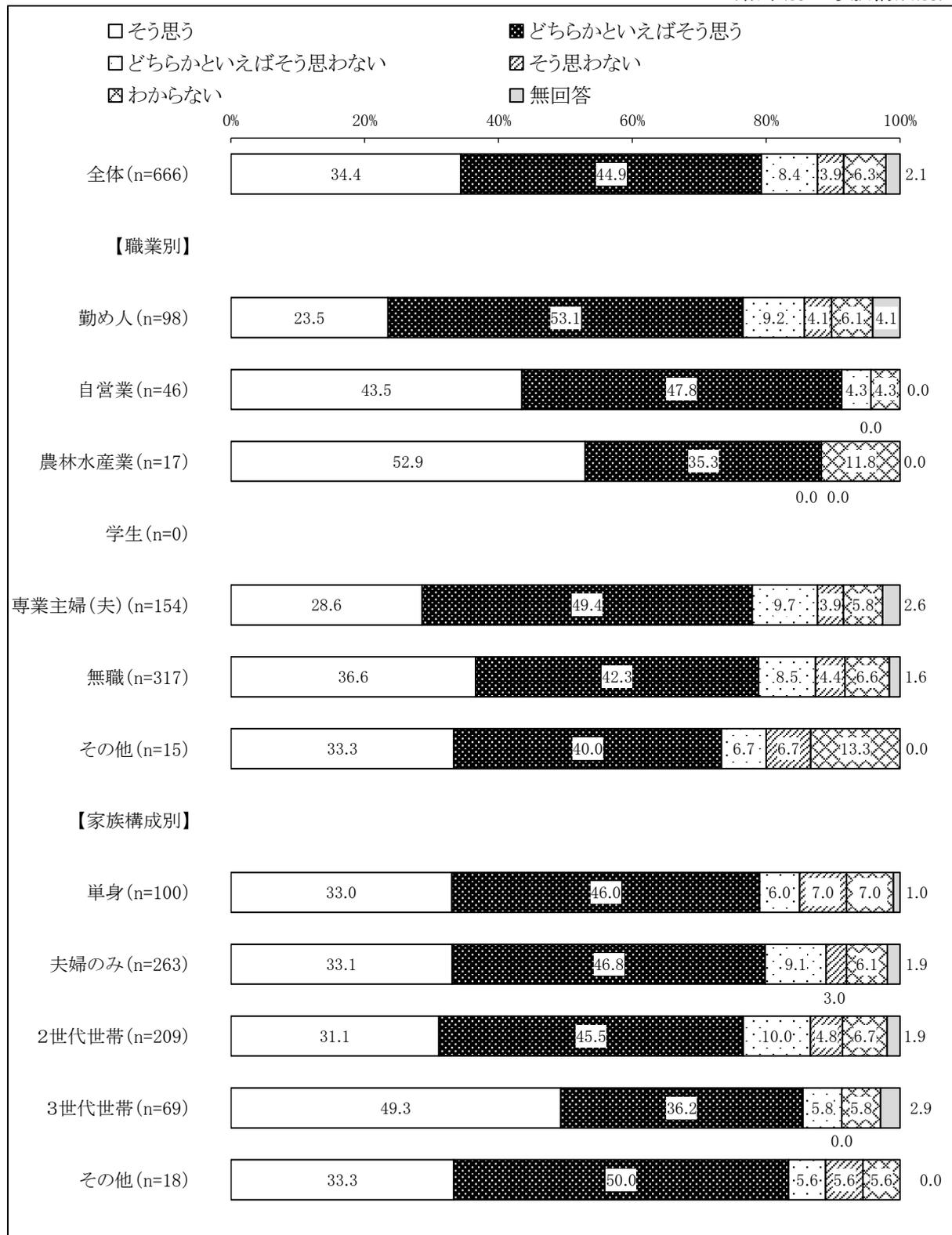


図 10.1 安心して暮らし続けることができるか

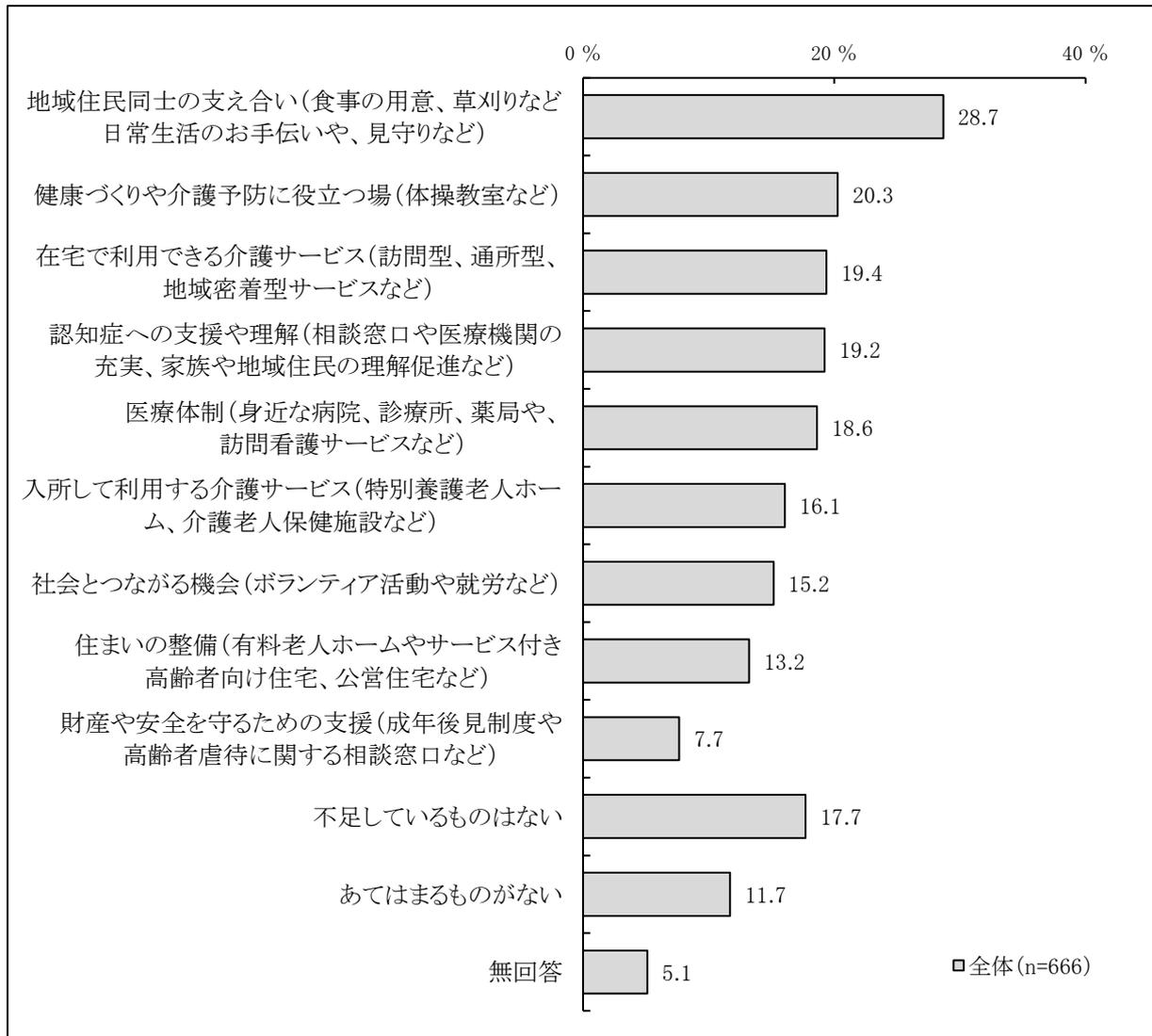
(職業別／家族構成別)



(2) 安心して暮らし続けるために不足しているもの

引き続き 65 歳以上の方のみお答えください。

10-2 あなたが今お住まいの地域で安心して暮らし続けるにあたって不足していると思うものを選択してください。(〇はいくつでも)



【全体結果】

安心して暮らし続けるために不足しているものとして、「地域住民同士の支え合い(食事の用意、草刈りなど日常生活のお手伝いや、見守りなど)」(28.7%)が最も割合が高く、約3割となった。次いで「健康づくりや介護予防に役立つ場(体操教室など)」(20.3%)、「在宅で利用できる介護サービス(訪問型、通所型、地域密着型サービスなど)」(19.4%)、「認知症への支援や理解(相談窓口や医療機関の充実、家族や地域住民の理解促進など)」(18.6%)が約2割で続く。

【属性別結果】（次ページ図 10.2 参照）

① 区別

秋葉区を除くすべての区で「地域住民同士の支え合い（食事の用意、草刈りなど日常生活のお手伝いや、見守りなど）」と答えた割合が最も高い。秋葉区では「医療体制（身近な病院、診療所、薬局や、訪問看護サービスなど）」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性ともに「地域住民同士の支え合い（食事の用意、草刈りなど日常生活のお手伝いや、見守りなど）」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

すべての年代で「地域住民同士の支え合い（食事の用意、草刈りなど日常生活のお手伝いや、見守りなど）」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「地域住民同士の支え合い（食事の用意、草刈りなど日常生活のお手伝いや、見守りなど）」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「地域住民同士の支え合い（食事の用意、草刈りなど日常生活のお手伝いや、見守りなど）」と答えた割合が最も高い。

図 10.2 安心して暮らし続けるために不足しているもの 1/4

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

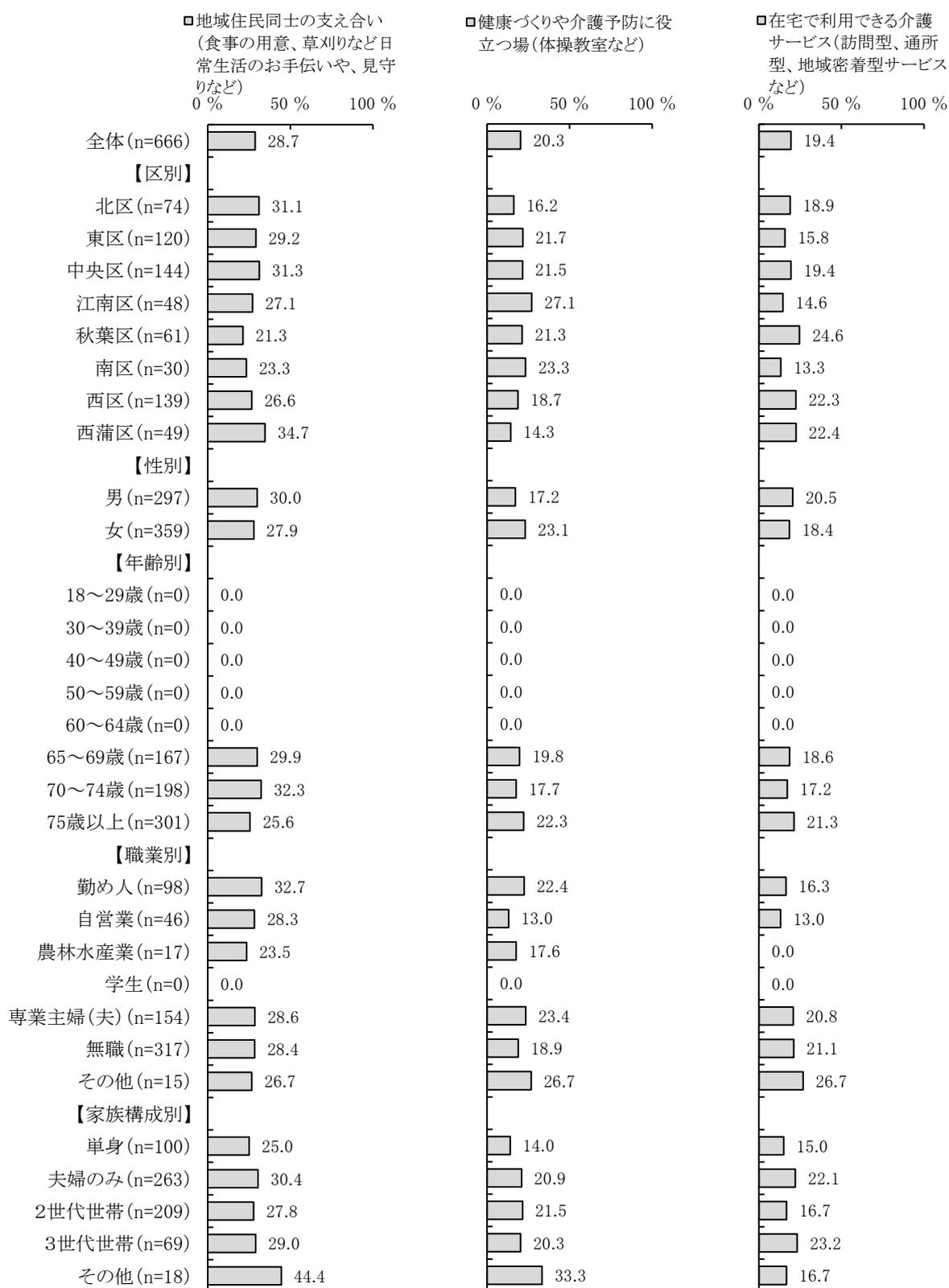


図 10.2 安心して暮らし続けるために不足しているもの 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

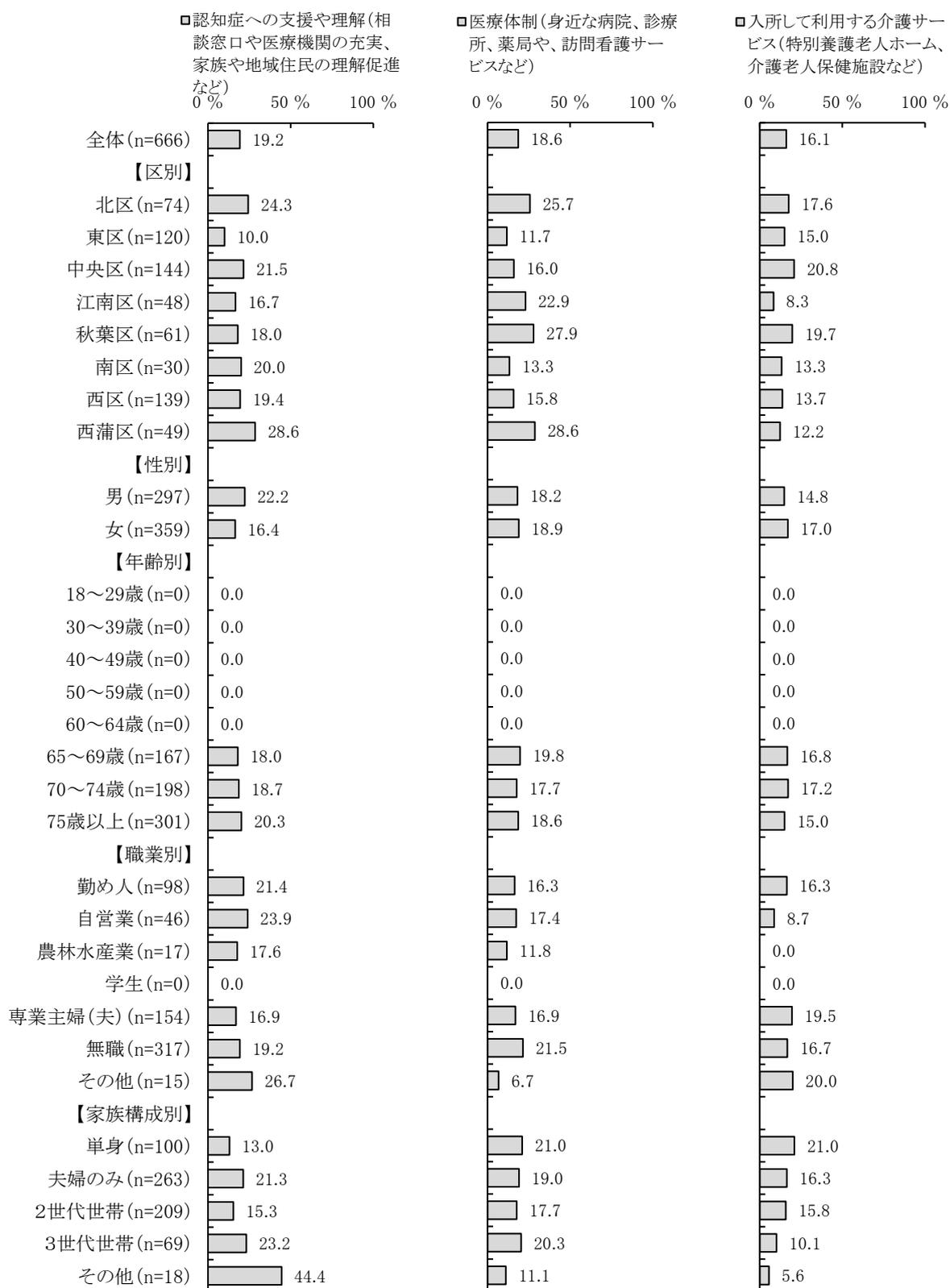


図 10.2 安心して暮らし続けるために不足しているもの 3/4

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

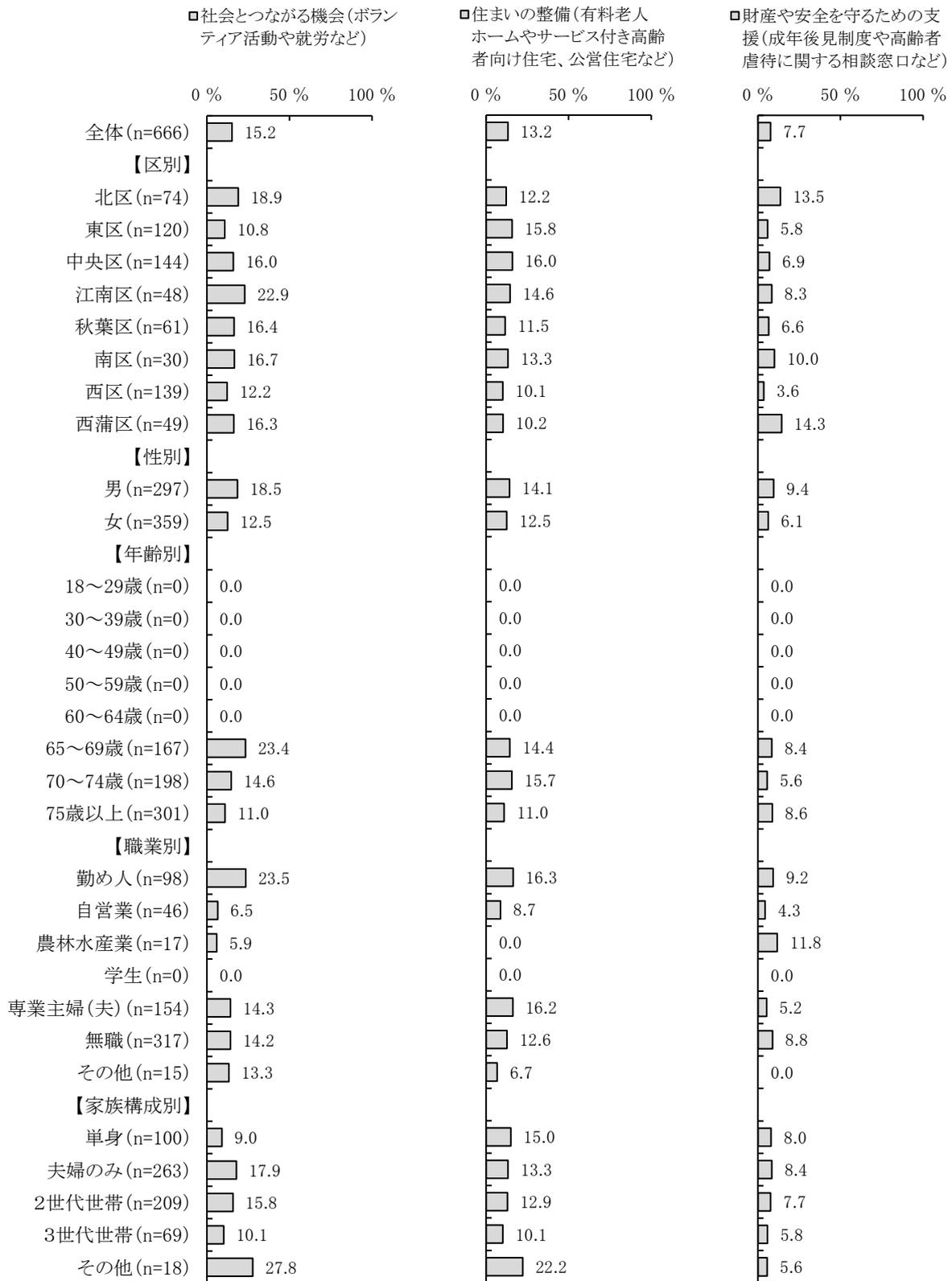
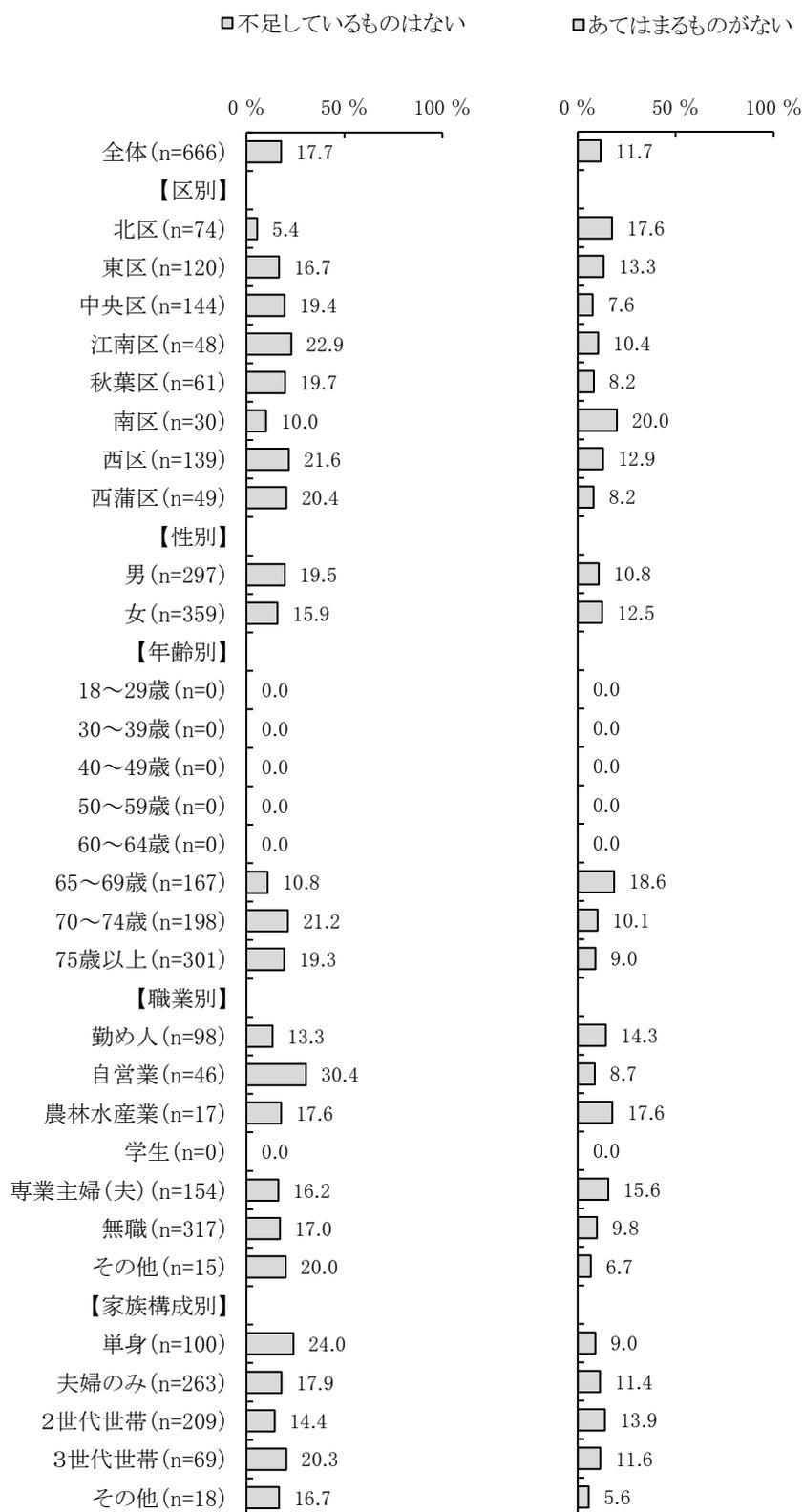


図 10.2 安心して暮らし続けるために不足しているもの 4/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

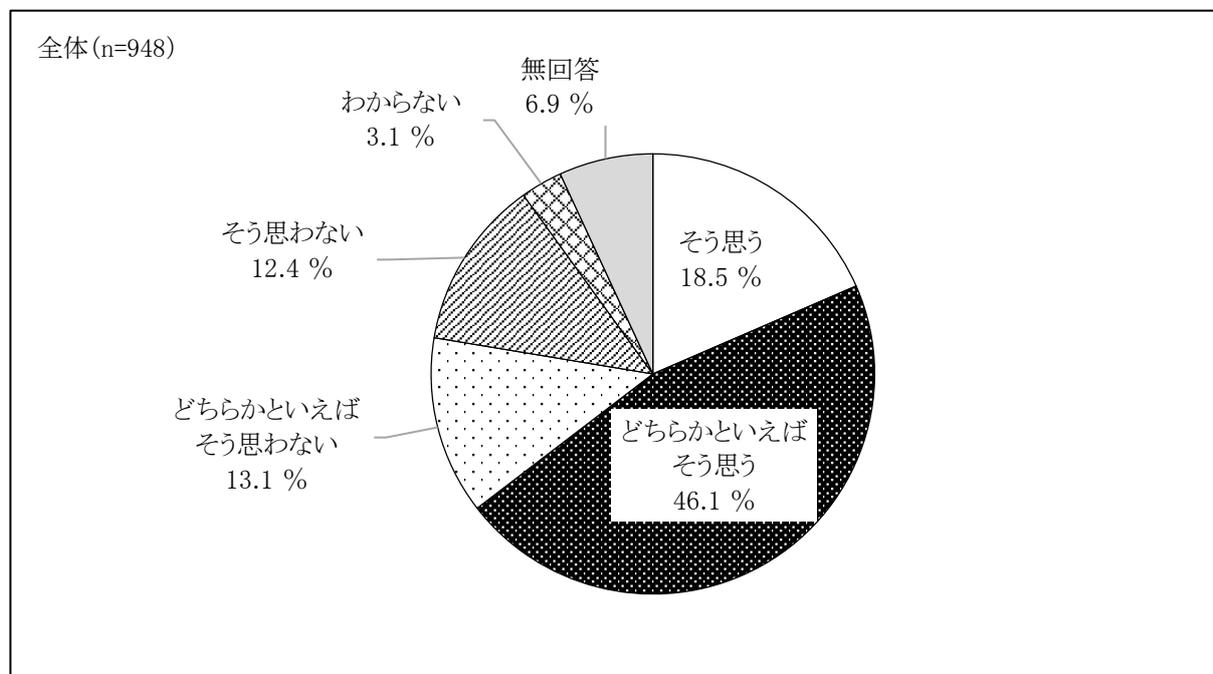


11. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 働きやすい職場か

勤めている方にお聞きします。

11-1 あなたの勤め先は、働きやすい職場だと思いますか。 (〇は1つだけ)



【全体結果】

働きやすい職場かについて、「そう思う」が18.5%、「どちらかといえばそう思う」が46.1%、「どちらかといえばそう思わない」が13.1%、「そう思わない」が12.4%となった。

【属性別結果】(次ページ図11.1参照)

① 区別

「そう思う」と答えた割合は、江南区(23.2%)で高い。

② 性別

性別による大きな差はみられない。

③ 年齢別

「そう思う」と答えた割合は、70~74歳(24.1%)で最も高い。「どちらかといえばそう思う」は、60~69歳で割合が高く、6割以上となった。

④ 職業別

「そう思う」と答えた割合は、勤め人(パートも含む)(19.0%)で最も高い。自営業、農林水産業では無回答の割合が高かった。

⑤ 家族構成別

単身では「そう思わない」(21.6%)と答えた割合が高く、2割を占めた。

図 11.1 働きやすい職場か

(区別／性別／年齢別)

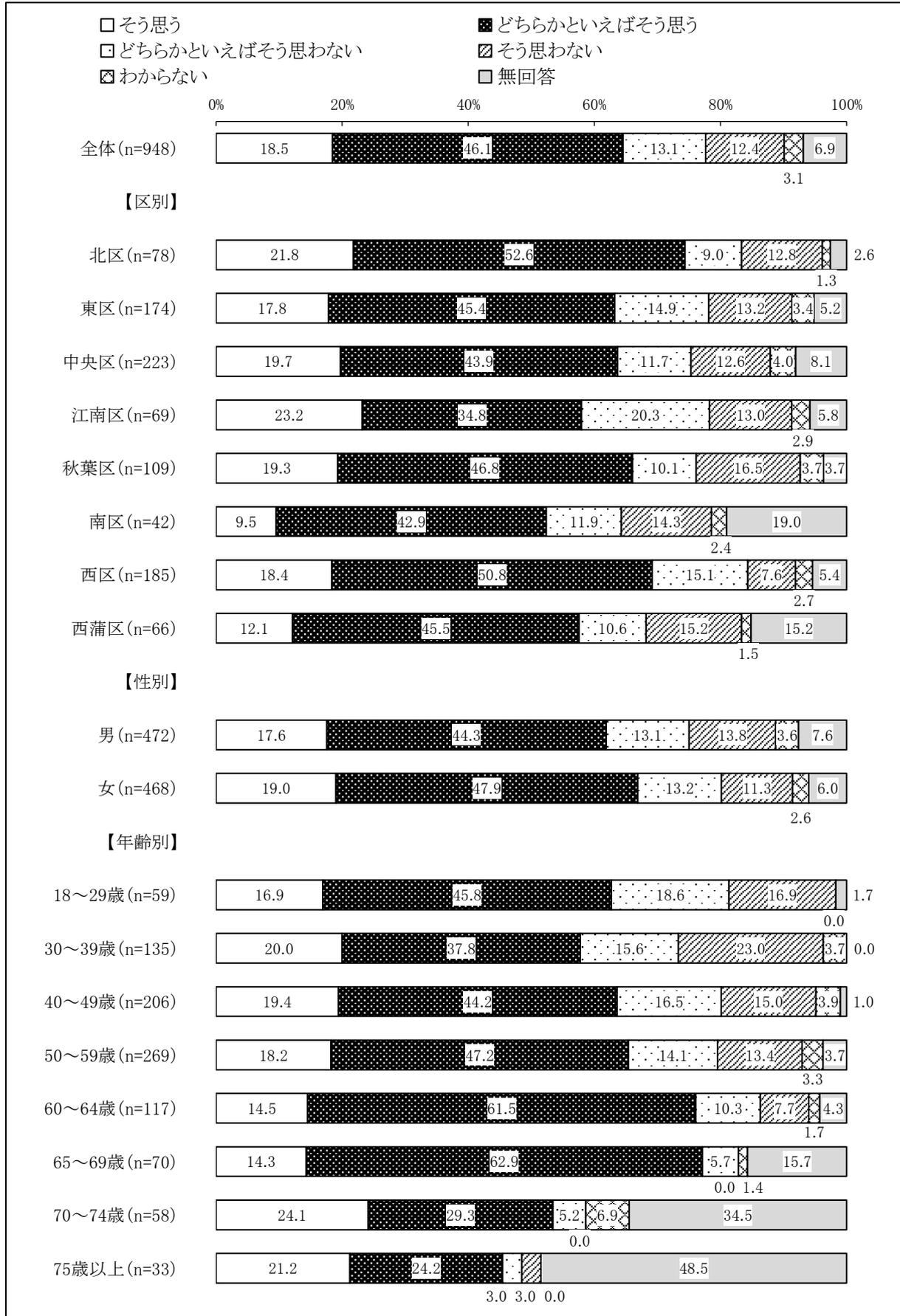
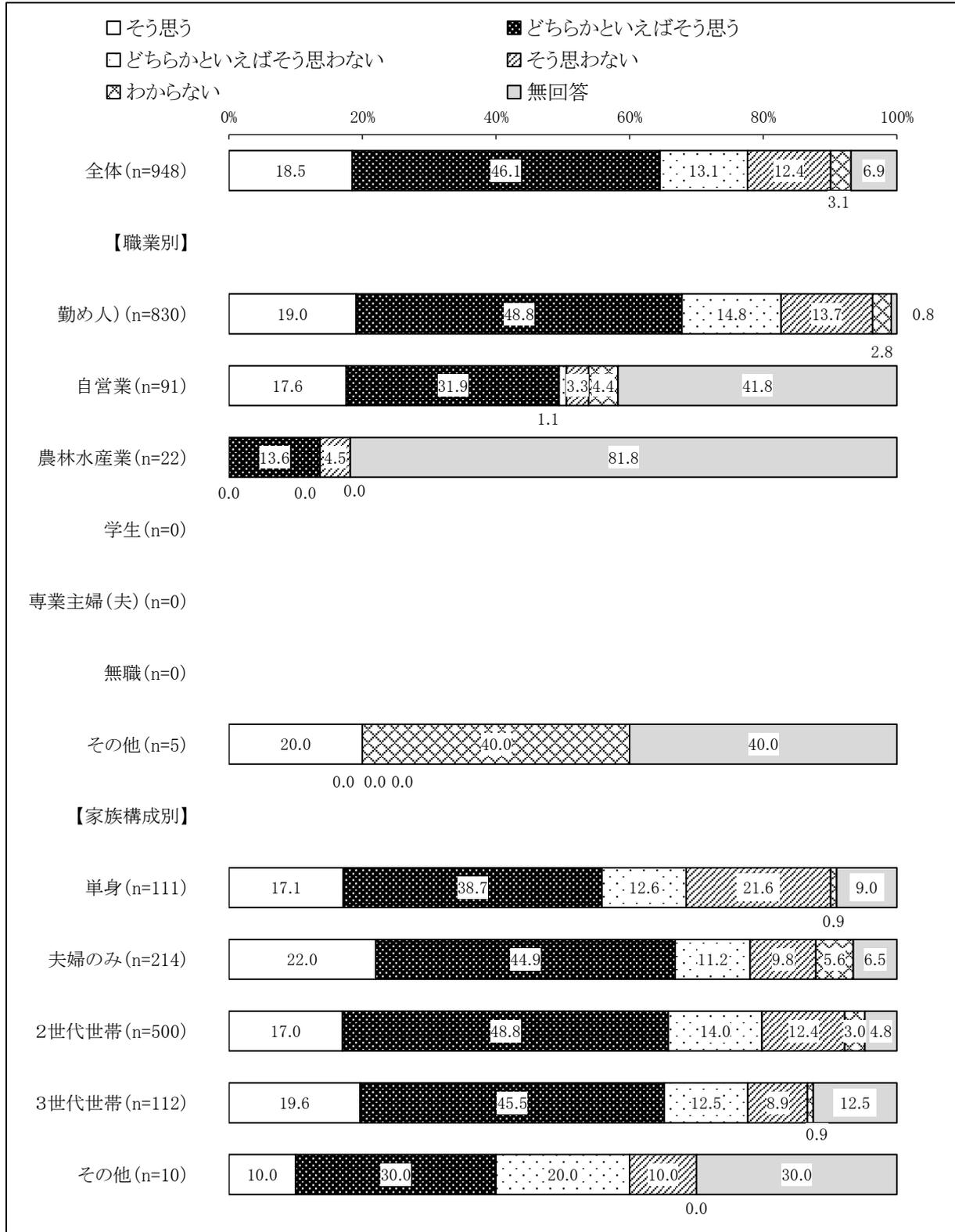


図 11.1 働きやすい職場か

(職業別／家族構成別)

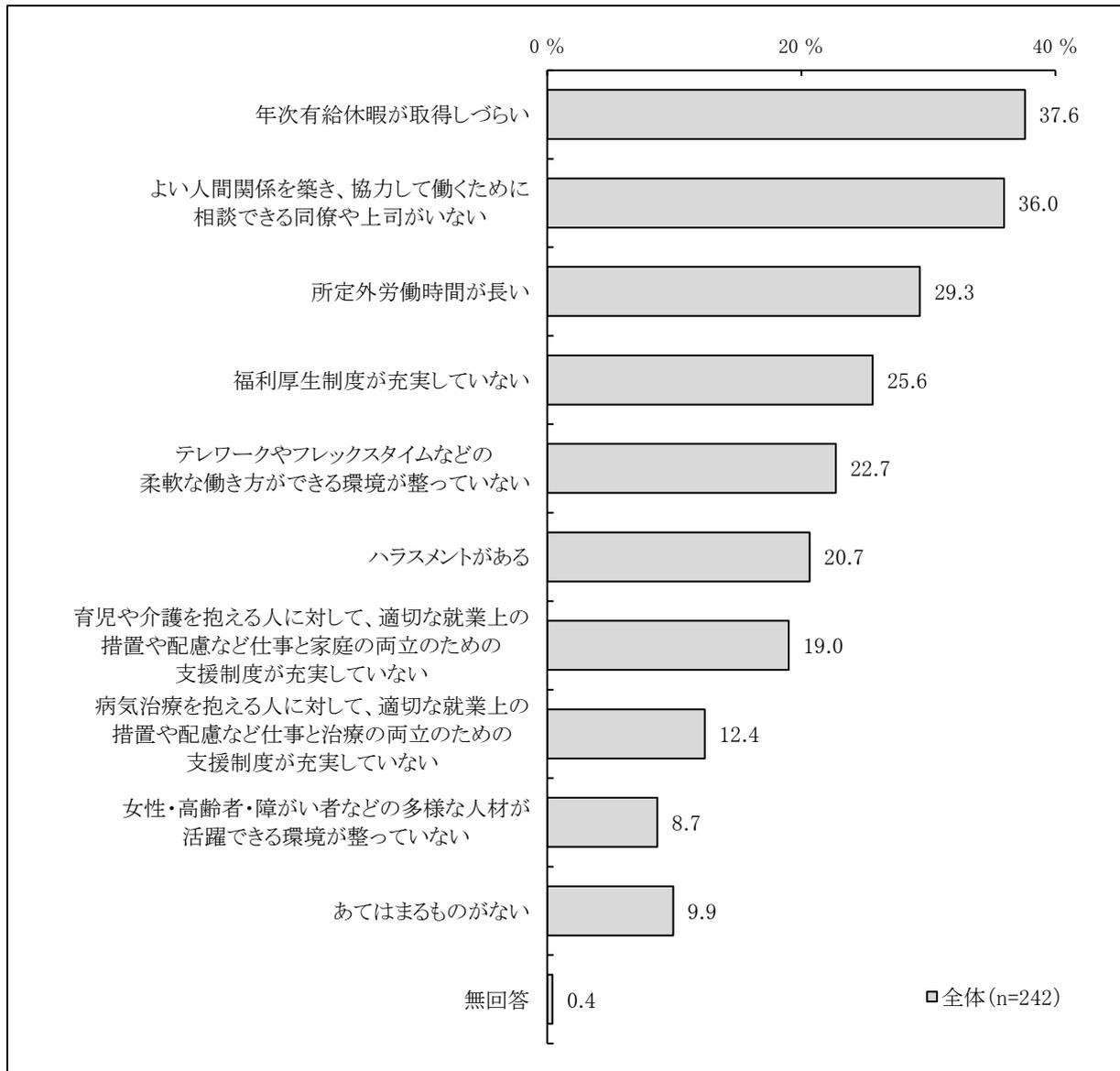


(2) 働きやすいと思わない理由

上記 11-1 で③または④を選択した方に質問します。

11-2 その理由として、あてはまるものを選択してください。

(○は3つまで)



【全体結果】

働きやすいと思わない理由として、「年次有給休暇が取得しづらい」(37.6%)が最も割合が高く、4割弱となった。次いで「よい人間関係を築き、協力して働くために相談できる同僚や上司がいない」(36.0%)が3割半ば、「所定外労働時間が長い」(29.3%)、「福利厚生制度が充実していない」(25.6%)が5割台、「テレワークやフレックスタイムなどの柔軟な働き方ができる環境が整っていない」(22.7%)、「ハラスメントがある」(20.7%)が2割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 11.2 参照）

① 性別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

② 性別

男性では「年次有給休暇が取得しづらい」（41.7%）、女性では「よい人間関係を築き、協力して働くために相談できる同僚や上司がない」（36.5%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

60歳以下では「年次有給休暇が取得しづらい」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

⑤ 家族構成別

単身を除くすべての家族構成で「年次有給休暇が取得しづらい」と答えた割合が最も高い。単身では「よい人間関係を築き、協力して働くために相談できる同僚や上司がない」（42.1%）と答えた割合が最も高い。

図 11.2 働きやすいと思わない理由 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

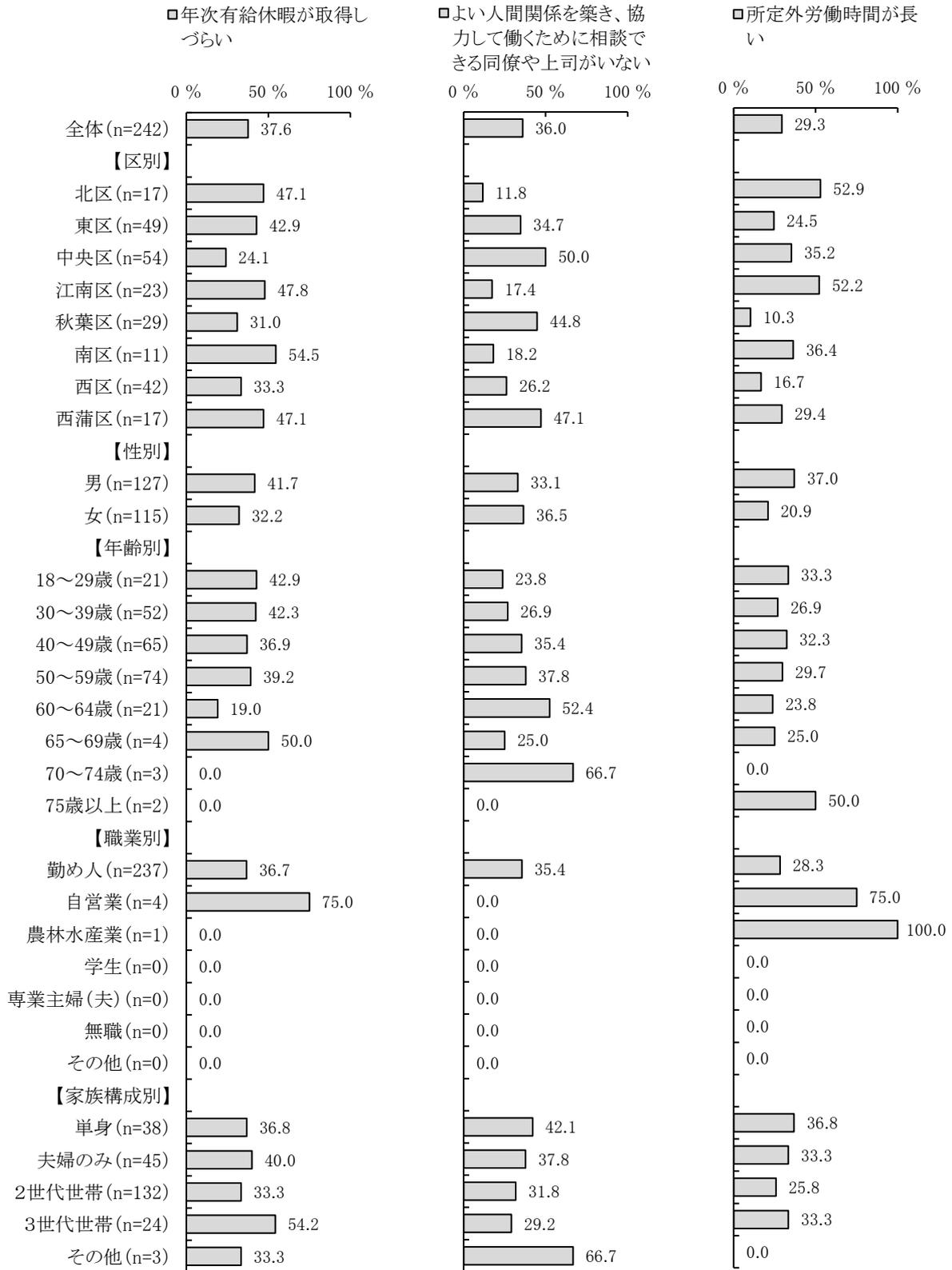


図 11.2 働きやすいと思わない理由 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

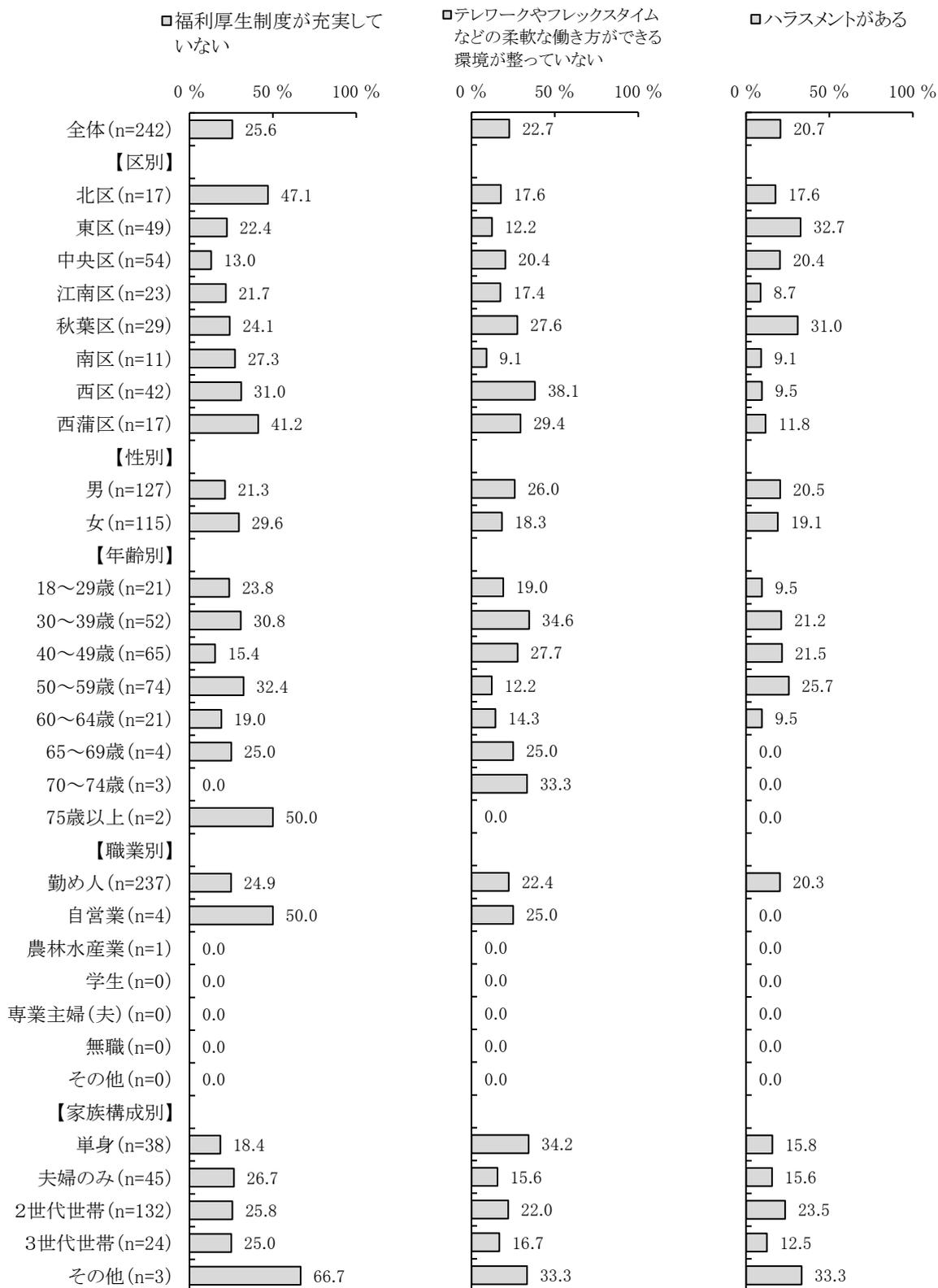


図 11.2 働きやすいと思わない理由 3/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

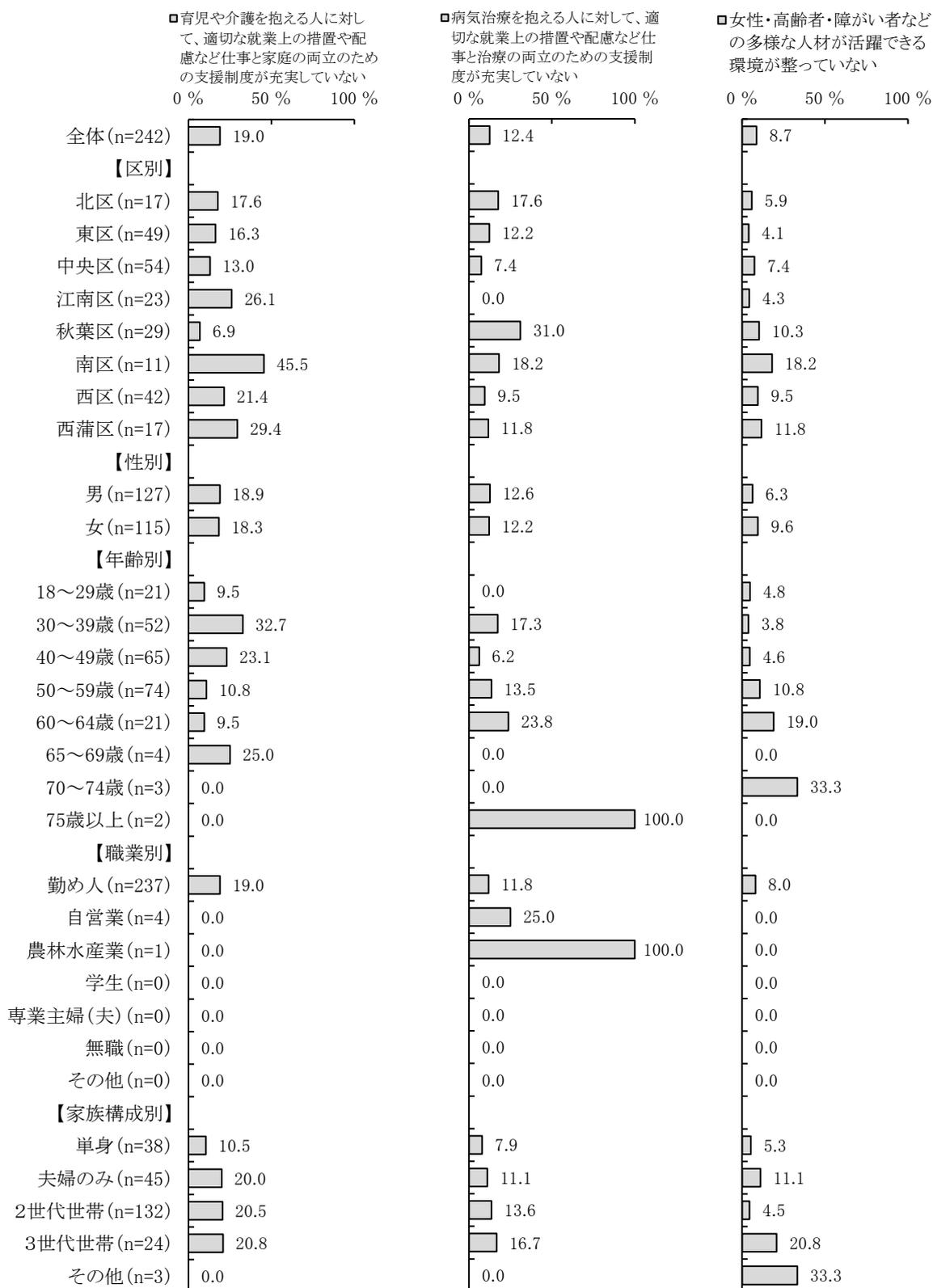
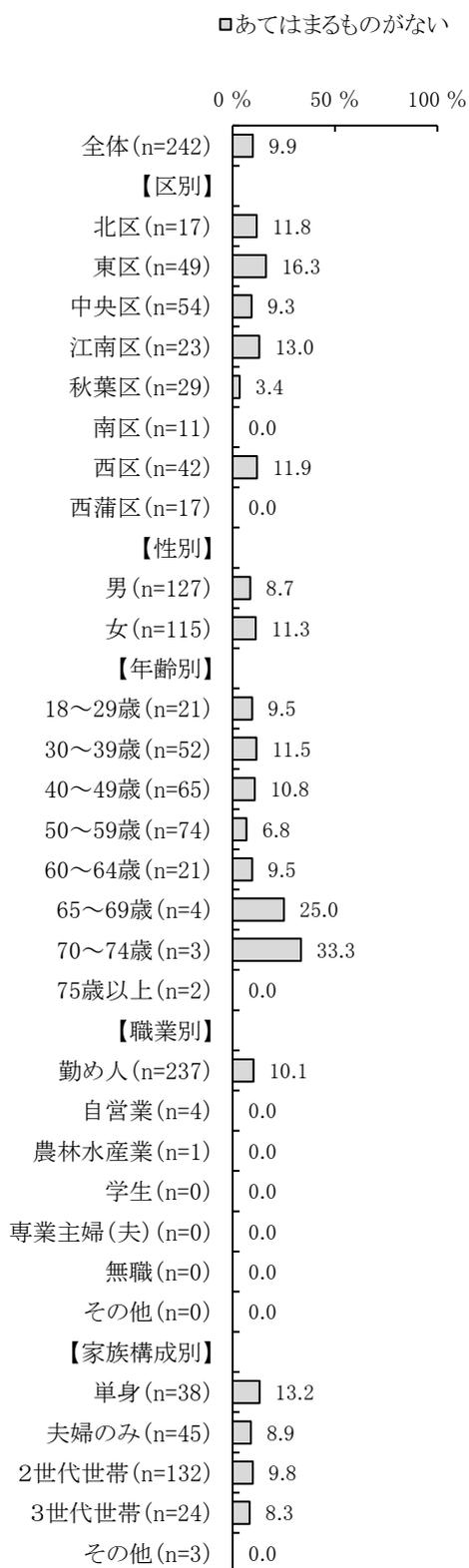


図 11.2 働きやすいと思わない理由 4/4

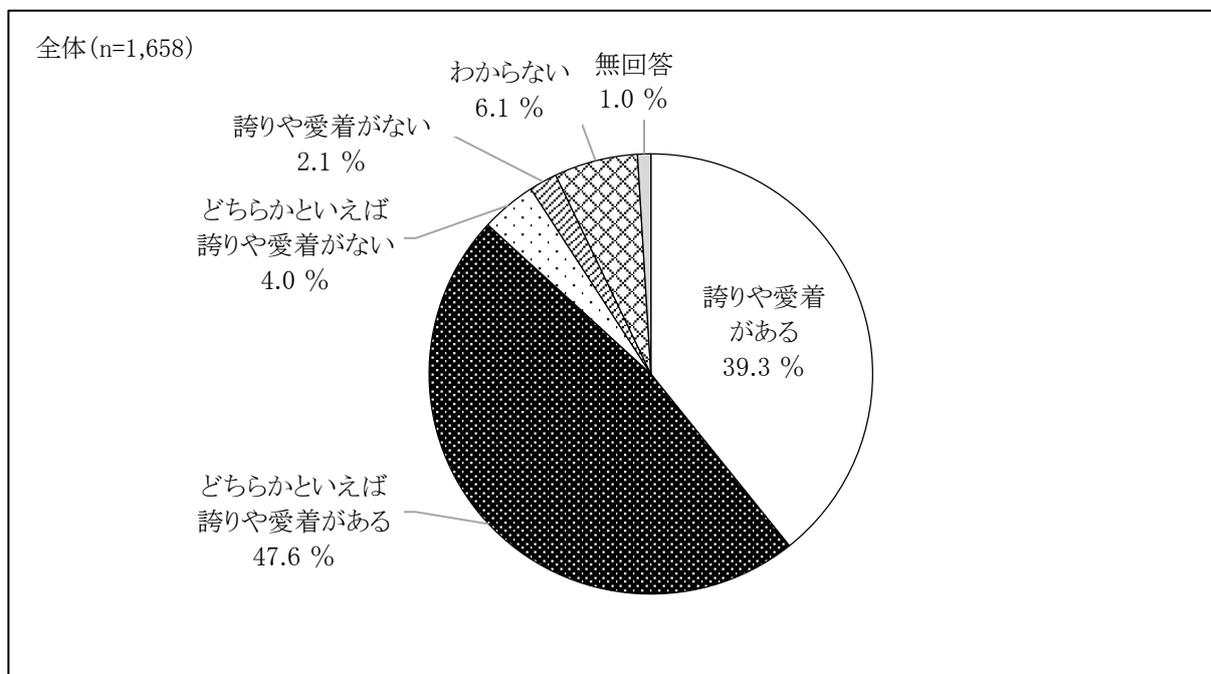
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



12. 新潟市の農水産物への誇りや愛着について

(1) 農水産物への誇りや愛着

12-1 あなたは、新潟市の農水産物（米、野菜、果樹、花き、花木、畜産物、水産物）などに対して、誇りや愛着を感じていますか。（○は1つだけ）



【全体結果】

農水産物に対して、「誇りや愛着がある」が39.3%、「どちらかといえば誇りや愛着がある」が47.6%、「どちらかといえば誇りや愛着がない」が4.0%、「誇りや愛着がない」が2.1%となった。

【属性別結果】（次ページ図12.1参照）

① 区別

「どちらかといえば誇りや愛着がある」と答えた割合は、南区（59.4%）で高く、約6割を占めた。

② 性別

「誇りや愛着がある」と答えた割合は、男性（36.1%）より女性（42.5%）で高い。

③ 年齢別

「誇りや愛着がある」と答えた割合は、60～64歳（45.0%）で最も高い。

④ 職業別

「誇りや愛着がある」と答えた割合は、農林水産業（63.6%）で最も高い。

⑤ 家族構成別

「誇りや愛着がある」と答えた割合は、単身（37.3%）でやや低い。

図 12.1 農水産物への誇りや愛着

(区別/性別/年齢別)

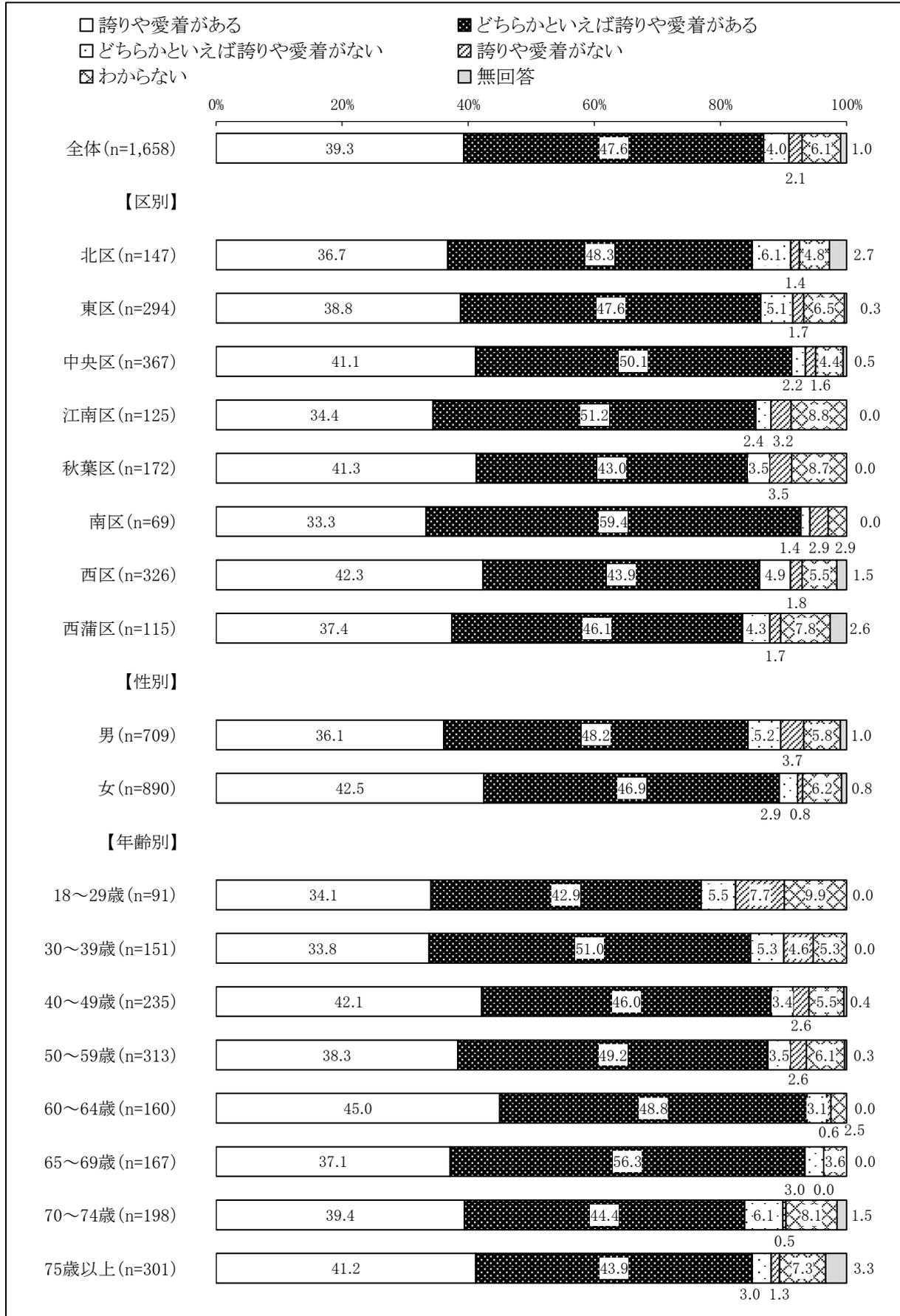
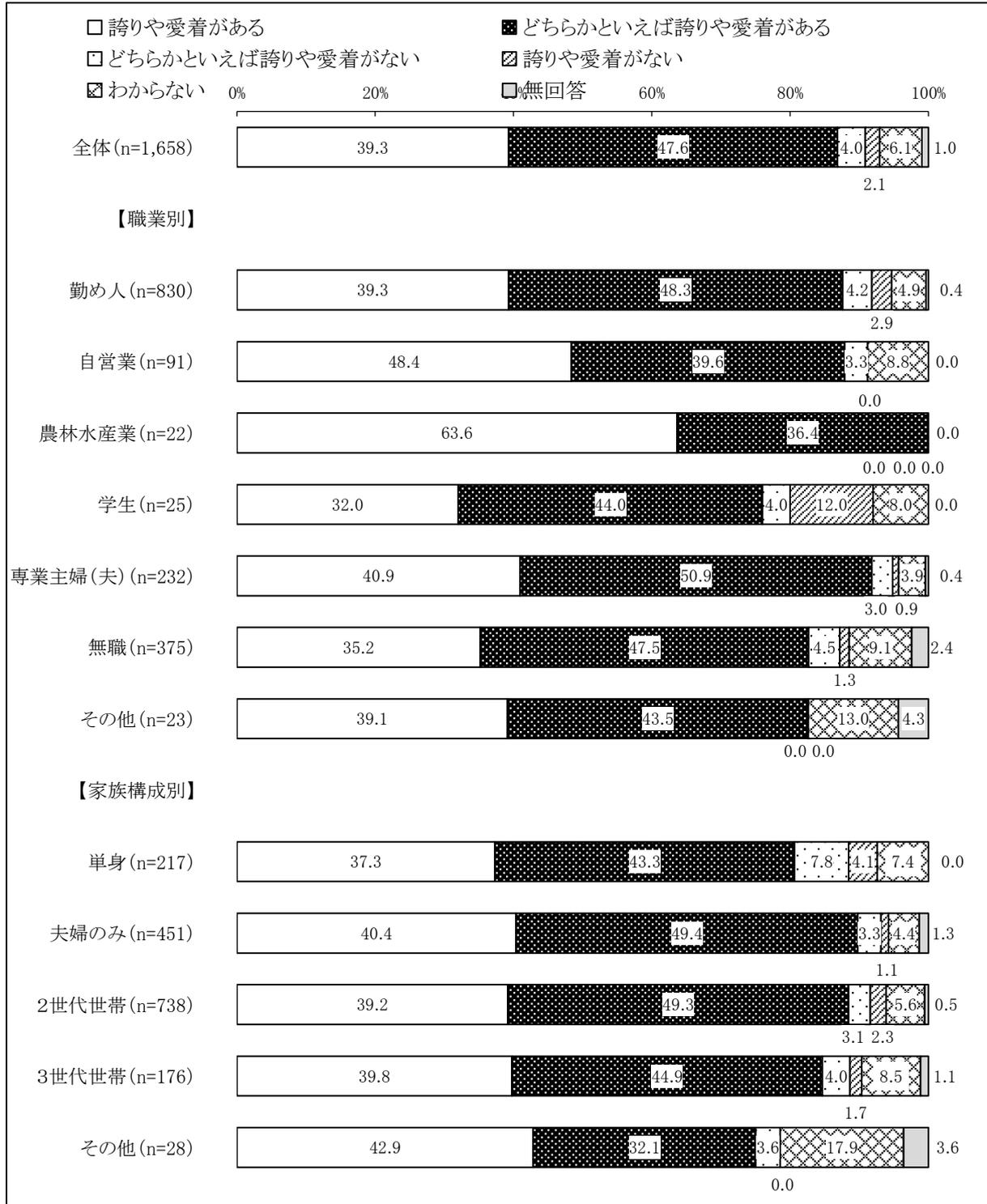


図 12.1 農水産物への誇りや愛着

(職業別/家族構成別)

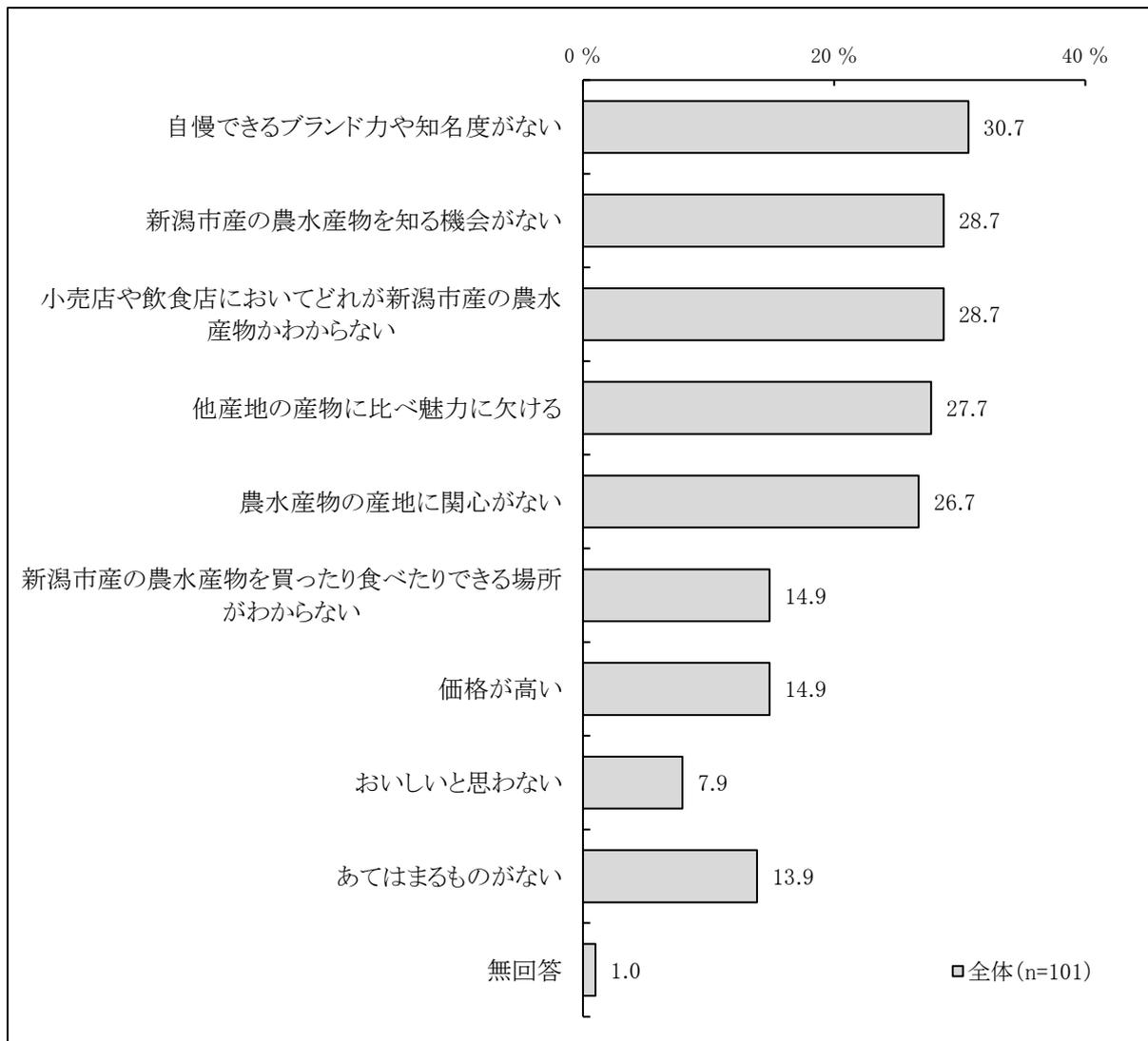


(2) 誇りや愛着がない理由

上記 12-1 で③または④を選択した方に質問します。

12-2 回答の理由としてあなたの考えに近いものを選択してください。

(○は3つまで)



【全体結果】

誇りや愛着がない理由として、「自慢できるブランド力や知名度がない」(30.7%)が最も割合が高く、約3割となった。次いで「新潟市産の農水産物を知る機会がない」(28.7%)、「小売店や飲食店においてどれが新潟市産の農水産物かわからない」(28.7%)、「他産地の産物に比べ魅力に欠ける」(27.7%)、「農水産物の産地に関心がない」(26.7%)が2割台で続く。

【属性別結果】(次ページ図 12.2 参照)

該当者が少ないため、グラフのみの掲載とする。

図 12.2 誇りや愛着がない理由 1/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

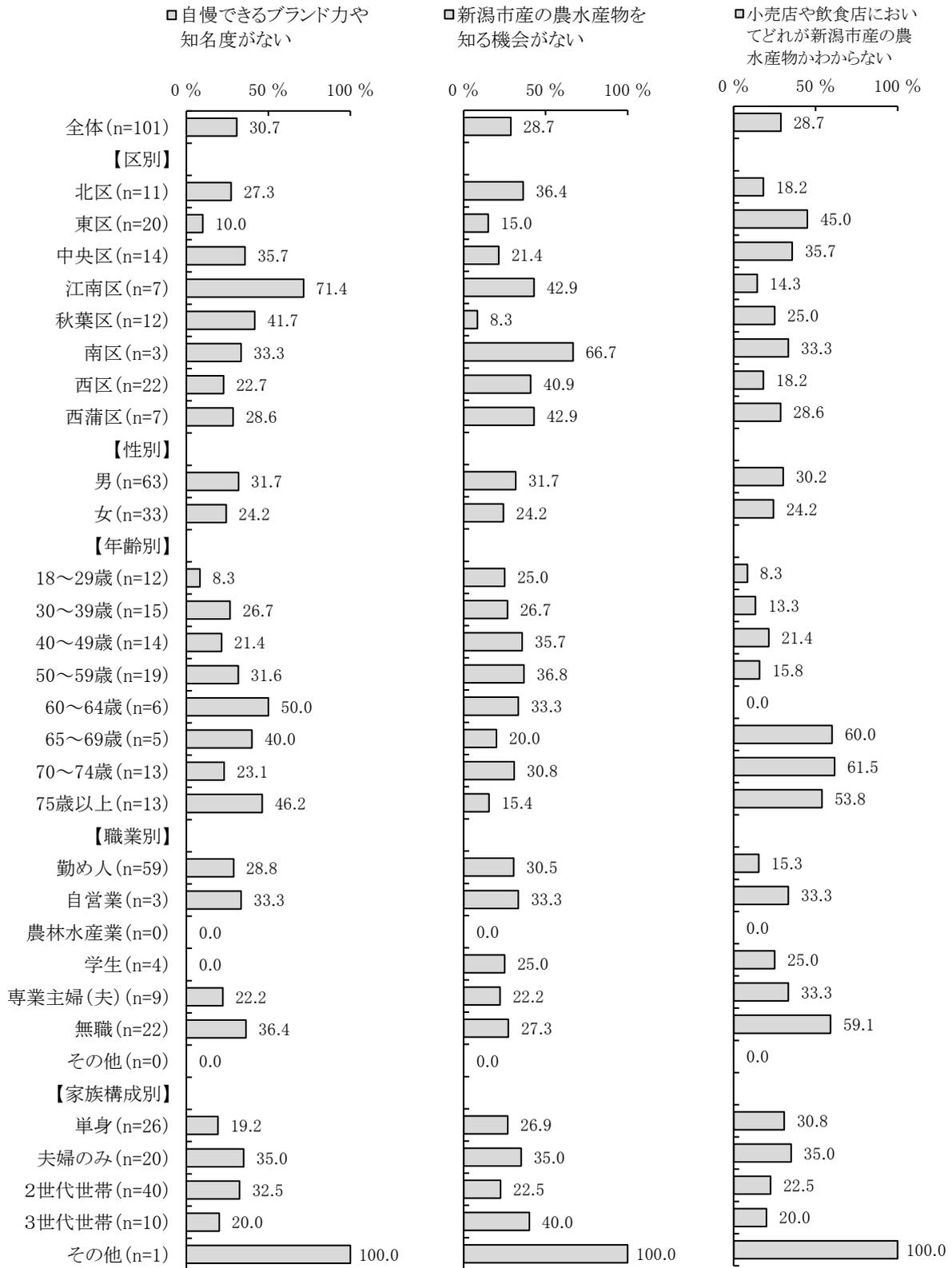


図 12.2 誇りや愛着がない理由 2/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

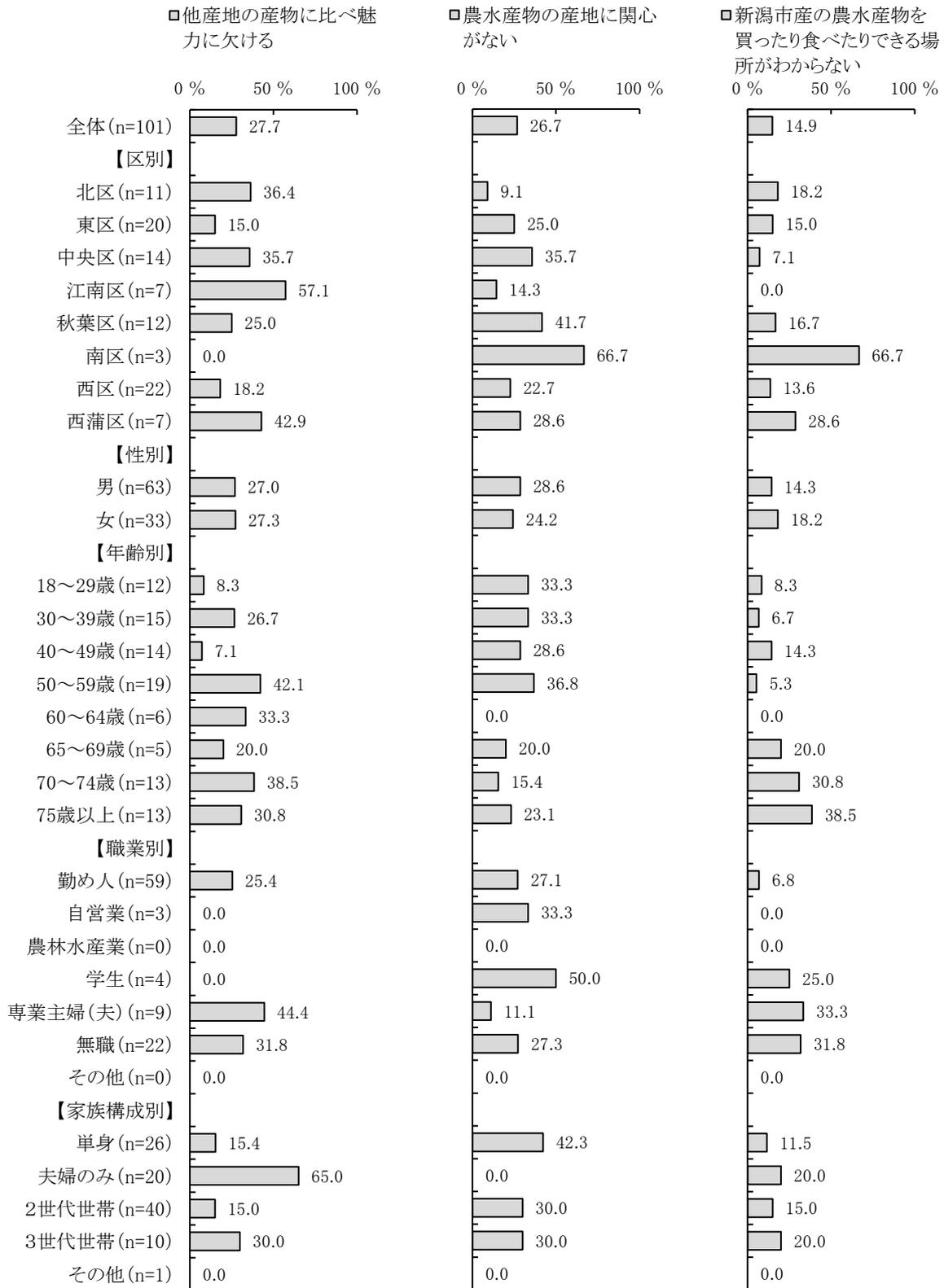
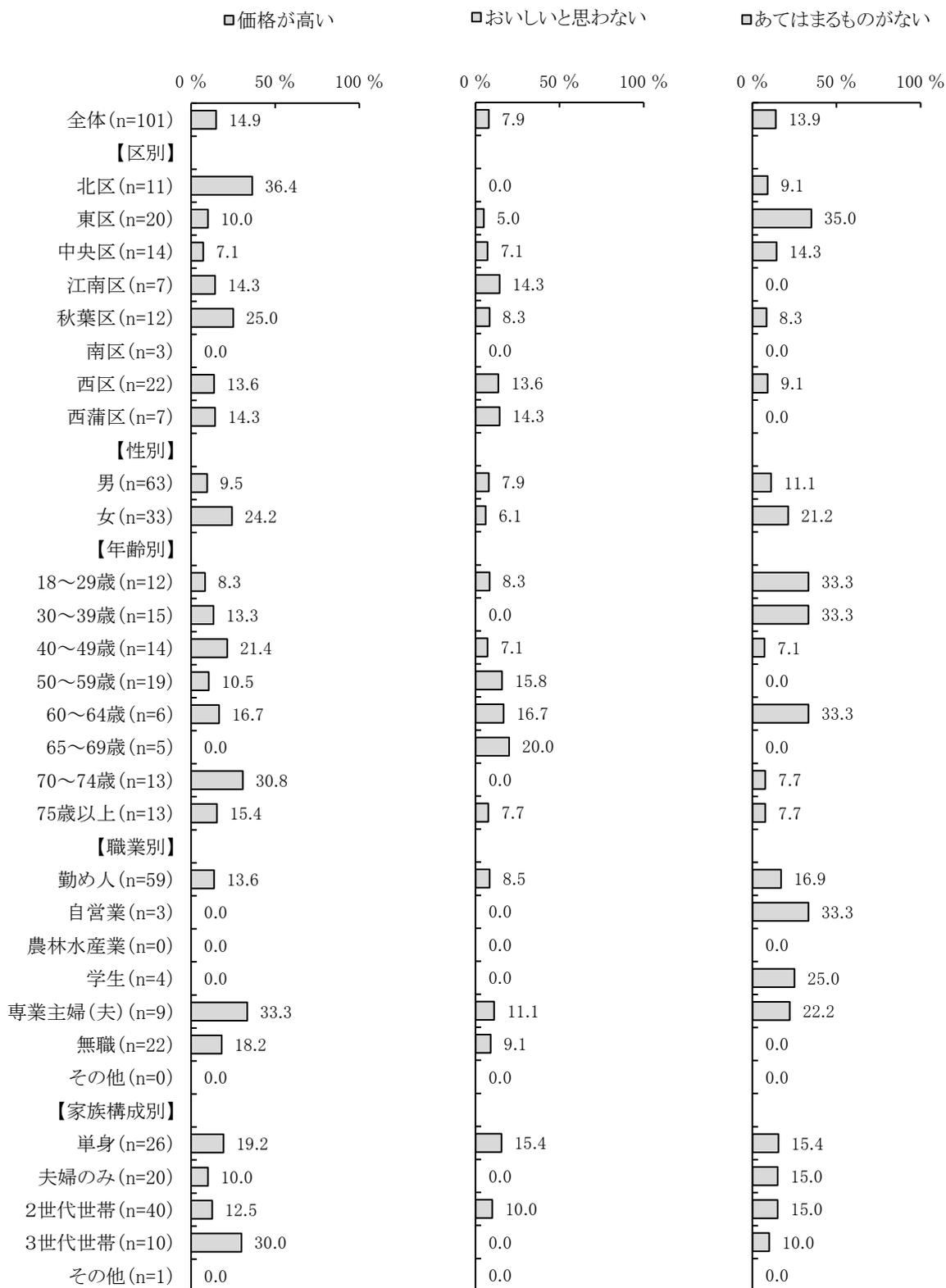


図 12.2 誇りや愛着がない理由 3/3

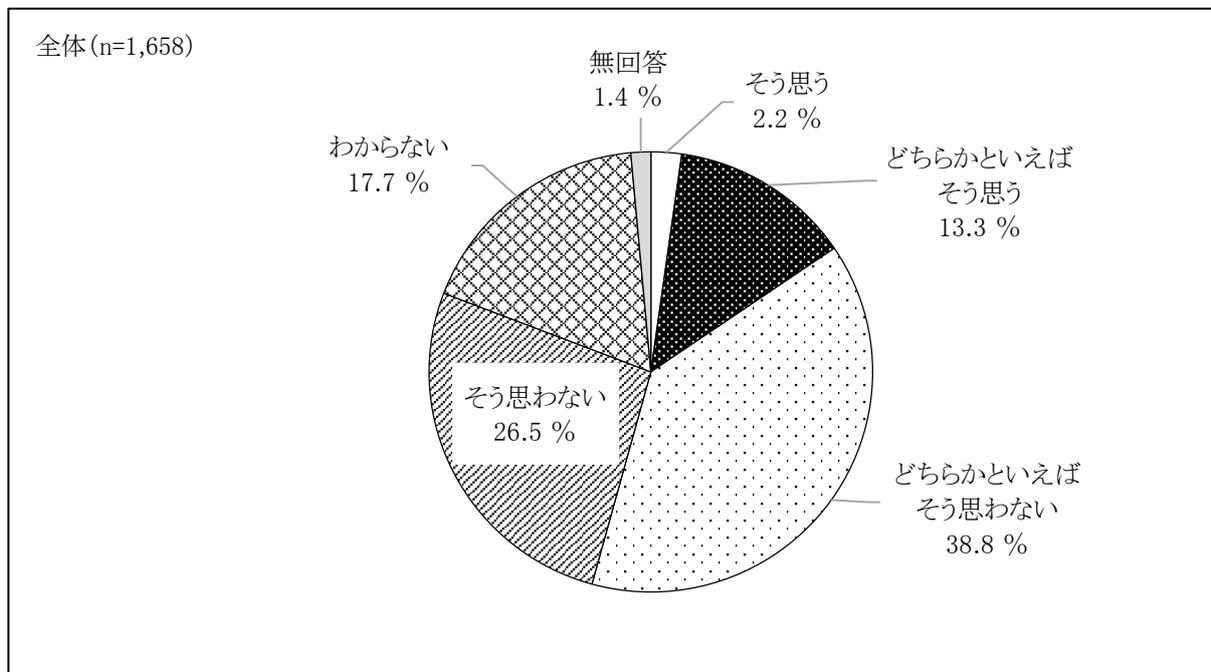
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



13. 新潟市の国際性について

(1) 国際的なまちか

13-1 あなたは、新潟市が国際的なまちだと思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

国際的なまちかについて、「そう思う」が2.2%、「どちらかといえばそう思う」が13.3%、「どちらかといえばそう思わない」が38.8%、「そう思わない」が26.5%となった。

【属性別結果】(次ページ図 13.1 参照)

① 区別

「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、南区(26.1%)で最も高く、2割を超えた。

② 性別

「そう思わない」と答えた割合は、女性(23.0%)と比べて男性(31.5%)で高い。

③ 年齢別

「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、18~29歳(17.6%)で最も高く、2割弱となった。

④ 職業別

「そう思う」と答えた割合は、自営業(6.6%)でやや高い。

⑤ 家族構成別

家族構成別による大きな差はみられない。

図 13.1 国際的なまちか

(区別／性別／年齢別)

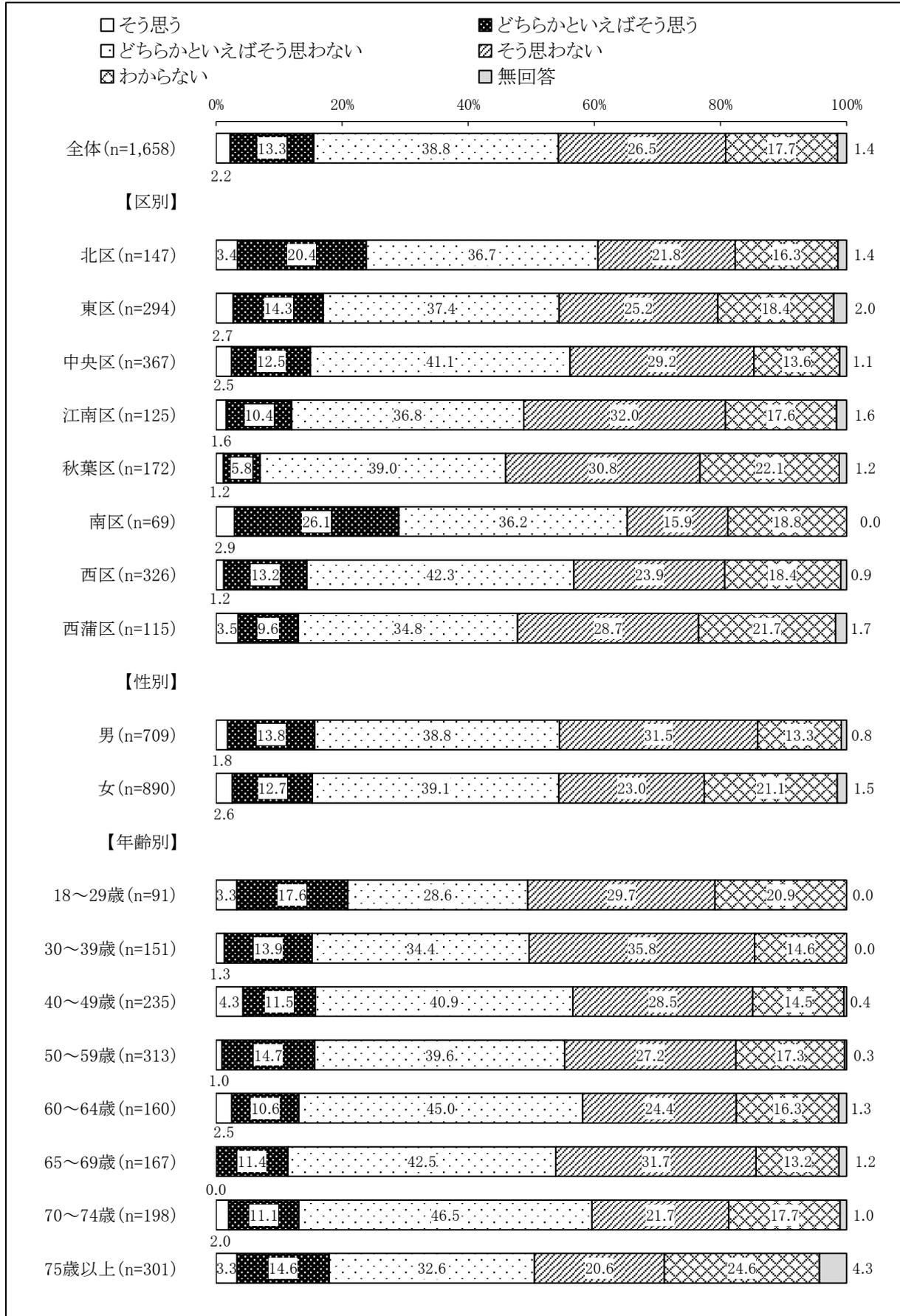
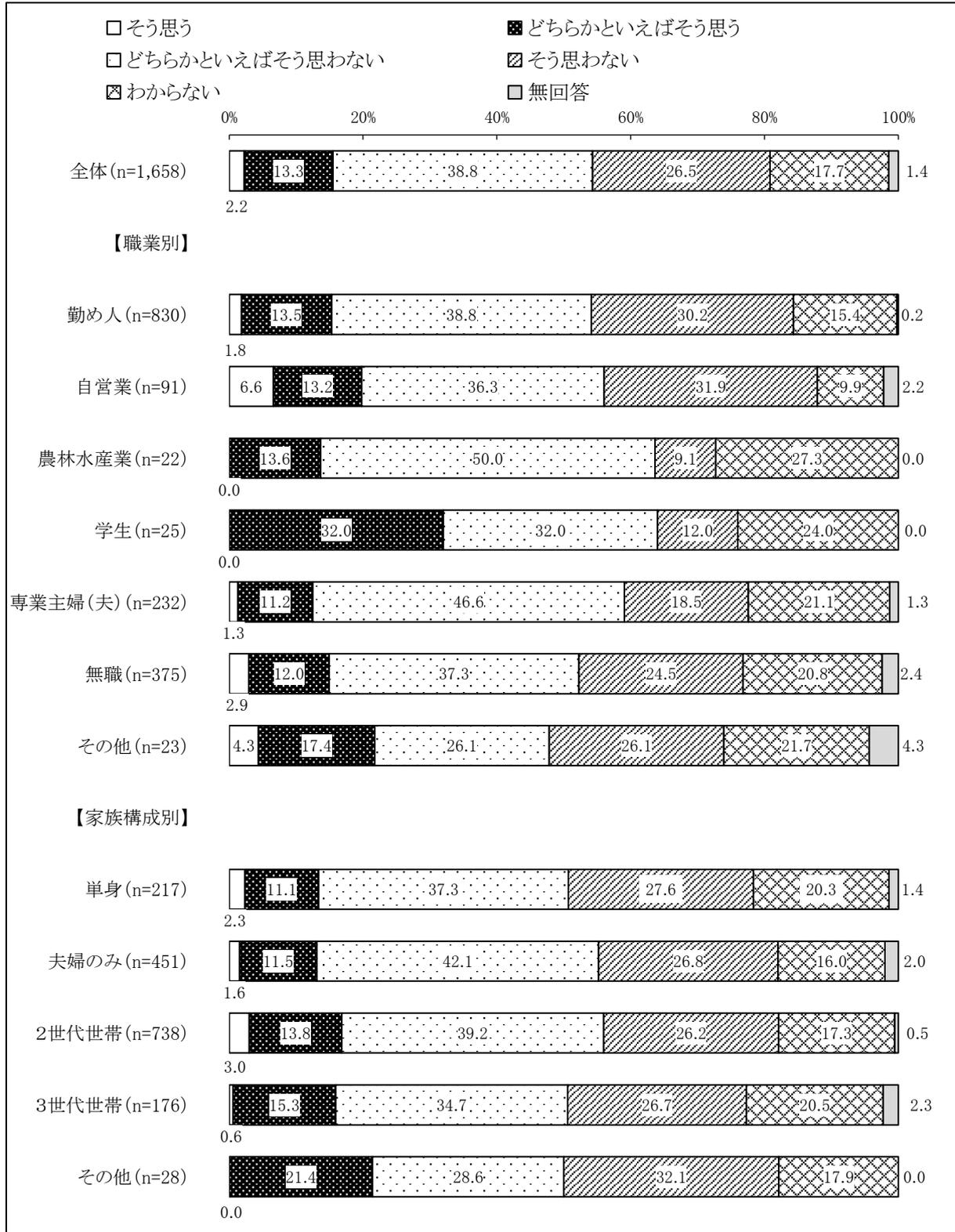


図 13.1 国際的なまちか

(職業別/家族構成別)

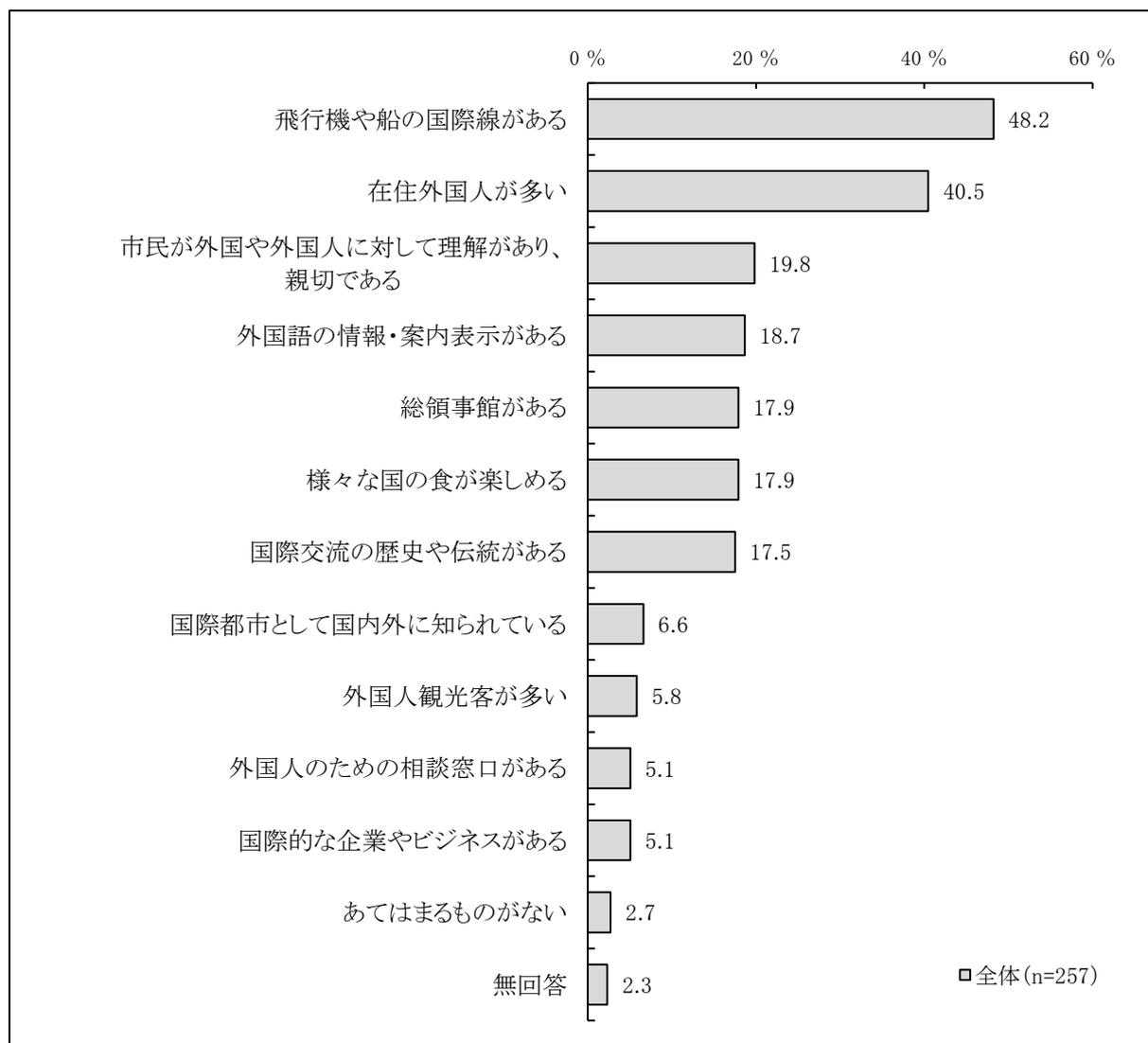


(2) 国際的なまちだと思ふ理由

上記 13-1 で①または②を選択した方に質問します。

13-2 回答の理由としてあなたの考えに近いものを選択してください。

(○は3つまで)



【全体結果】

国際的なまちだと思ふ理由として、「飛行機や船の国際線がある」(48.2%)が最も割合が高く、約5割となった。次いで「在住外国人が多い」(40.5%)が約4割、「市民が外国や外国人に対して理解があり、親切である」(19.8%)、「外国語の情報・案内表示がある」(18.7%)、「総領事館がある」(17.9%)、「様々な国の食が楽しめる」(17.9%)、「国際交流の歴史や伝統がある」(17.5%)が1割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 13.2 参照）

① 区別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

② 性別

男性では「飛行機や船の国際線がある」（60.4%）、女性では「在住外国人が多い」（44.1%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

④ 職業別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

⑤ 家族構成別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

図 13.2 国際的なまちだと思ふ理由 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

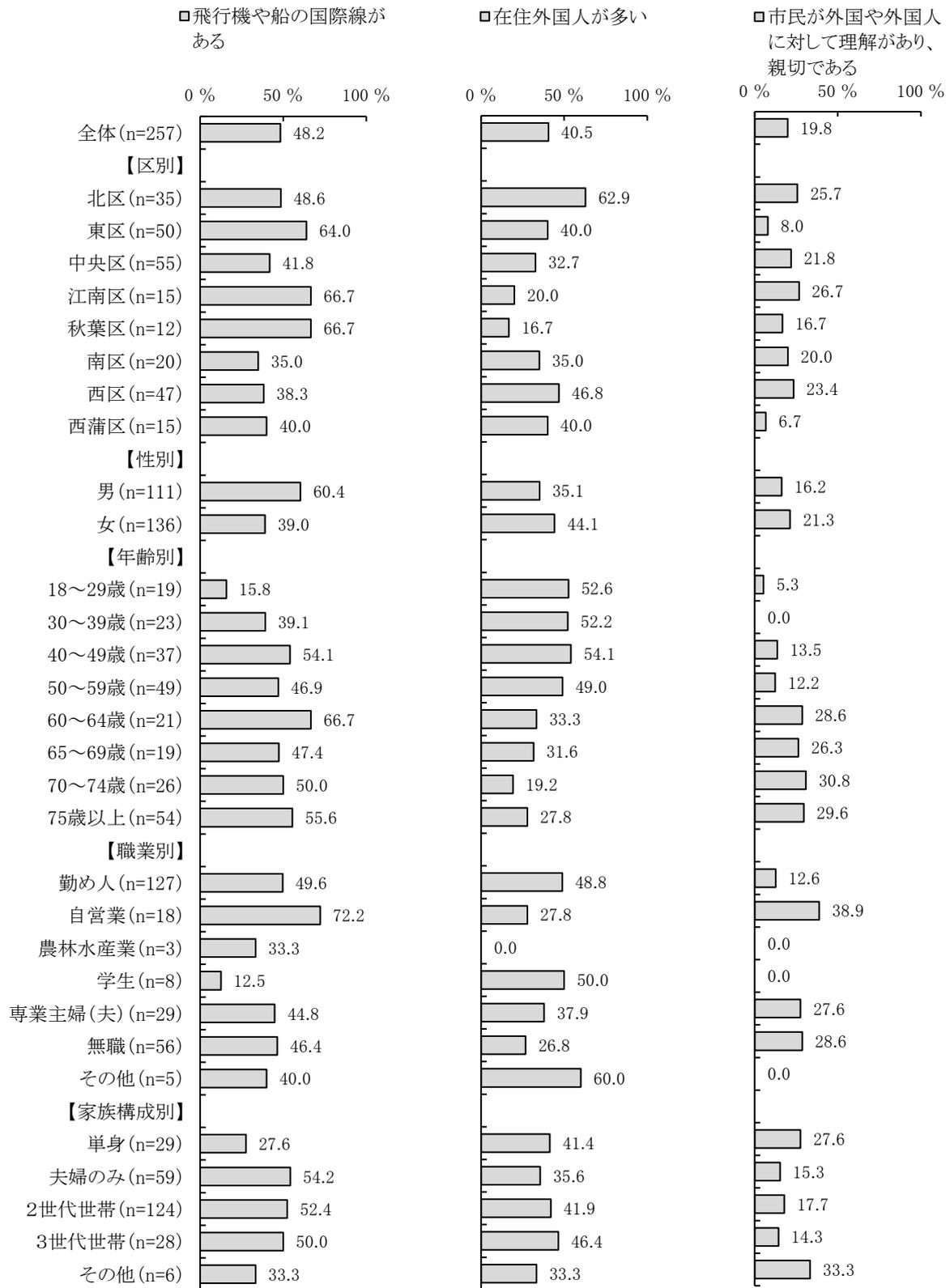


図 13.2 国際的なまちだと思ふ理由 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

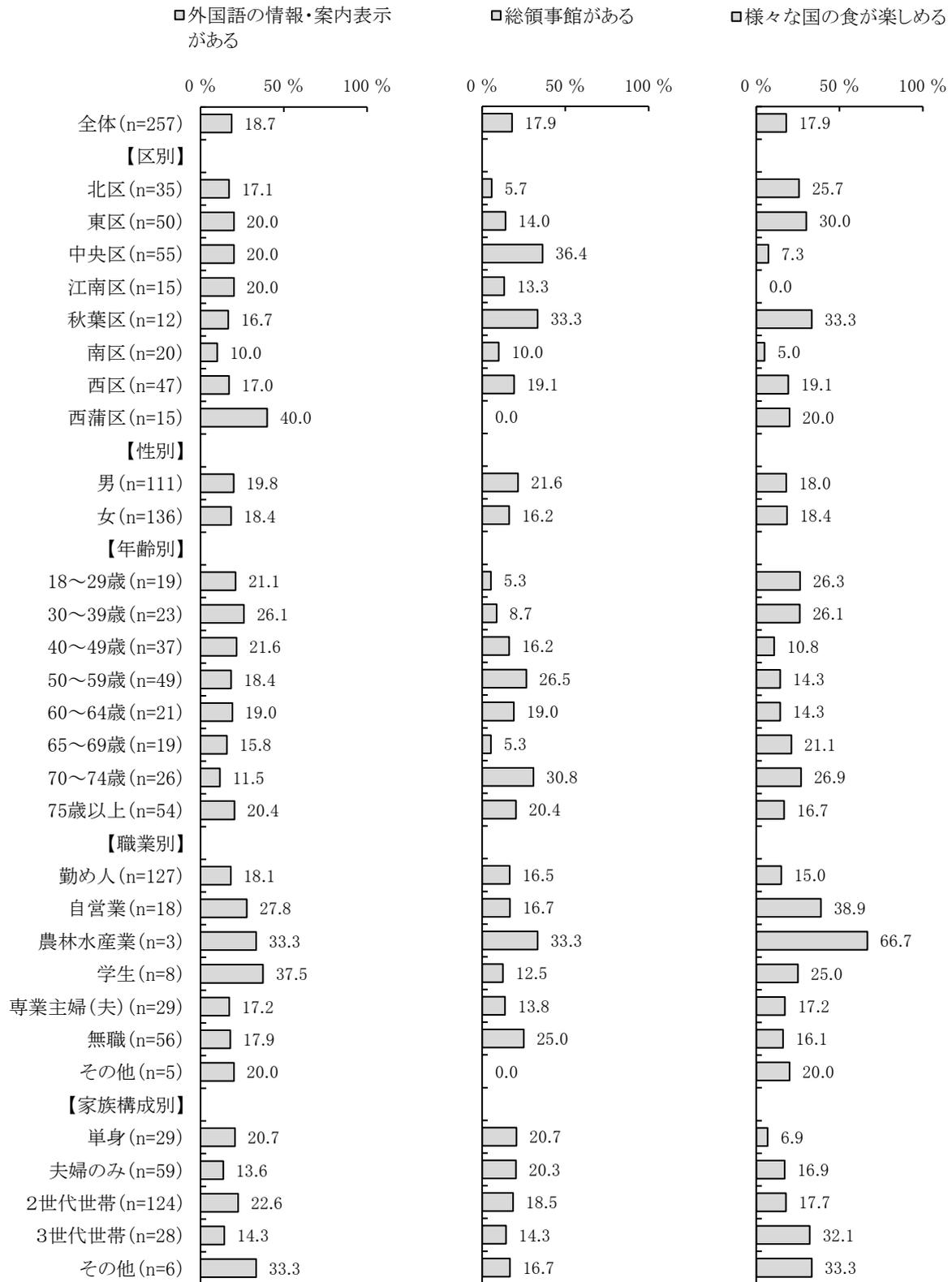


図 13.2 国際的なまちだと思う理由 3/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

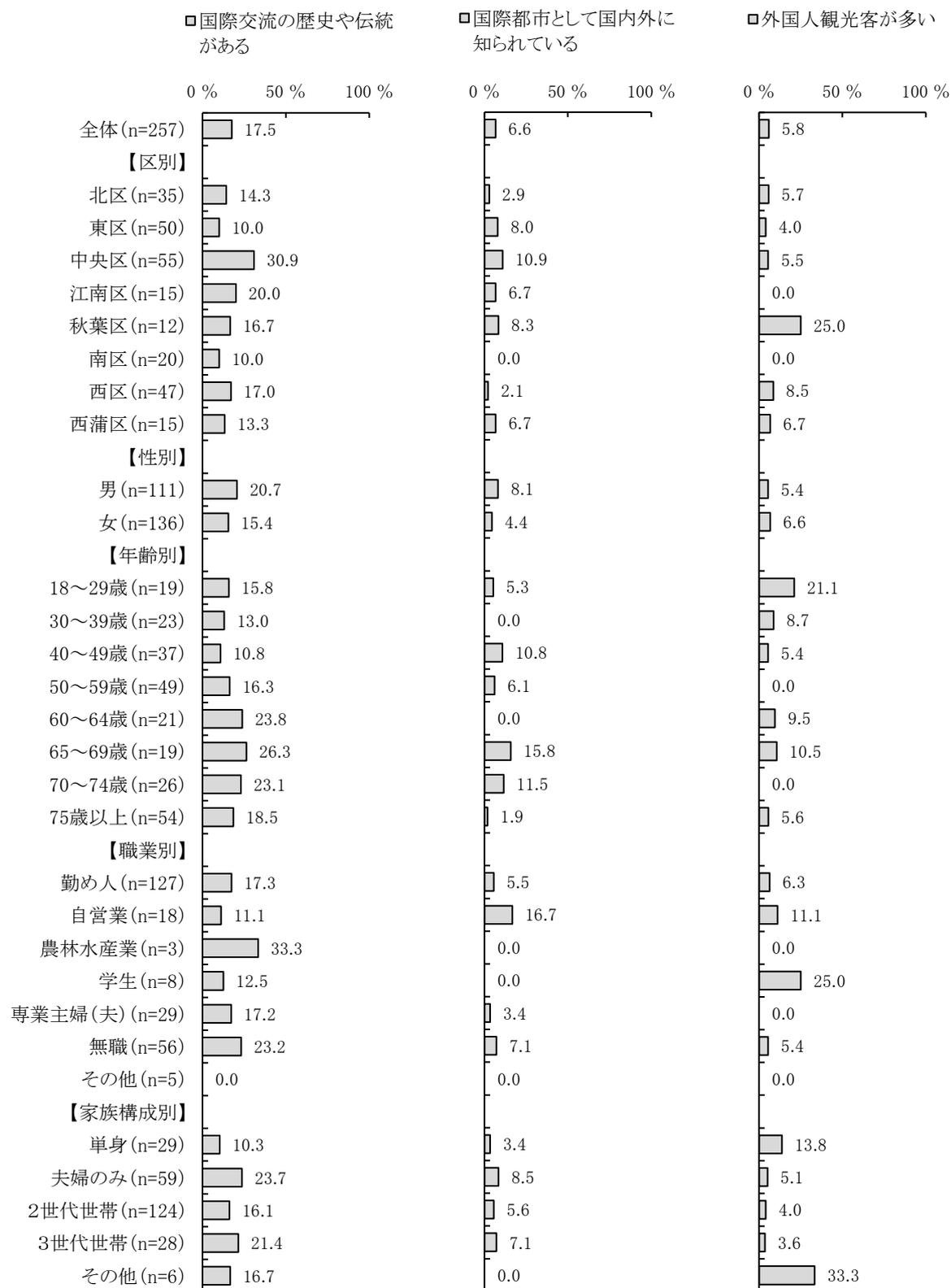
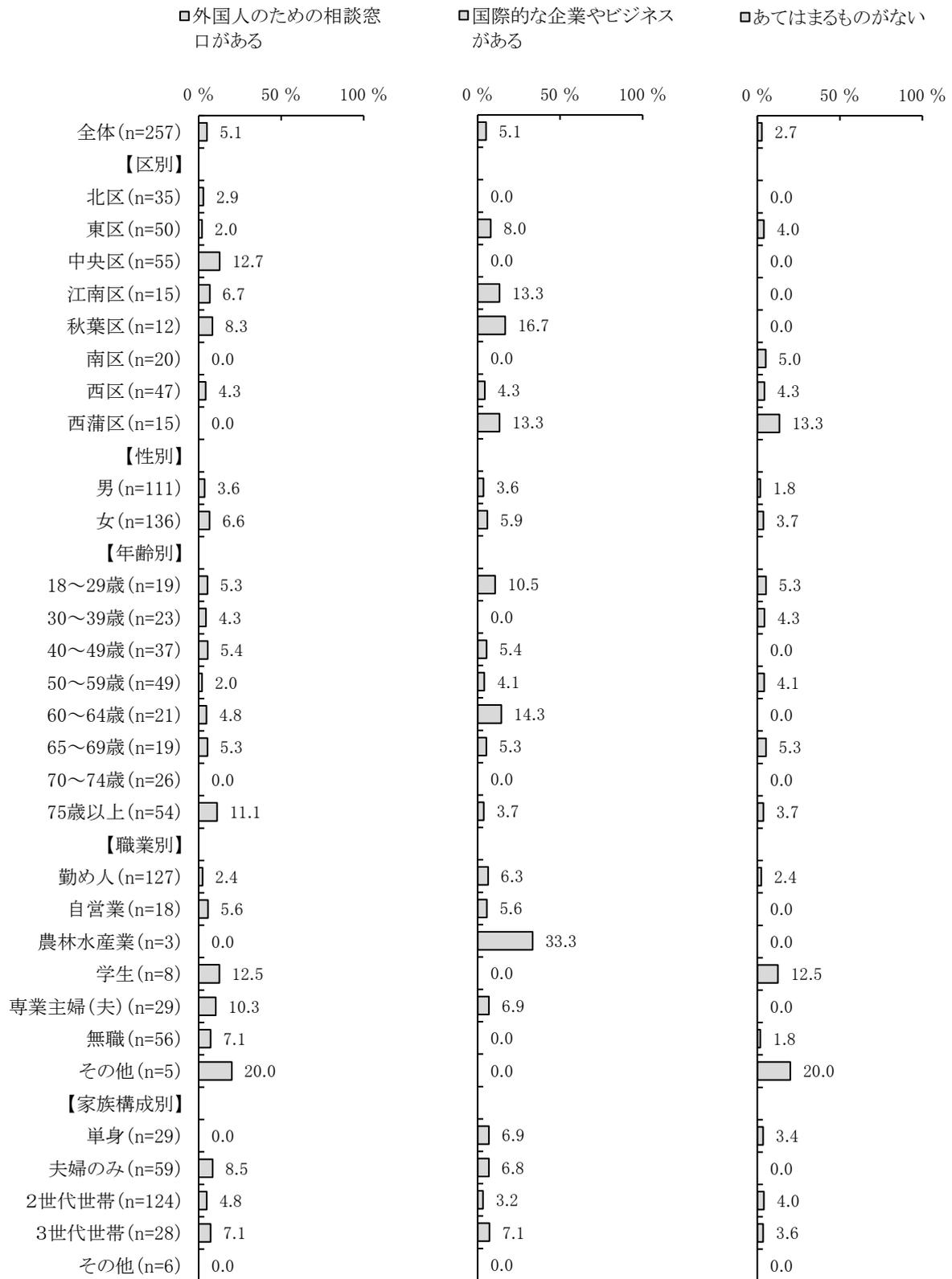


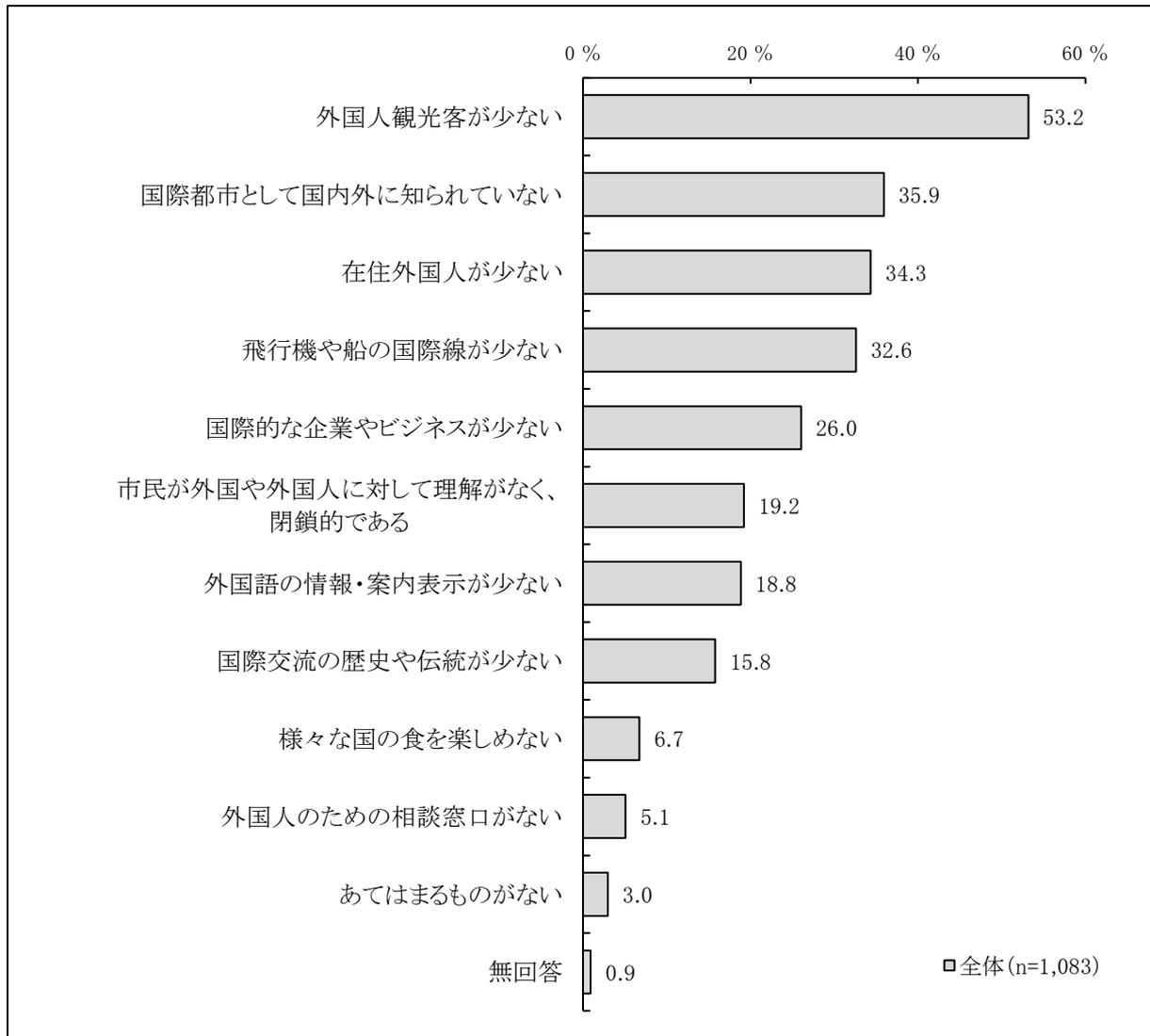
図 13.2 国際的なまちだと思う理由 4/4

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)



(3) 国際的なまちだと思わない理由

上記 13-1 で③または④を選択した方に質問します。
13-2 回答の理由としてあなたの考えに近いものを選択してください。
(○は3つまで)



【全体結果】

国際的なまちだと思わない理由として、「外国人観光客が少ない」(53.2%)が最も割合が高く、5割強となった。次いで「国際都市として国内外に知られていない」(35.9%)、「在住外国人が少ない」(34.3%)、「飛行機や船の国際線が少ない」(32.6%)が3割台、「国際的な企業やビジネスが少ない」(26.0%)が2割台、「市民が外国や外国人に対して理解がなく、閉鎖的である」(19.2%)、「外国語の情報・案内表示が少ない」(18.8%)、「国際交流の歴史や伝統が少ない」(15.8%)が1割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 13.3 参照）

① 区別

すべての区で「外国人観光客が少ない」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性とも「外国人観光客が少ない」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

すべての年代で「外国人観光客が少ない」と答えた割合が最も高い。また、60～69歳では「国際都市として国内外に知られていない」と答えた割合が高く、4割以上となった。

④ 職業別

すべての職業で「外国人観光客が少ない」と答えた割合が最も高い。
（農林水産業と学生は該当者数が少ないため除く。）

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「外国人観光客が少ない」と答えた割合が最も高い。

図 13.3 国際的なまちだと思わない理由 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

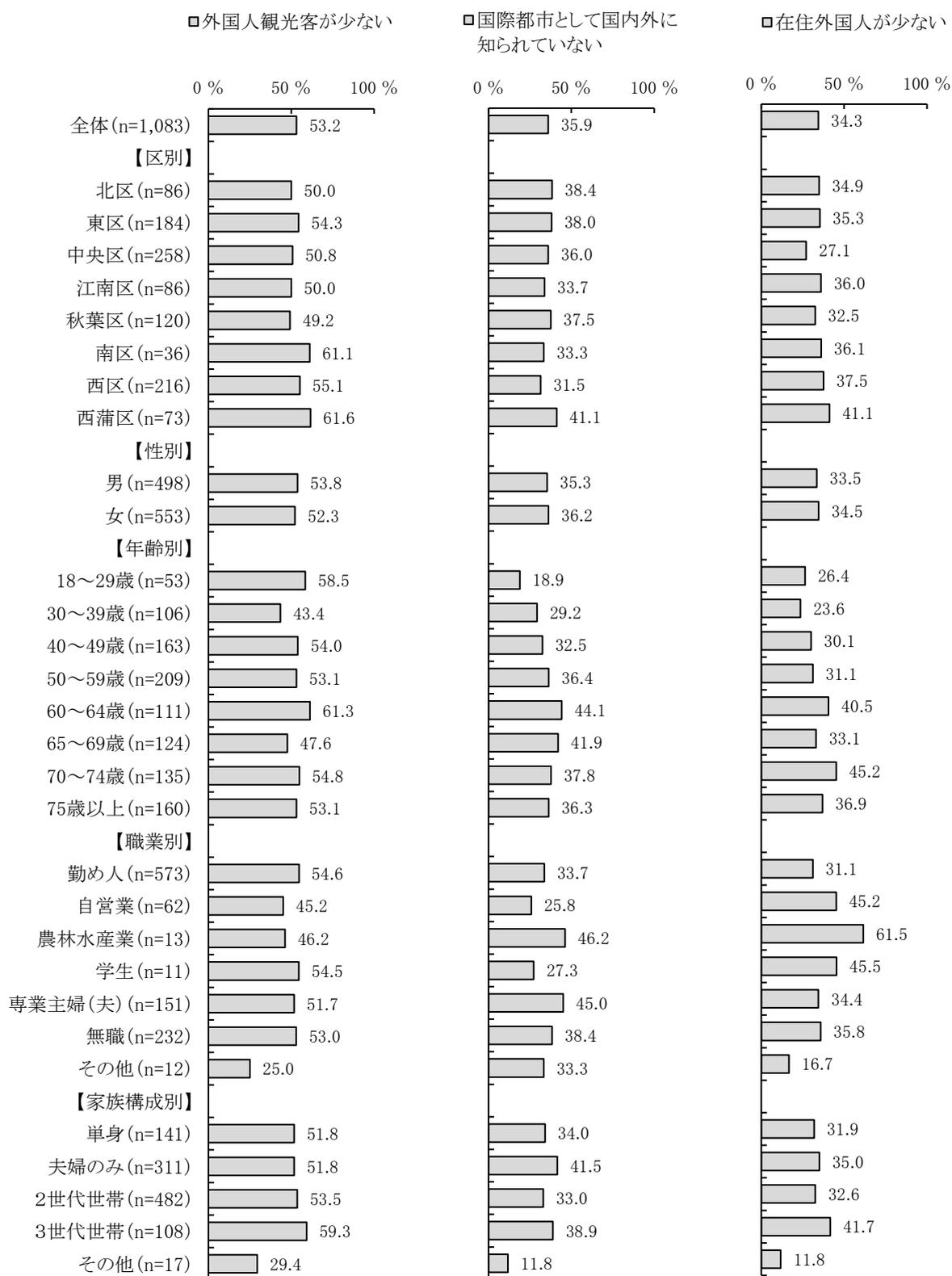


図 13.3 国際的なまちだと思わない理由 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

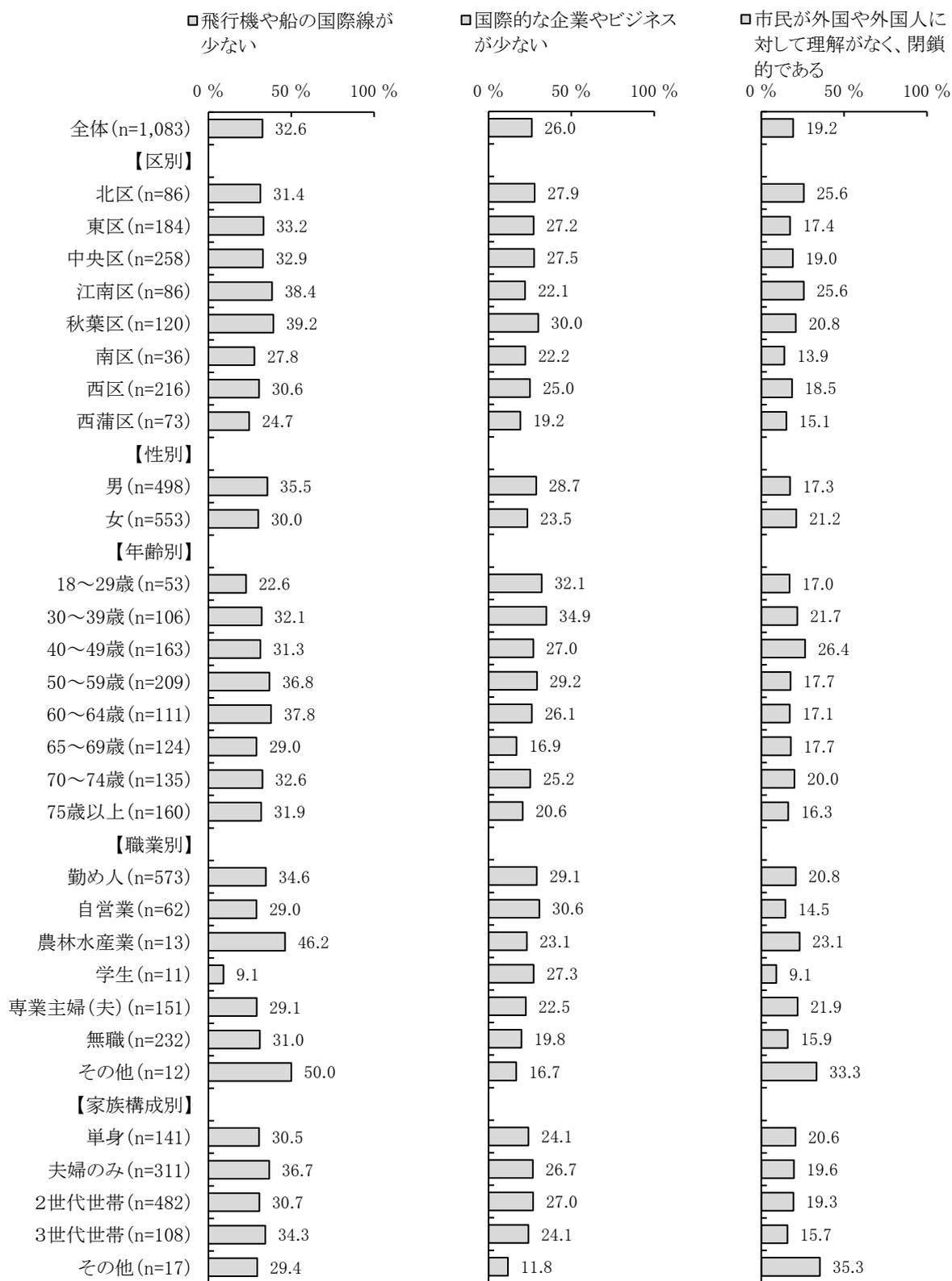


図 13.3 国際的なまちだと思わない理由 3/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

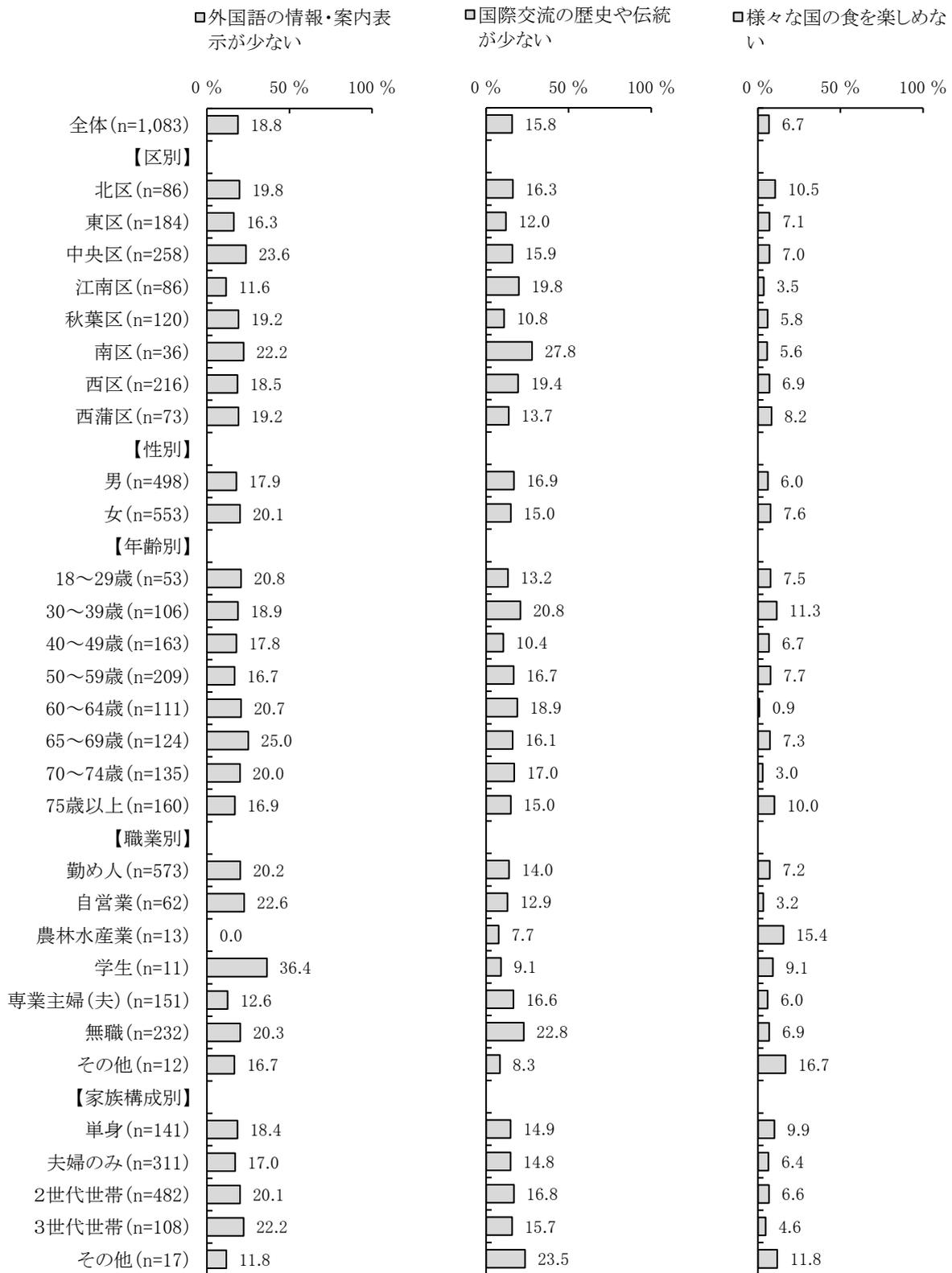
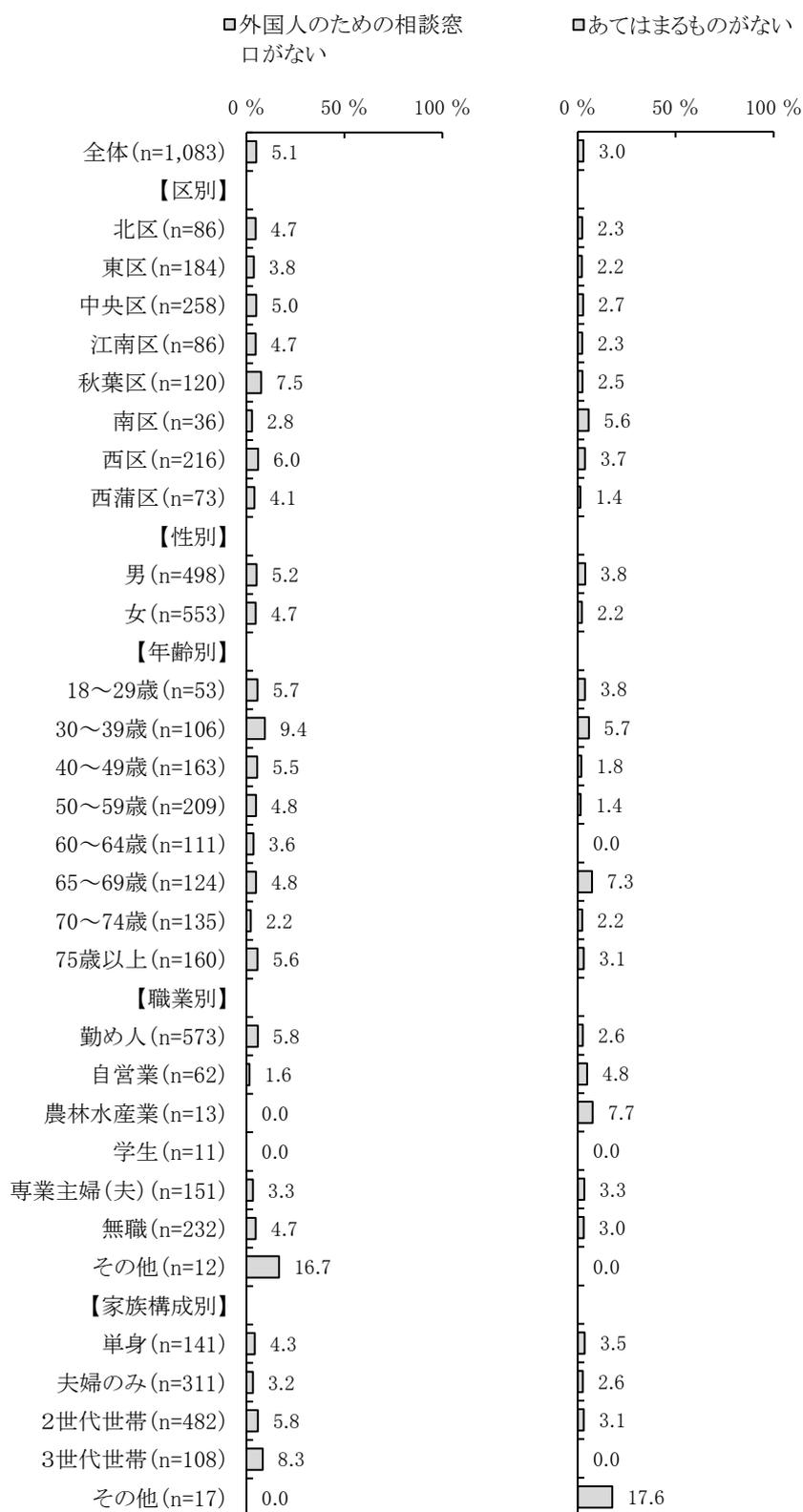


図 13.3 国際的なまちだと思わない理由 4/4

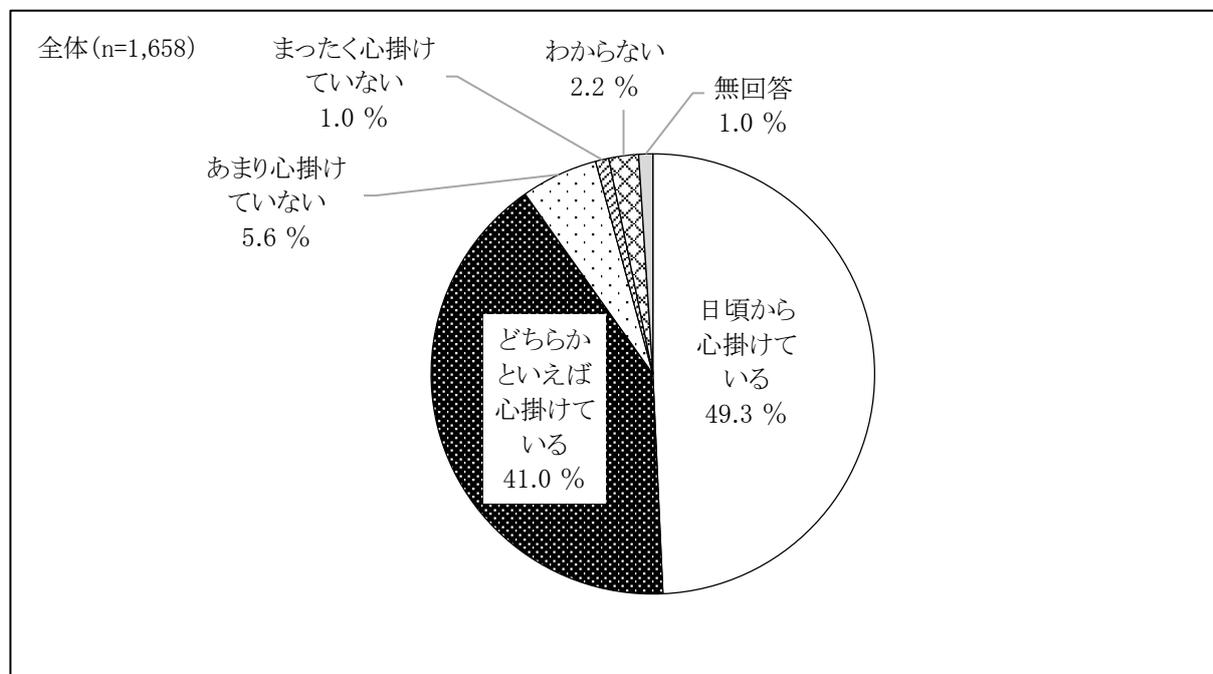
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



14. 消費生活について

(1) トラブル回避について

14-1 あなたは、商品の売買やサービスの利用時に、トラブル回避を心掛けていますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

商品の売買やサービスの利用時のトラブル回避について、「日頃から心掛けている」(49.3%)と答えた割合が最も高く、半数を占めた。「どちらかといえば心掛けている」が41.0%、「あまり心掛けていない」が5.6%、「まったく心掛けていない」が1.0%となった。

【属性別結果】(次ページ図14.1参照)

① 区別

「日頃から心掛けている」と答えた割合は、中央区(54.8%)で最も高く、5割を超えた。

② 性別

性別による大きな差はみられない。

③ 年齢別

「日頃から心掛けている」と答えた割合は、40~49歳(41.7%)でやや低い。

④ 職業別

すべての職業で「日頃から心掛けている」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

「日頃から心掛けている」と答えた割合は、単身(52.1%)で最も高い。

図 14.1 トラブル回避について

(区別／性別／年齢別)

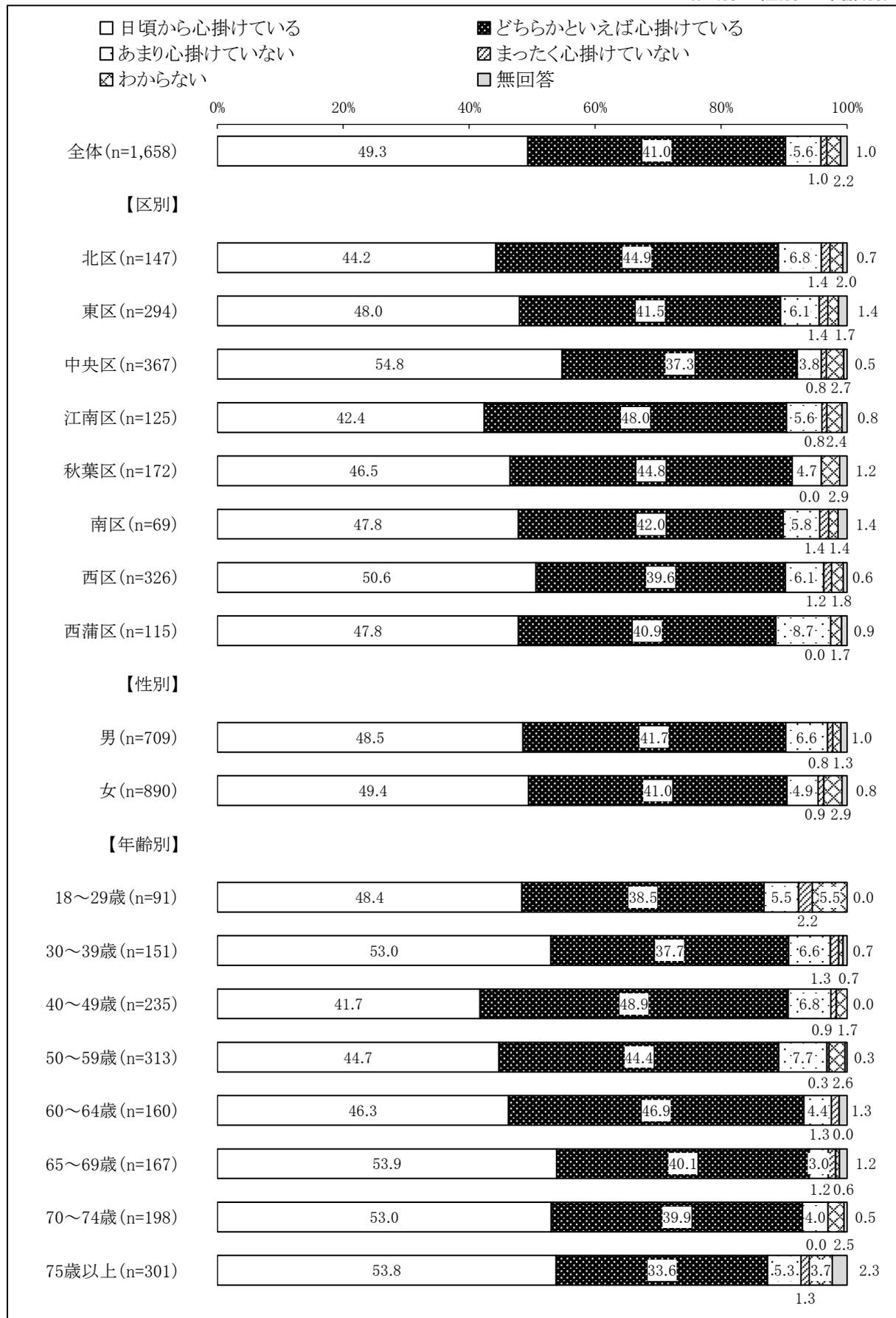
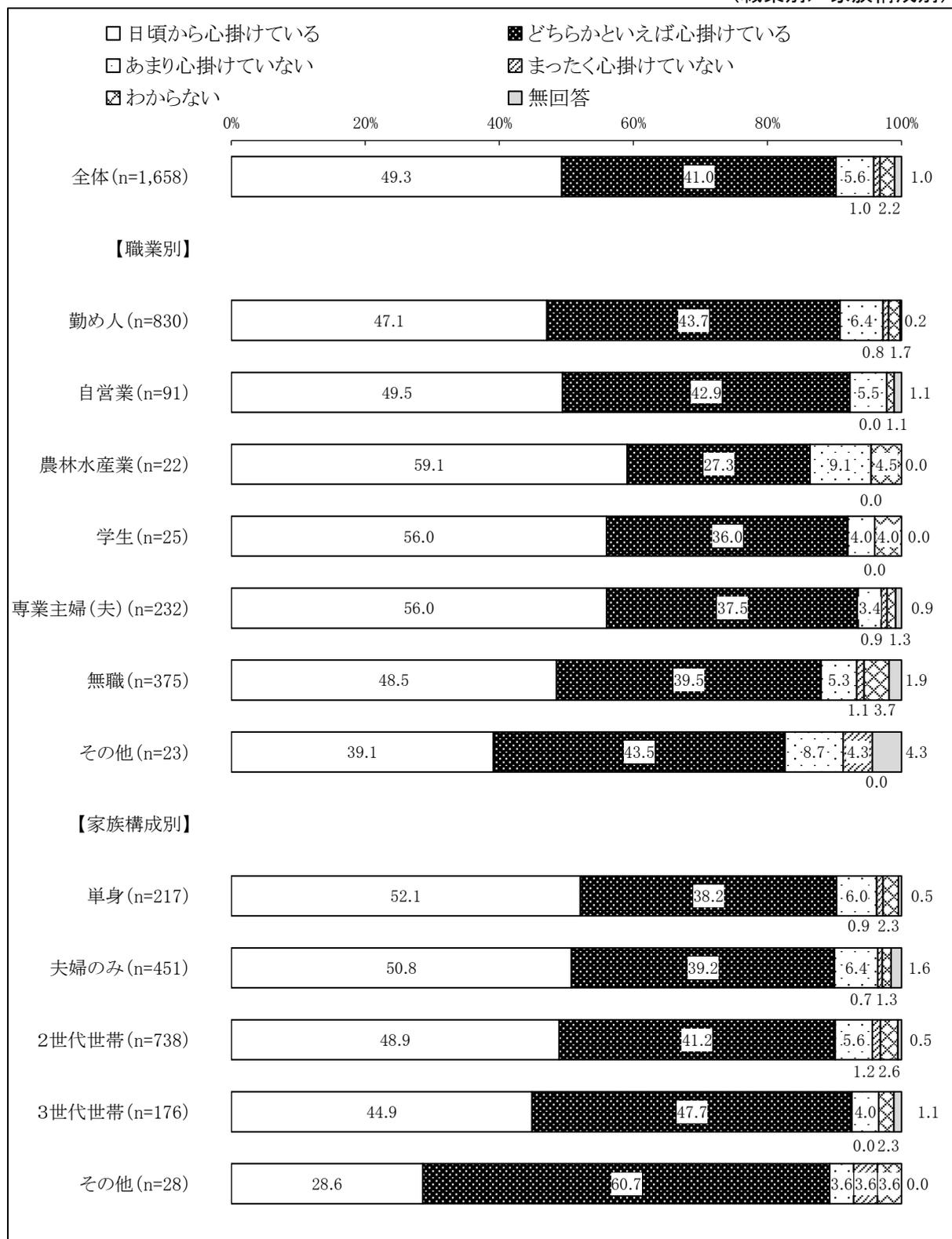


図 14.1 トラブル回避について

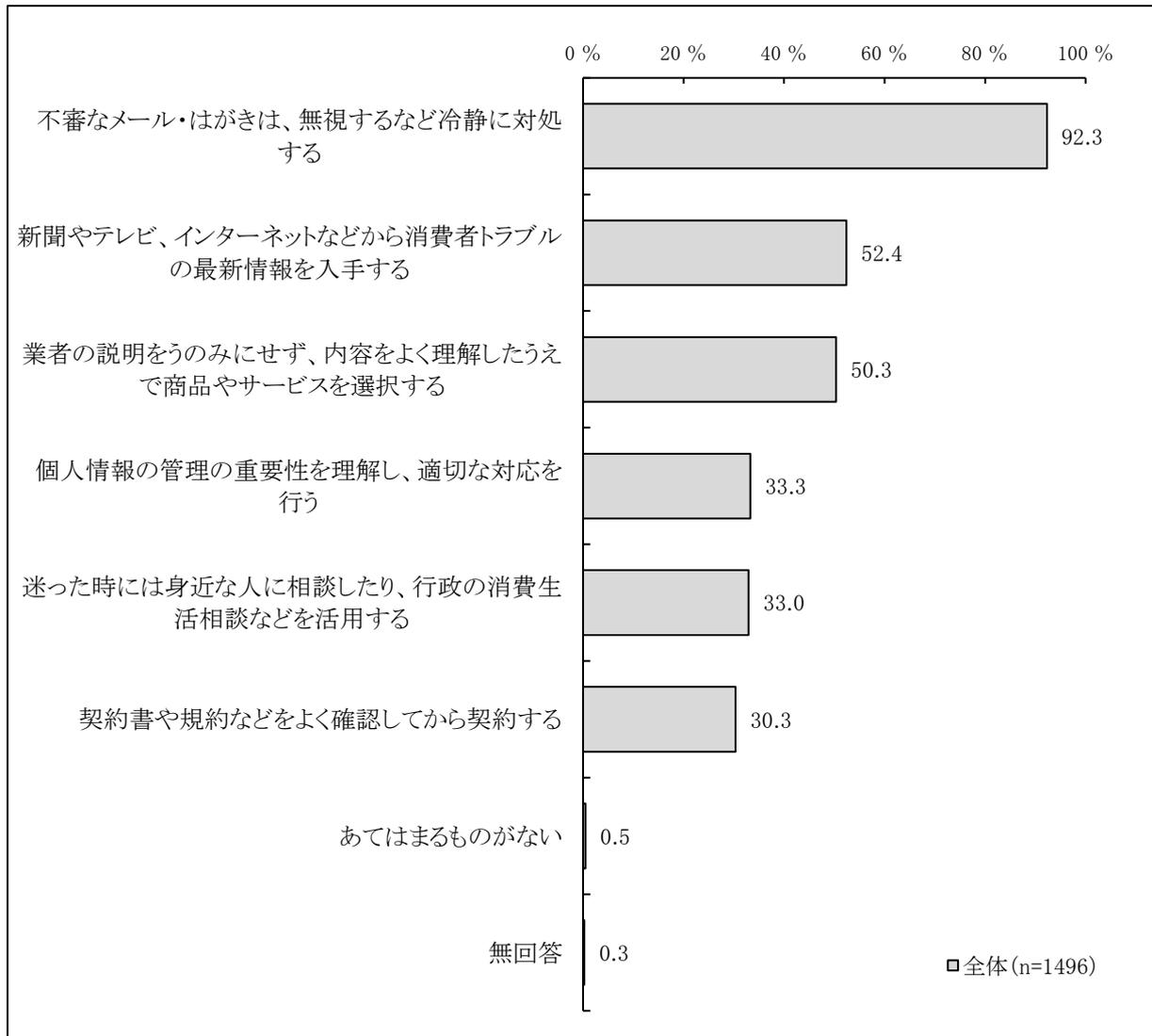
(職業別／家族構成別)



(2) トラブル回避のための取組み

上記 14-1 で①または②を選択した方に質問します。

14-2 あなたが消費生活においてトラブルを避けるために、意識していることや取り組んでいることで、あてはまるものを選択してください。(〇はいくつでも)



【全体結果】

トラブル回避のための取組みとして、「不審なメール・はがきは、無視するなど冷静に対処する」(92.3%)が最も割合が高く、9割強となった。次いで「新聞やテレビ、インターネットなどから消費者トラブルの最新情報を入手する」(52.4%)、「業者の説明をうのみにせず、内容をよく理解したうえで商品やサービスを選択する」(50.3%)が5割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 14.2 参照）

① 性別

すべての区で「不審なメール・はがきは、無視するなど冷静に対処する」と答えた割合が最も高く、9割以上を占めた。

② 性別

男性女性とも「不審なメール・はがきは、無視するなど冷静に対処する」と答えた割合が最も高く、9割以上を占めた。

③ 年齢別

すべての年代で「不審なメール・はがきは、無視するなど冷静に対処する」と答えた割合が最も高い。また、18～29歳では「迷った時には身近な人に相談したり、行政の消費生活相談などを活用する」（40.5%）、75歳以上では「新聞やテレビ、インターネットなどから消費者トラブルの最新情報を入手する」（61.2%）と答えた割合が高い。

④ 職業別

すべての職業で「不審なメール・はがきは、無視するなど冷静に対処する」と答えた割合が最も高い。また、専業主婦（夫）では「新聞やテレビ、インターネットなどから消費者トラブルの最新情報を入手する」（63.6%）と答えた割合が高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「不審なメール・はがきは、無視するなど冷静に対処する」と答えた割合が最も高い。

図 14.2 トラブル回避のための取組み 1/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

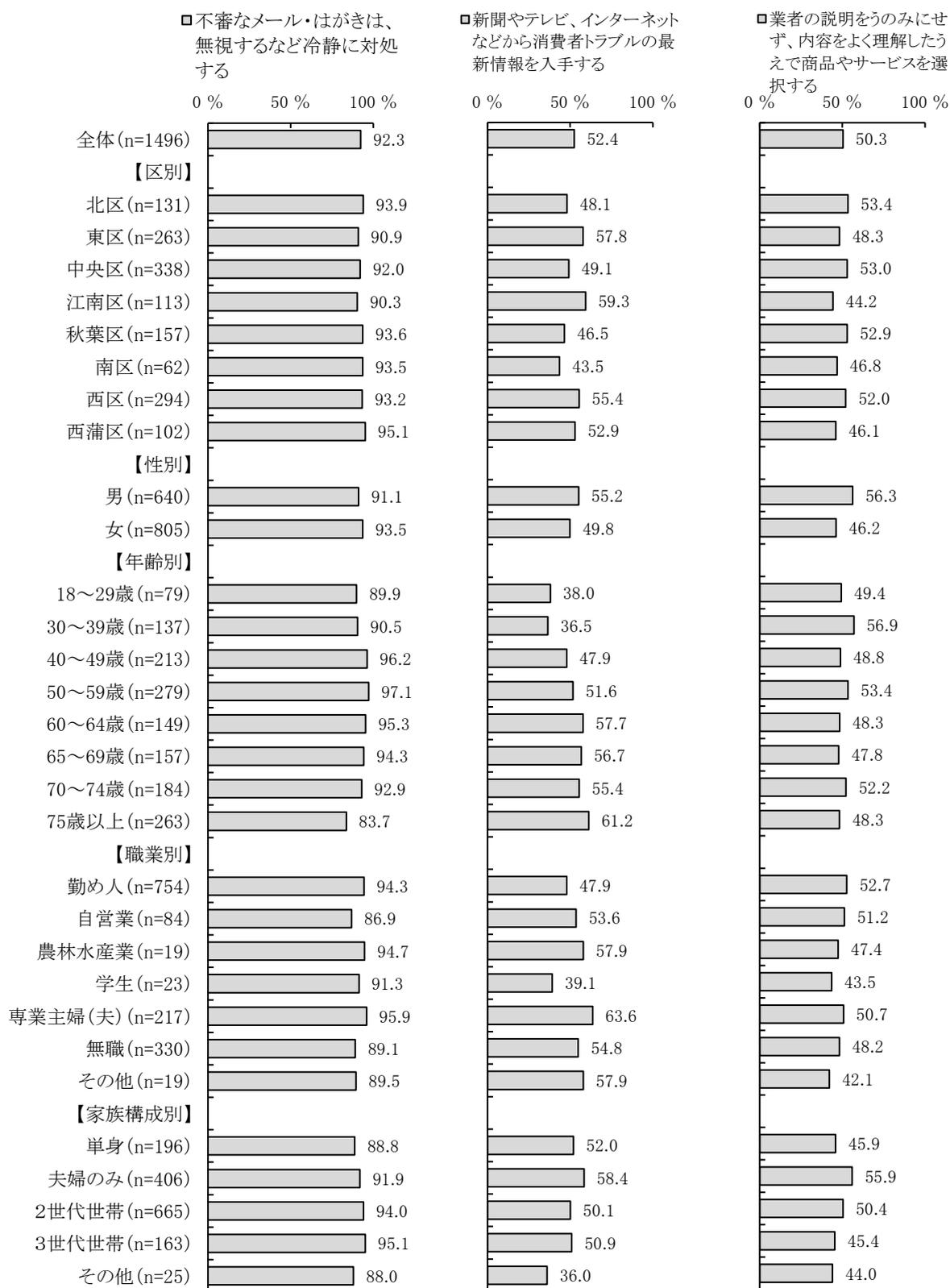


図 14.2 トラブル回避のための取組み 2/3

(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)

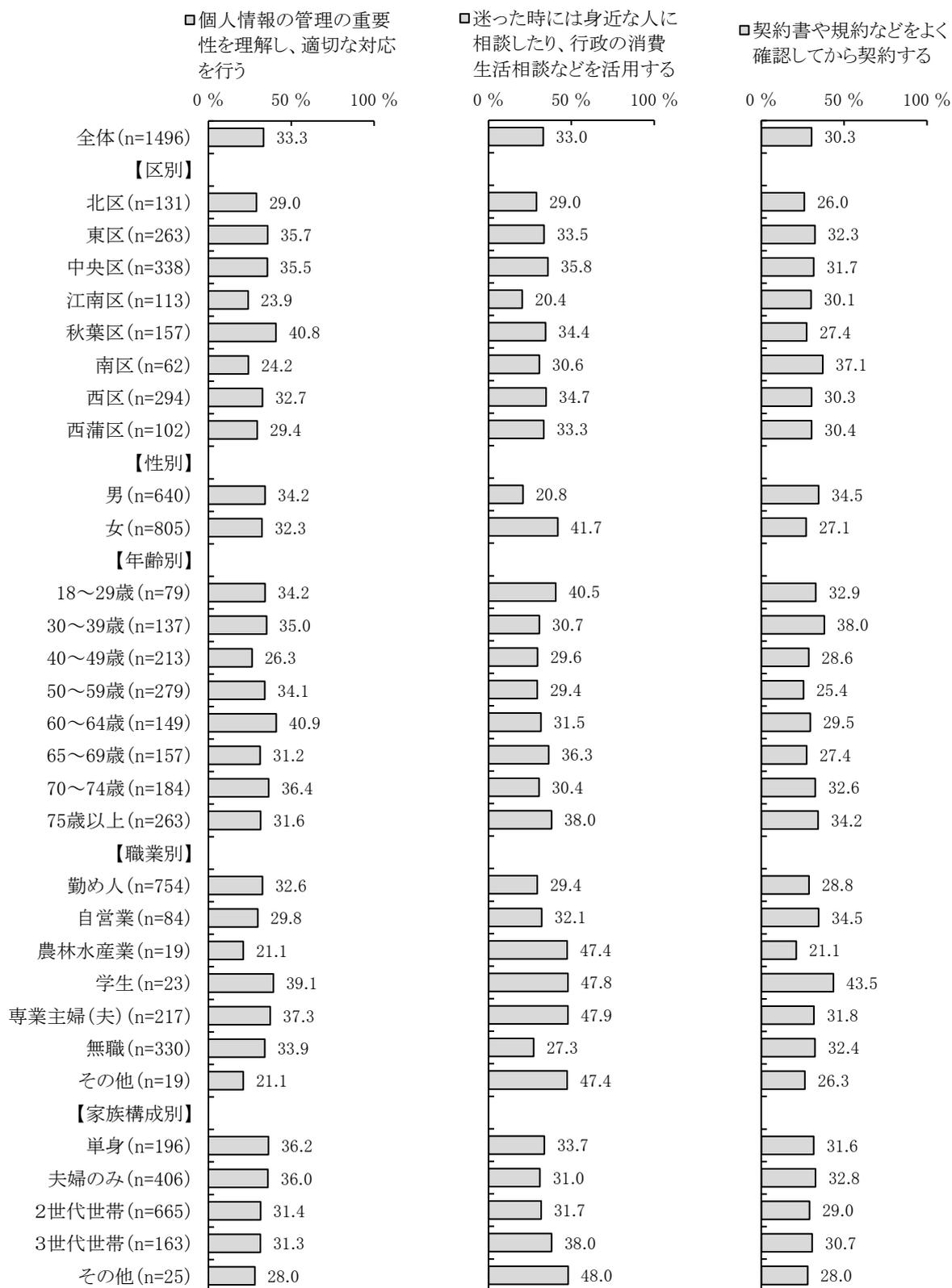
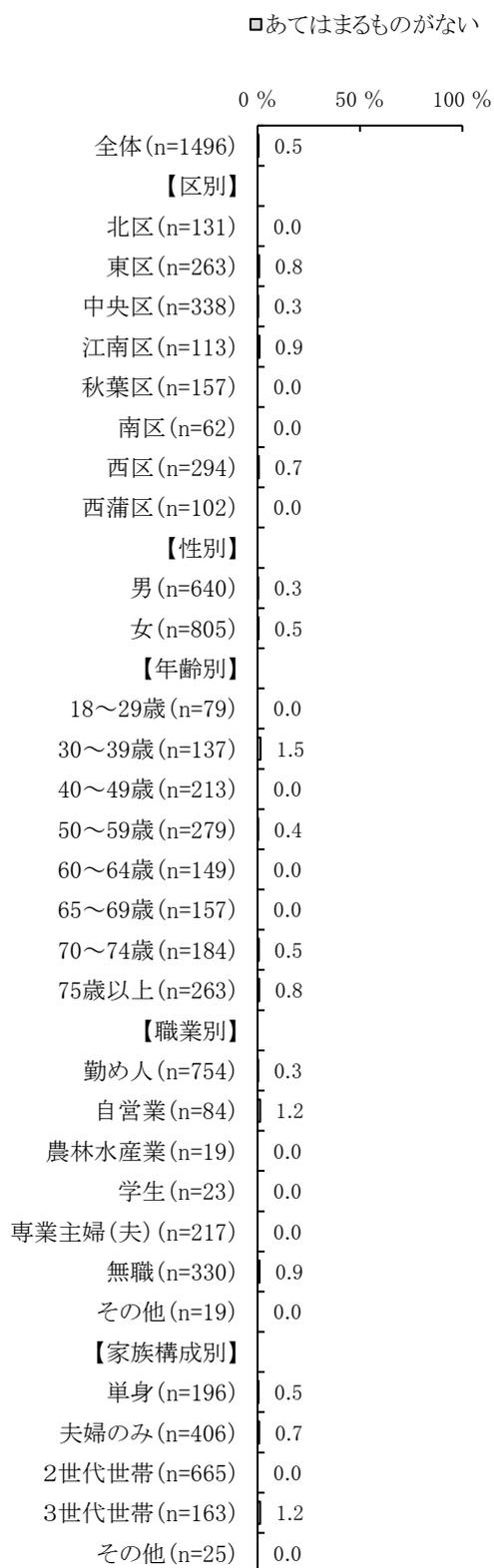


図 14.2 トラブル回避のための取組み 3/3

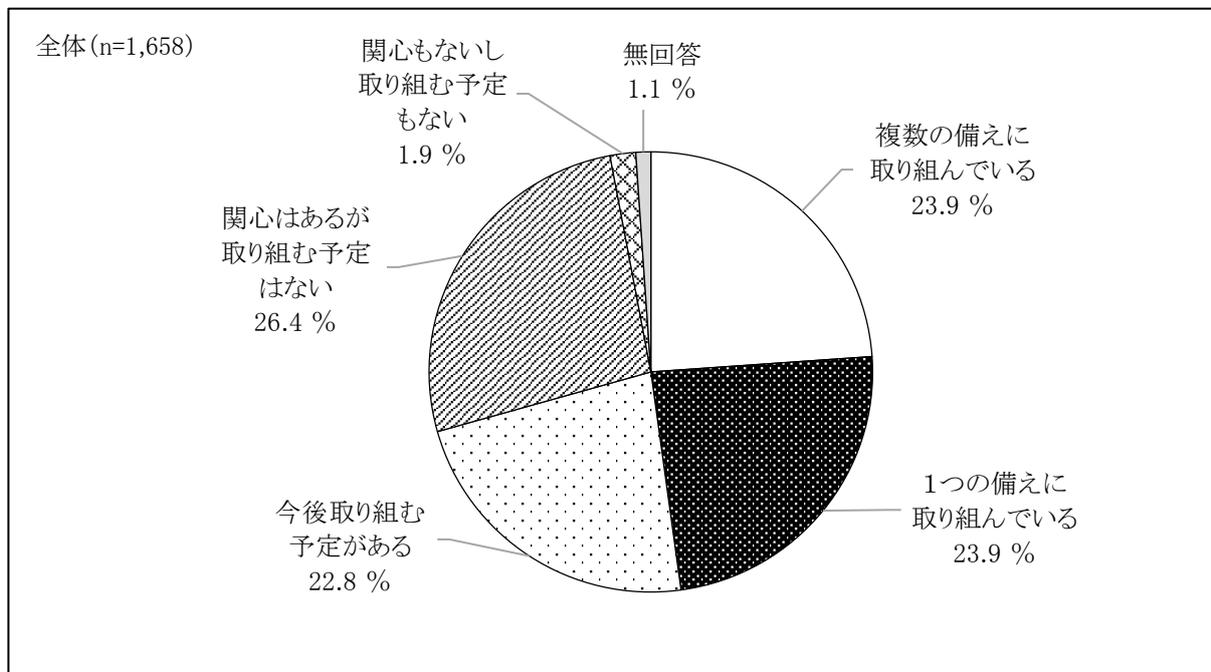
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



15. 災害に対する備えについて

(1) 災害に対する備え

15-1 あなたは、日頃から災害に対する備えに取り組んでいますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

過災害に対する備えについて、「複数の備えに取り組んでいる」と「1つの備えに取り組んでいる」がともに23.9%、「今後取り組む予定がある」が22.8%、「関心はあるが取り組む予定はない」が26.4%、「関心もないし取り組む予定もない」が1.9%となった。

【属性別結果】(次ページ図15.1参照)

① 区別

「複数の備えに取り組んでいる」と答えた割合は、西区(27.9%)で最も高い。

② 性別

「複数の備えに取り組んでいる」「1つの備えに取り組んでいる」と答えた割合は、男性(それぞれ22.6%、21.9%)より女性(それぞれ25.4%、25.8%)でやや高い。

③ 年齢別

「複数の備えに取り組んでいる」と答えた割合は、60~64歳(30.6%)で最も高く、40歳未満の若年層ほど低く、2割以下となった。

④ 職業別

「複数の備えに取り組んでいる」と答えた割合は、専業主婦(夫)(36.6%)で最も高い。

⑤ 家族構成別

「複数の備えに取り組んでいる」と答えた割合は、夫婦のみ(29.9%)で最も高い。

図 15.1 災害に対する備え

(区別/性別/年齢別)

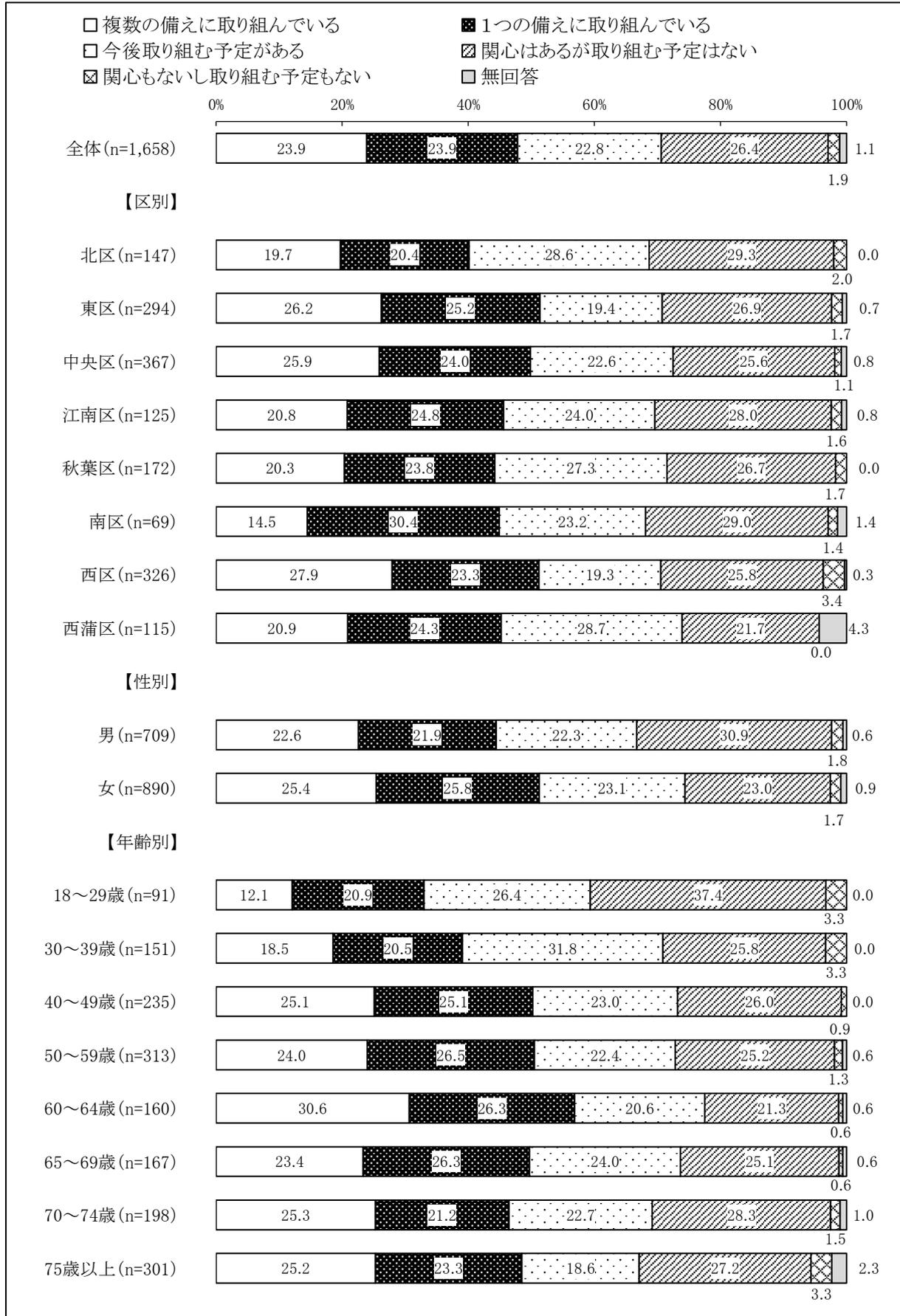
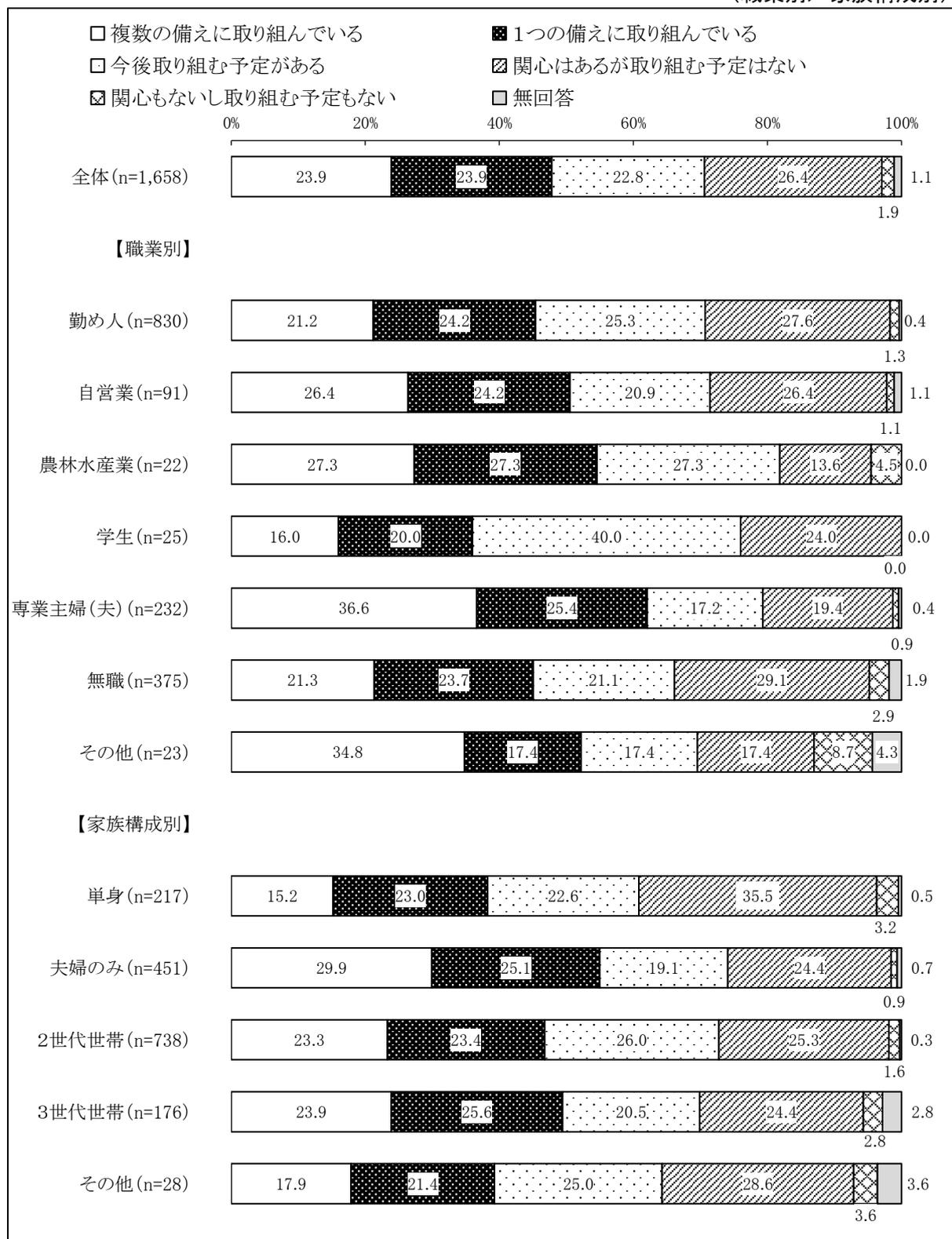


図 15.1 災害に対する備え

(職業別／家族構成別)

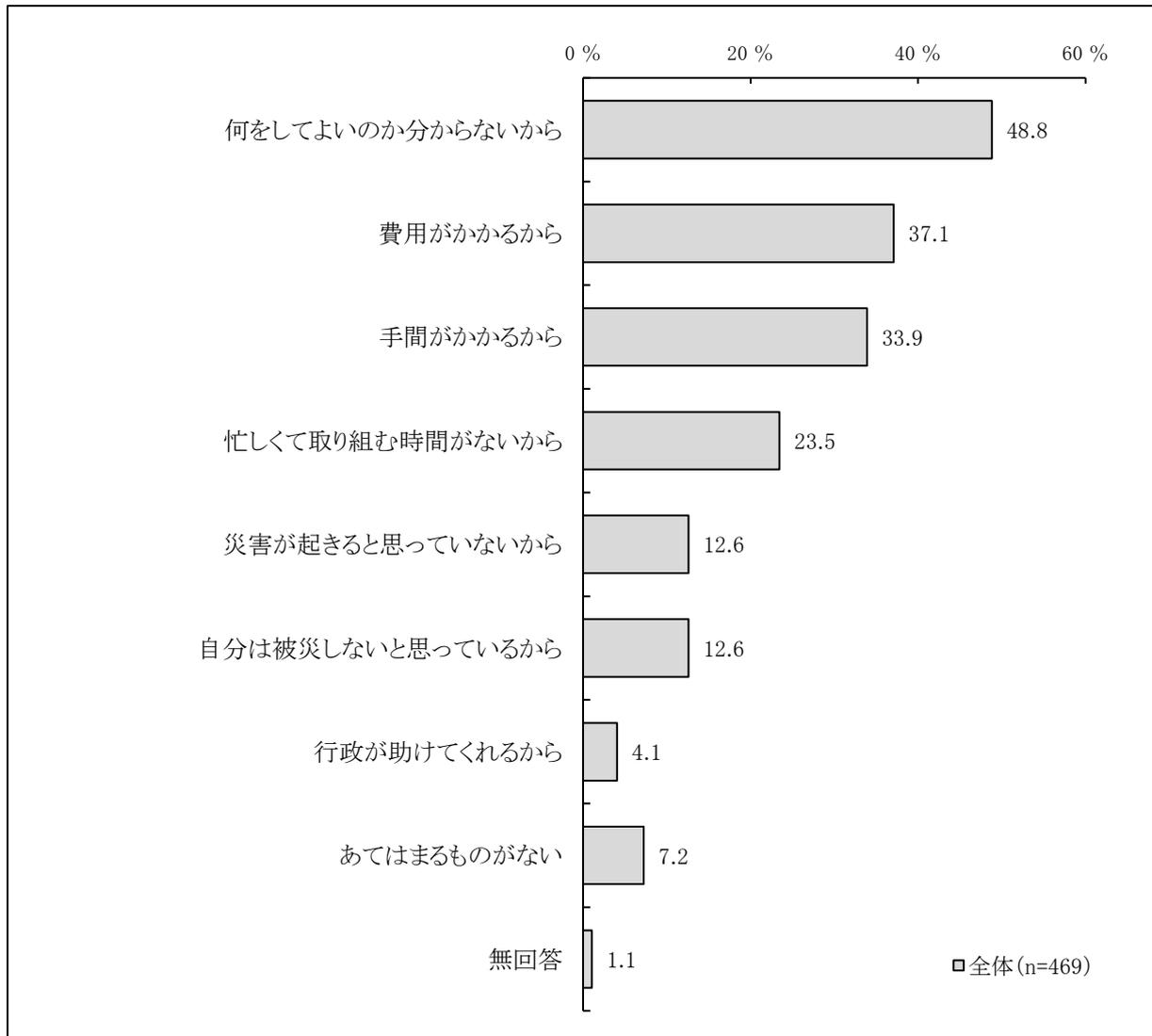


(2) 災害に対する備えに取り組んでいない理由

上記 15-1 で④または⑤を選択した方に質問します。

15-2 災害に対する備えに取り組んでいない理由を選択してください。

(〇はいくつでも)



【全体結果】

災害に対する備えに取り組んでいない理由として、「何をしてもよいのか分からないから」(48.8%)と答えた割合が最も高く、約5割となった。次いで「費用がかかるから」(37.1%)、「手間がかかるから」(33.9%)が3割台、「忙しくて取り組む時間がないから」(23.5%)が2割台、「災害が起きると思っていないから」、「自分は被災しないと思っているから」(ともに12.6%)が1割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 15.2 参照）

① 区別

「何をしてよいのか分からないから」と答えた割合は、西蒲区（72.0%）で最も高く、約7割となった。

② 性別

男性女性とも「何をしてよいのか分からないから」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

「何をしてよいのか分からないから」と答えた割合は、18～29歳（70.3%）で最も高く、約7割となった。また、30～39歳では「費用がかかるから」（50.0%）、「忙しくて取り組む時間がないから」（52.3%）と答えた割合が高く、5割を超えた。

④ 職業別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「何をしてよいのか分からないから」と答えた割合が最も高い。

図 15.2 災害に対する備えに取り組んでいない理由 1/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

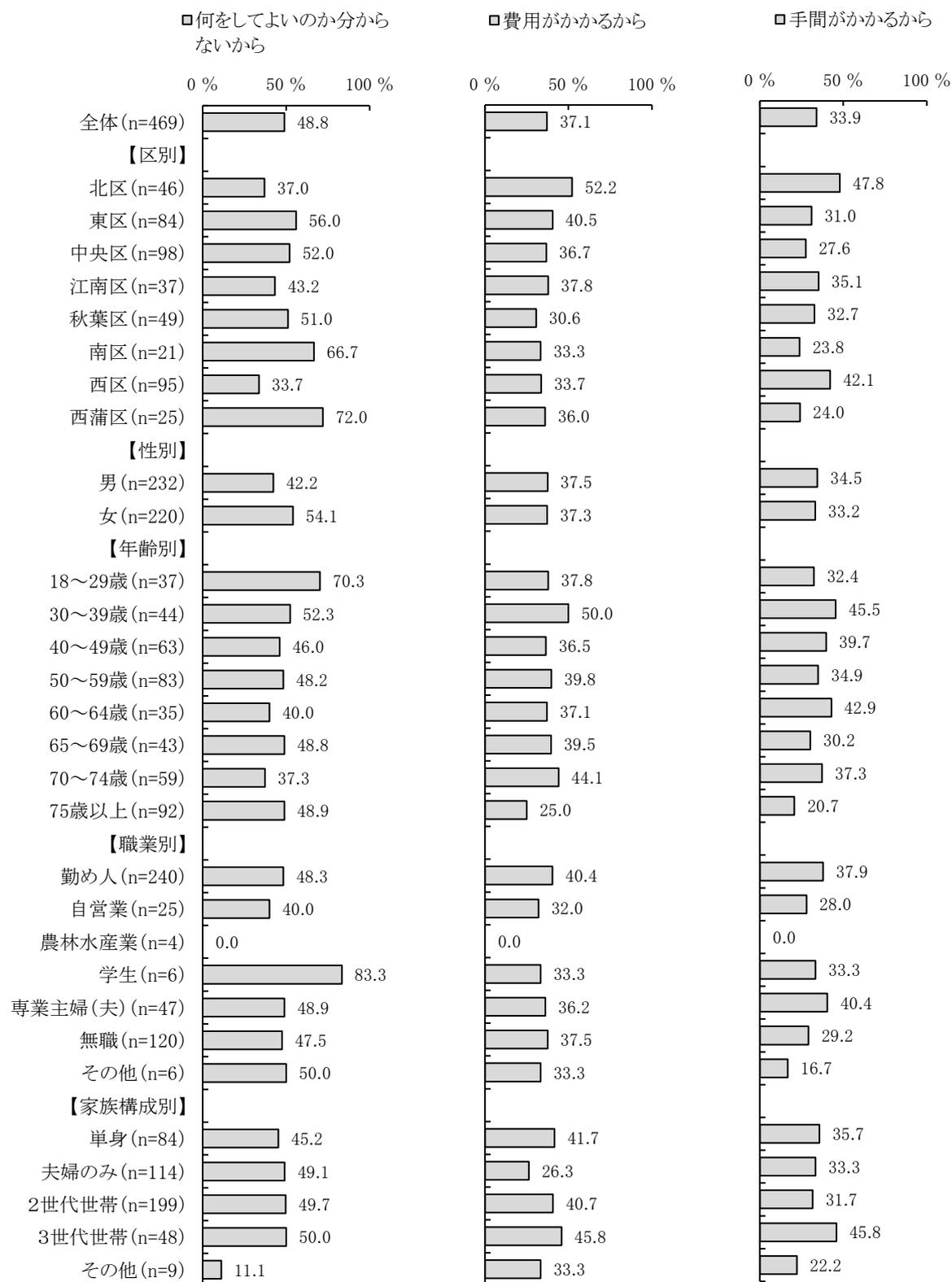


図 15.2 災害に対する備えに取り組んでいない理由 2/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

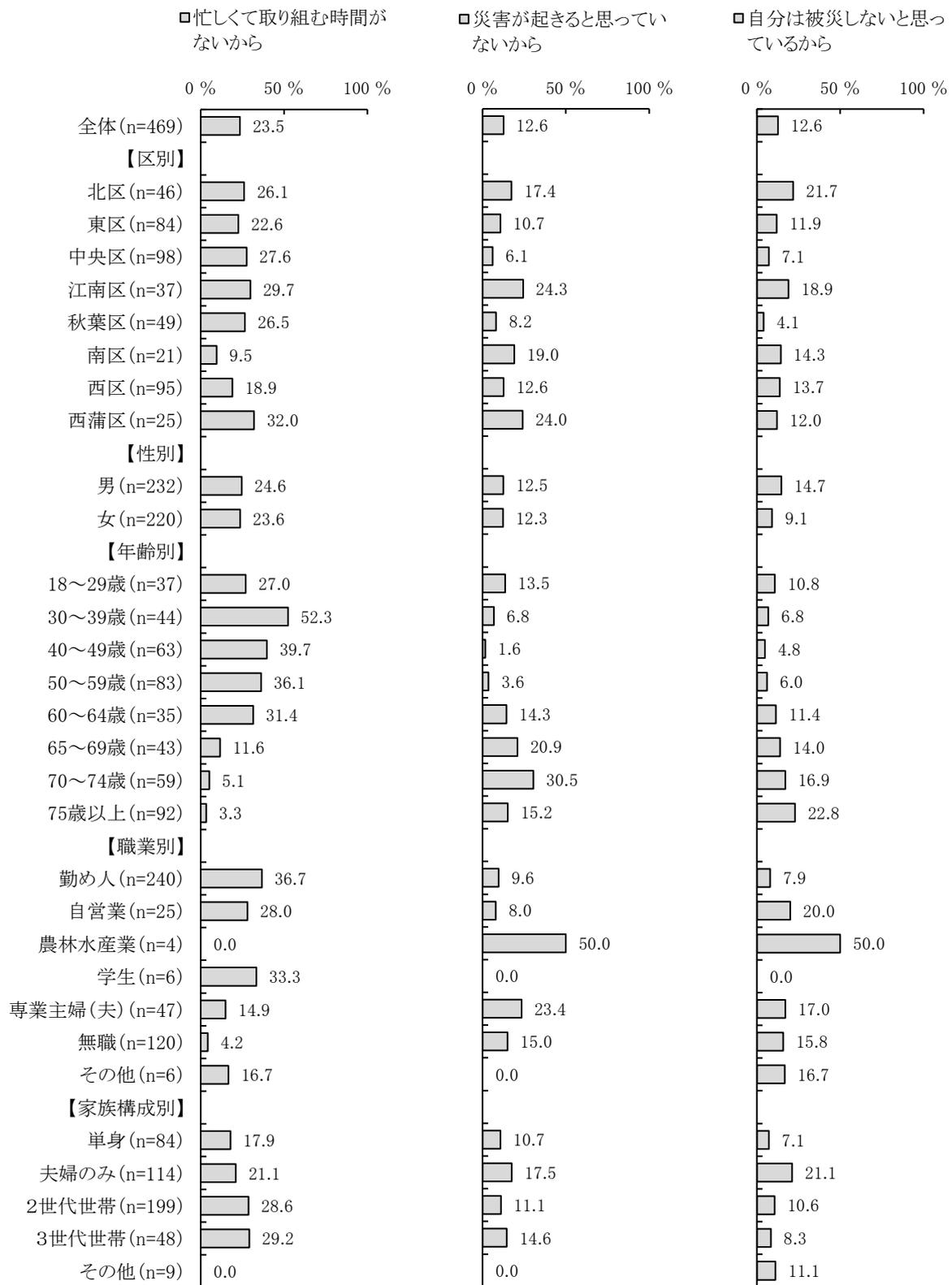
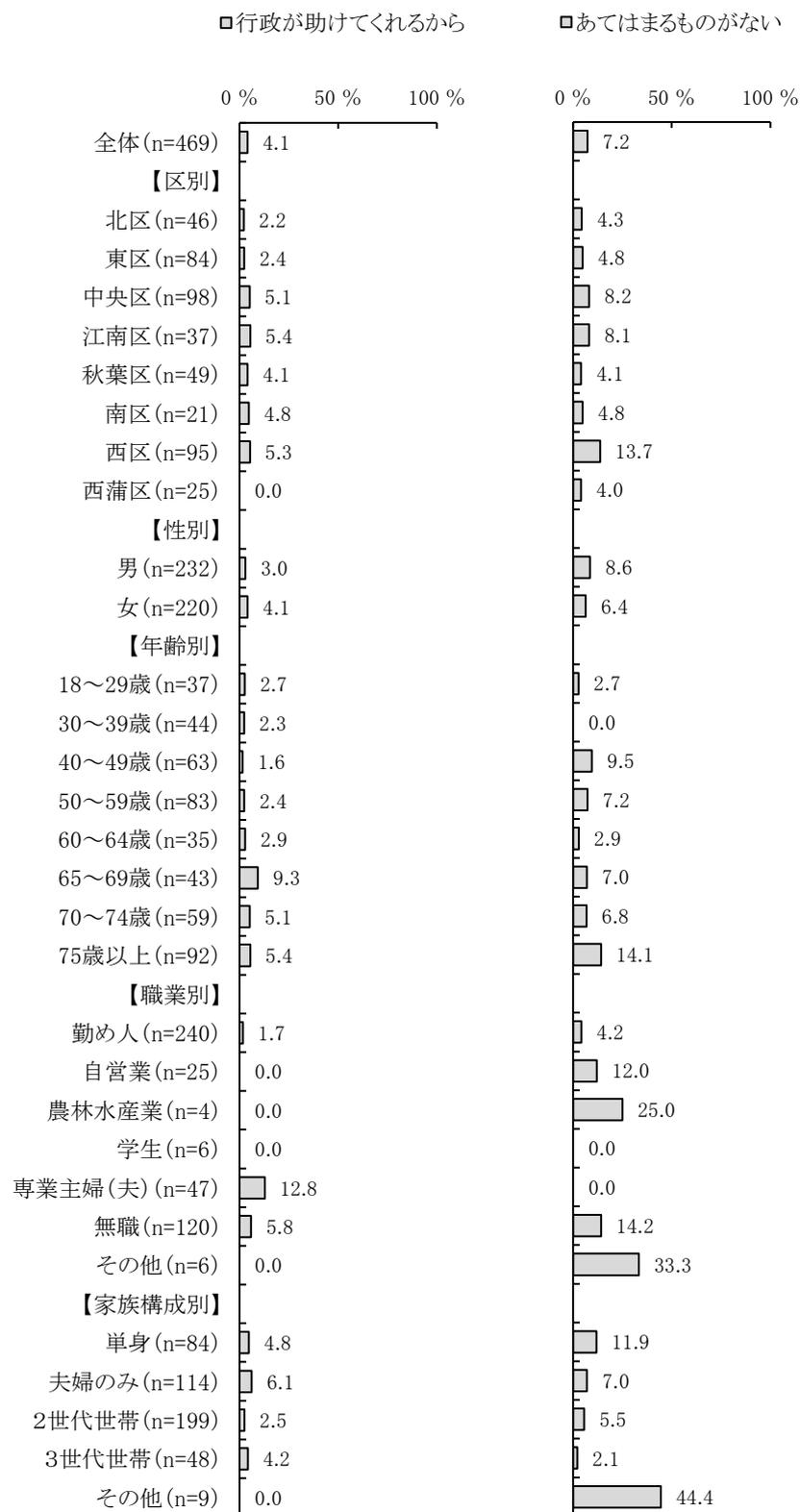


図 15.2 災害に対する備えに取り組んでいない理由 3/3

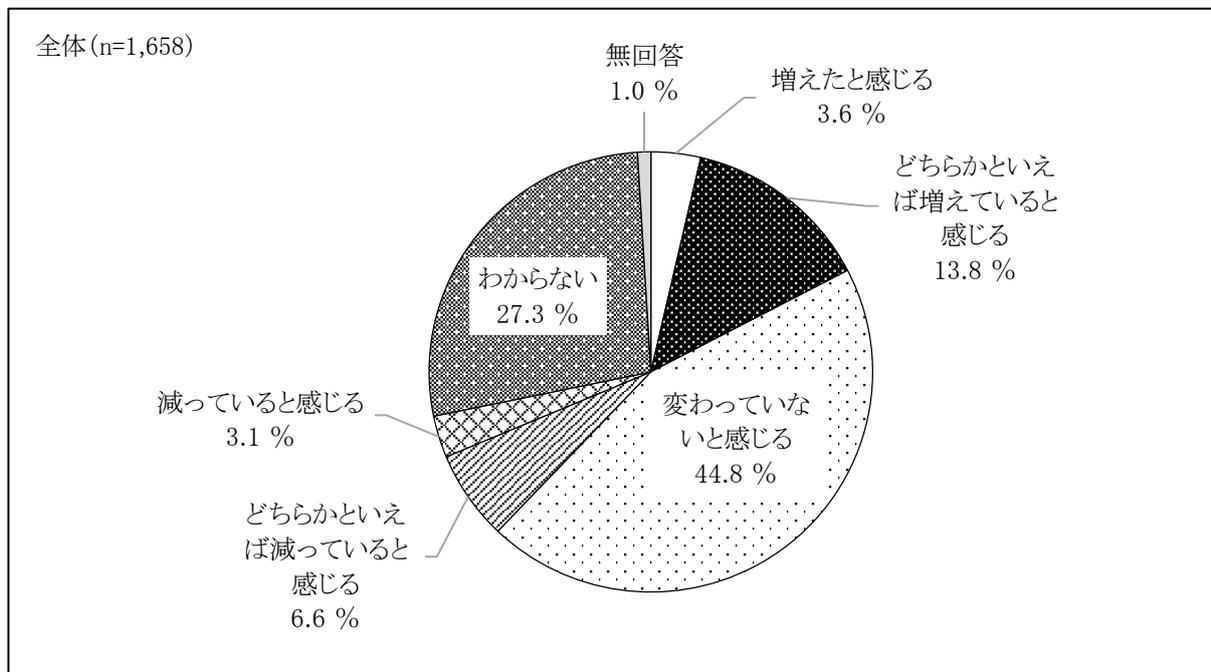
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



16. 都心部の緑化について

(1) 都心部の緑の変化

16-1 あなたは、以前（1～3年前）と比べて、都心部の緑が増えたと感じますか。
（○は1つだけ）



【全体結果】

都心部の緑について、「変わっていないと感じる」（44.8%）と答えた割合が最も高く、4割半ばを占めた。「増えたと感じる」が3.6%、「どちらかといえば増えていると感じる」が13.8%、「どちらかといえば減っていると感じる」が6.6%、「減っていると感じる」が3.1%となった。また、3割弱が「わからない」（27.3%）と回答した。

【属性別結果】（次ページ図 16.1 参照）

① 区別

南区では「どちらかといえば減っていると感じる」（13.0%）と答えた割合が高く、1割強となった。

② 性別

男性女性とも「変わっていないと感じる」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

すべての年代で「変わっていないと感じる」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「変わっていないと感じる」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「変わっていないと感じる」と答えた割合が最も高い。

図 16.1 都心部の緑の変化

(区別/性別/年齢別)

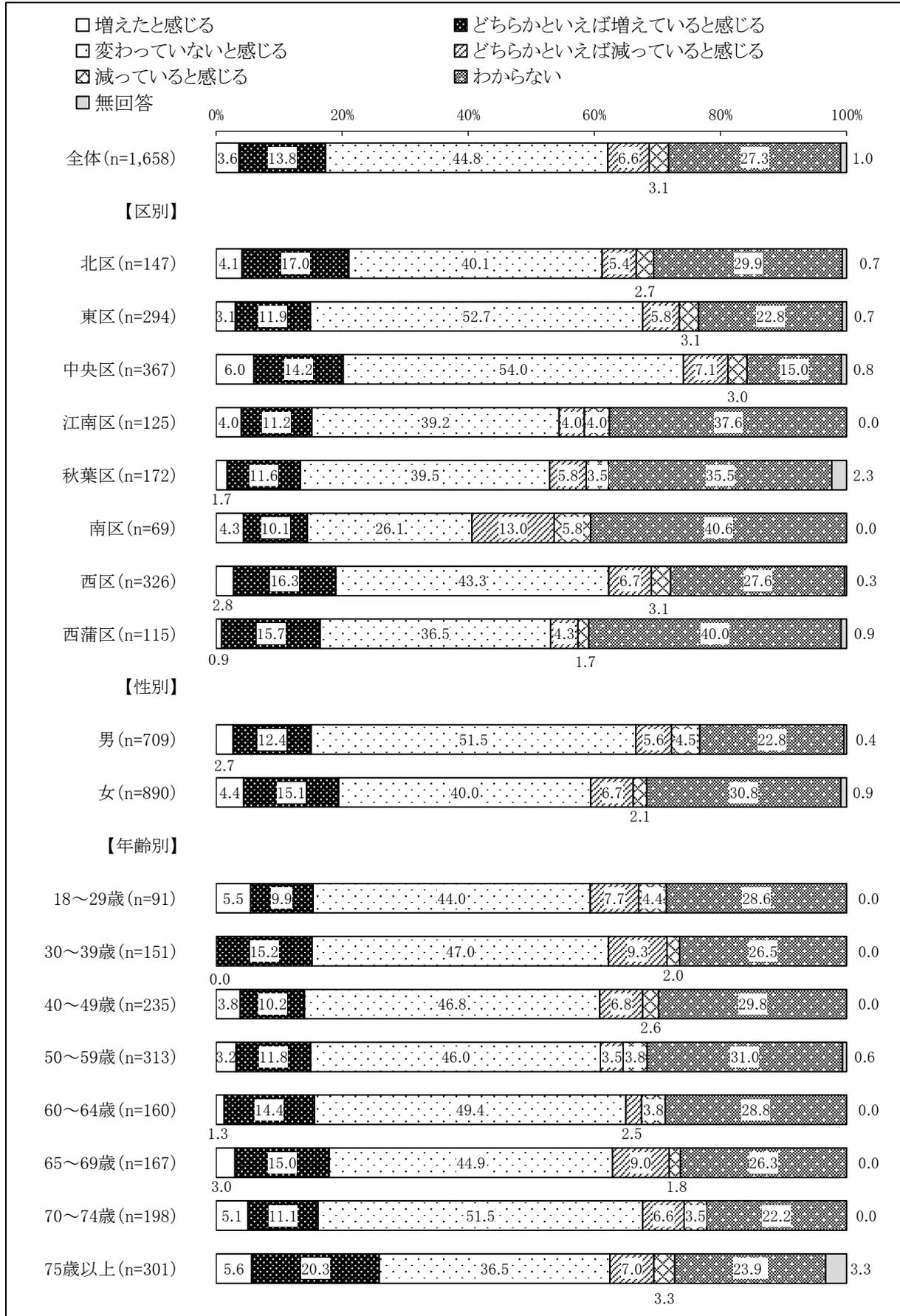
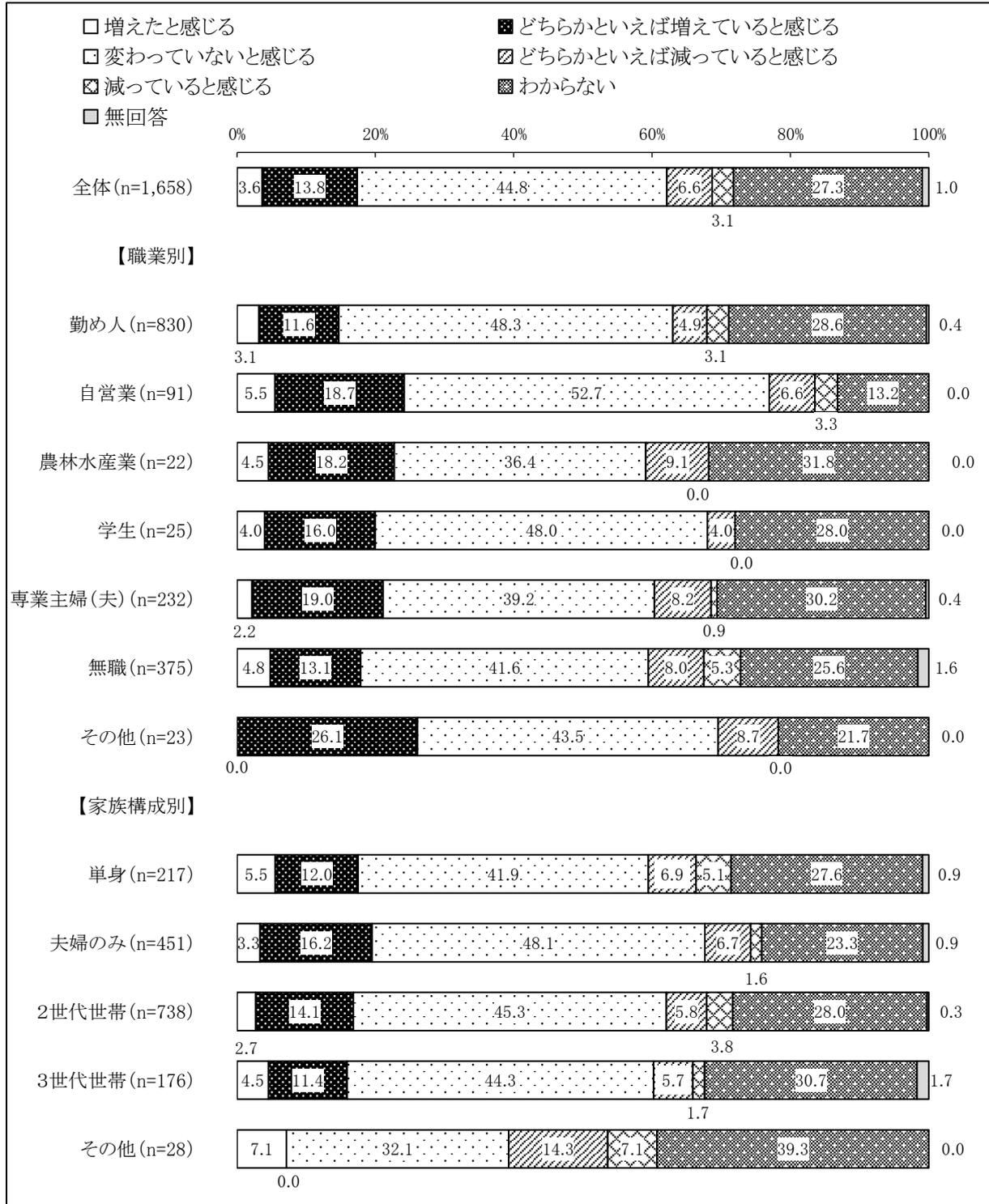


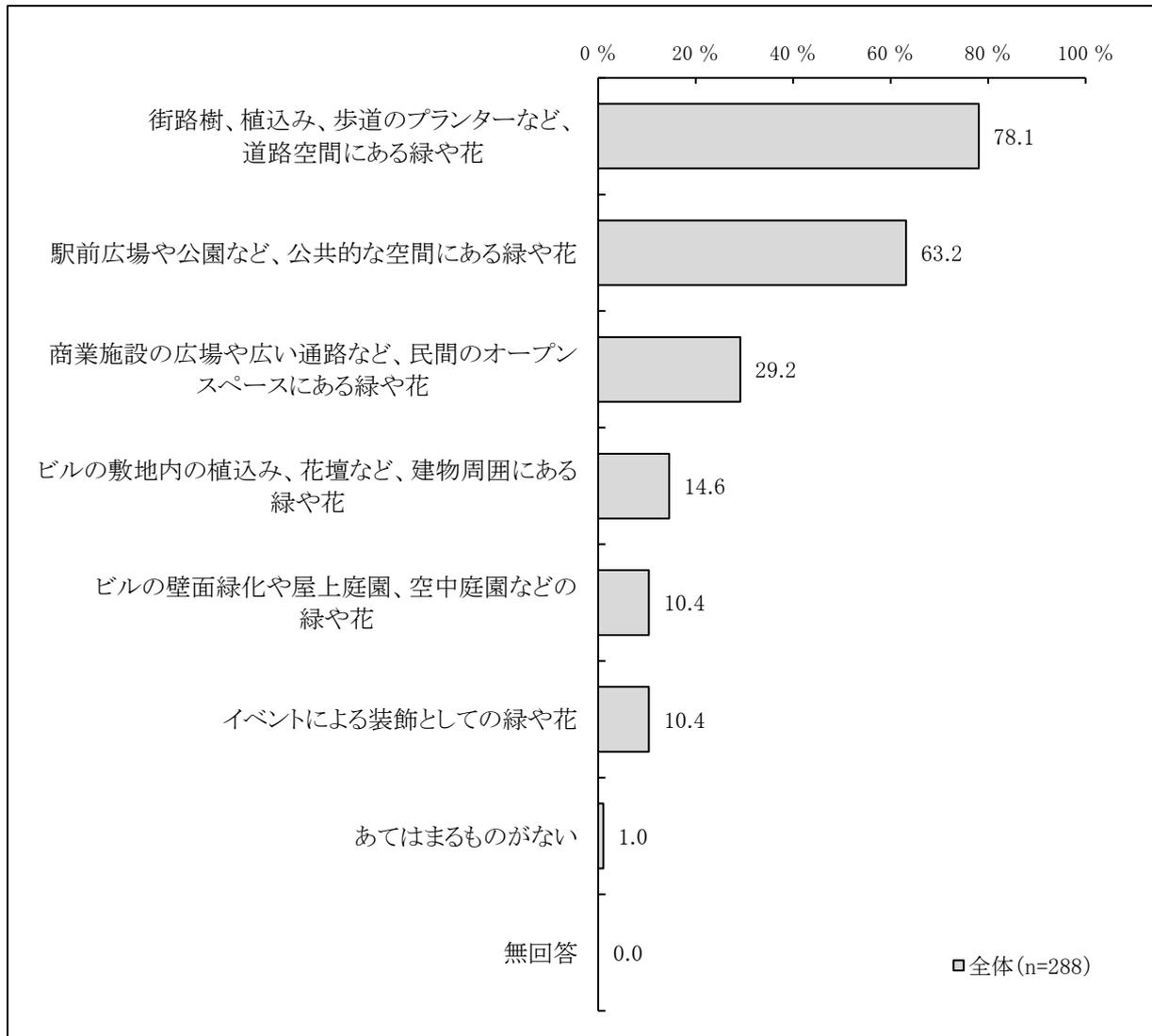
図 16.1 都心部の緑の変化

(職業別/家族構成別)



(2) 緑や花が増えている部分

上記 16-1 で①または②を選択した方に質問します。
 16-2 どのような部分で緑や花が増えていると感じますか。
 (〇はいくつでも)



【全体結果】

緑や花が増えていると感じる部分として、「街路樹、植込み、歩道のプランターなど、道路空間にある緑や花」(78.1%)が最も割合が高く、約8割となった。次いで「駅前広場や公園など、公共的な空間にある緑や花」(63.2%)、「商業施設の広場や広い通路など、民間のオープンスペースにある緑や花」(29.2%)、「ビルの敷地内の植込み、花壇など、建物周囲にある緑や花」(14.6%)、「ビルの壁面緑化や屋上庭園、空中庭園などの緑や花」、イベントによる装飾としての緑や花」(ともに10.4%)で続く。

【属性別結果】（次ページ図 16.2 参照）

① 区別

すべての区で「街路樹、植込み、歩道のプランターなど、道路空間にある緑や花」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性とも「街路樹、植込み、歩道のプランターなど、道路空間にある緑や花」と答えた割合が最も高い。また、男性では「駅前広場や公園など、公共的な空間にある緑や花」（70.1%）と答えた割合が最も高く、約7割となった。

③ 年齢別

30～39歳を除くすべての年代で「街路樹、植込み、歩道のプランターなど、道路空間にある緑や花」と答えた割合が最も高い。30～39歳「駅前広場や公園など、公共的な空間にある緑や花」（69.6%）と答えた割合が最も高く、約7割となった。

④ 職業別

すべての職業で「街路樹、植込み、歩道のプランターなど、道路空間にある緑や花」と答えた割合が最も高い。

（農林水産業と学生は該当者数が少ないため除く。）

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「街路樹、植込み、歩道のプランターなど、道路空間にある緑や花」と答えた割合が最も高い。

（農林水産業と学生は該当者数が少ないため除く。）

図 16.2 緑や花が増えている部分 1/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

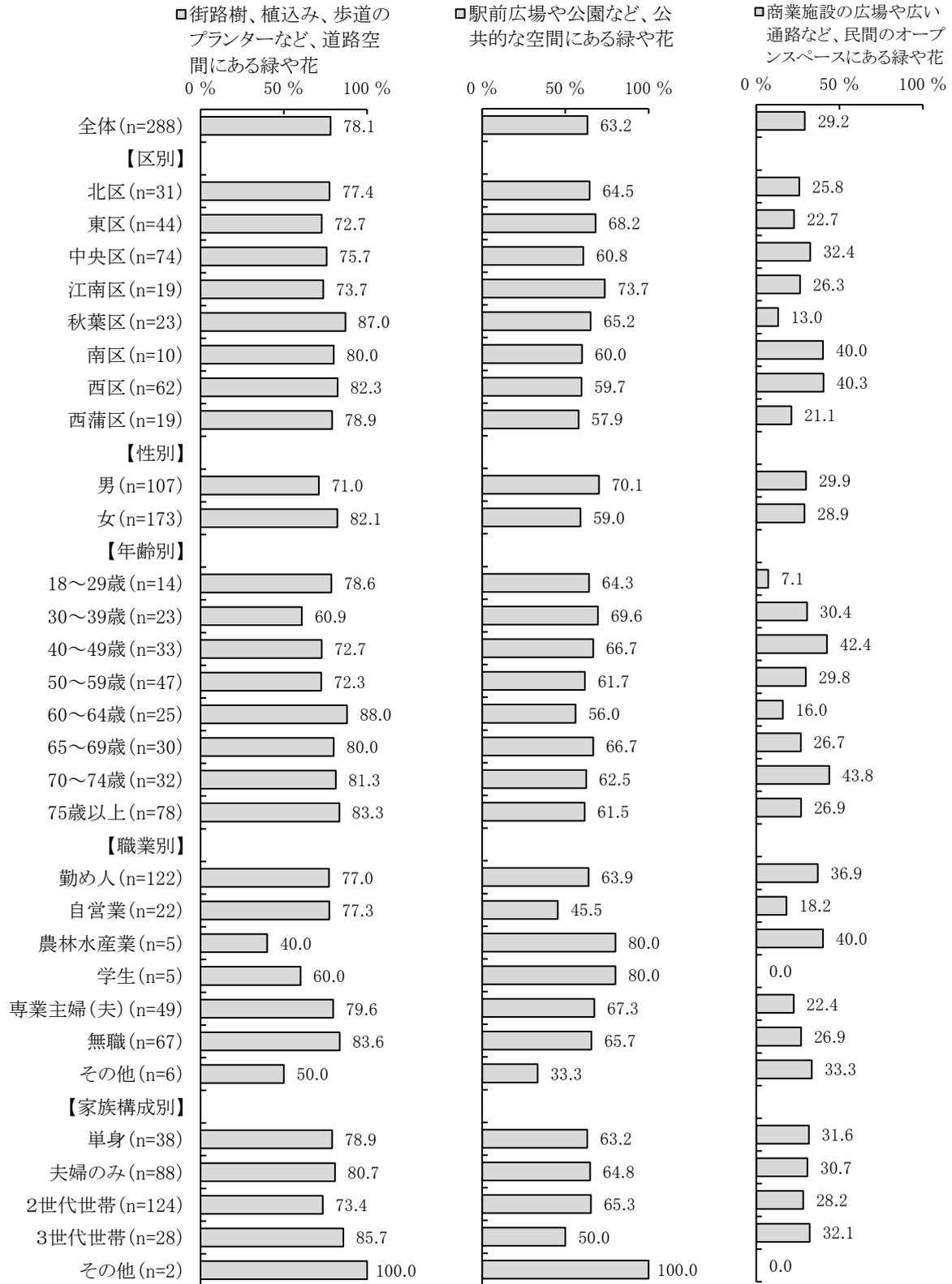


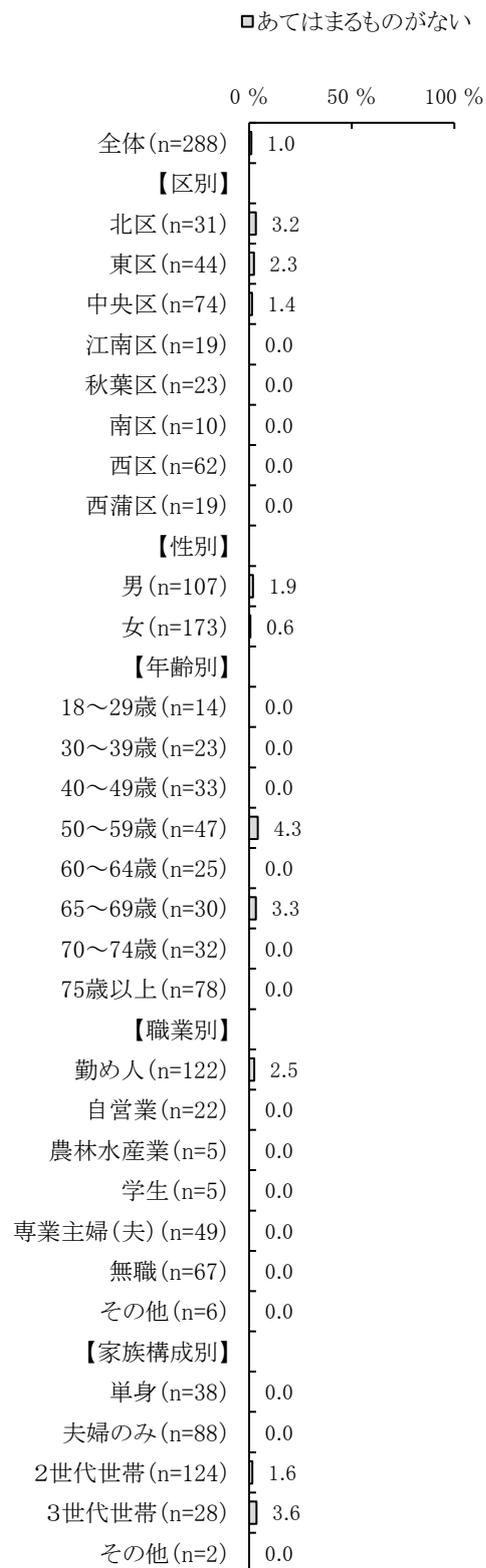
図 16.2 緑や花が増えている部分 2/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



図 16.2 緑や花が増えている部分 3/3

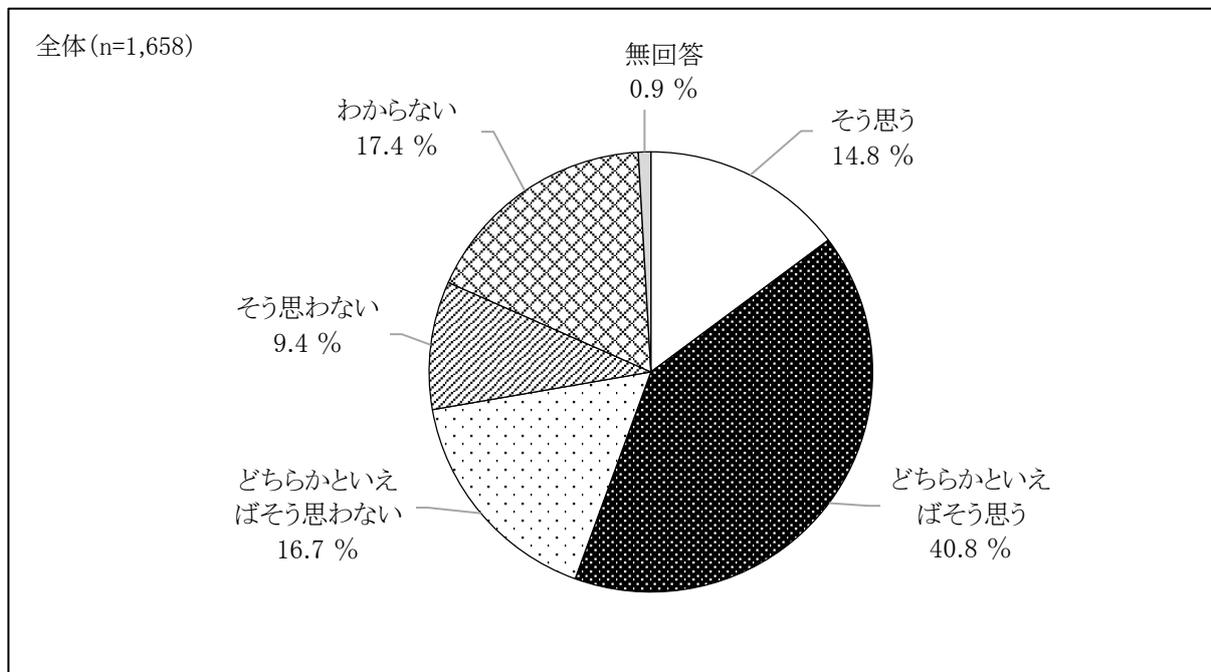
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



17. 身近な公園について

(1) 安心・安全で快適に利用できるか

17-1 あなたは、身近な公園について安心・安全で快適に利用できると思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

安心・安全で快適に利用できるかについて、「そう思う」が14.8%、「どちらかといえばそう思う」が40.8%、「どちらかといえばそう思わない」が16.7%、「そう思わない」が9.4%となった。

【属性別結果】(次ページ図 17.1 参照)

① 区別

「そう思う」と答えた割合は、北区(18.4%)で最も高い。「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、江南区(50.4%)で最も高い。

② 性別

「そう思う」と答えた割合は、女性(13.8%)と比べて男性(15.7%)でやや高い。

③ 年齢別

「そう思う」と答えた割合は、と答えた割合は、75歳以上(22.6%)で最も高い。

④ 職業別

「そう思う」と答えた割合は、学生(20.0%)で最も高い。

⑤ 家族構成別

単身では「どちらかといえばそう思う」(29.5%)と答えた割合が低く、「わからない」と答えた割合(25.8%)が高い。

図 17.1 安心・安全で快適に利用できるか

(区別/性別/年齢別)

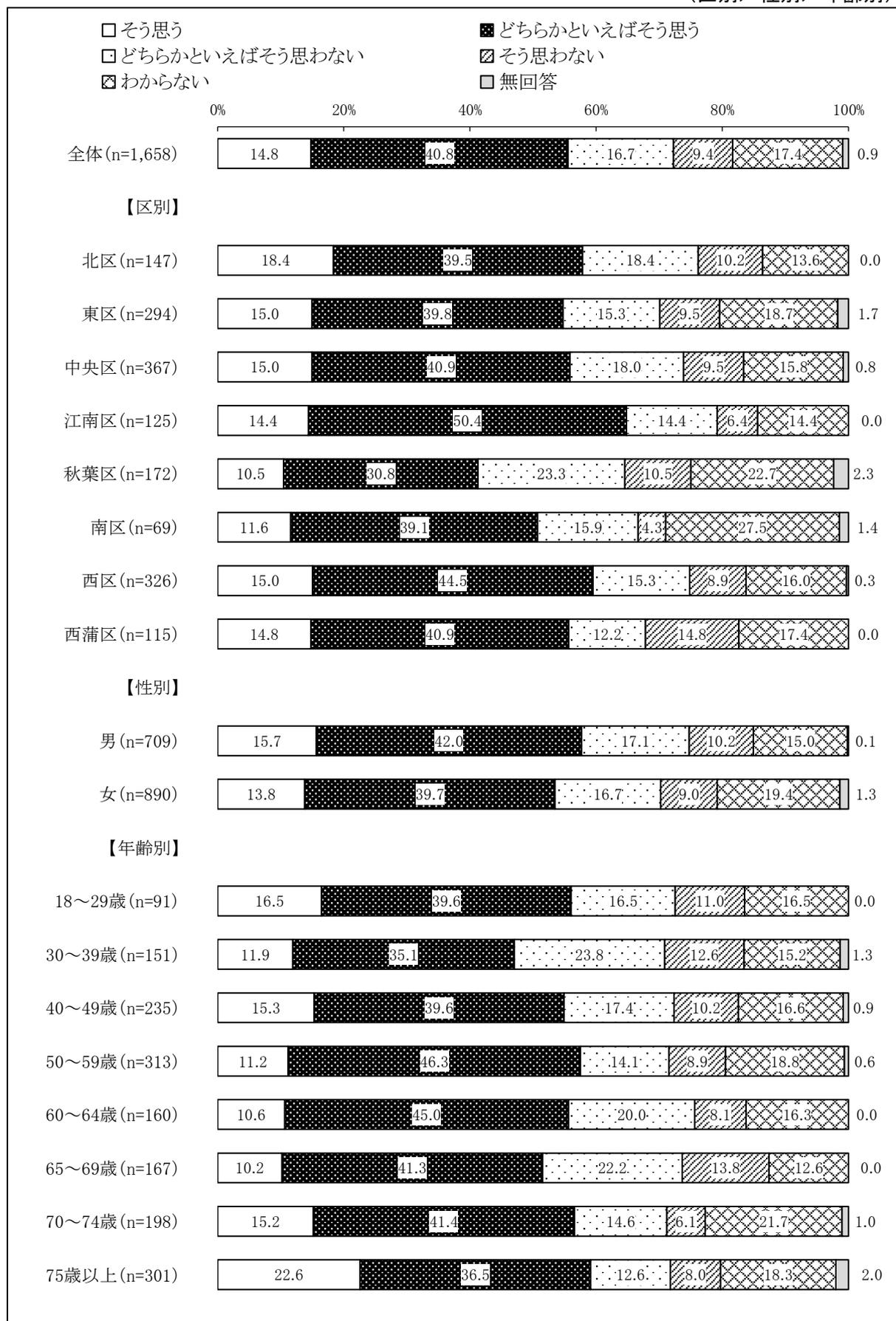
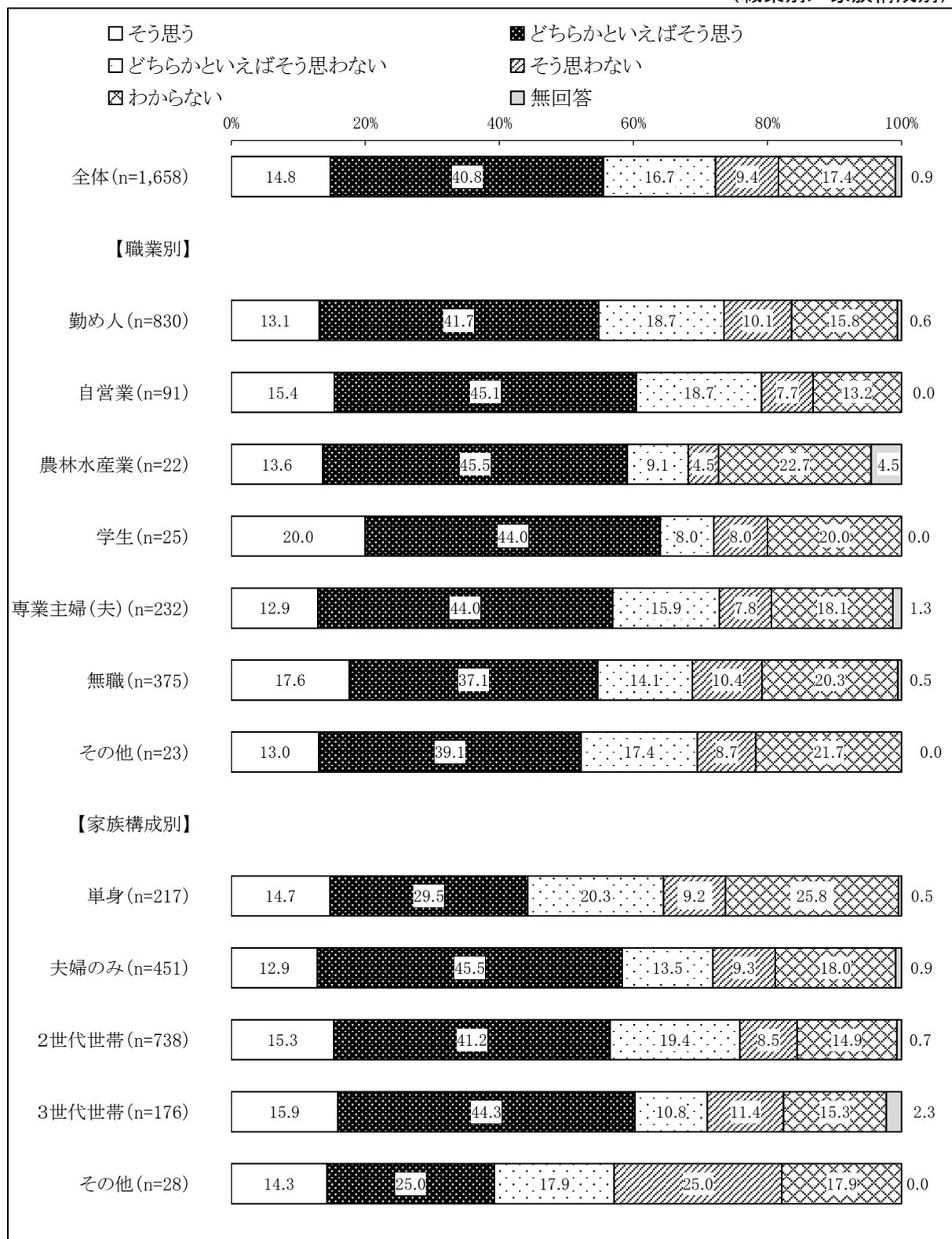


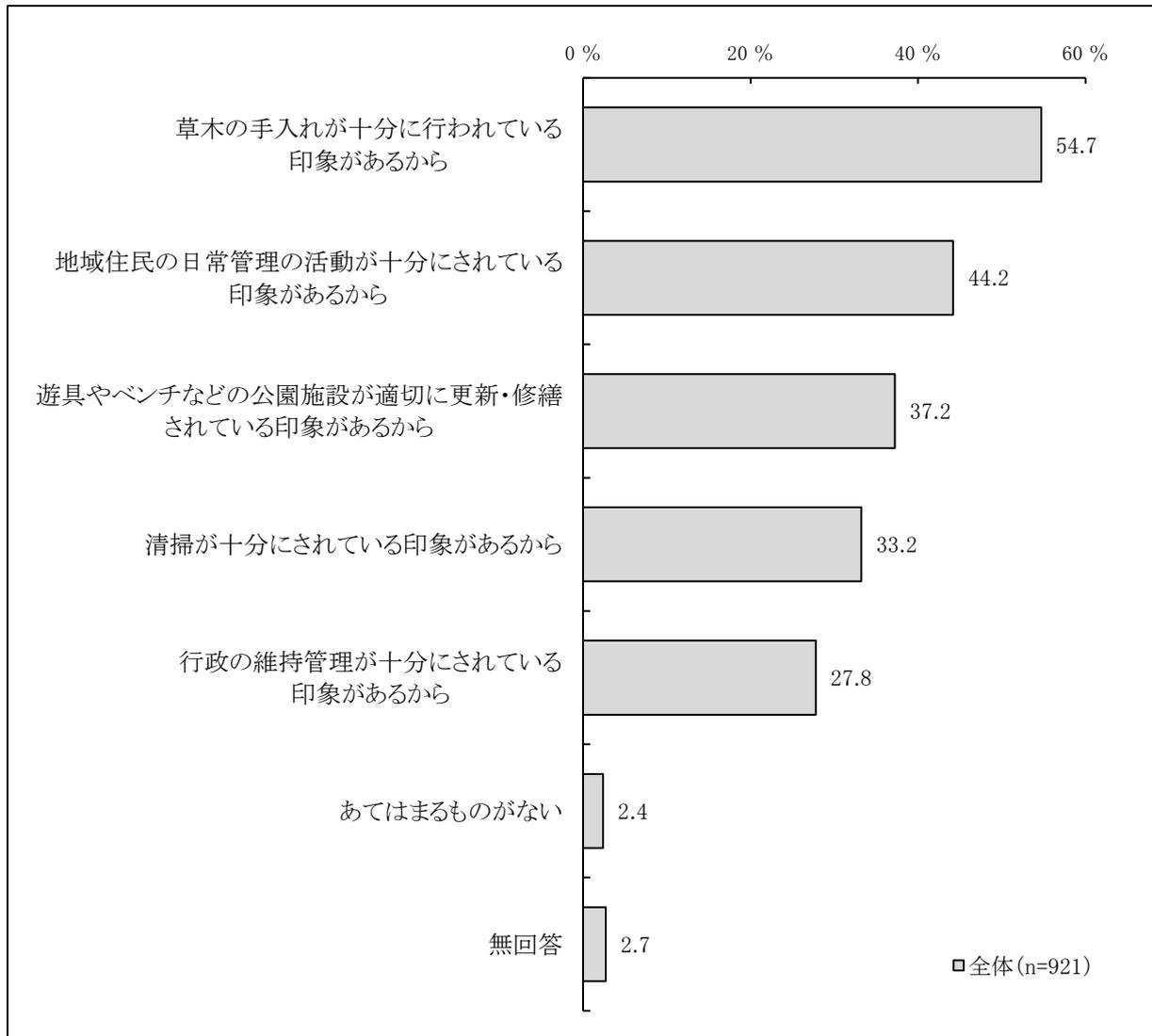
図 17.1 安心・安全で快適に利用できるか

(職業別／家族構成別)



(2) 安心・安全で快適に利用できると思う理由

上記 17-1 で①または②を選択した方に質問します。
17-2 その理由として、あてはまるものを選択してください。
(〇はいくつでも)



【全体結果】

安心・安全で快適に利用できると思う理由として、「草木の手入れが十分に行われている印象があるから」(54.7%)と答えた割合が最も高く、過半数を占めた。次いで「地域住民の日常管理の活動が十分にされている印象があるから」(44.2%)、「遊具やベンチなどの公園施設が適切に更新・修繕されている印象があるから」(37.2%)、「清掃が十分にされている印象があるから」(33.2%)、「行政の維持管理が十分にされている印象があるから」(27.8%)となった。

【属性別結果】（次ページ図 17.2 参照）

① 区別

北区、南区を除くすべての区で「草木の手入れが十分に行われている印象があるから」と答えた割合が最も高い。北区では「草木の手入れが十分に行われている印象があるから」と「地域住民の日常管理の活動が十分にされている印象があるから」（ともに 55.3%）が、南区では「地域住民の日常管理の活動が十分にされている印象があるから」（51.4%）と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性とも「草木の手入れが十分に行われている印象があるから」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

すべての年代で「草木の手入れが十分に行われている印象があるから」と答えた割合が最も高い。また、「地域住民の日常管理の活動が十分にされている印象があるから」と答えた割合は 75 歳以上で最も高く、高齢層ほど高い傾向にある。

④ 職業別

すべての職業で「草木の手入れが十分に行われている印象があるから」と答えた割合が最も高い。

（農林水産業と学生は該当者数が少ないため除く。）

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「草木の手入れが十分に行われている印象があるから」と答えた割合が最も高い。

図 17.2 安心・安全で快適に利用できると思う理由 1/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

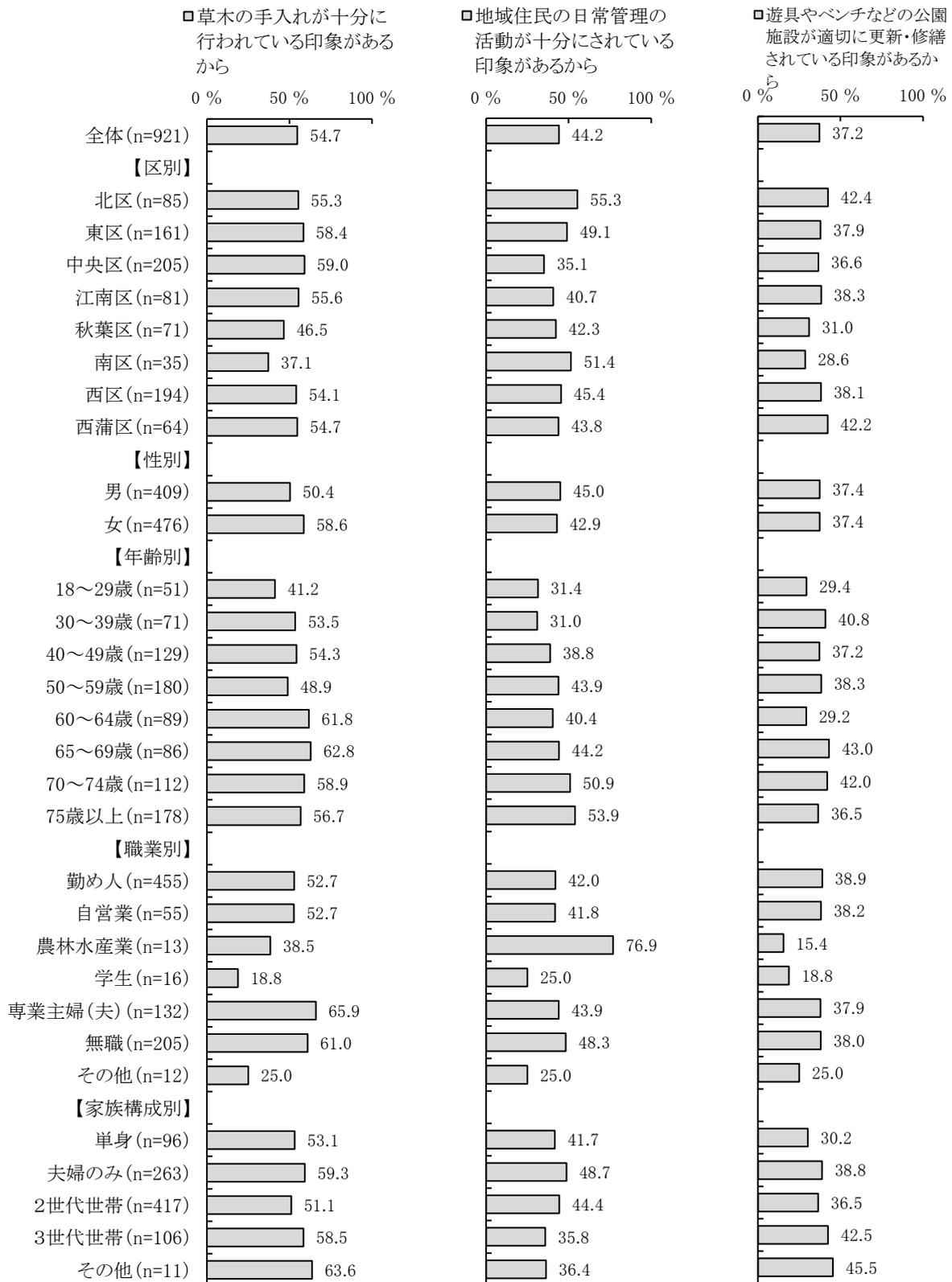
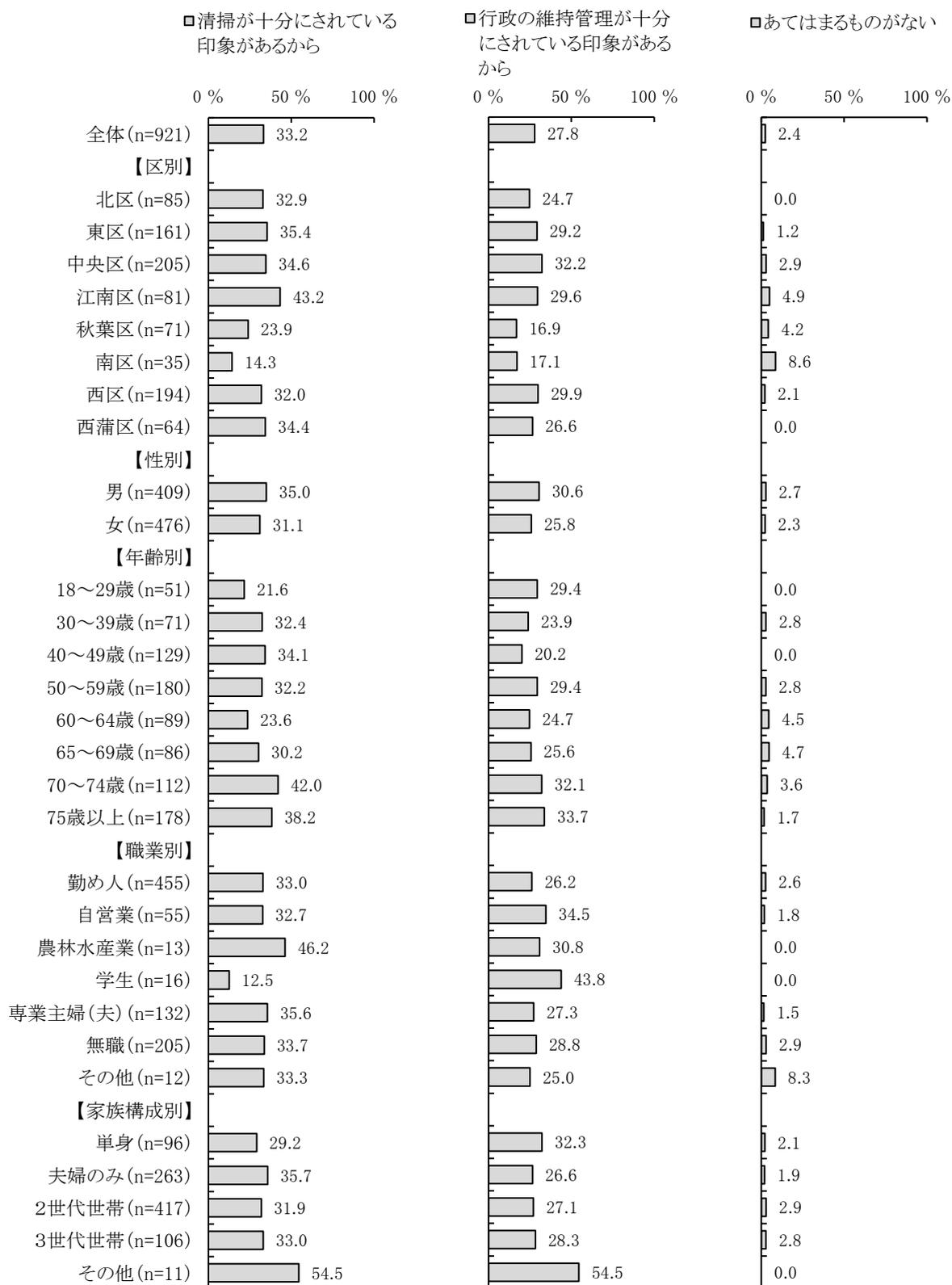


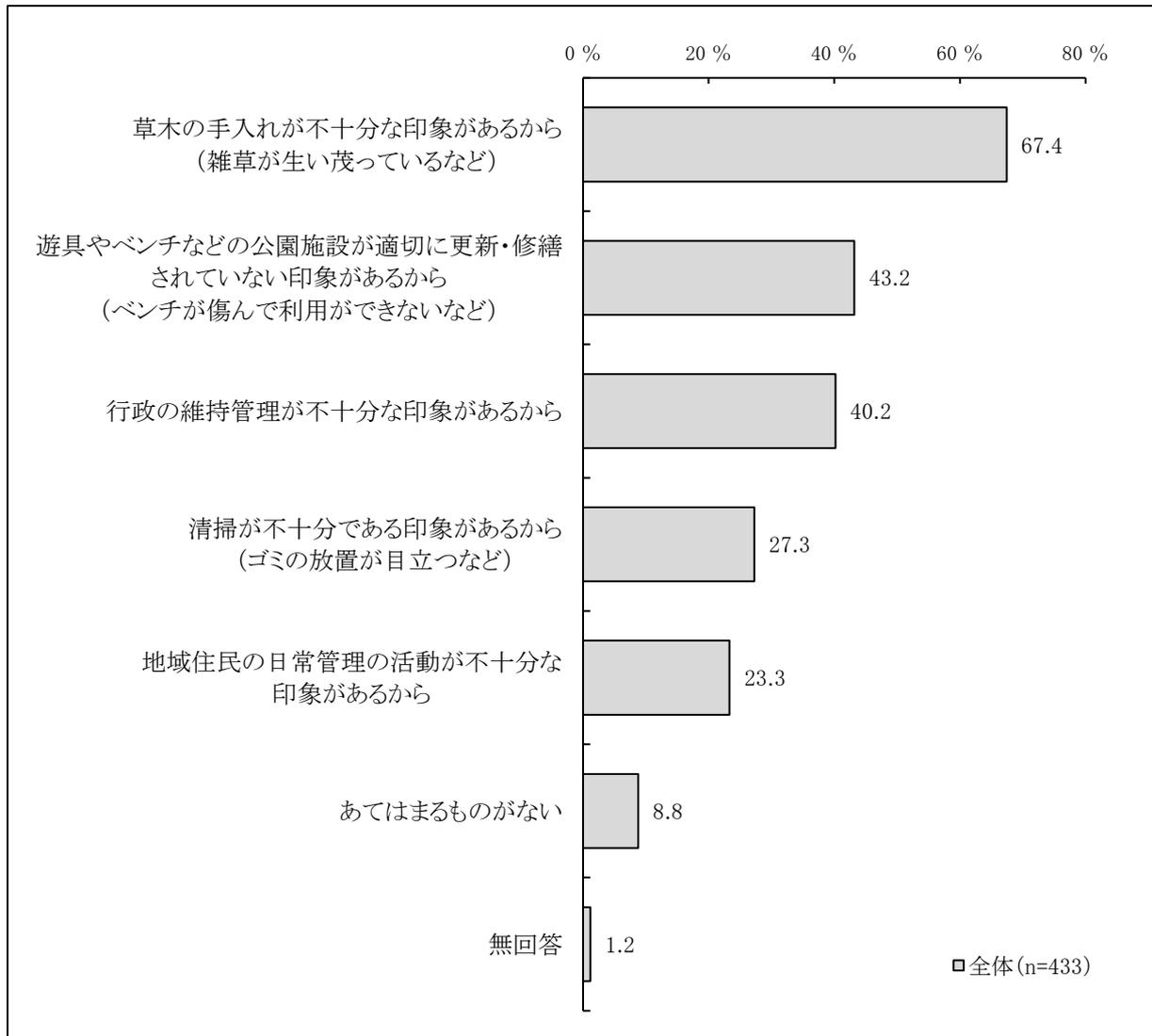
図 17.2 安心・安全で快適に利用できると思う理由 2/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



(3) 安心・安全で快適に利用できると思わない理由

上記 17-1 で③または④を選択した方に質問します。
17-3 その理由として、あてはまるものを選択してください。
(○はいくつでも)



【全体結果】

安心・安全で快適に利用できると思わない理由として、「草木の手入れが不十分な印象があるから（雑草が生い茂っているなど）」(67.4%)と答えた割合が最も高く、7割弱を占めた。次いで「遊具やベンチなどの公園施設が適切に更新・修繕されていない印象があるから（ベンチが傷んで利用ができないなど）」(43.2%)、「行政の維持管理が不十分な印象があるから」(40.2%)、「清掃が不十分である印象があるから（ゴミの放置が目立つなど）」(27.3%)、「地域住民の日常管理の活動が不十分な印象があるから」(23.3%)となった。

【属性別結果】（次ページ図 17.3 参照）

① 区別

江南区を除くすべての区で「草木の手入れが不十分な印象があるから（雑草が生い茂っているなど）」と答えた割合が最も高い。江南区では「草木の手入れが不十分な印象があるから（雑草が生い茂っているなど）」と「遊具やベンチなどの公園施設が適切に更新・修繕されていない印象があるから（ベンチが傷んで利用ができないなど）」（ともに 53.8%）と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性とも「草木の手入れが不十分な印象があるから（雑草が生い茂っているなど）」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

すべての年代で「草木の手入れが不十分な印象があるから（雑草が生い茂っているなど）」と答えた割合が最も高い。また、「行政の維持管理が不十分な印象があるから」と答えた割合は 70～74 歳（53.7%）で高い。

④ 職業別

すべての職業で「草木の手入れが不十分な印象があるから（雑草が生い茂っているなど）」と答えた割合が最も高い。

（農林水産業と学生は該当者数が少ないため除く。）

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「草木の手入れが不十分な印象があるから（雑草が生い茂っているなど）」と答えた割合が最も高い。

図 17.3 安心・安全で快適に利用できると思わない理由 1/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

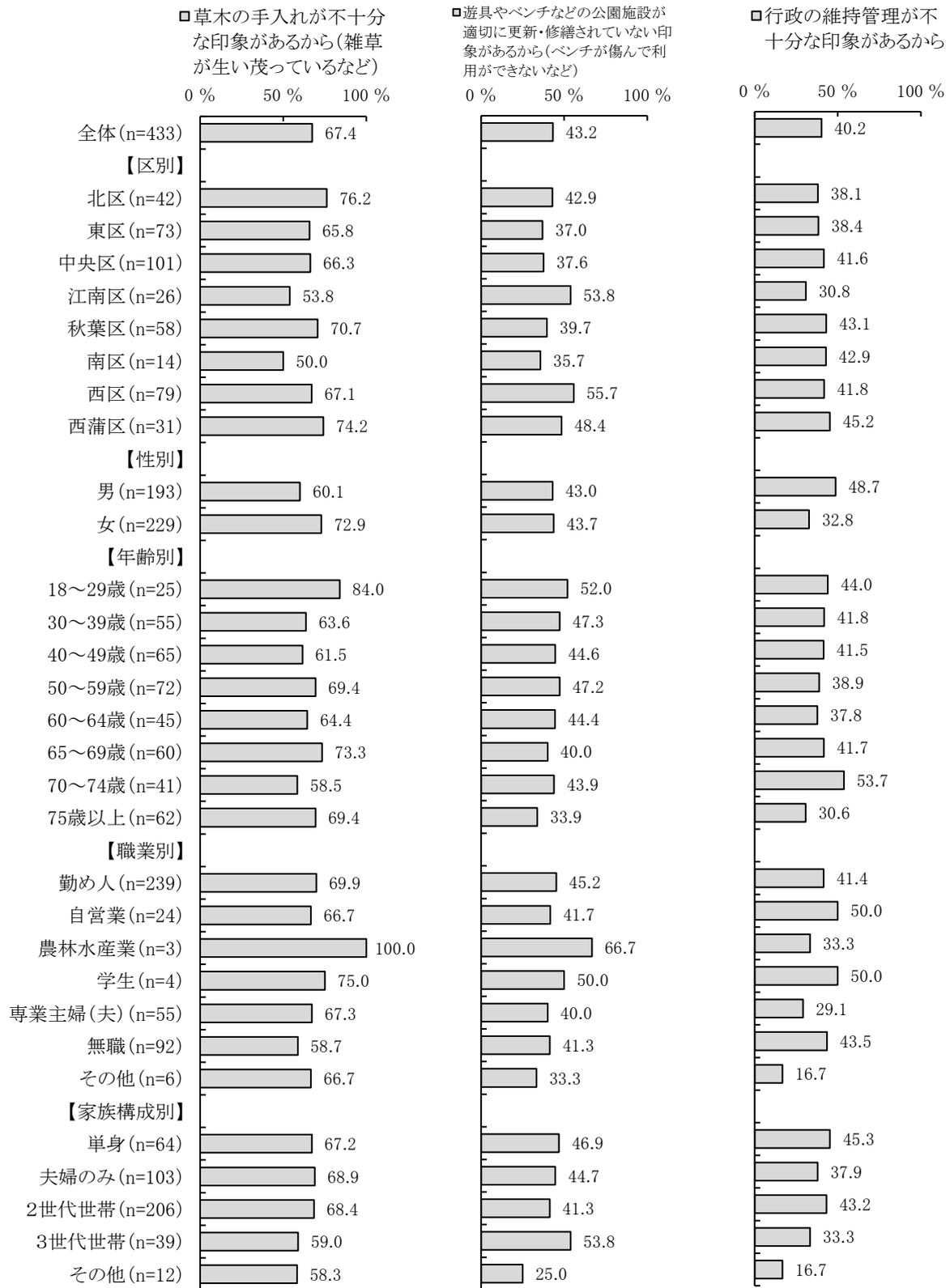
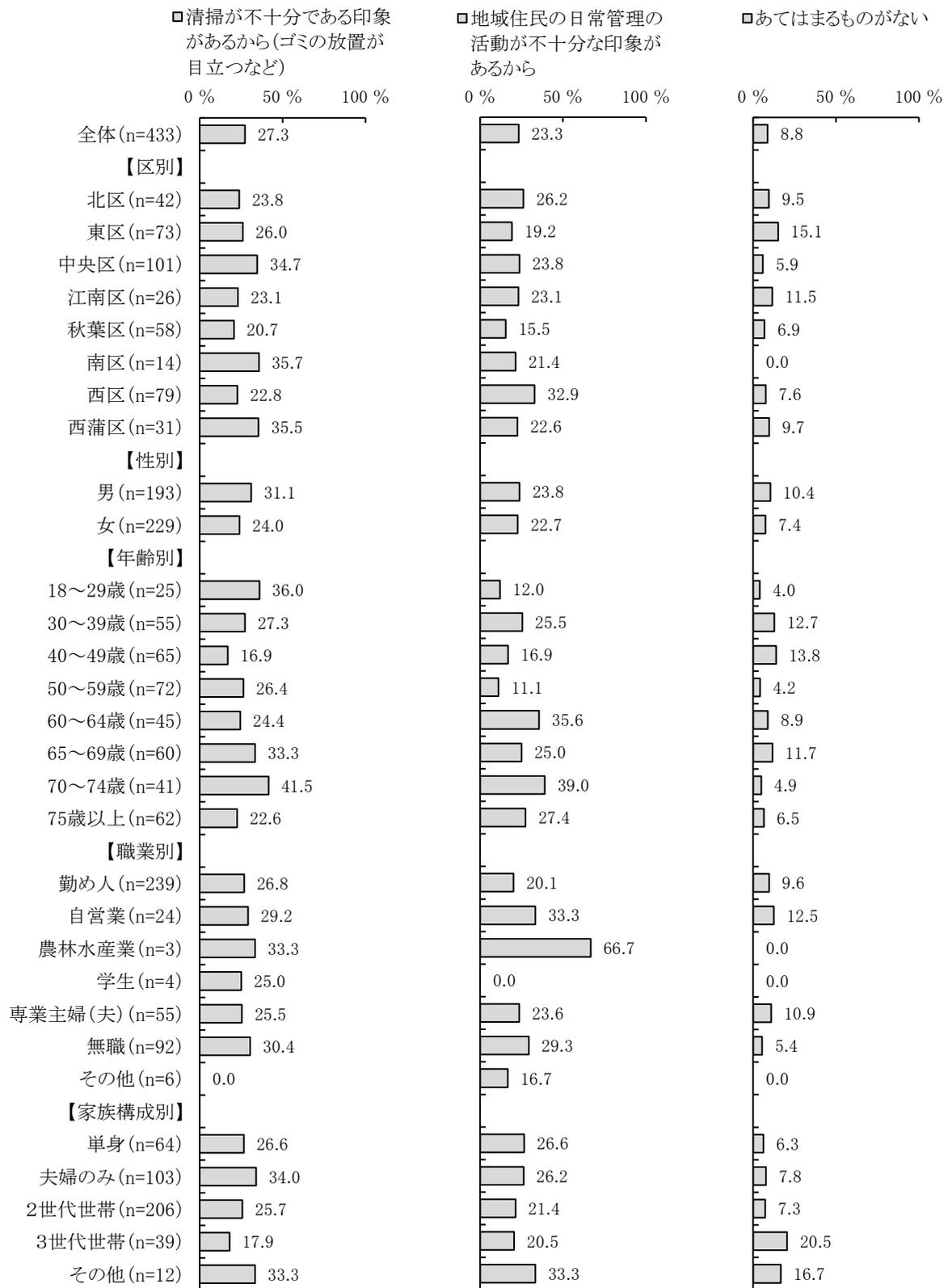


図 17.3 安心・安全で快適に利用できると思わない理由 2/2

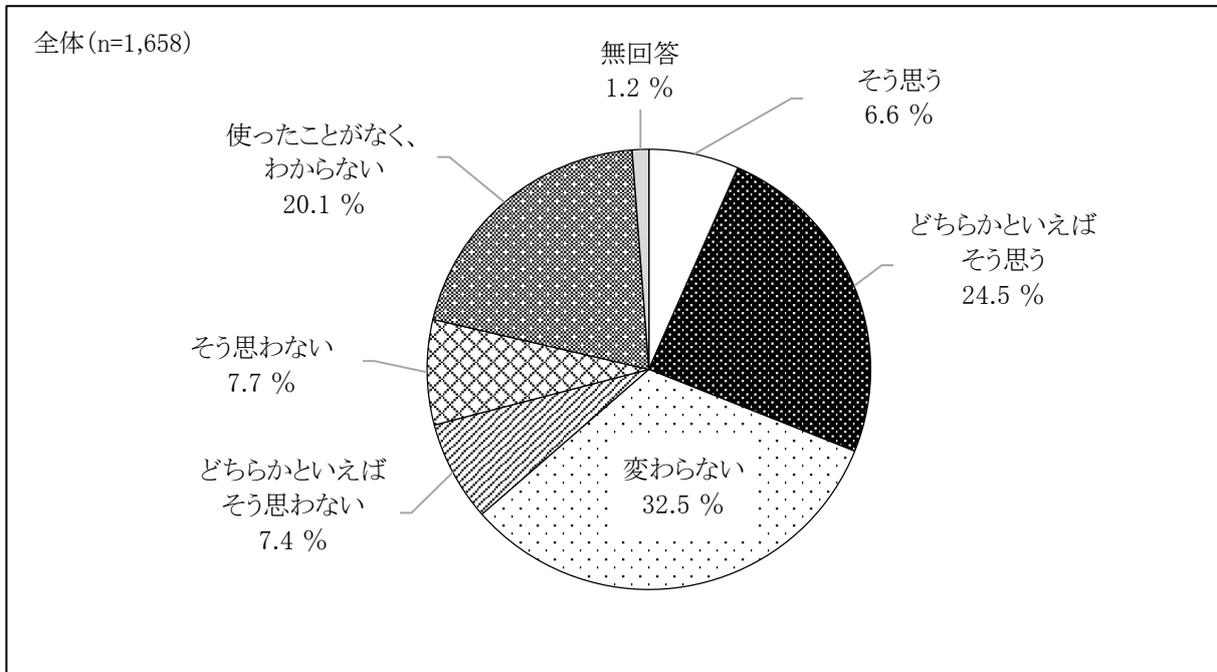
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



18. 広域的な交通インフラの利便性について

(1) 広域交通インフラの利便性

18-1 あなたは、新潟港、新潟空港、新潟駅、高速道路などの広域交通インフラの利便性が以前（1～3年前）と比べて良くなったと思いますか。
（○は1つだけ）



【全体結果】

安心・安全で快適に利用できるかについて、「変わらない」（32.5%）と答えた割合が最も高く、3割強となった。「そう思う」が6.6%、「どちらかといえばそう思う」が24.5%、「どちらかといえばそう思わない」が7.4%、「そう思わない」が7.7%となった。また、「使ったことがなく、わからない」（20.1%）は約2割となった。

【属性別結果】（次ページ図 18.1 参照）

① 区別

南区、西蒲区を除くすべての区で「変わらない」と答えた割合が最も高い。南区、西蒲区では「使ったことがなく、わからない」（それぞれ37.7%、27.8%）と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性とも「変わらない」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

75歳以上を除くすべての年代で「変わらない」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「変わらない」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「変わらない」と答えた割合が最も高い。

図 18.1 広域交通インフラの利便性

(区別/性別/年齢別)

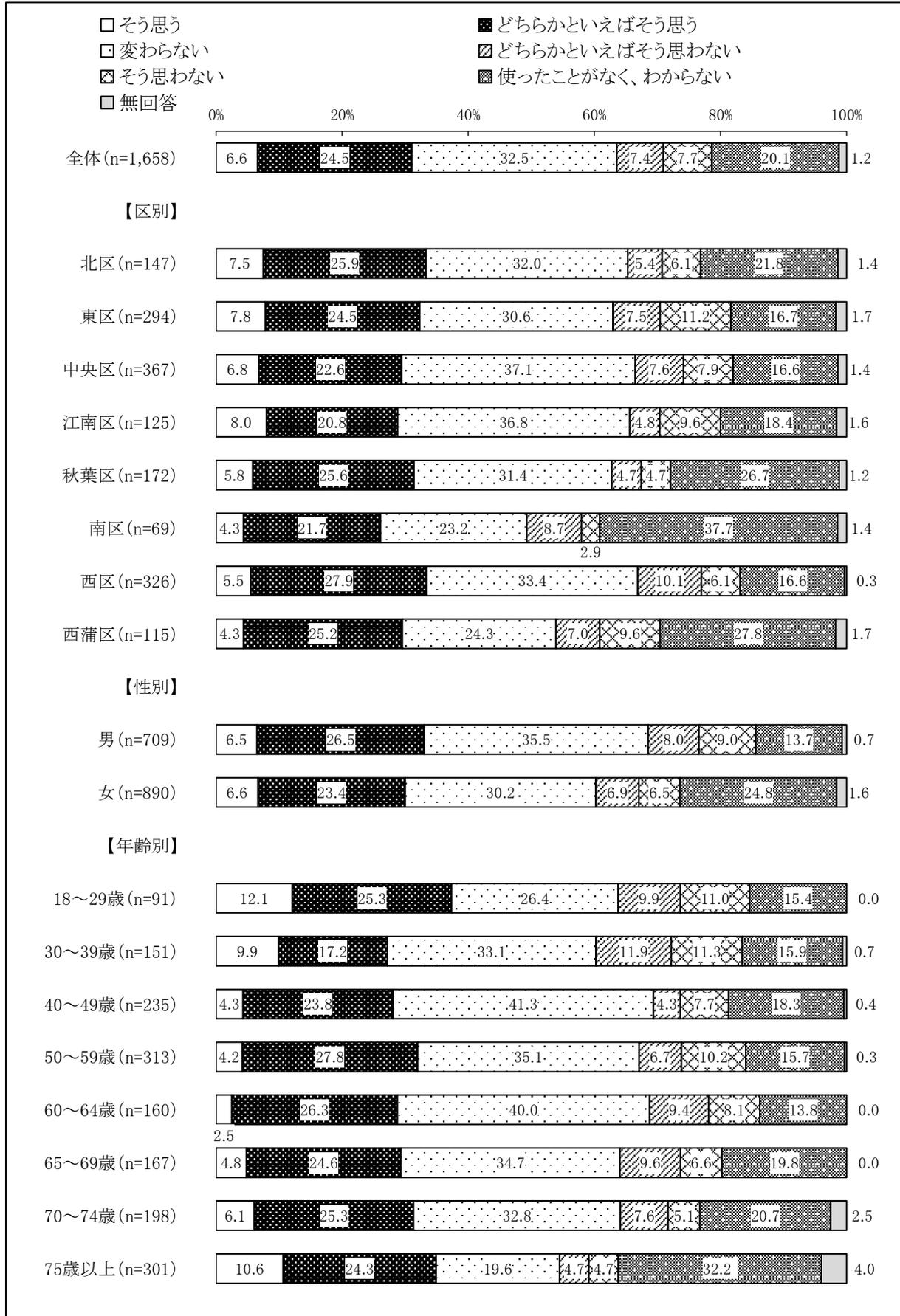
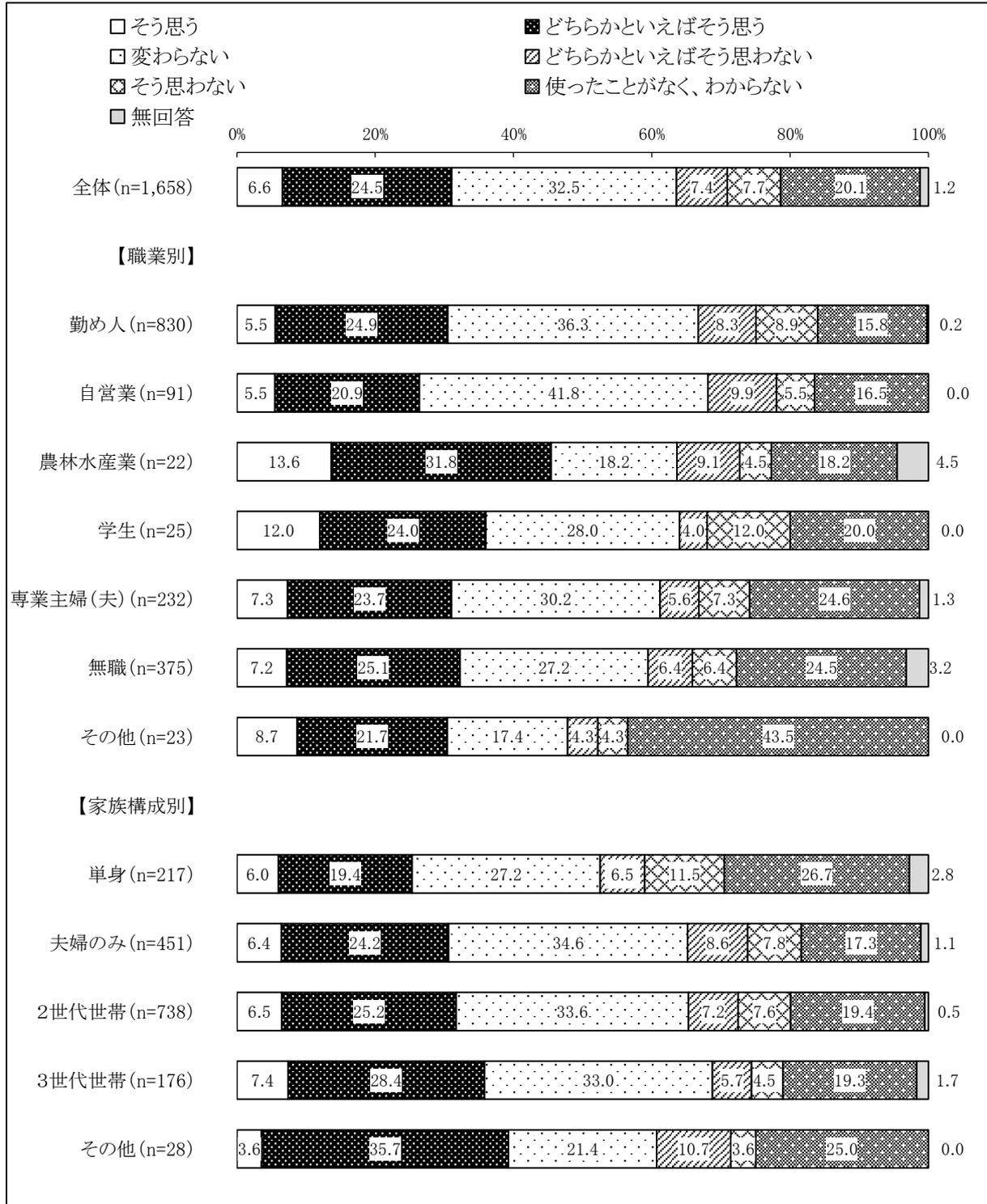


図 18.1 広域交通インフラの利便性

(職業別/家族構成別)

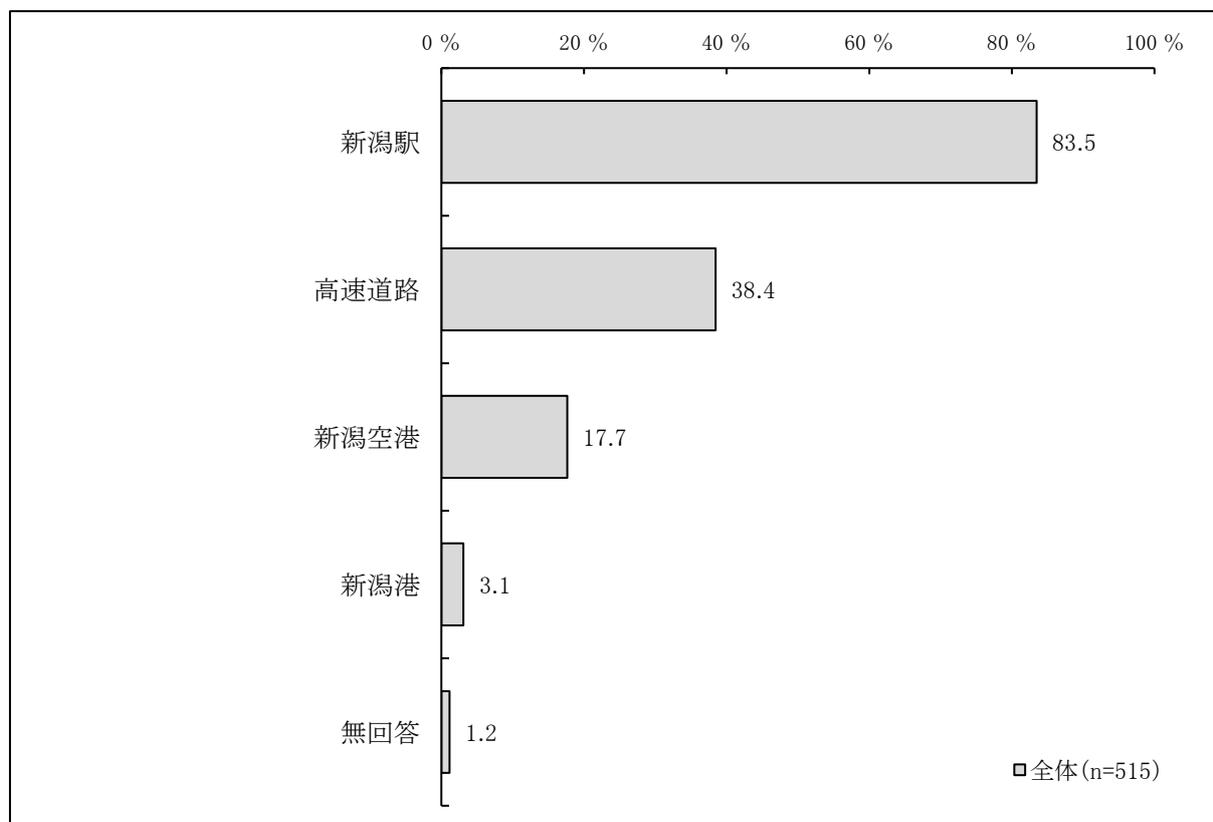


(2) 利便性が良くなった広域交通インフラの種類

上記 18-1 で①または②を選択した方に質問します。

18-2 そう思った広域交通インフラの種類を選択してください。

(〇はいくつでも)



【全体結果】

利便性が良くなった広域交通インフラの種類について、「新潟駅」(83.5%)と答えた割合が最も高く、8割強を占めた。次いで「高速道路」(38.4%)、「新潟空港」(17.7%)、「新潟港」(3.1%)となった。

【属性別結果】（次ページ図 18.2 参照）

① 区別

すべての区で「新潟駅」と答えた割合が最も高い。江南区では、他の区と比べて「新潟空港」（33.3%）と「高速道路」（52.8%）と答えた割合が高い。

② 性別

男性女性とも「新潟駅」と答えた割合が最も高い。「高速道路」と答えた割合は、女性（35.6%）より男性（41.5%）で高い。

③ 年齢別

すべての年代で「新潟駅」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「新潟駅」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「新潟駅」と答えた割合が最も高い。

図 18.2 利便性が良くなった広域交通インフラの種類 1/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

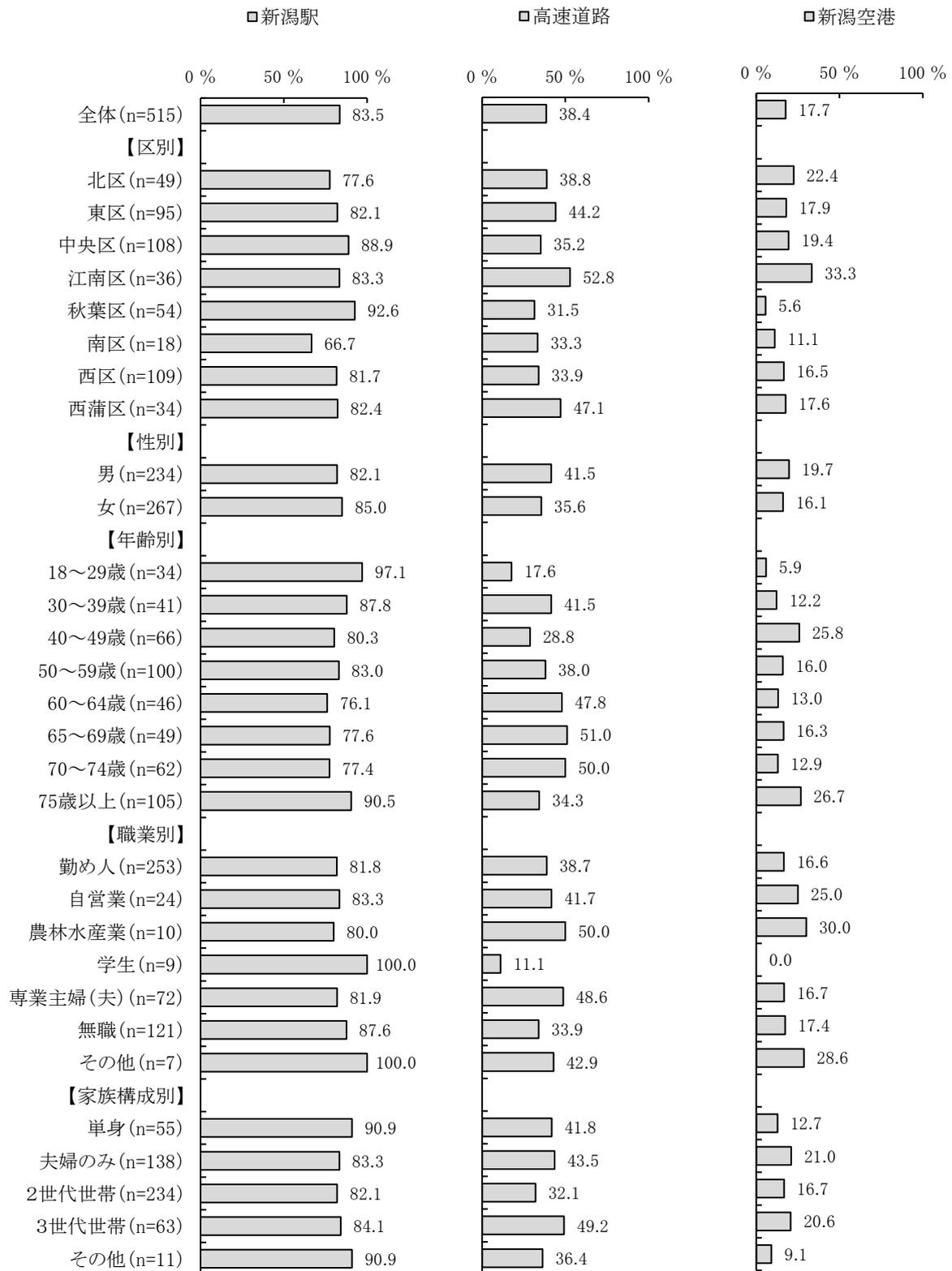


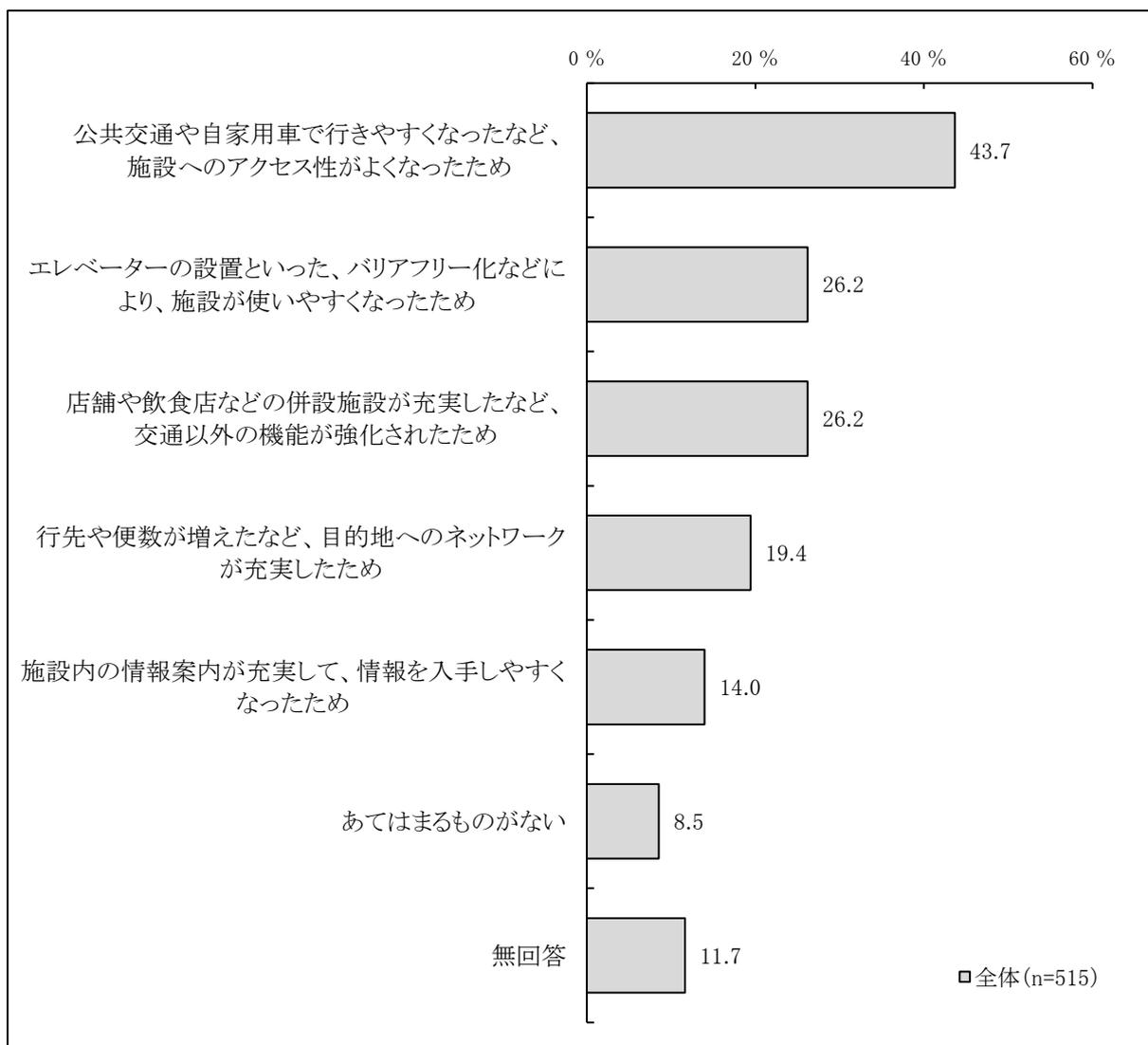
図 18.2 利便性が良くなった広域交通インフラの種類 2/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



(3) 利便性が良くなったと思う理由

引き続き 18-1 で①または②を選択した方に質問します。
18-3 そう思った理由としてあてはまるものを選択してください。
(○はいくつでも)



【全体結果】

利便性が良くなったと思う理由として、「公共交通や自家用車で行きやすくなったなど、施設へのアクセス性がよくなったため」(43.7%)と答えた割合が最も高く、4割強を占めた。次いで「エレベーターの設置といった、バリアフリー化などにより、施設が使いやすくなったため」(26.2%)、「店舗や飲食店などの併設施設が充実したなど、交通以外の機能が強化されたため」(26.2%)、「行先や便数が増えたなど、目的地へのネットワークが充実したため」(19.4%)、「施設内の情報案内が充実して、情報入手しやすくなったため」(14.0%)となった。

【属性別結果】（次ページ図 18.3 参照）

① 区別

すべての区で「公共交通や自家用車で行きやすくなったなど、施設へのアクセス性がよくなったため」と答えた割合が最も高い。西蒲区では、他の区と比べて「店舗や飲食店などの併設施設が充実したなど、交通以外の機能が強化されたため」（44.1%）と答えた割合が高い。

② 性別

男性女性とも「公共交通や自家用車で行きやすくなったなど、施設へのアクセス性がよくなったため」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

18～29歳を除くすべての年代で「公共交通や自家用車で行きやすくなったなど、施設へのアクセス性がよくなったため」と答えた割合が最も高い。18～29歳では「店舗や飲食店などの併設施設が充実したなど、交通以外の機能が強化されたため」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「公共交通や自家用車で行きやすくなったなど、施設へのアクセス性がよくなったため」と答えた割合が最も高い。

（農林水産業と学生は該当者数が少ないため除く。）

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「公共交通や自家用車で行きやすくなったなど、施設へのアクセス性がよくなったため」と答えた割合が最も高い。

図 18.3 利便性が良くなったと思う理由 1/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

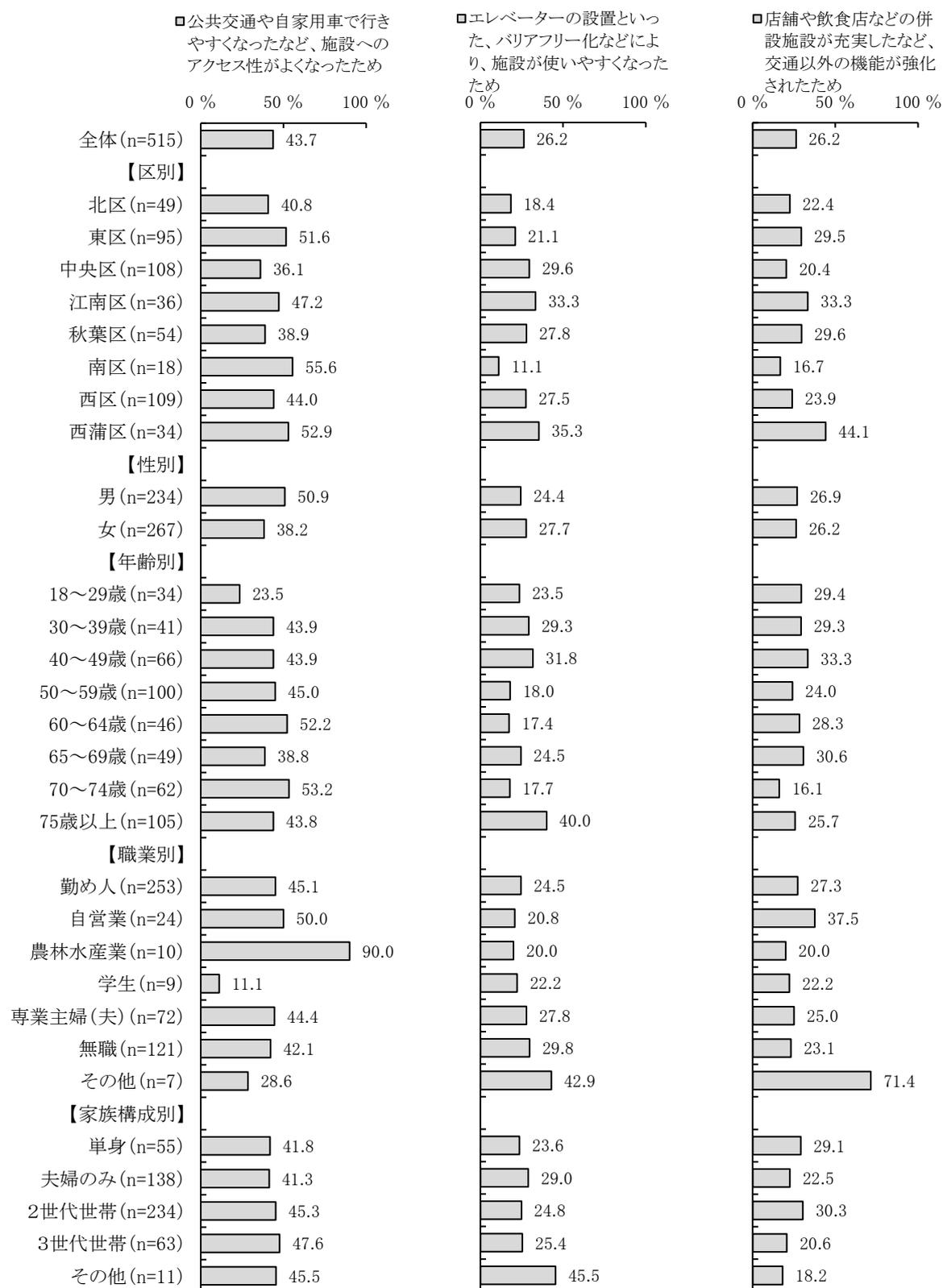


図 18.3 利便性が良くなったと思う理由 2/2

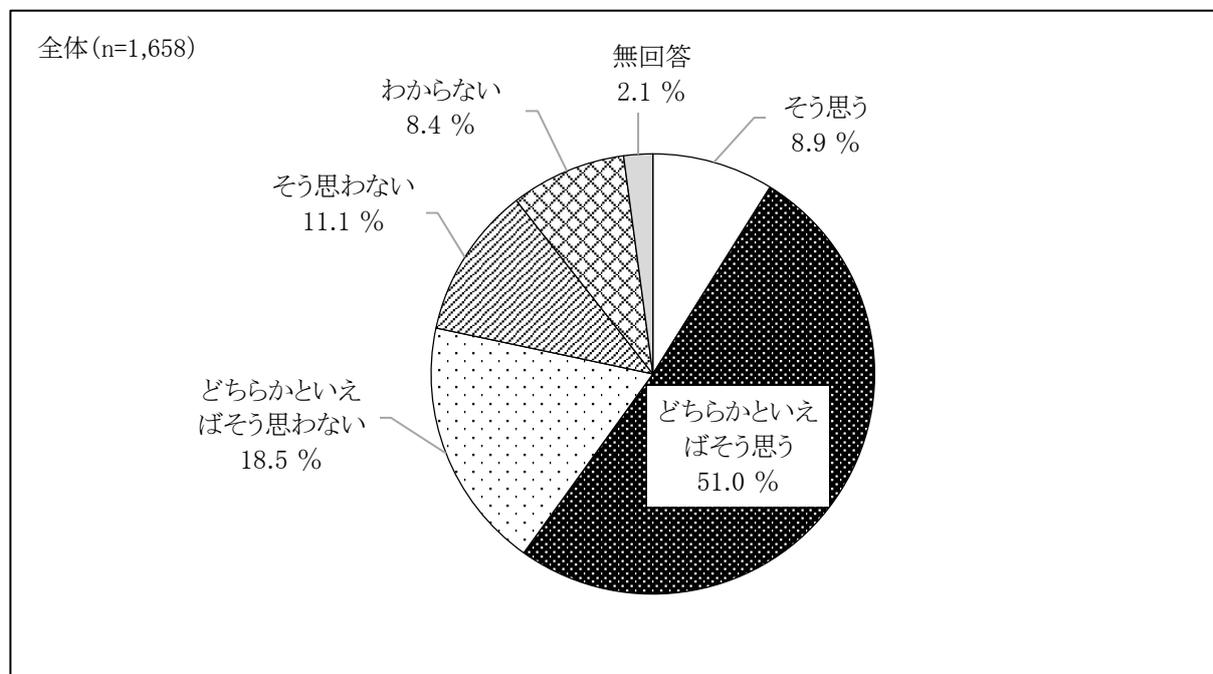
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



19. 道路の整備や管理について

(1) 適切に整備・管理されているか

19-1 あなたは、道路（橋を含む）が適切に整備・管理されていると思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

道路が適切に整備・管理されているかについて、「そう思う」が8.9%、「どちらかといえばそう思う」が51.0%、「どちらかといえばそう思わない」が18.5%、「そう思わない」が11.1%となった。

【属性別結果】（次ページ図 19.1 参照）

① 区別

すべての区で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、5割前後となった。

② 性別

「そう思わない」と答えた割合は、女性（9.3%）より男性（13.4%）でやや高い。

③ 年齢別

すべての年代で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、5割前後となった。「そう思う」と答えた割合は、18～29歳（16.5%）で最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、5割前後となった。「そう思う」と答えた割合は、学生（28.0%）で最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、5割前後となった。

図 19.1 適切に整備・管理されているか

(区別/性別/年齢別)

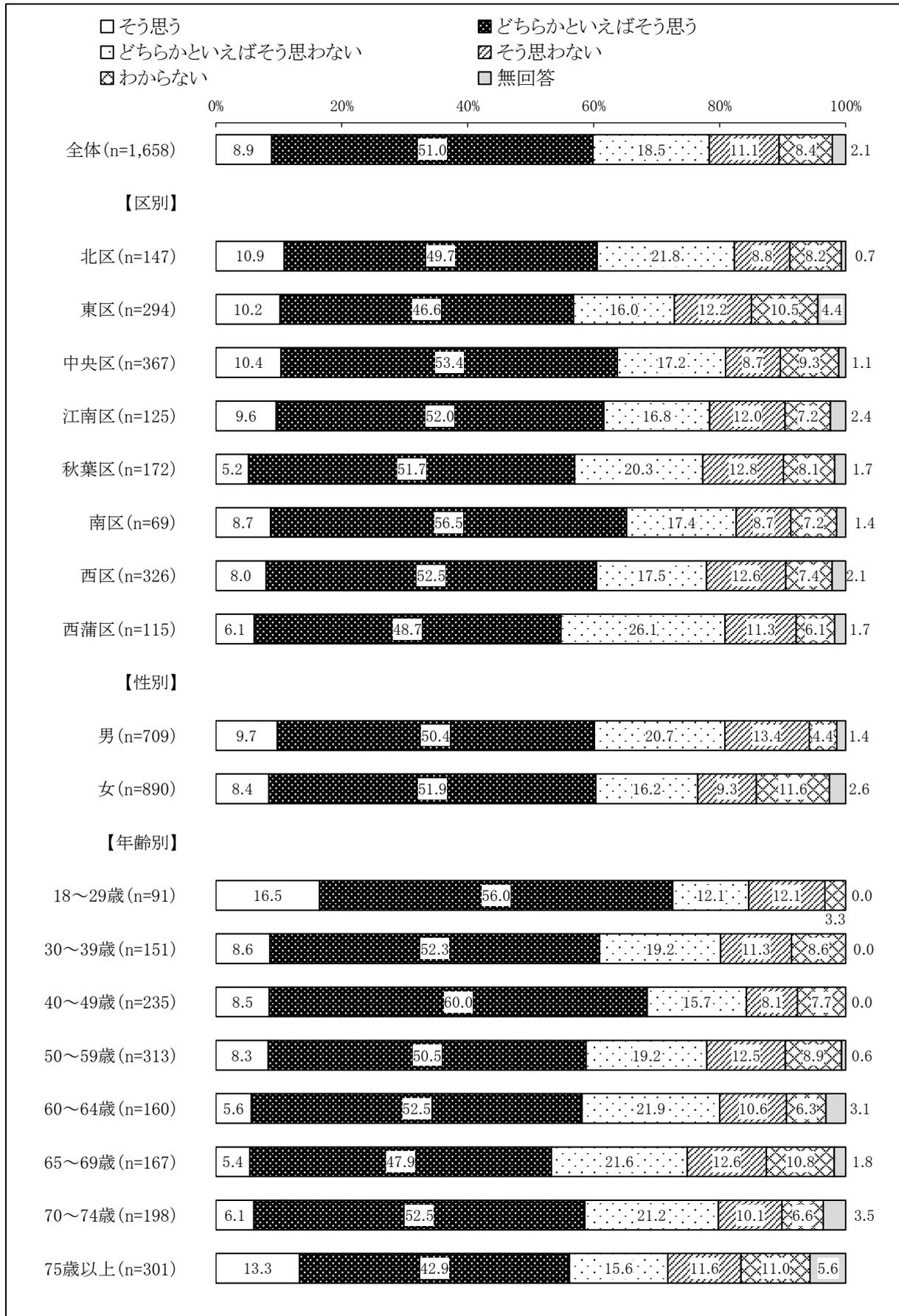
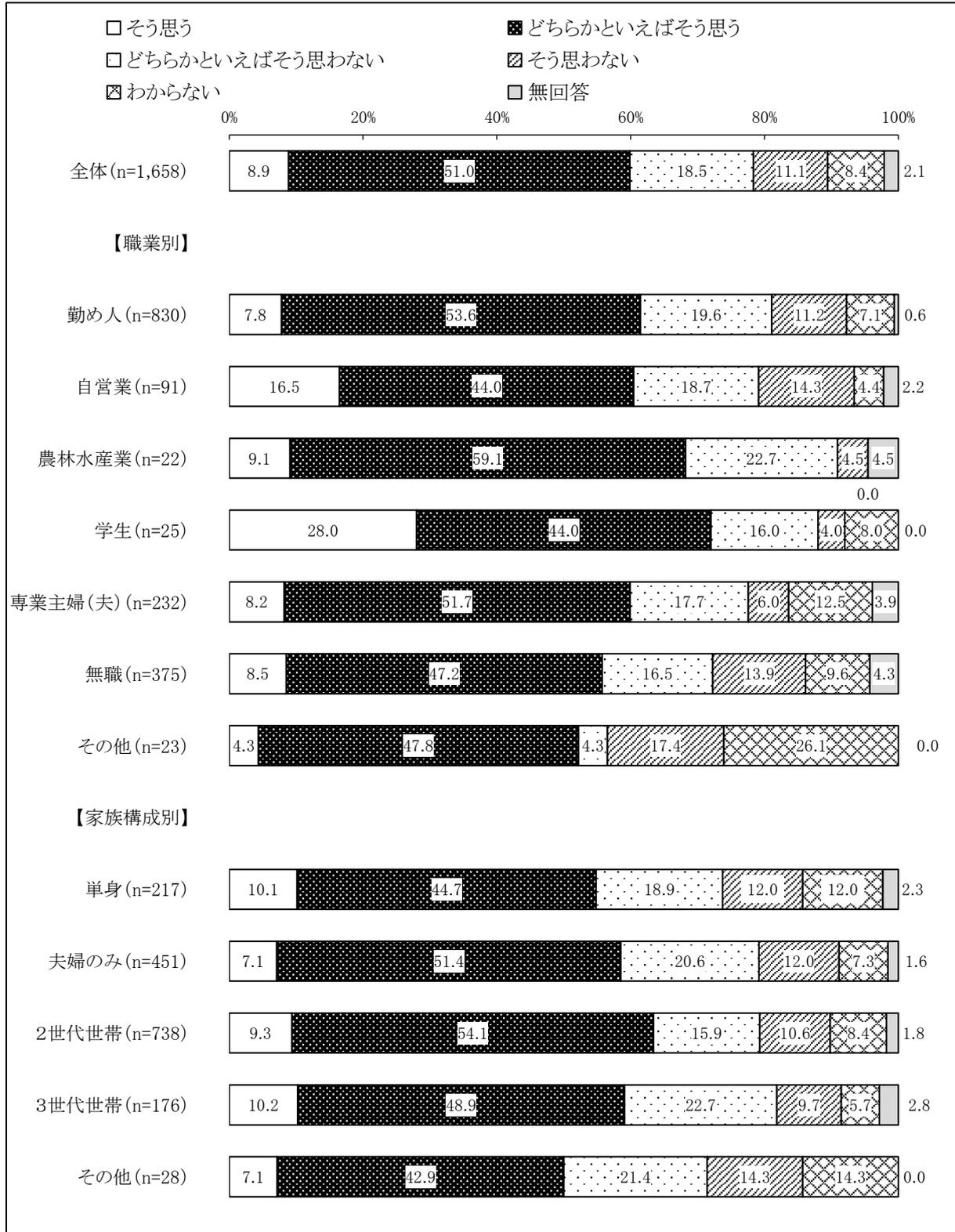


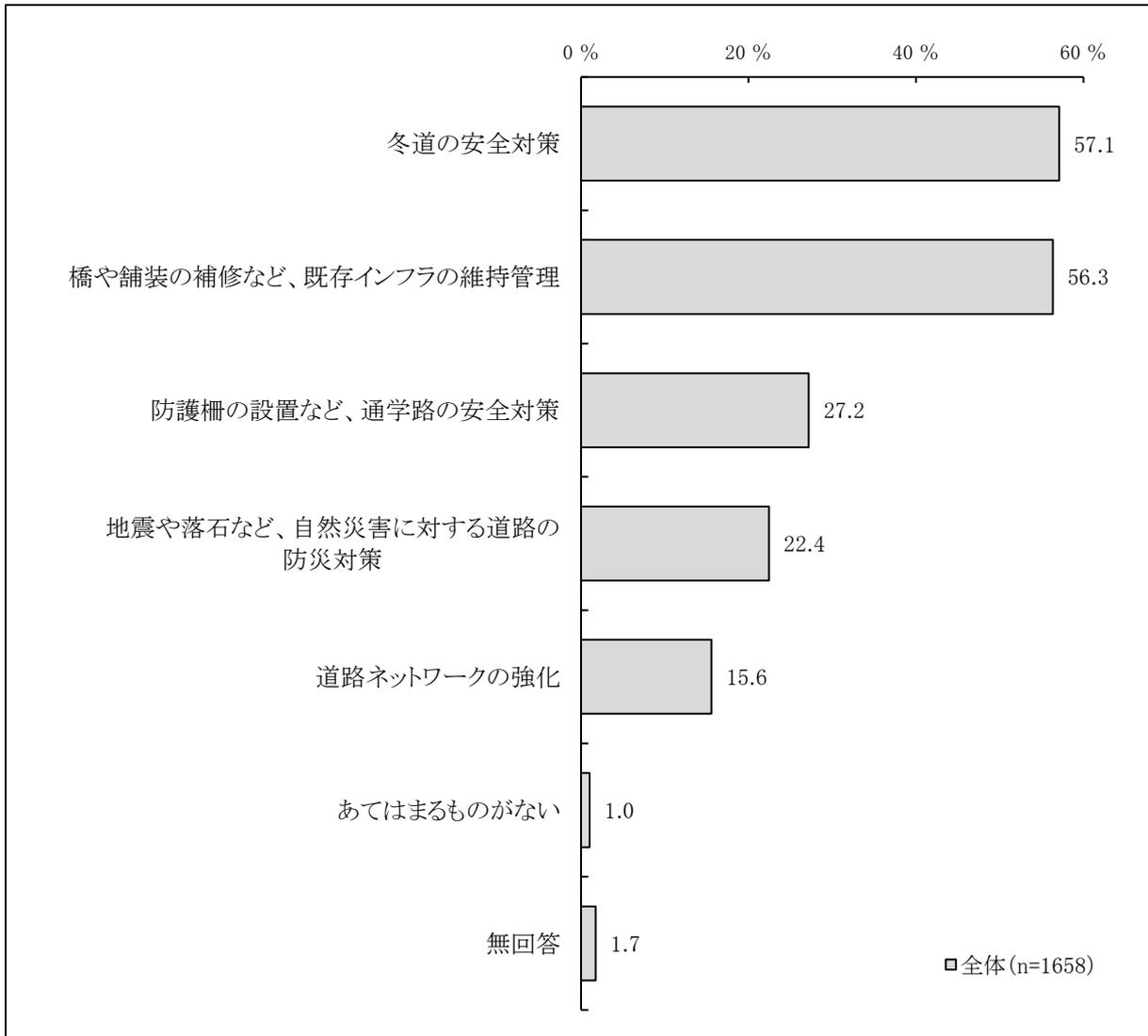
図 19.1 適切に整備・管理されているか

(職業別／家族構成別)



(2) 今後の道路の整備や管理で大事だと思うこと

19-2 今後の道路の整備や管理について、あなたが大事だと思うものはどれですか。
(〇は2つまで)



【全体結果】

今後の道路の整備や管理で大事だと思うこととして、「冬道の安全対策」(57.1%)と答えた割合が最も高く、次いで「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」(56.3%)が6割弱を占めた。以下「防護柵の設置など、通学路の安全対策」(27.2%)、「地震や落石など、自然災害に対する道路の防災対策」(22.4%)、「道路ネットワークの強化」(15.6%)となった。

【属性別結果】（次ページ図 19.2 参照）

① 区別

北区、東区、秋葉区、南区、西区では「冬道の安全対策」と答えた割合が最も高く、中央区、江南区、西蒲区では「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性では「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」（63.2%）と答えた割合が最も高く、女性では「冬道の安全対策」（61.2%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

18～29歳、40～49歳では「冬道の安全対策」と答えた割合が最も高く、30～39歳、50～59歳、60～64歳、70歳以上では「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」と答えた割合が最も高い。65～69歳では「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」と「冬道の安全対策」（ともに61.7%）と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

勤め人（パートも含む）では「冬道の安全対策」、自営業、農林水産、無職では「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」、学生では「地震や落石など、自然災害に対する道路の防災対策」、専業主婦（夫）では「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」と「冬道の安全対策」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

夫婦のみを除くすべての家族構成で「冬道の安全対策」と答えた割合が最も高い。夫婦のみでは「橋や舗装の補修など、既存インフラの維持管理」と答えた割合が最も高い。

図 19.2 今後の道路の整備や管理で大事だと思うこと 1/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

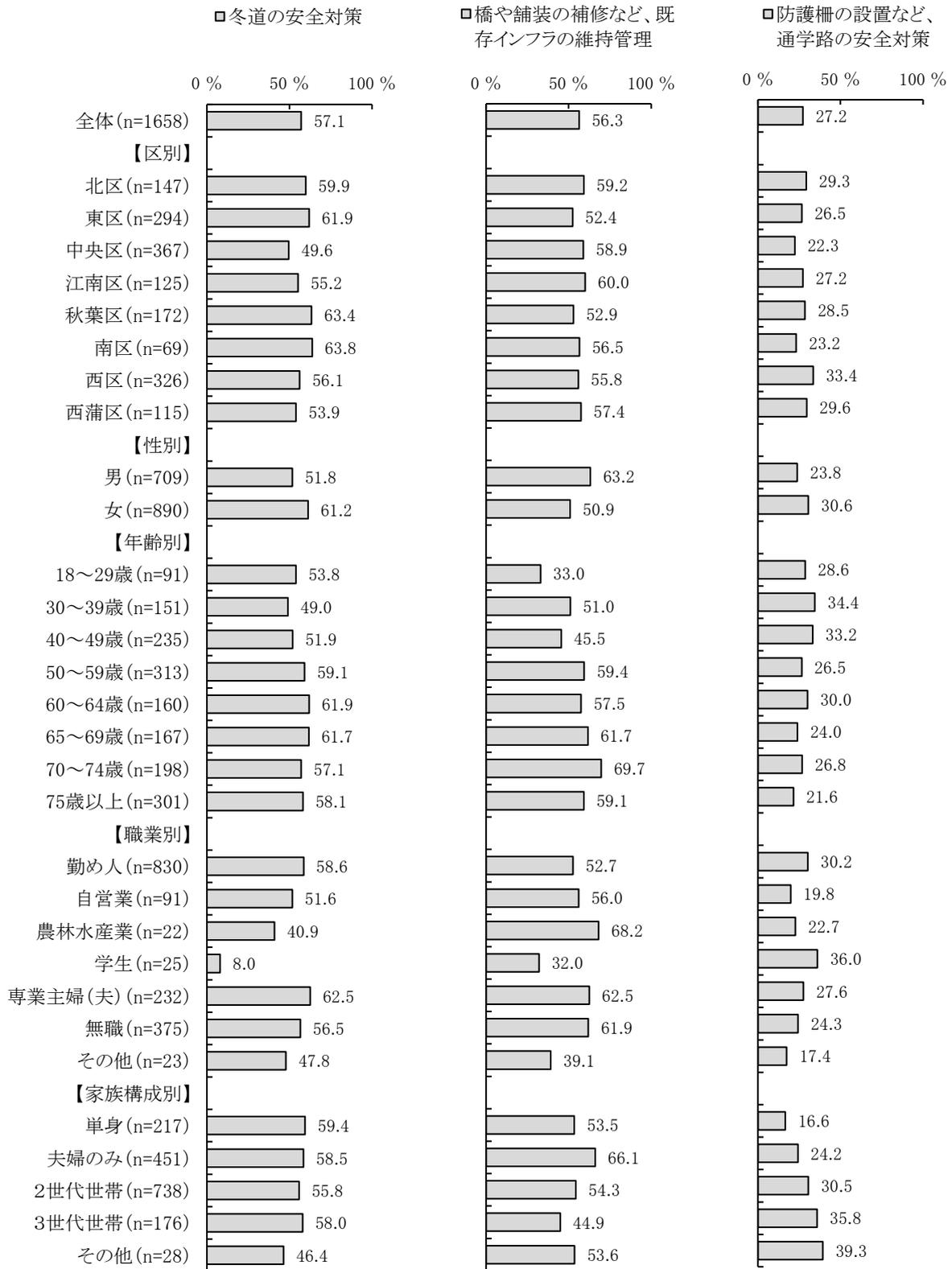
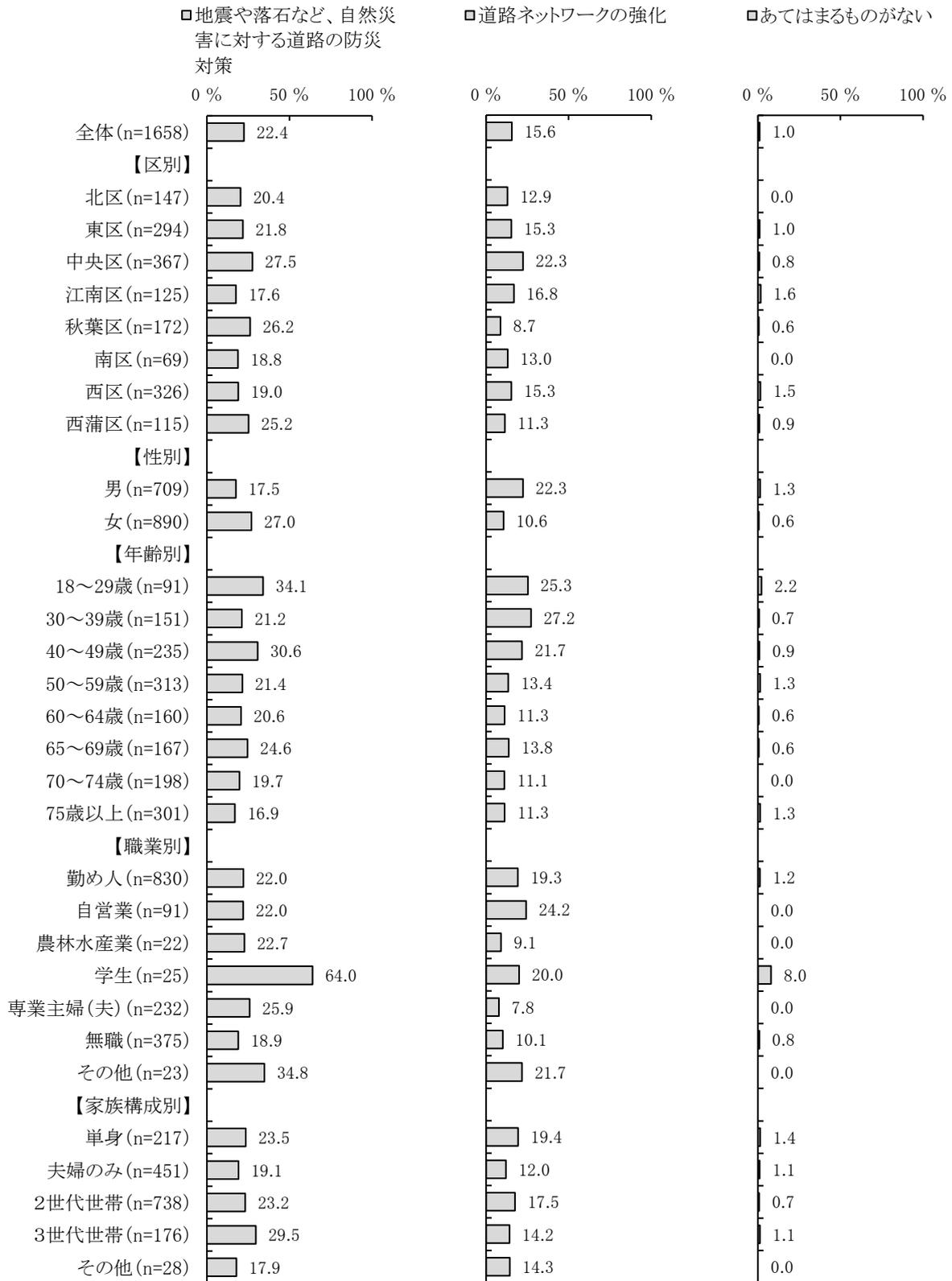


図 19.2 今後の道路の整備や管理で大事だと思うこと 2/2

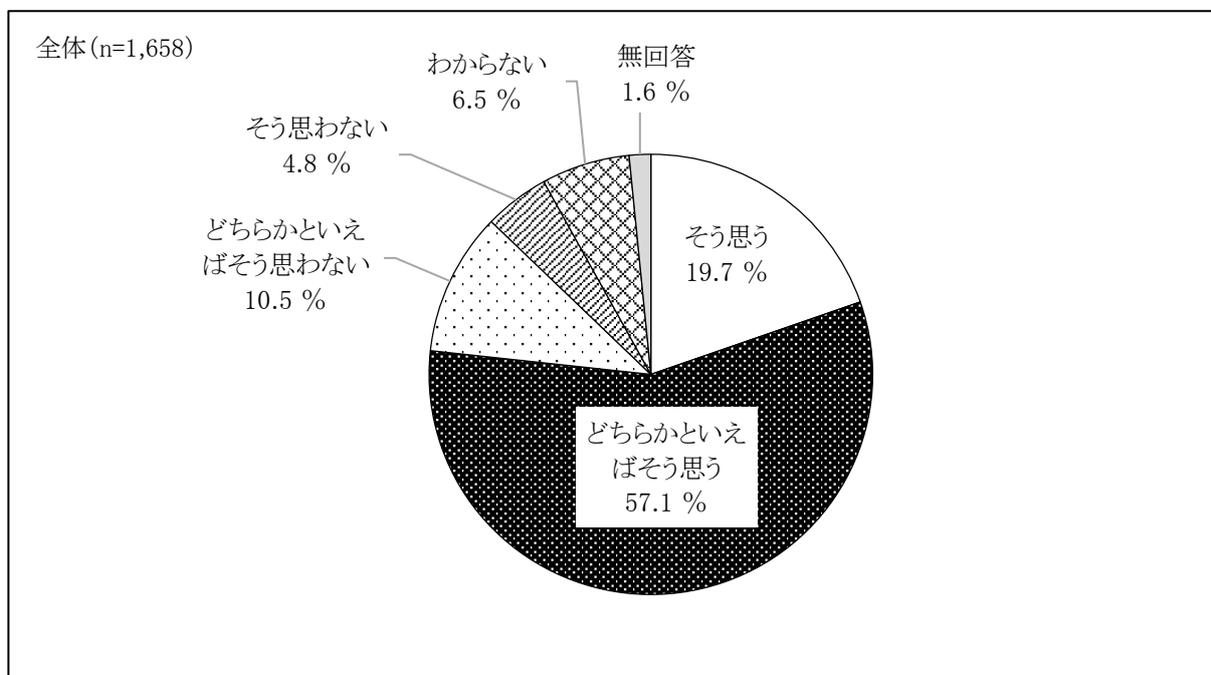
(区別/性別/年齢別/職業別/家族構成別)



20. 生活環境について

(1) 生活環境は良好か

20-1 安心・安全な市民生活のためには良好な生活環境の確保が必要です。
あなたは、現在の生活環境（大気・水・音など）について良好であると思いますか。
（○は1つだけ）



【全体結果】

生活環境は良好かについて、「そう思う」が19.7%、「どちらかといえばそう思う」が57.1%、「どちらかといえばそう思わない」が10.5%、「そう思わない」が4.8%となった。

【属性別結果】（次ページ図20.1参照）

① 区別

すべての区で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、過半数を超えた。

② 性別

「そう思う」と答えた割合は、女性（17.8%）より男性（22.7%）でやや高い。

③ 年齢別

すべての年代で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、「そう思う」と答えた割合は、18～29歳（30.8%）で最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、「そう思う」と答えた割合は、学生（40.0%）で最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、過半数を超えた。

図 20.1 生活環境は良好か

(区別/性別/年齢別)

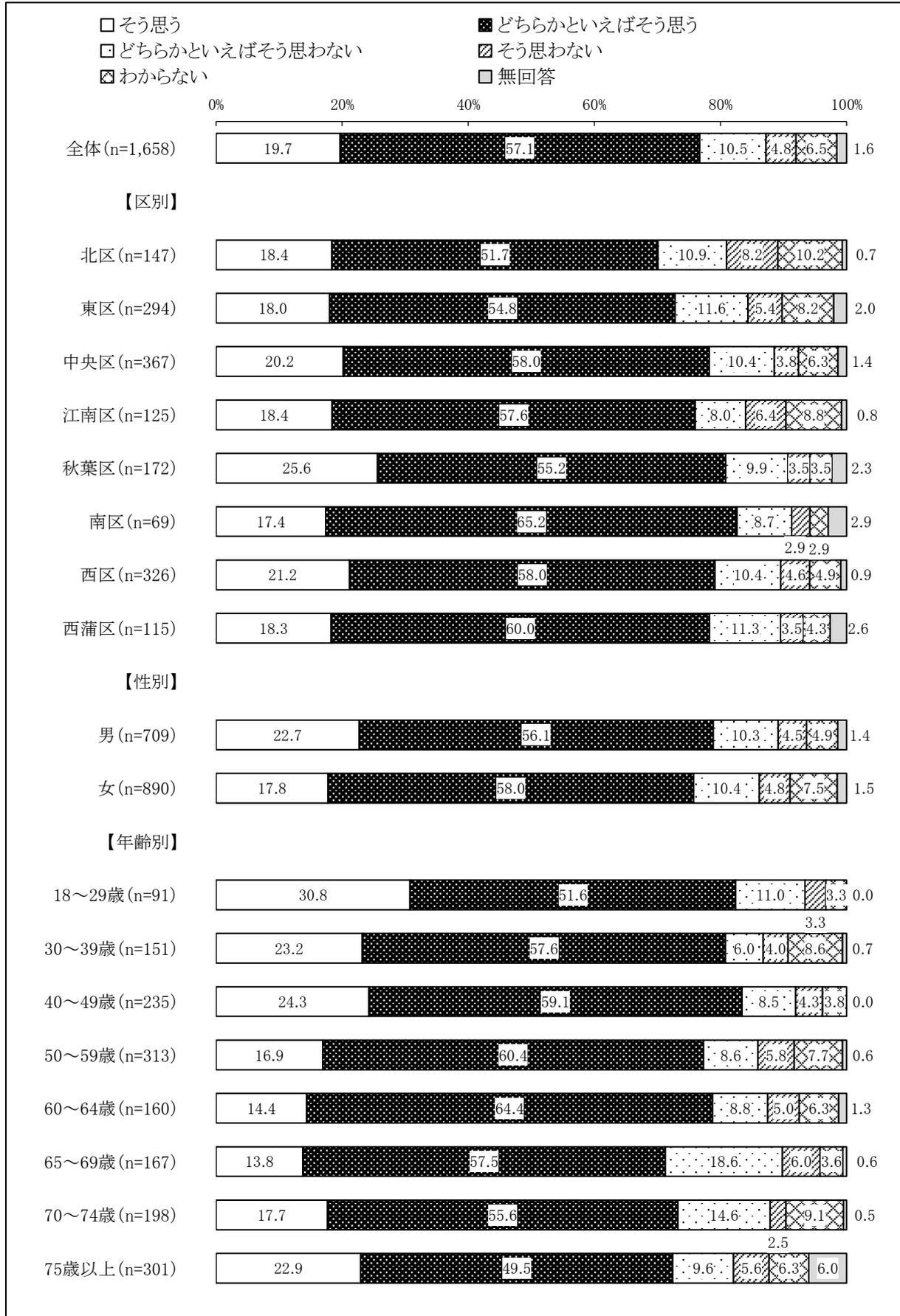
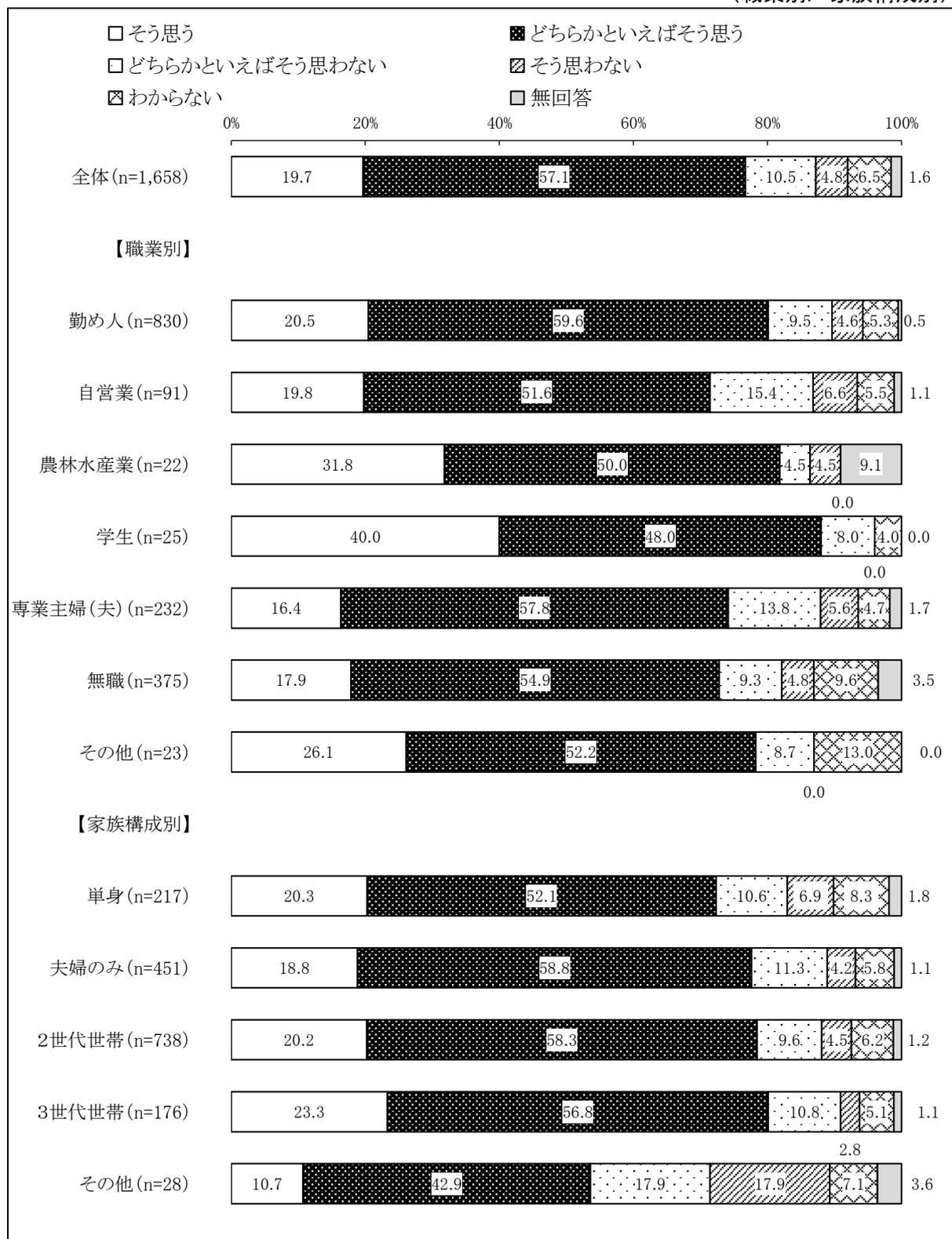


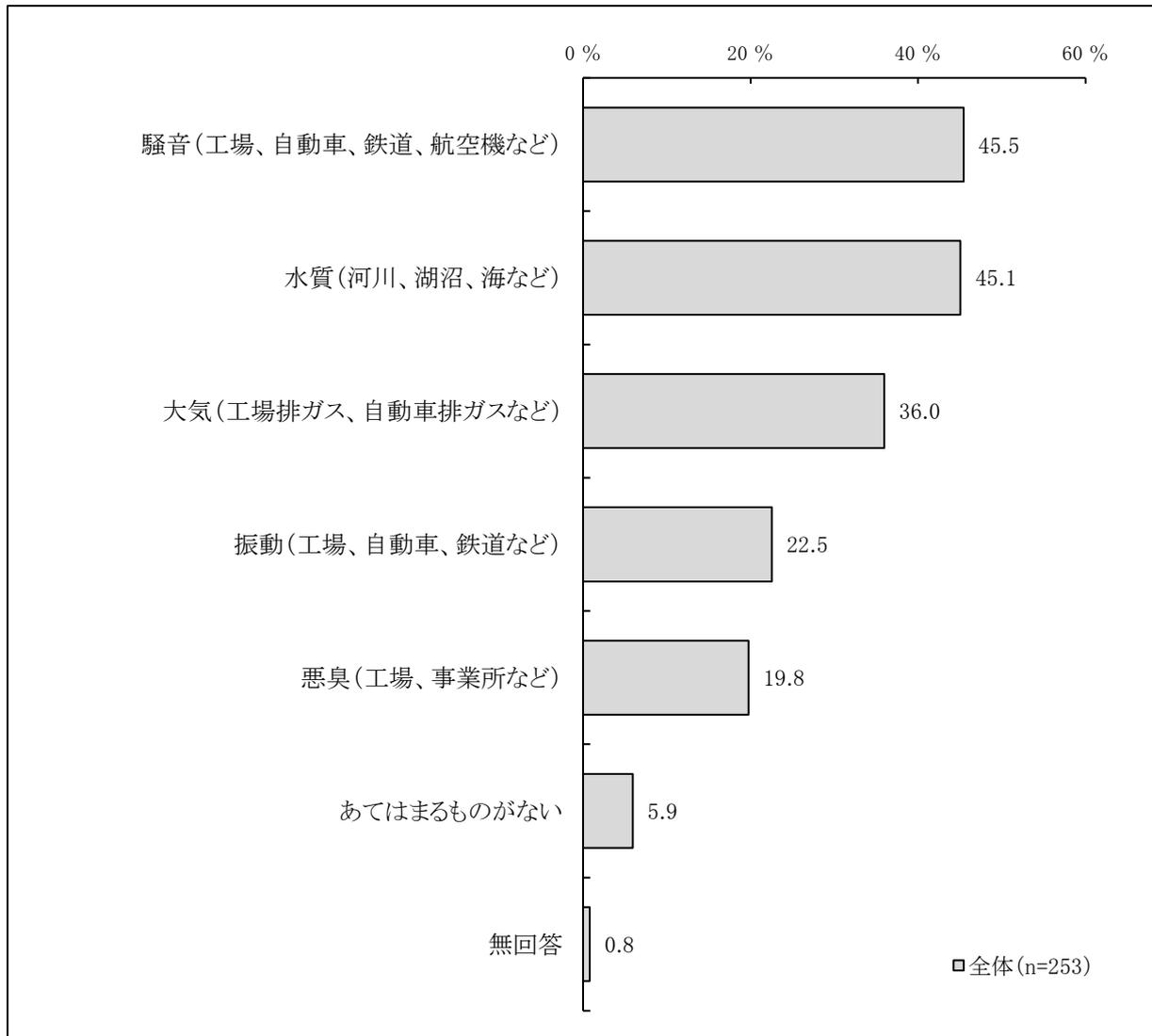
図 20.1 生活環境は良好か

(職業別／家族構成別)



(2) 生活環境で良好ではないと思うもの

上記 20-1 で③または④を選択した方に質問します。
20-2 次のうち、良好ではないと思うものを選択してください。
(○はいくつでも)



【全体結果】

生活環境で良好ではないと思うものとして、「騒音(工場、自動車、鉄道、航空機など)」(45.5%)と答えた割合が最も高く、次いで「水質(河川、湖沼、海など)」(45.1%)が4割半ばを占めた。以下「大気(工場排ガス、自動車排ガスなど)」(36.0%)、「振動(工場、自動車、鉄道など)」(22.5%)、「悪臭(工場、事業所など)」(19.8%)となった。

【属性別結果】（次ページ図 20.2 参照）

① 性別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

② 性別

男性では「騒音（工場、自動車、鉄道、航空機など）」（54.3%）と答えた割合が最も高く、女性では「水質（河川、湖沼、海など）」（52.9%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

65歳以上の高齢層では「騒音（工場、自動車、鉄道、航空機など）」と答えた割合が高い。

④ 職業別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

⑤ 家族構成別

単身、夫婦のみでは「騒音（工場、自動車、鉄道、航空機など）」と答えた割合が最も高く、2世代世帯（親と子）、3世代世帯（親と子と孫）では「水質（河川、湖沼、海など）」と答えた割合が最も高い。

図 20.2 生活環境で良好ではないと思うもの 1/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

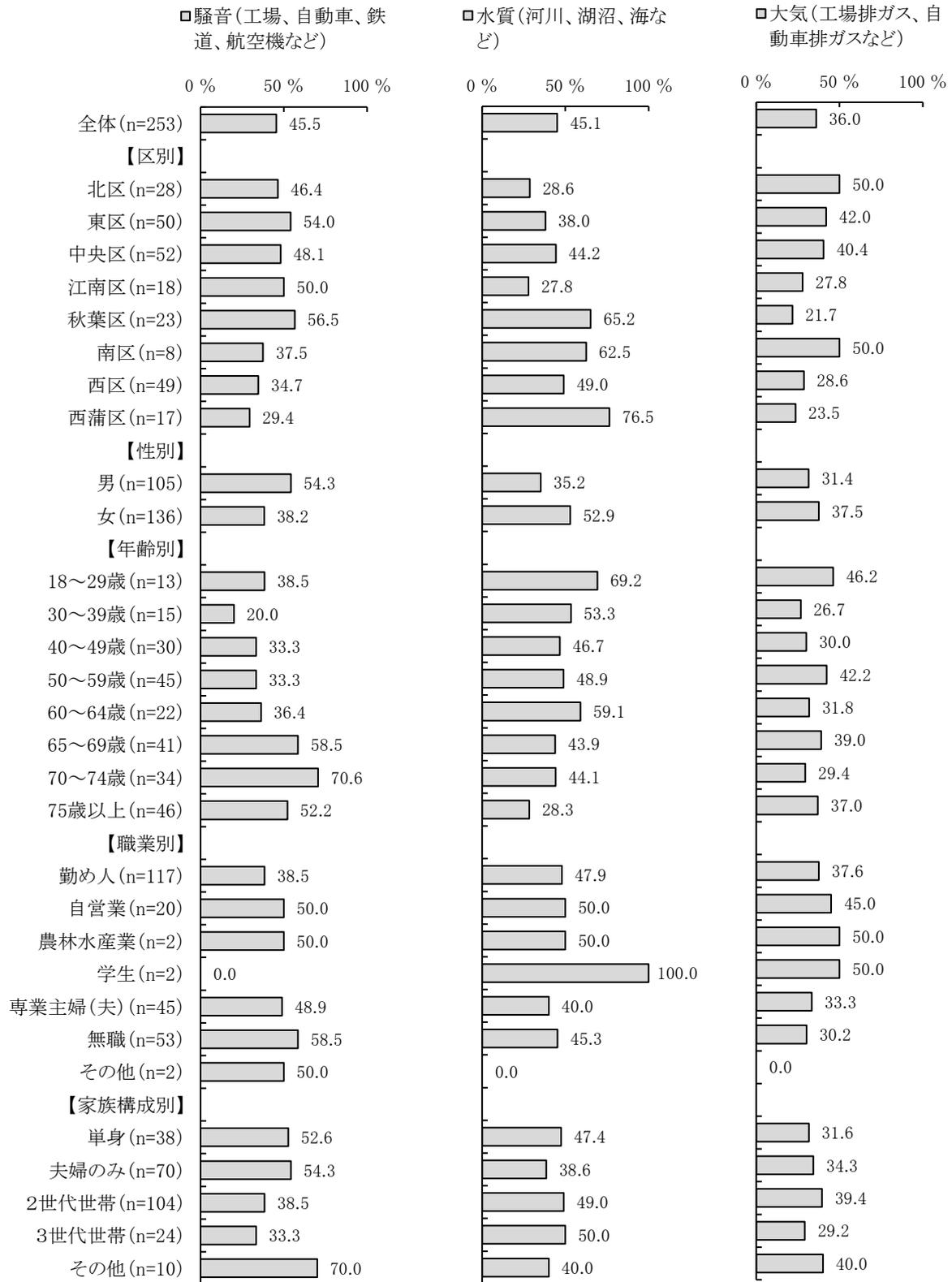
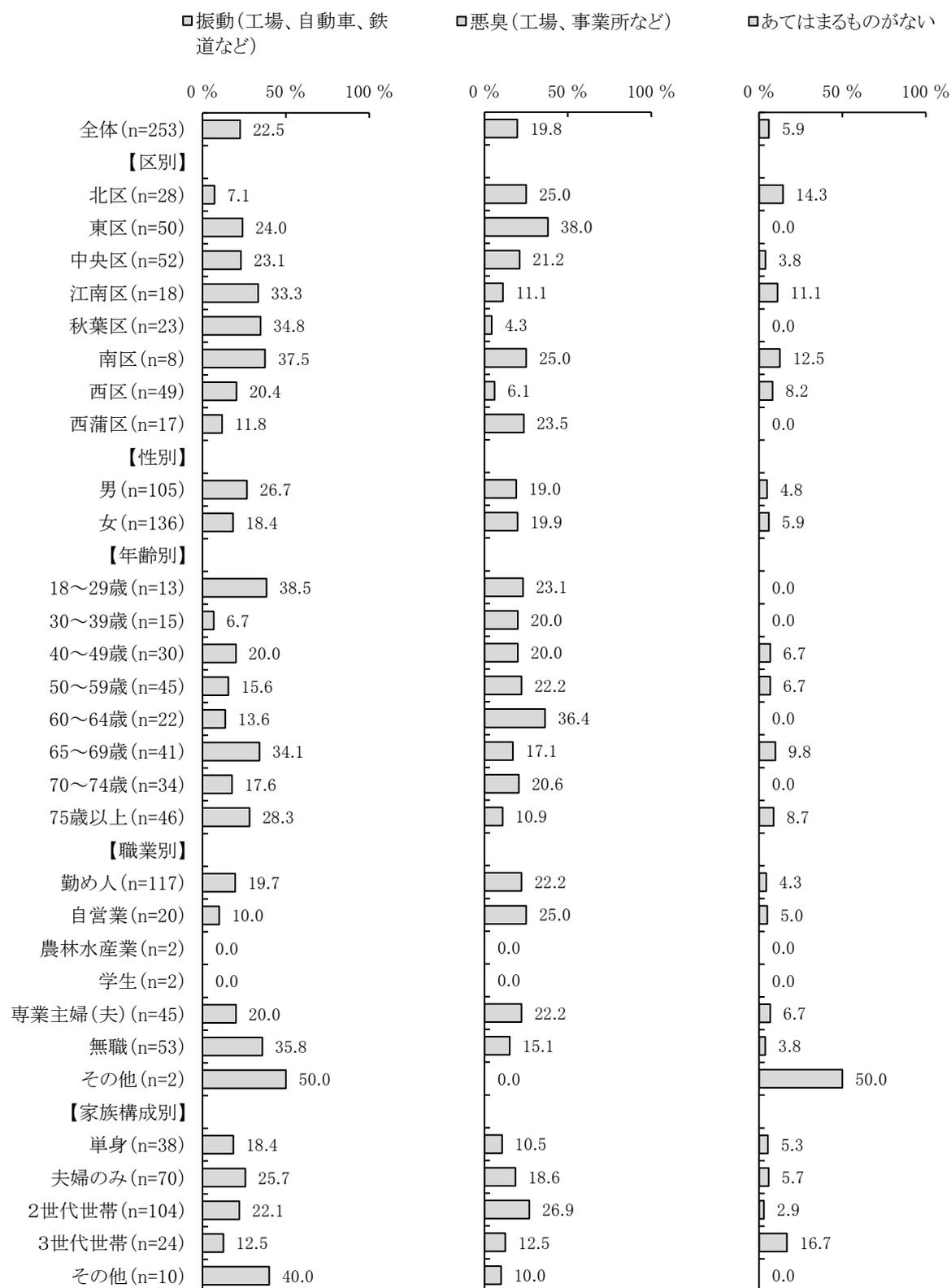


図 20.2 生活環境で良好ではないと思うもの 2/2

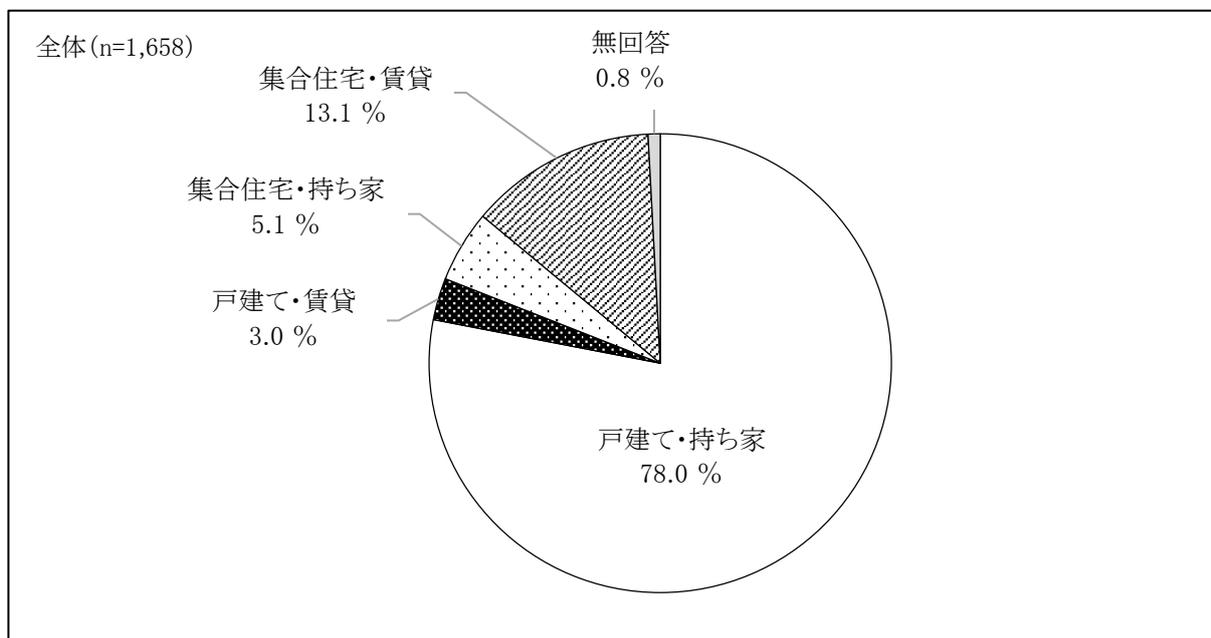
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



2 1. 住環境について

(1) 現在の住まい

21-1 あなたの今現在のお住まいについて、当てはまるものを選択してください。
(○は1つだけ)



【全体結果】

今現在のお住まいについて、「戸建て・持ち家」(78.0%)と答えた割合が最も高く、約8割を占めた。次いで「集合住宅・賃貸」が13.1%、「集合住宅・持ち家」が5.1%、「戸建て・賃貸」が3.0%となった。

【属性別結果】(次ページ図 21.1 参照)

① 区別

すべての区で「戸建て・持ち家」と答えた割合が最も高い。中央区では、他の区と比べて「集合住宅・持ち家」(17.2%)と答えた割合が高い。

② 性別

「集合住宅・賃貸」と答えた割合は、女性(11.9%)より男性(15.2%)で高い。

③ 年齢別

すべての年代で「戸建て・持ち家」と答えた割合が最も高い。「集合住宅・賃貸」と答えた割合は40歳未満で3割以上と高く、若年層ほど割合が高い傾向にある。

④ 職業別

すべての年代で「戸建て・持ち家」と答えた割合が最も高い。学生では、他の区と比べて「集合住宅・賃貸」(40.0%)と答えた割合が高い。

⑤ 家族構成別

単身を除くすべての家族構成で「戸建て・持ち家」と答えた割合が最も高い。単身では、「集合住宅・賃貸」(45.6%)と答えた割合が最も高い。

図 21.1 現在の住まい

(区別/性別/年齢別)

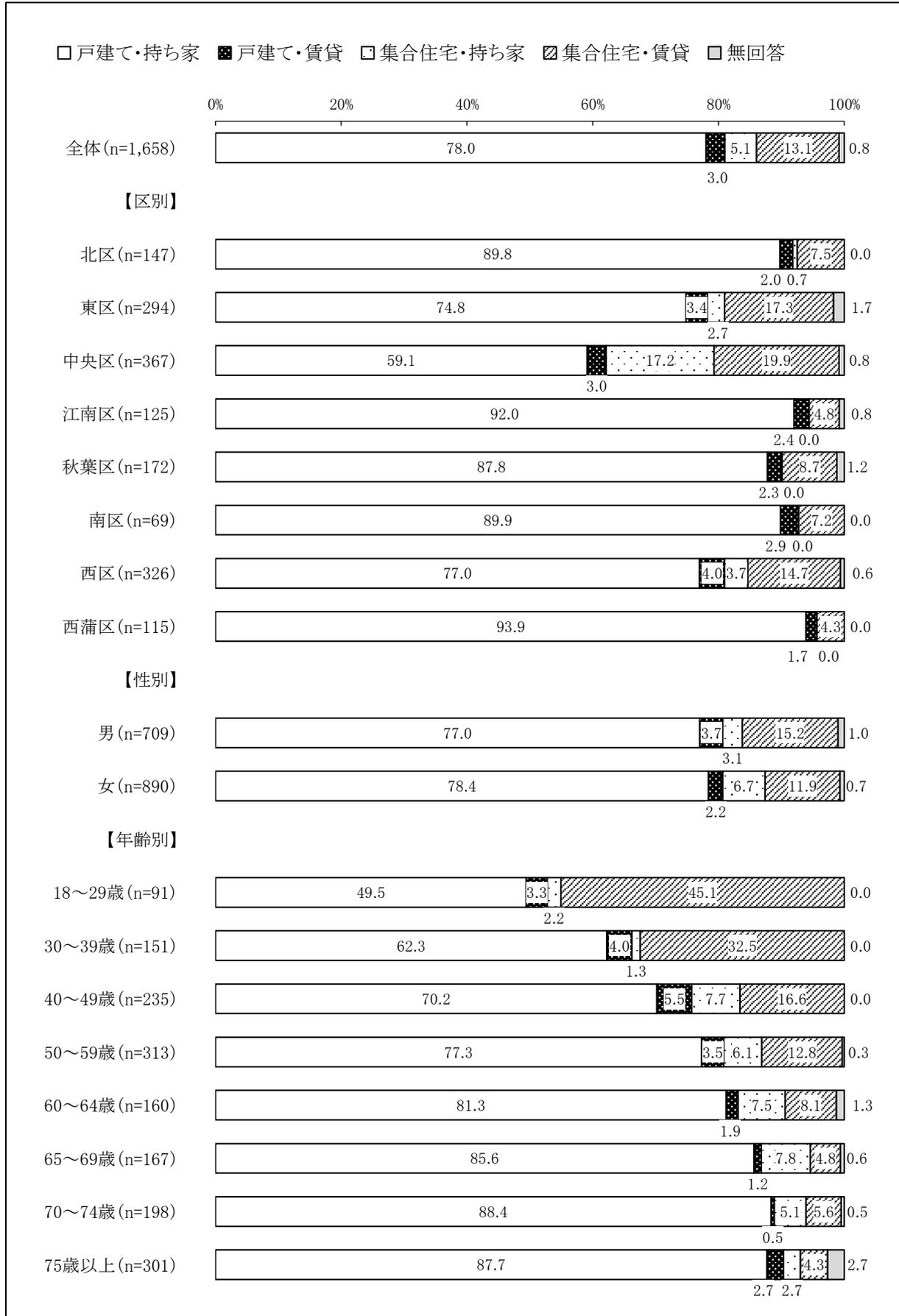
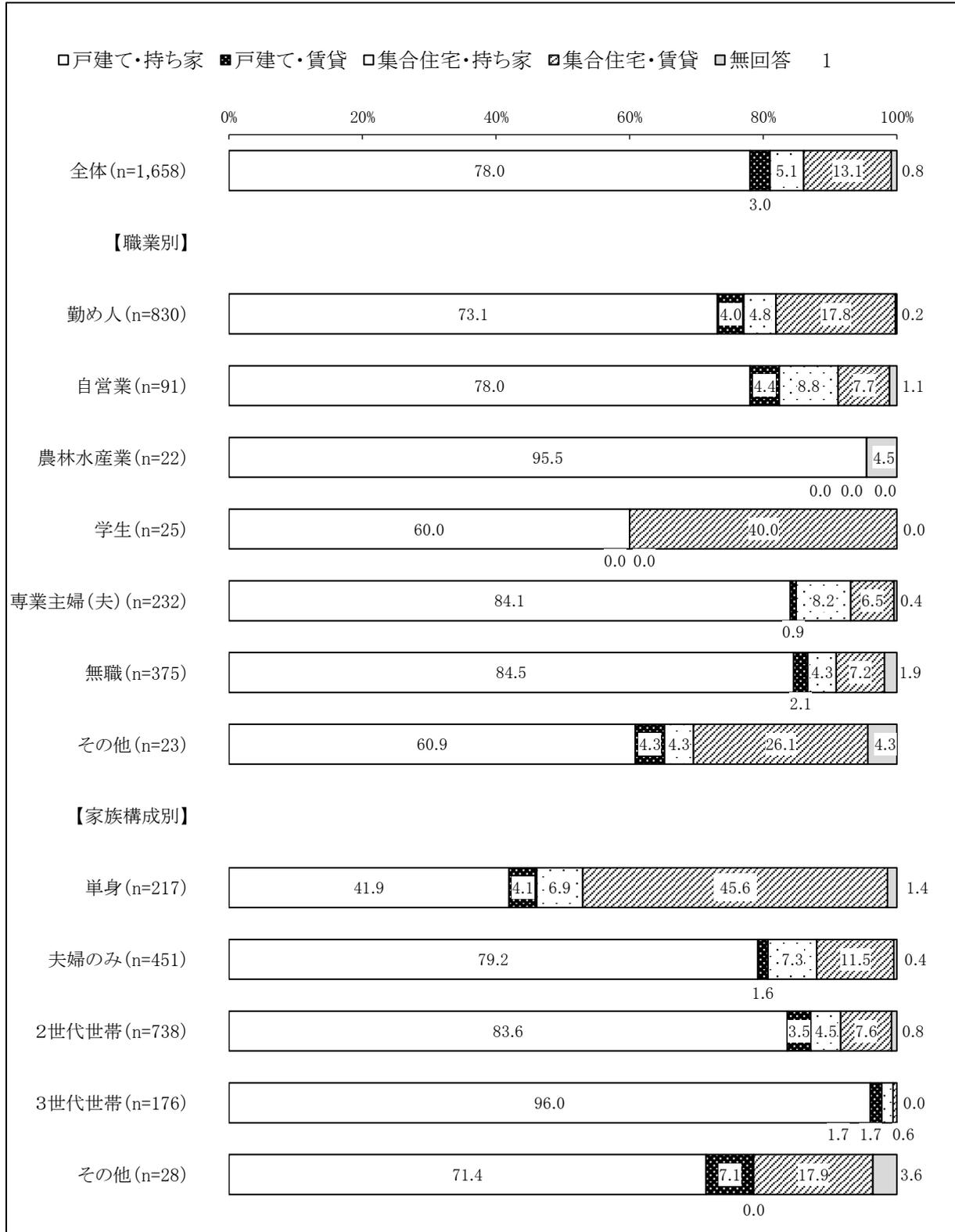


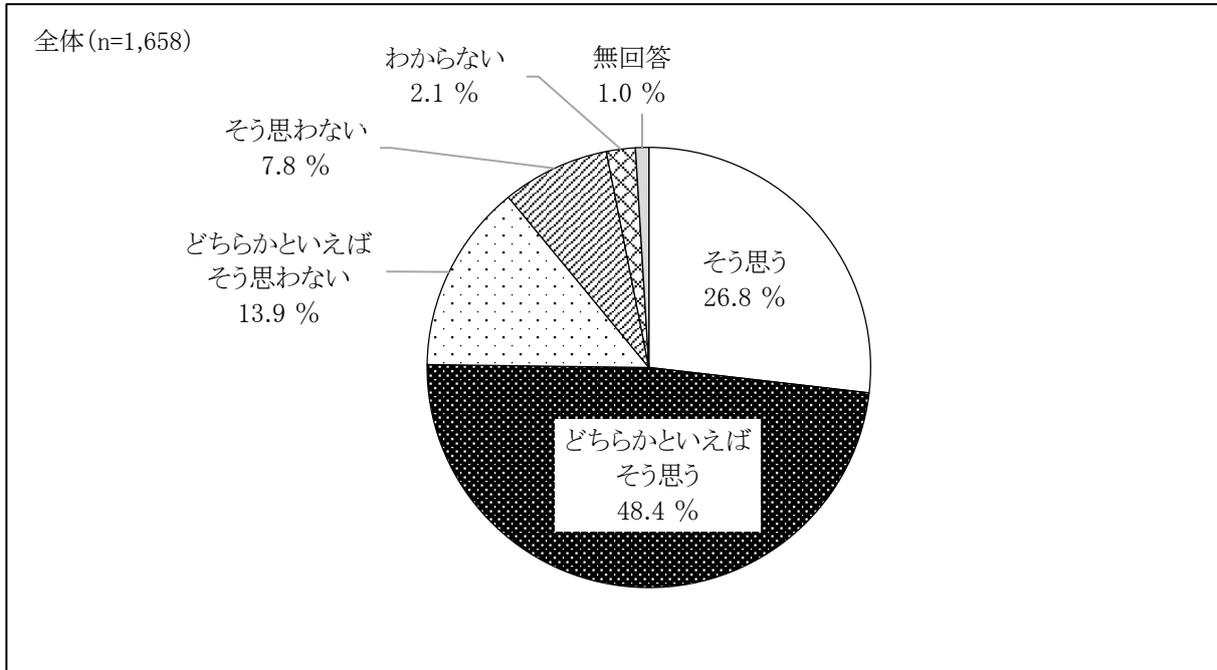
図 21.1 現在の住まい

(職業別／家族構成別)



(2) 住環境は良好か

21-2 良好な住環境には、住宅が安心・安全で快適であることが重要です。
あなたは、お住まいの住宅について、安心・安全・快適であると思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

住環境は良好かについて、「そう思う」が26.8%、「どちらかといえばそう思う」が48.4%、「どちらかといえばそう思わない」が13.9%、「そう思わない」が7.8%となった。

【属性別結果】(次ページ図 21.1 参照)

① 区別

すべての区で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、江南区(59.2%)で最も高い。

② 性別

性別による大きな差はみられない。

③ 年齢別

すべての年代で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

すべての職業で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高く、「そう思う」と答えた割合は、学生(44.0%)で最も高い。

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高い。単身では、他の家族構成比べて「そう思わない」(15.2%)と答えた割合が高い。

図 21.2 住環境は良好か

(区別/性別/年齢別)

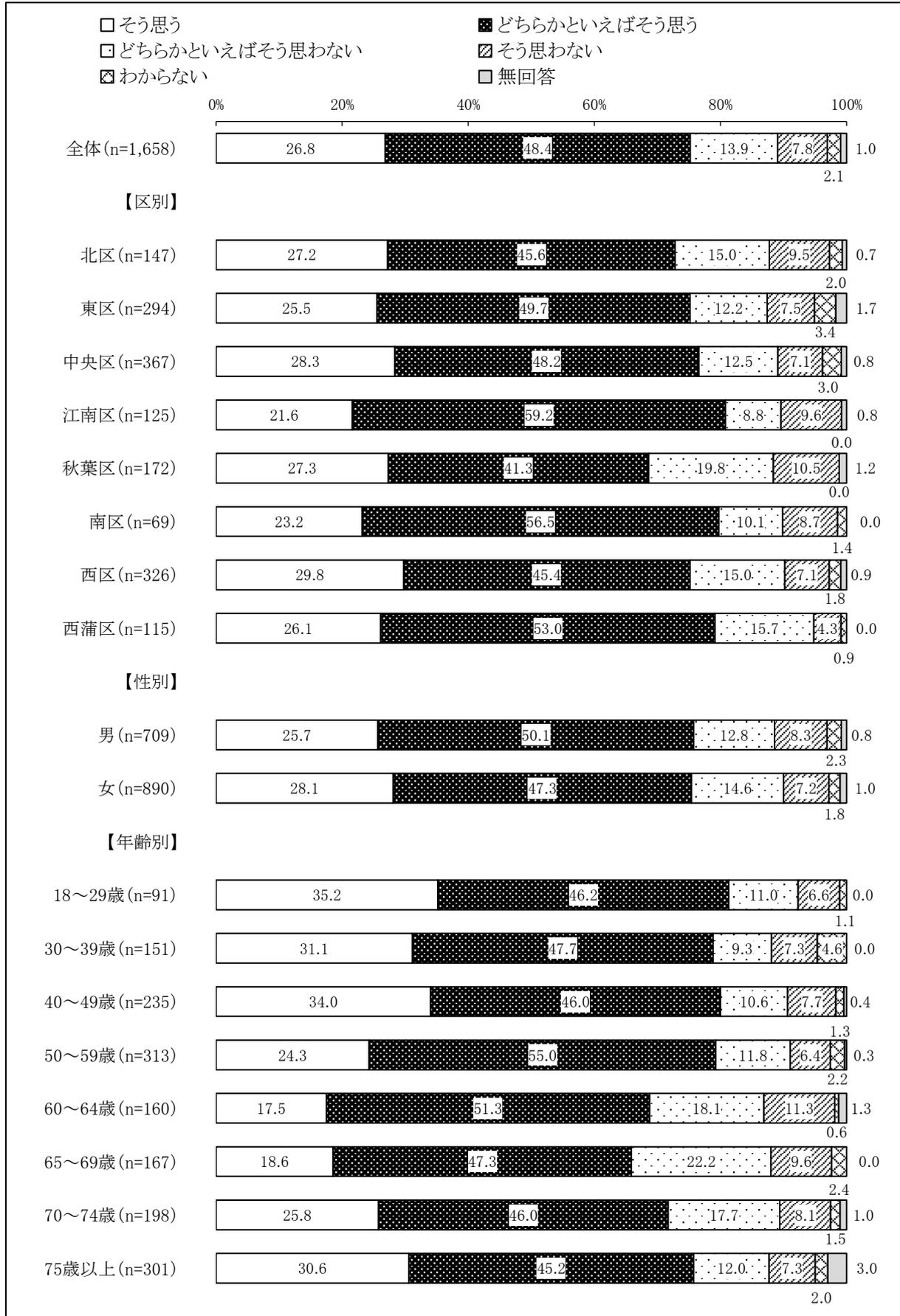
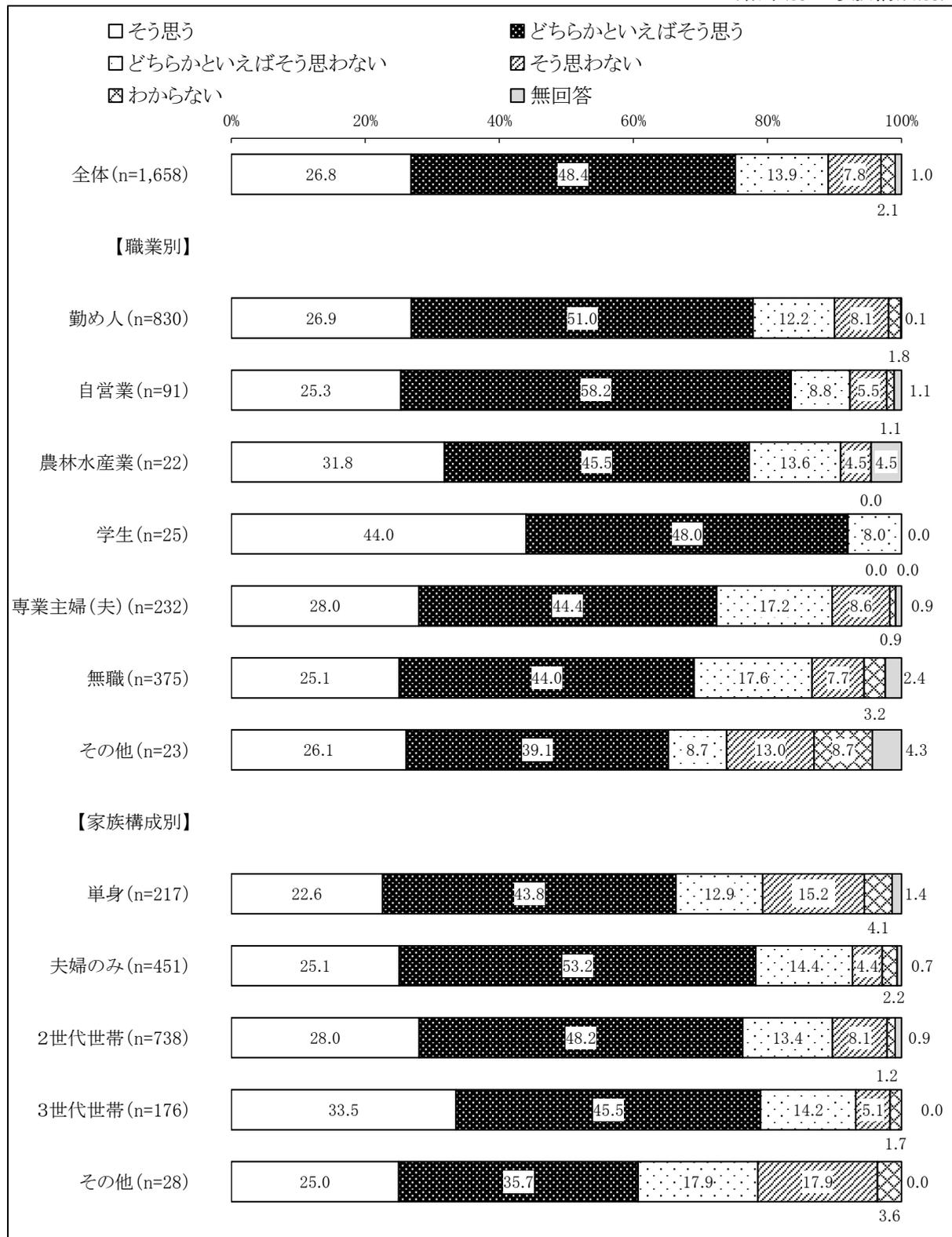


図 21.2 住環境は良好か

(職業別／家族構成別)

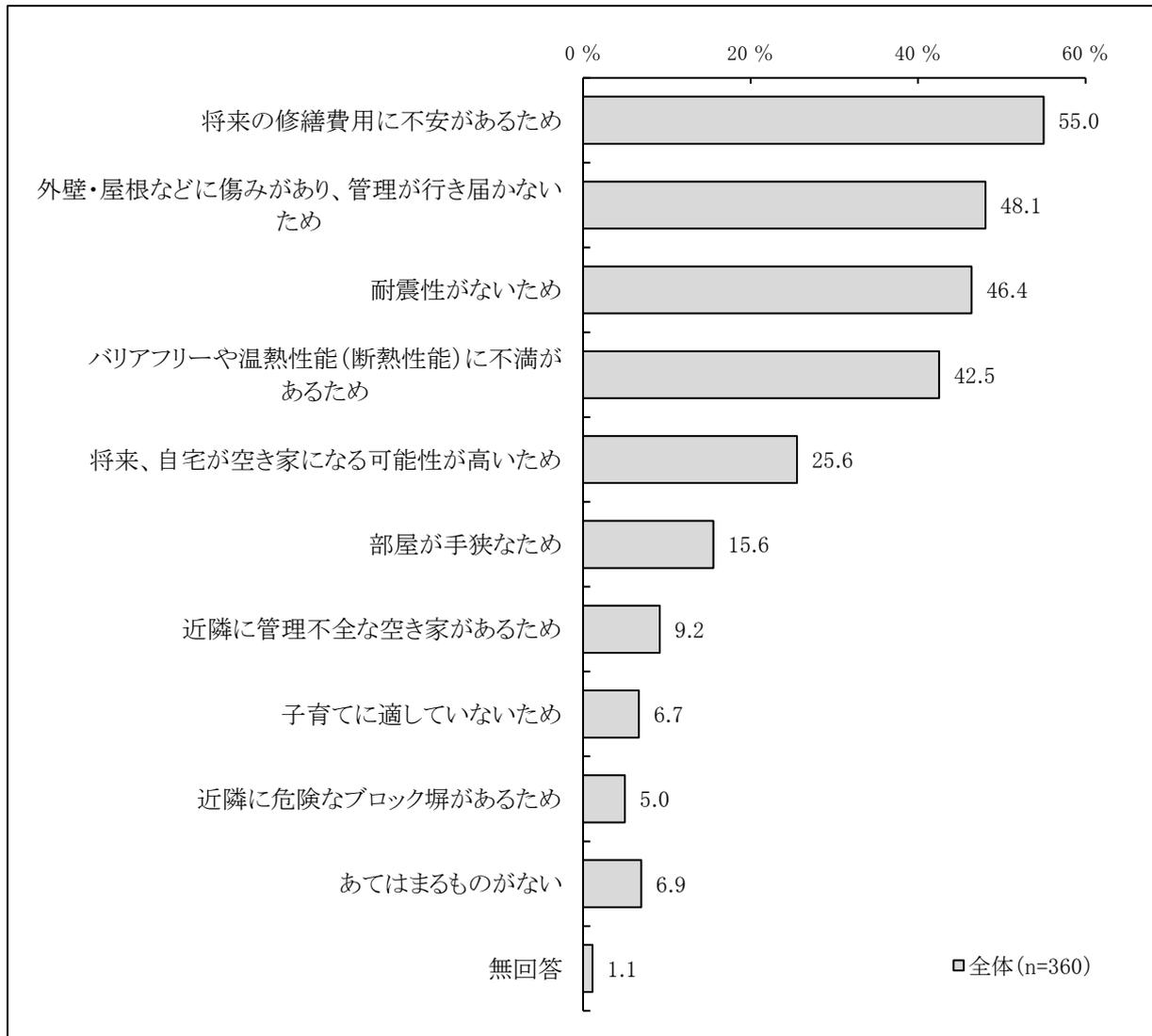


(3) 住環境が良好だと思わない理由

上記 21-2 で③または④を選択した方に質問します。

21-3 その理由について、あなたの考えに近いものを選択してください。

(○はいくつでも)



【全体結果】

住環境が良好だと思わない理由として、「将来の修繕費用に不安があるため」(55.0%)と答えた割合が最も高く、過半数を占めた。次いで「外壁・屋根などに傷みがあり、管理が行き届かないため」(48.1%)、「耐震性がないため」(46.4%)、「バリアフリーや温熱性能(断熱性能)に不満があるため」(42.5%)が4割台、「将来、自宅が空き家になる可能性が高いため」(25.6%)が2割台、「部屋が手狭なため」(15.6%)が1割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 21.3 参照）

① 性別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

② 性別

男性では「外壁・屋根などに傷みがあり、管理が行き届かないため」と「将来の修繕費用に不安があるため」（ともに 47.3%）と答えた割合が最も高く、女性では「将来の修繕費用に不安があるため」（60.8%）と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

50～69 歳では「将来の修繕費用に不安があるため」、75 歳以上では「耐震性がないため」と答えた割合が高く、6 割を超えた。

④ 職業別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

⑤ 家族構成別

他の家族構成と比べて、単身では「バリアフリーや温熱性能（断熱性能）に不満があるため」と答えた割合が高く、3 世代世帯（親と子と孫）では「将来の修繕費用に不安があるため」と答えた割合が高い。

図 21.3 住環境が良好だと思わない理由 1/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

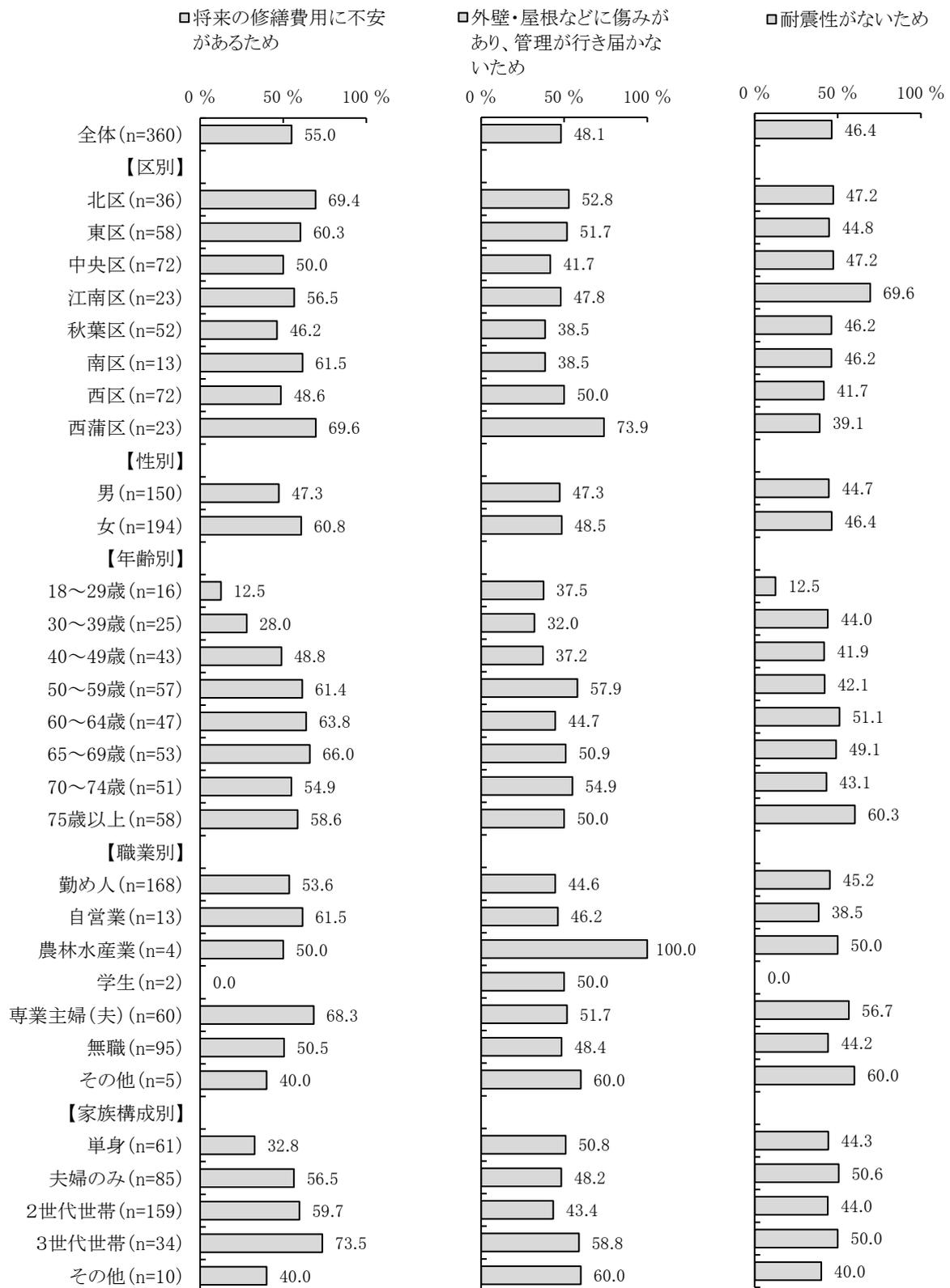


図 21.3 住環境が良好だと思わない理由 2/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

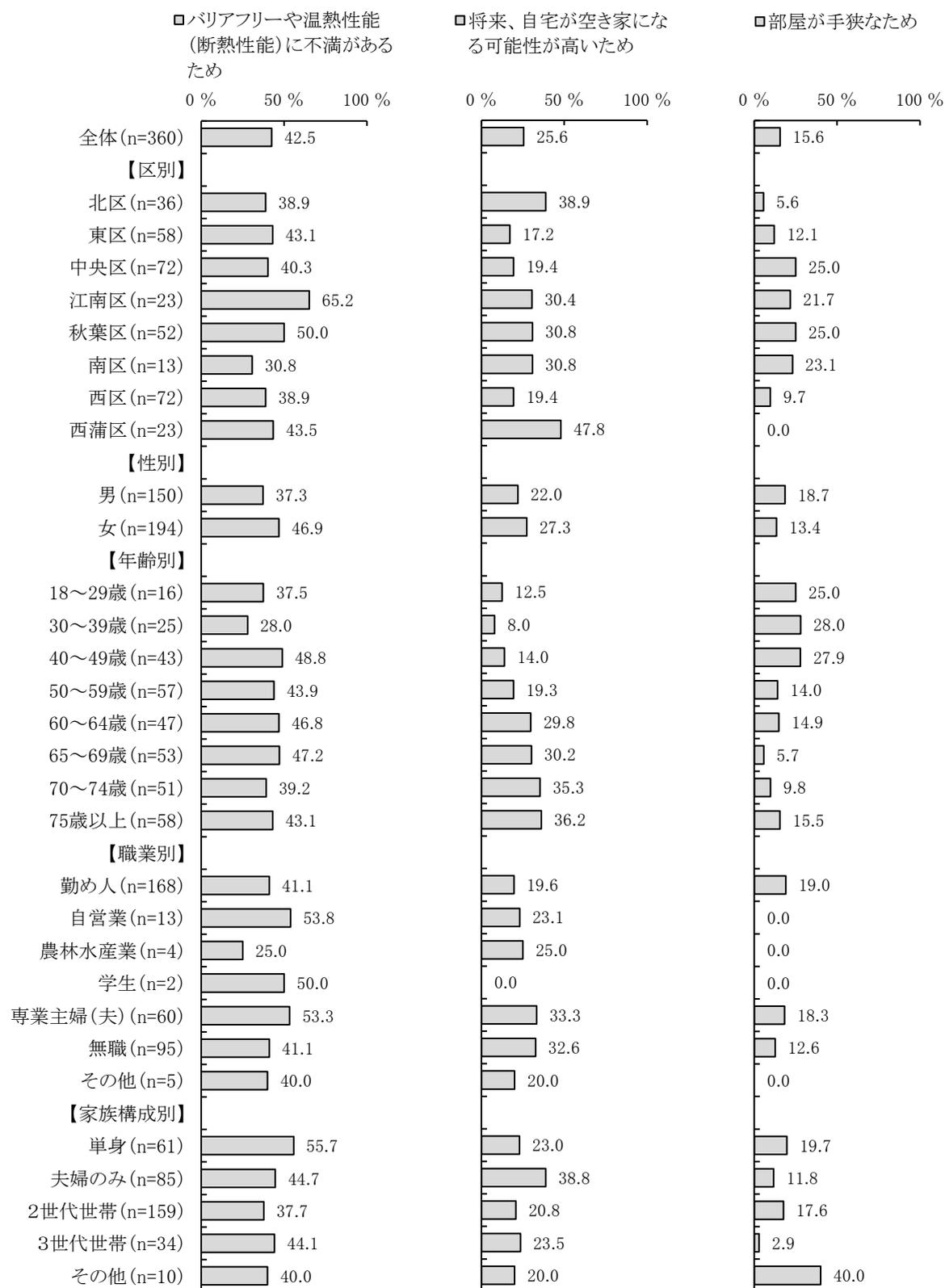


図 21.3 住環境が良好だと思わない理由 3/4

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

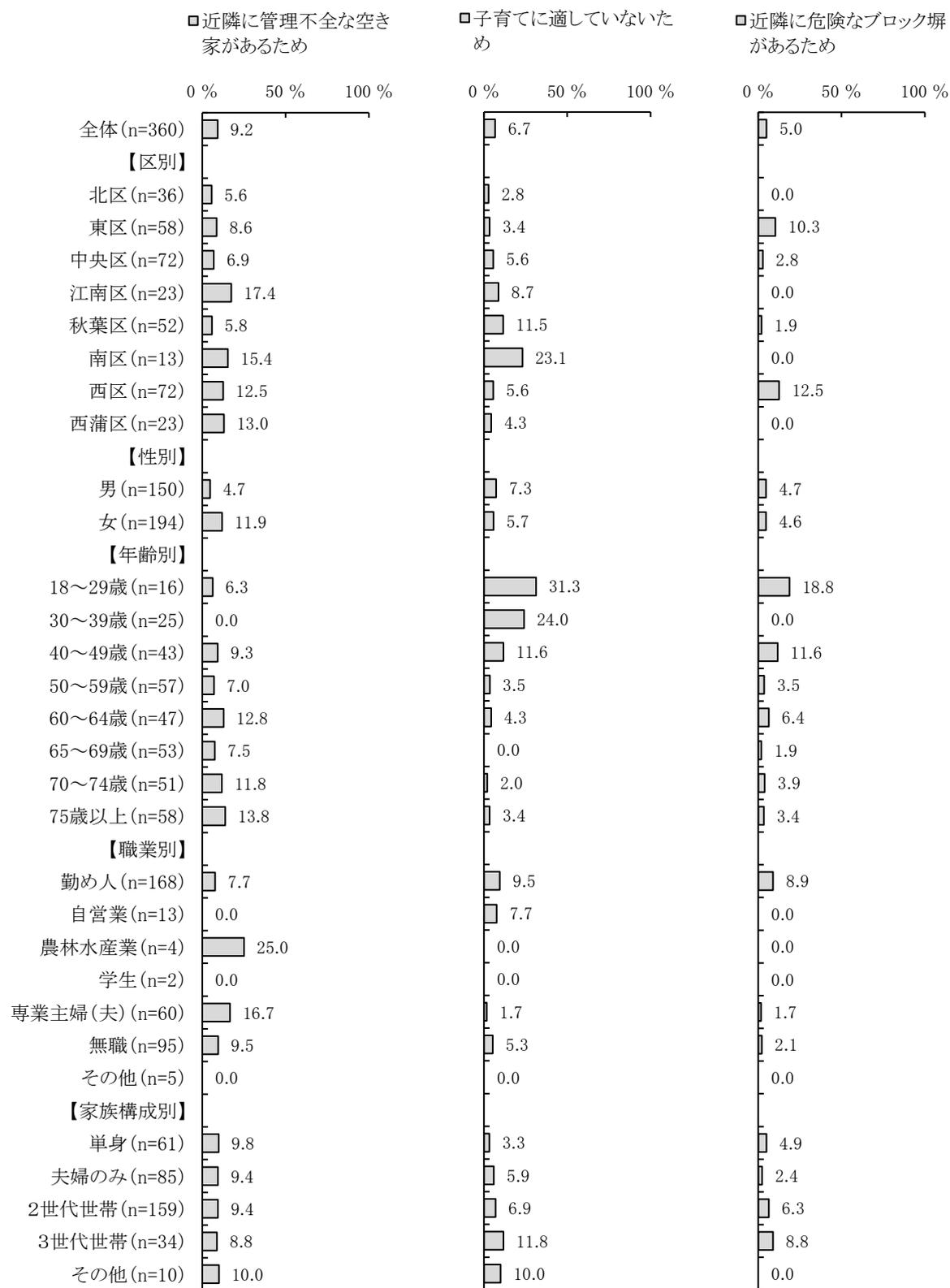
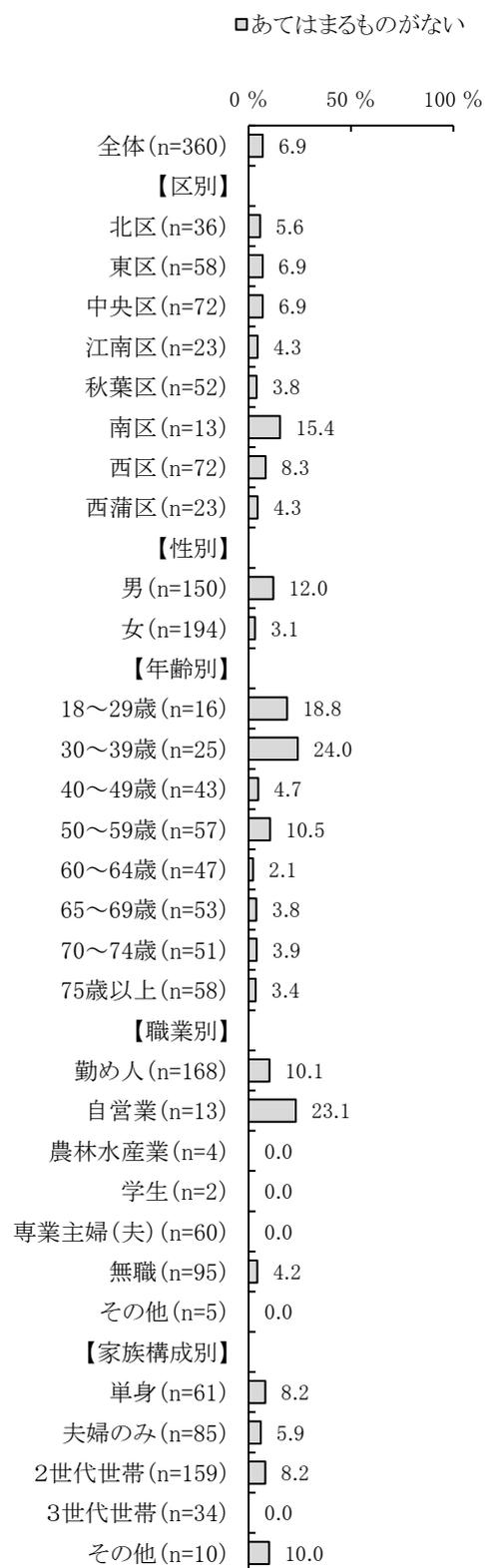


図 21.3 住環境が良好だと思わない理由 4/4

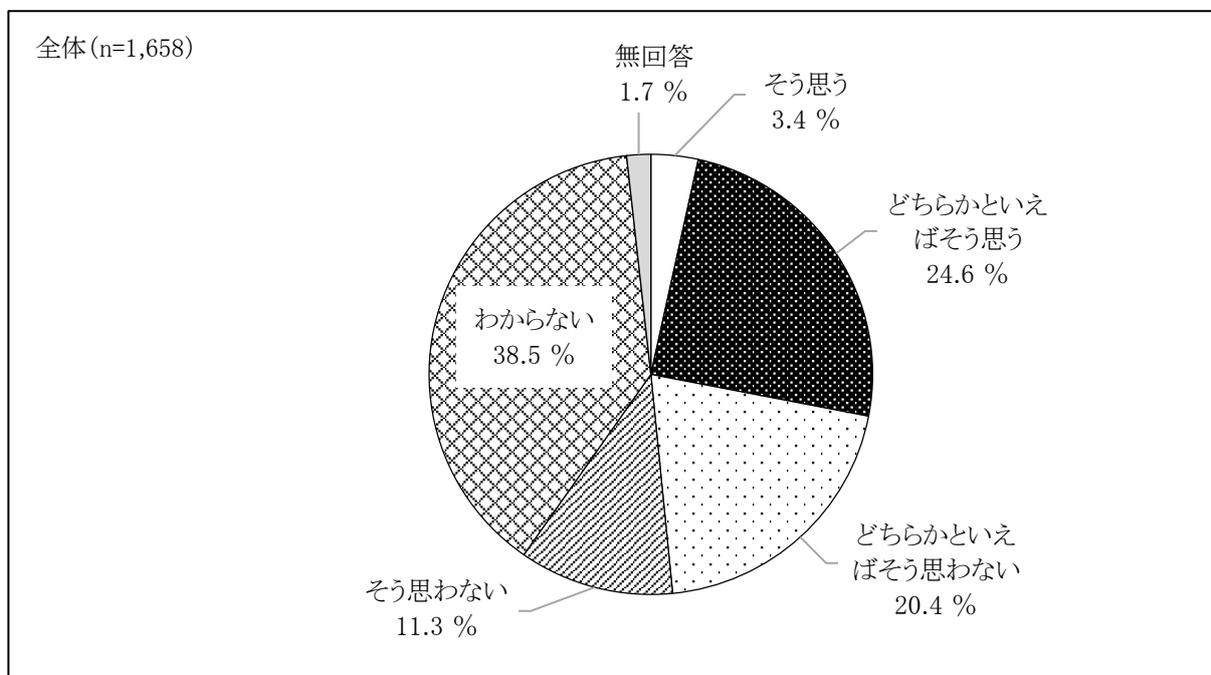
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



2.2. 市民の意見を聞く市政運営について

(1) 市民の意見を聞く体制は整っているか

22-1 新潟市には、情報公開制度や広聴など、十分に市民の声をうかがう体制が整っていると思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

市民の意見を聞く体制は整っているかについて、「そう思う」が3.4%、「どちらかといえばそう思う」が24.6%、「どちらかといえばそう思わない」が20.4%、「そう思わない」が11.3%となった。また、「わからない」(38.5%)と答えた割合が最も高く、約4割を占めた。

【属性別結果】(次ページ図22.1参照)

① 区別

「そう思う」と答えた割合は、南区(7.2%)で最も高い。

② 性別

「どちらかといえばそう思わない」と答えた割合は、女性(17.3%)より男性(23.6%)で高い。

③ 年齢別

「どちらかといえばそう思わない」と答えた割合は、65～69歳(28.7%)で最も高い。

④ 職業別

「そう思う」と答えた割合は、農林水産業(13.6%)で最も高い。

⑤ 家族構成別

「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、単身(19.8%)でやや低い。

図 22.1 市民の意見を聞く体制は整っているか

(区別／性別／年齢別)

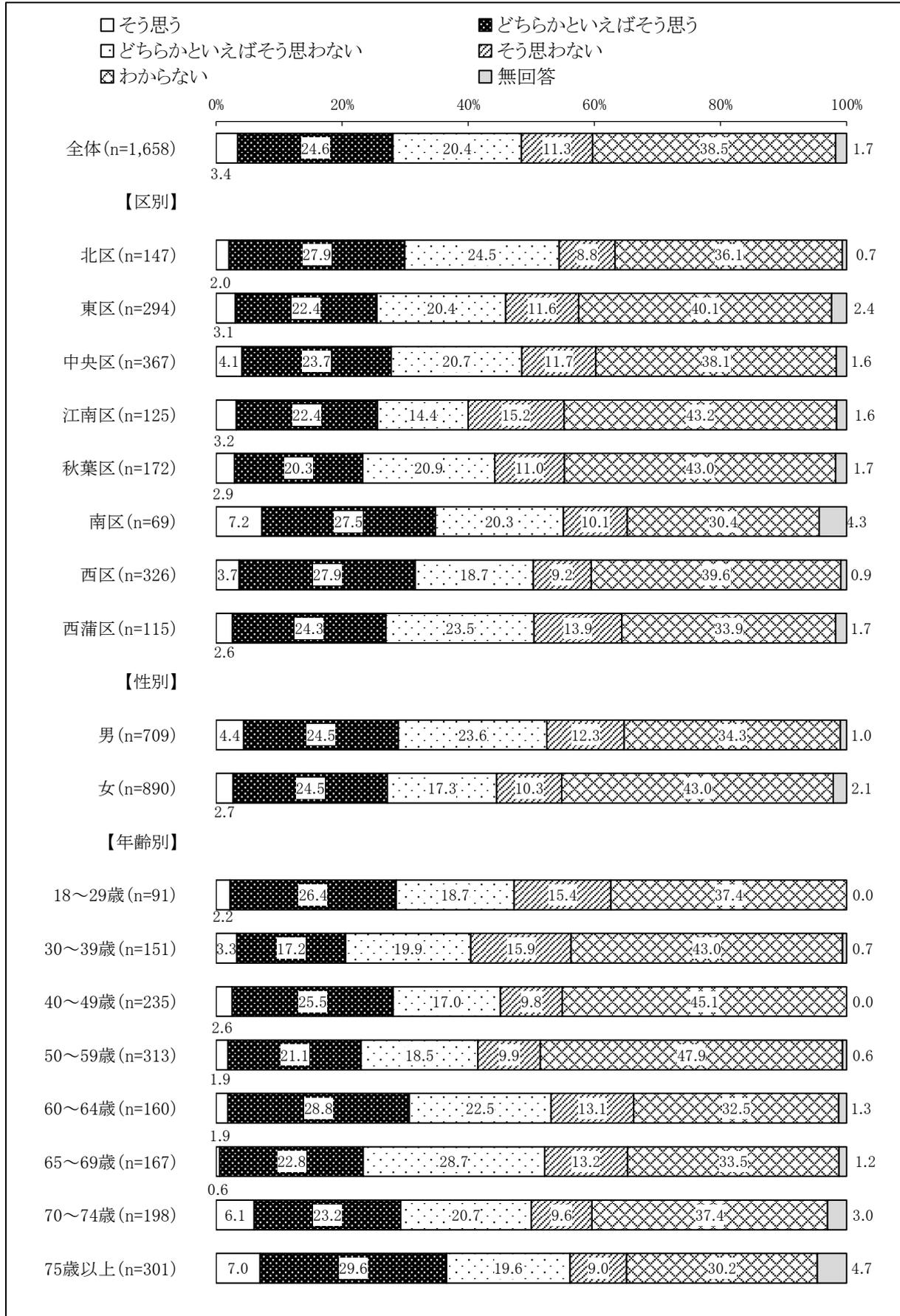
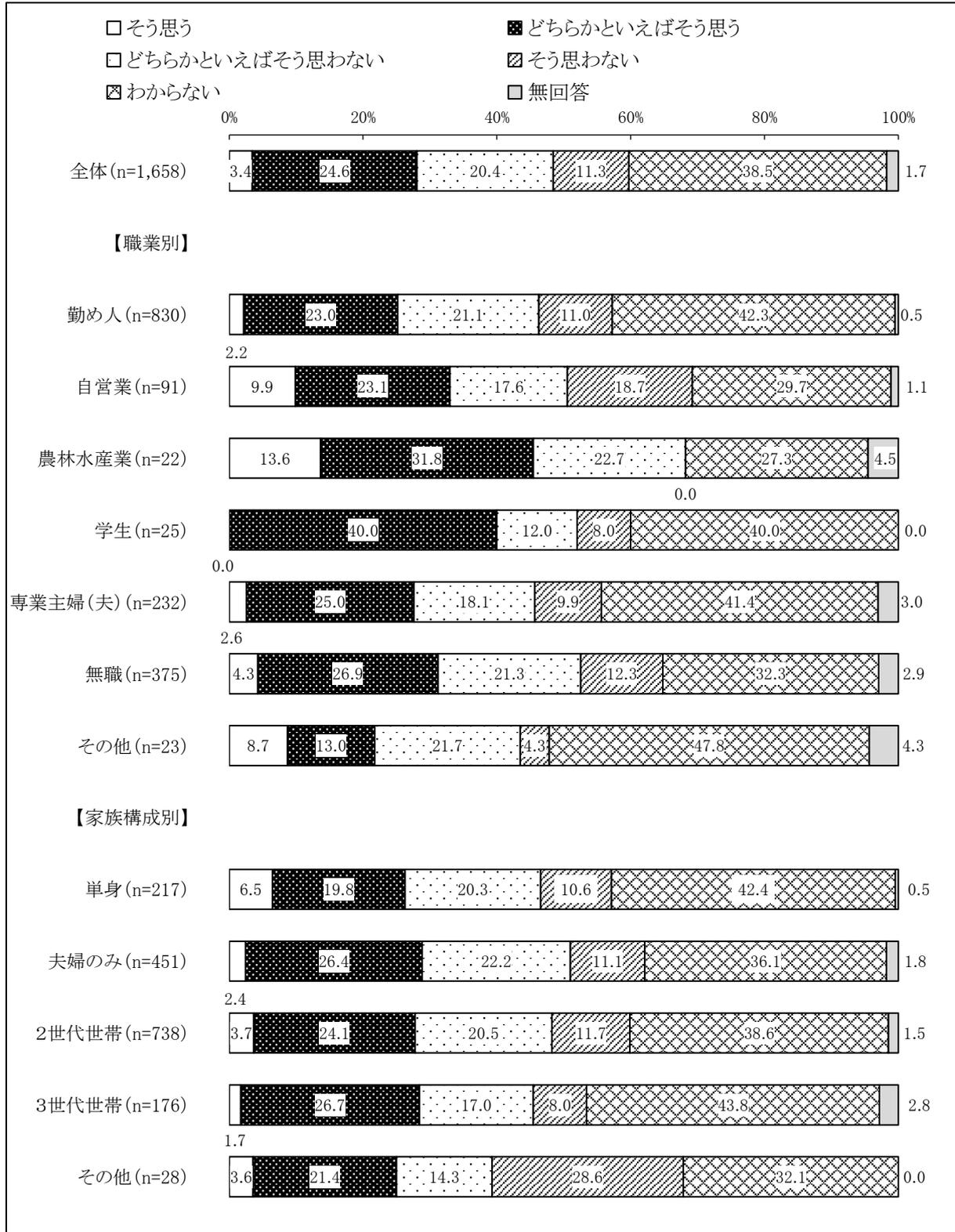


図 22.1 市民の意見を聞く体制は整っているか

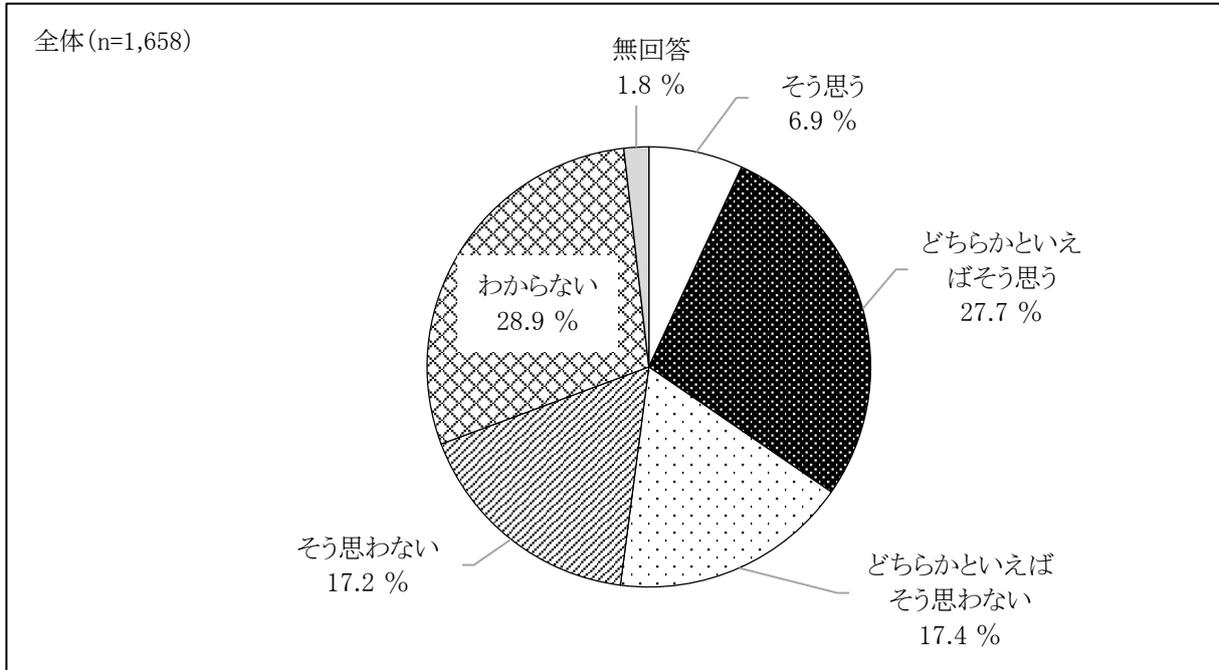
(職業別／家族構成別)



23. 行政サービスのデジタル化について

(1) 市民生活は便利になったか

23-1 あなたは、行政サービスのデジタル化により、市民生活が便利になったと思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

行政サービスのデジタル化により市民生活は便利になったかについて、「そう思う」が6.9%、「どちらかといえばそう思う」が27.7%、「どちらかといえばそう思わない」が17.4%、「そう思わない」が17.2%となった。また、「わからない」(28.9%)は約3割を占めた。

【属性別結果】(次ページ図23.1参照)

① 区別

「そう思う」と答えた割合は、南区(11.6%)で最も高い。

② 性別

「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、女性(26.5%)より男性(29.9%)で高い。

③ 年齢別

「そう思う」と答えた割合は、18~29歳(19.8%)で最も高い。

④ 職業別

「そう思う」と答えた割合は、学生(16.0%)で最も高い。

⑤ 家族構成別

「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、単身(22.6%)で低く、「わからない」(36.9%)と答えた割合が高くなった。

図 23.1 市民生活は便利になったか

(区別／性別／年齢別)

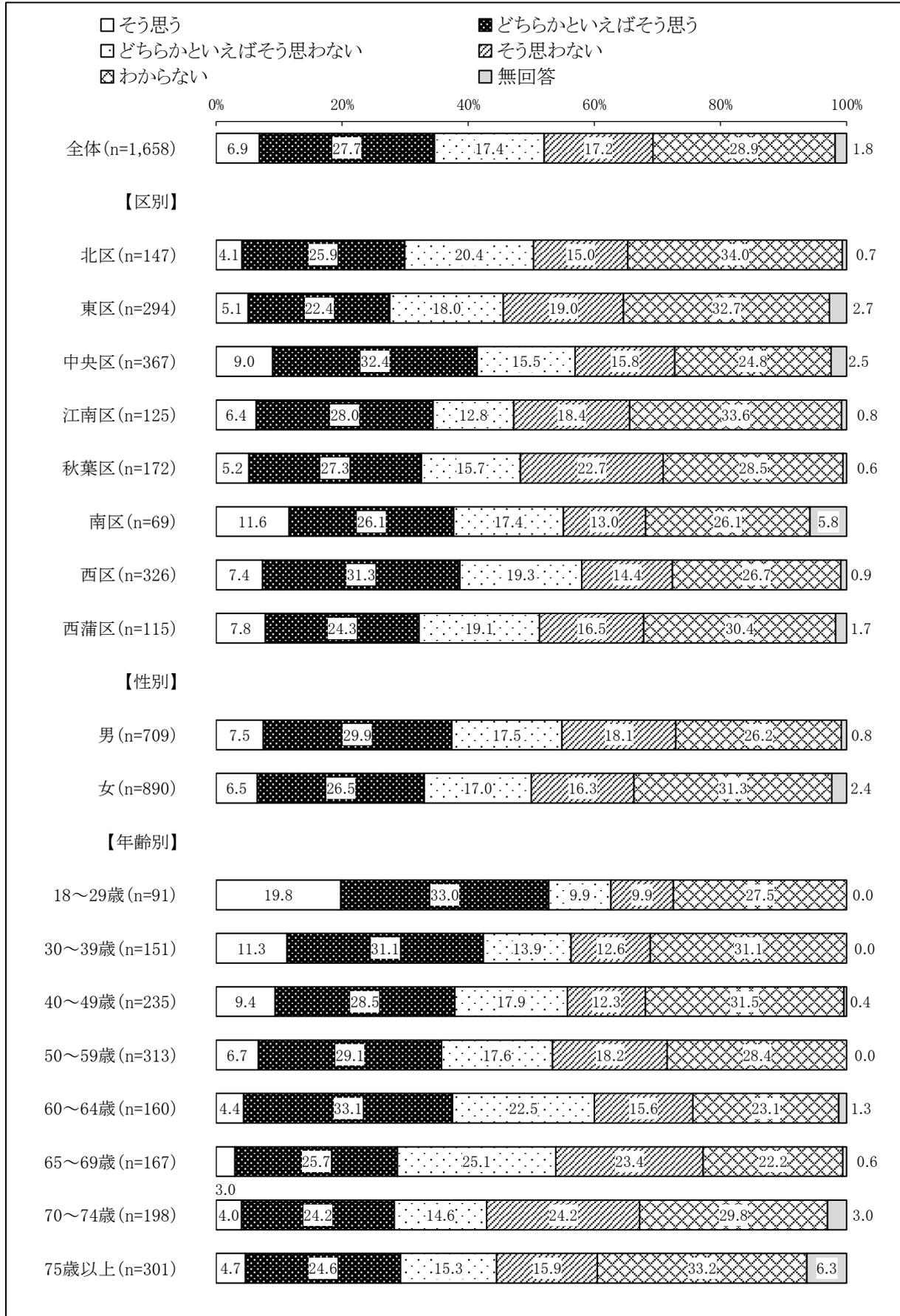
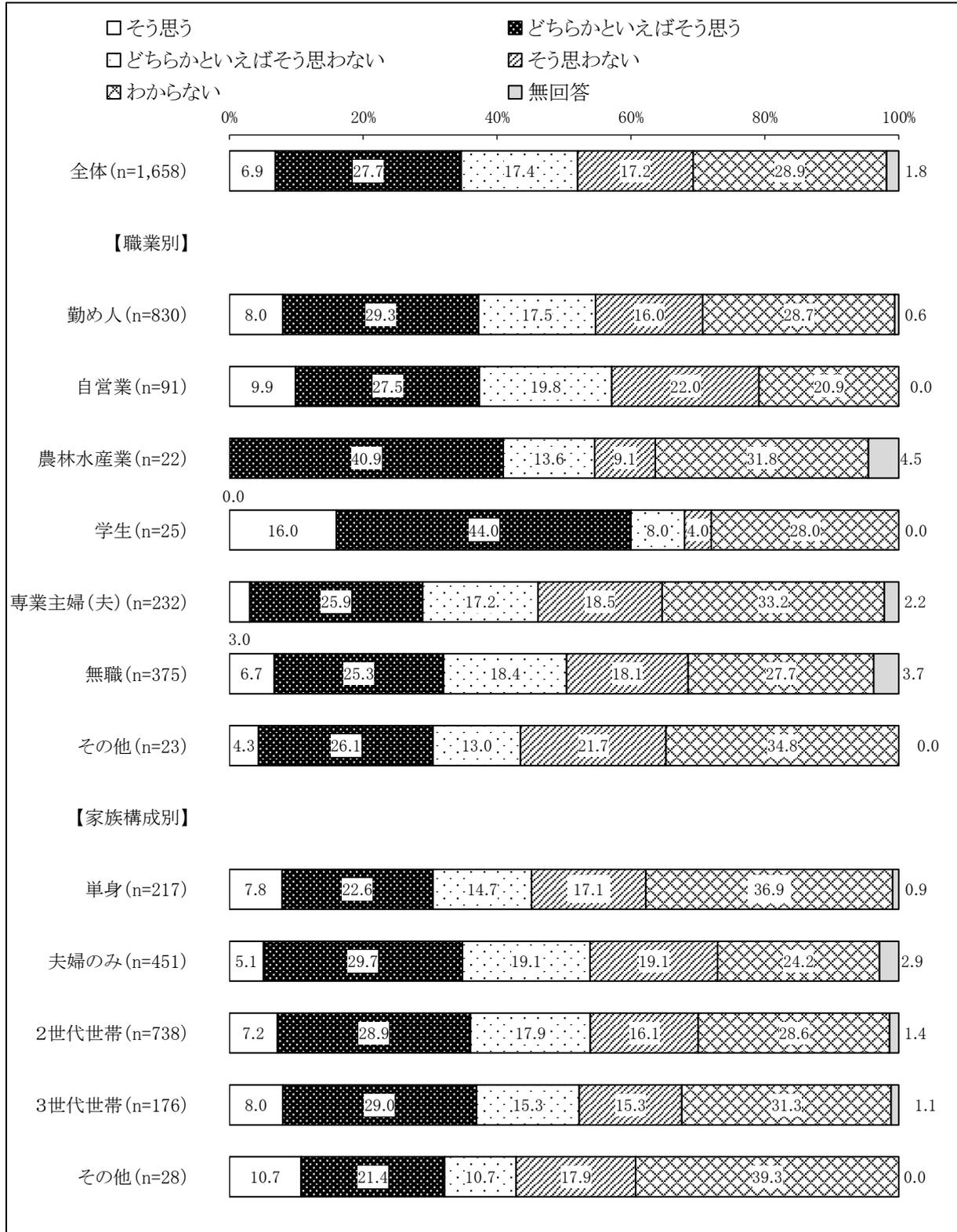


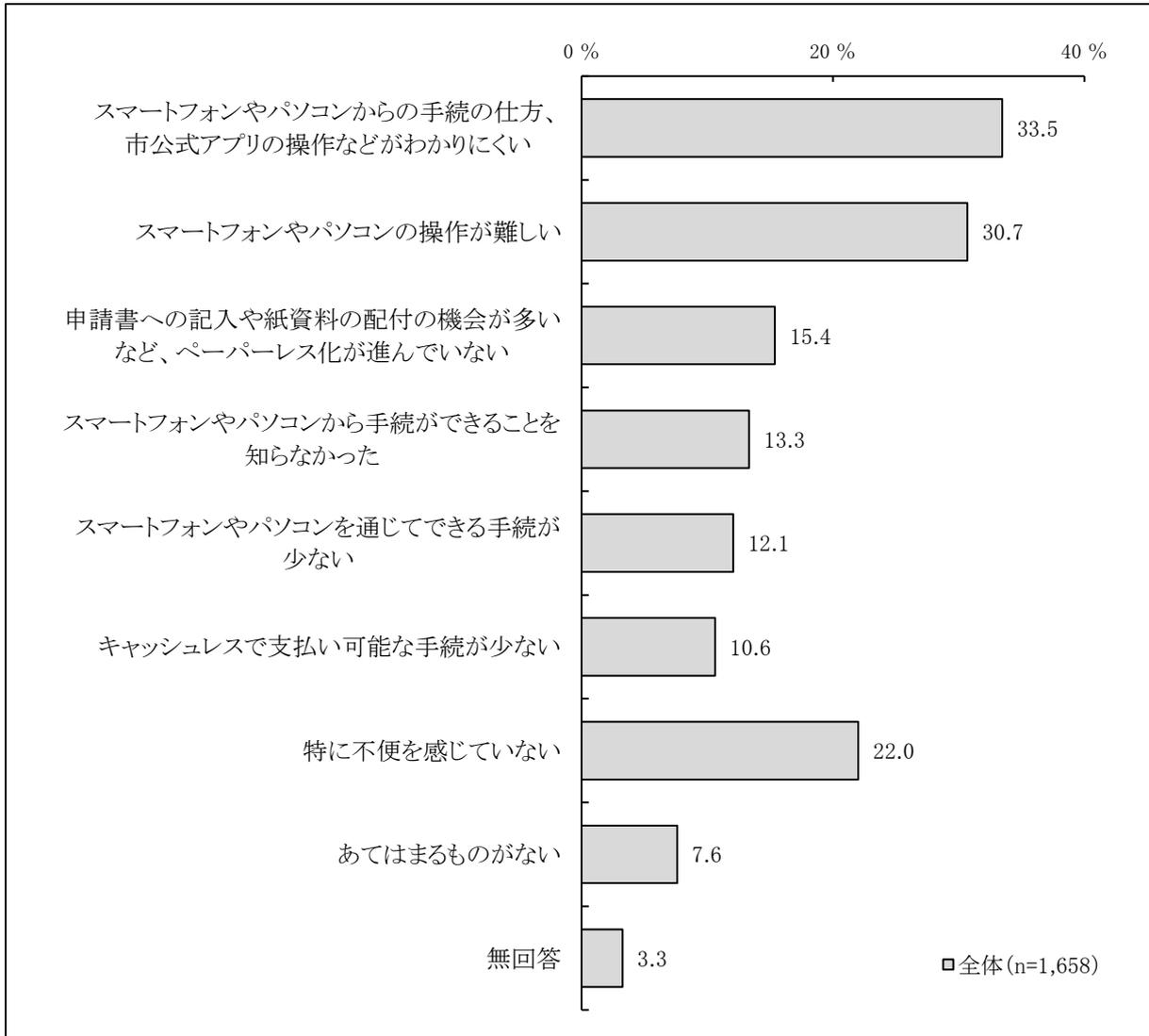
図 23.1 市民生活は便利になったか

(職業別／家族構成別)



(2) 行政サービスのデジタル化について不便だと思うこと

23-2 現在の行政サービスのデジタル化について、どのようなことに不便を感じますか。
(〇はいくつでも)



【全体結果】

行政サービスのデジタル化について不便だと思うことについて、「スマートフォンやパソコンからの手順の仕方、市公式アプリの操作などがわかりにくい」(33.5%)と答えた割合が最も高く、3割強を占めた。次いで「スマートフォンやパソコンの操作が難しい」(30.7%)、「申請書への記入や紙資料の配付の機会が多いなど、ペーパーレス化が進んでいない」(15.4%)、「スマートフォンやパソコンから手順ができることを知らなかった」(13.3%)、「スマートフォンやパソコンを通じてできる手順が少ない」(12.1%)、「キャッシュレスで支払い可能な手順が少ない」(10.6%)となった。また、約2割が「特に不便を感じていない」(22.0%)と回答した。

【属性別結果】（次ページ図 23.2 参照）

① 区別

江南区を除くすべての区で「スマートフォンやパソコンからの手続の仕方、市公式アプリの操作などがわかりにくい」と答えた割合が最も高い。江南区では「スマートフォンやパソコンの操作が難しい」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性とも「スマートフォンやパソコンからの手続の仕方、市公式アプリの操作などがわかりにくい」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

18～39 歳では「申請書への記入や紙資料の配付の機会が多いなど、ペーパーレス化が進んでいない」と答えた割合が最も高く、40～49 歳では「特に不便を感じていない」、50～59 歳、65～69 歳では「スマートフォンやパソコンからの手続の仕方、市公式アプリの操作などがわかりにくい」、60～64 歳、70 歳以上では「スマートフォンやパソコンの操作が難しい」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

勤め人（パートも含む）、自営業では「スマートフォンやパソコンからの手続の仕方、市公式アプリの操作などがわかりにくい」、農林水産業、専業主婦（夫）、無職では「スマートフォンやパソコンの操作が難しい」、学生では「申請書への記入や紙資料の配付の機会が多いなど、ペーパーレス化が進んでいない」と「特に不便を感じていない」と答えた割合が最も高い。

⑤ 家族構成別

夫婦のみを除くすべての家族構成で「スマートフォンやパソコンからの手続の仕方、市公式アプリの操作などがわかりにくい」と答えた割合が最も高い。夫婦のみでは「スマートフォンやパソコンの操作が難しい」と答えた割合が最も高い。

図 23.2 行政サービスのデジタル化について不便だと思うこと 1/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

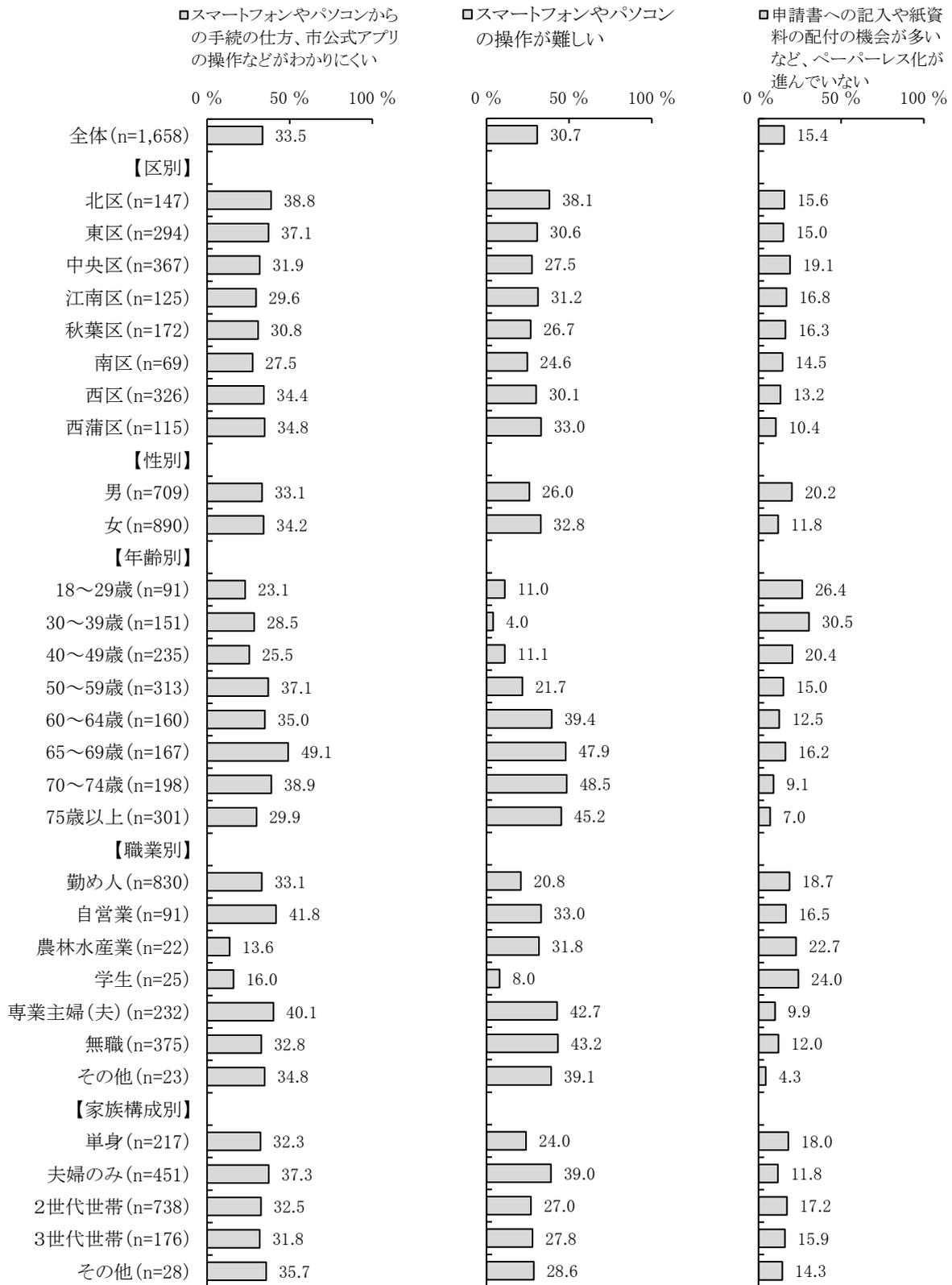


図 23.2 行政サービスのデジタル化について不便だと思うこと 2/3

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

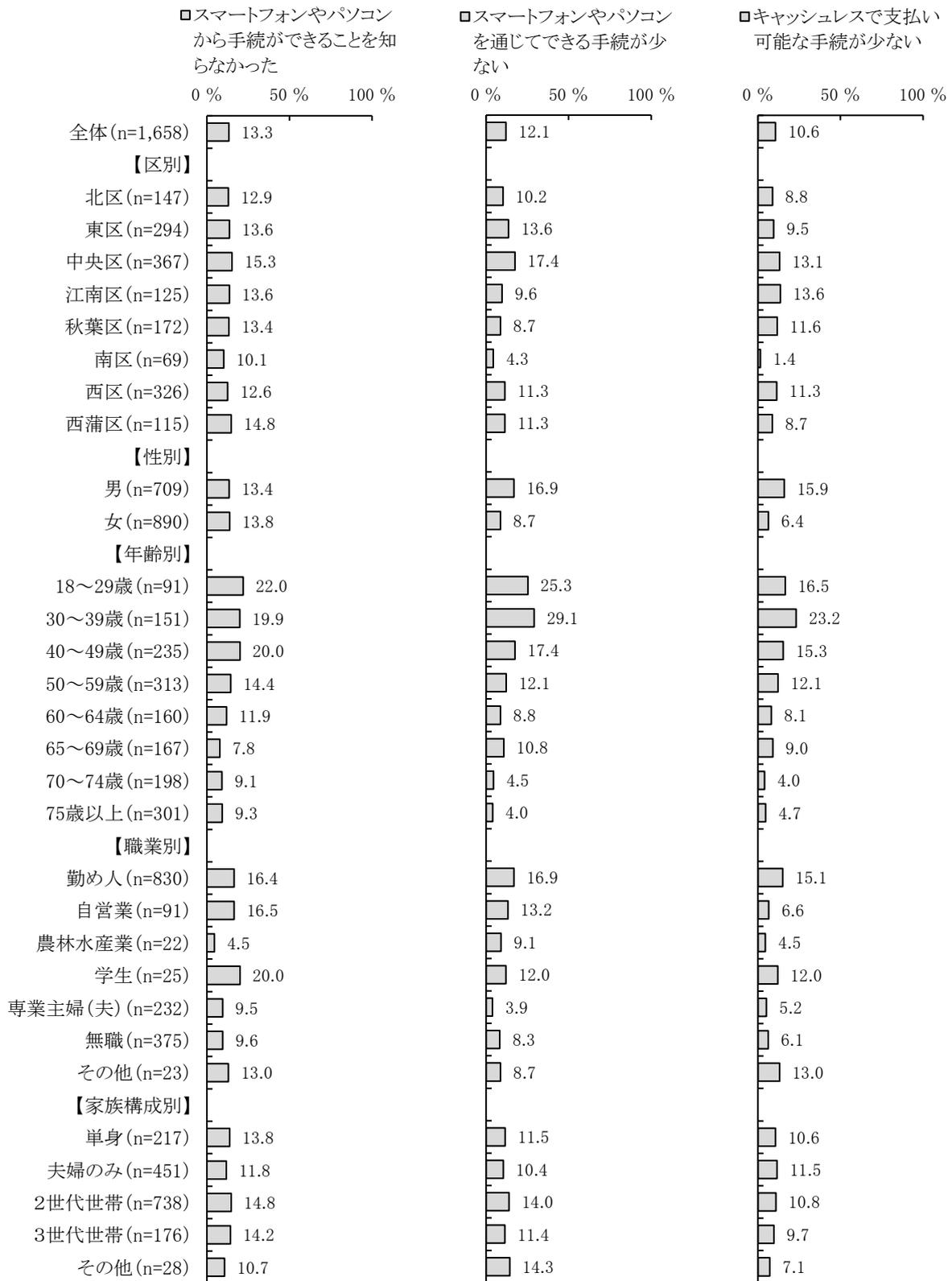
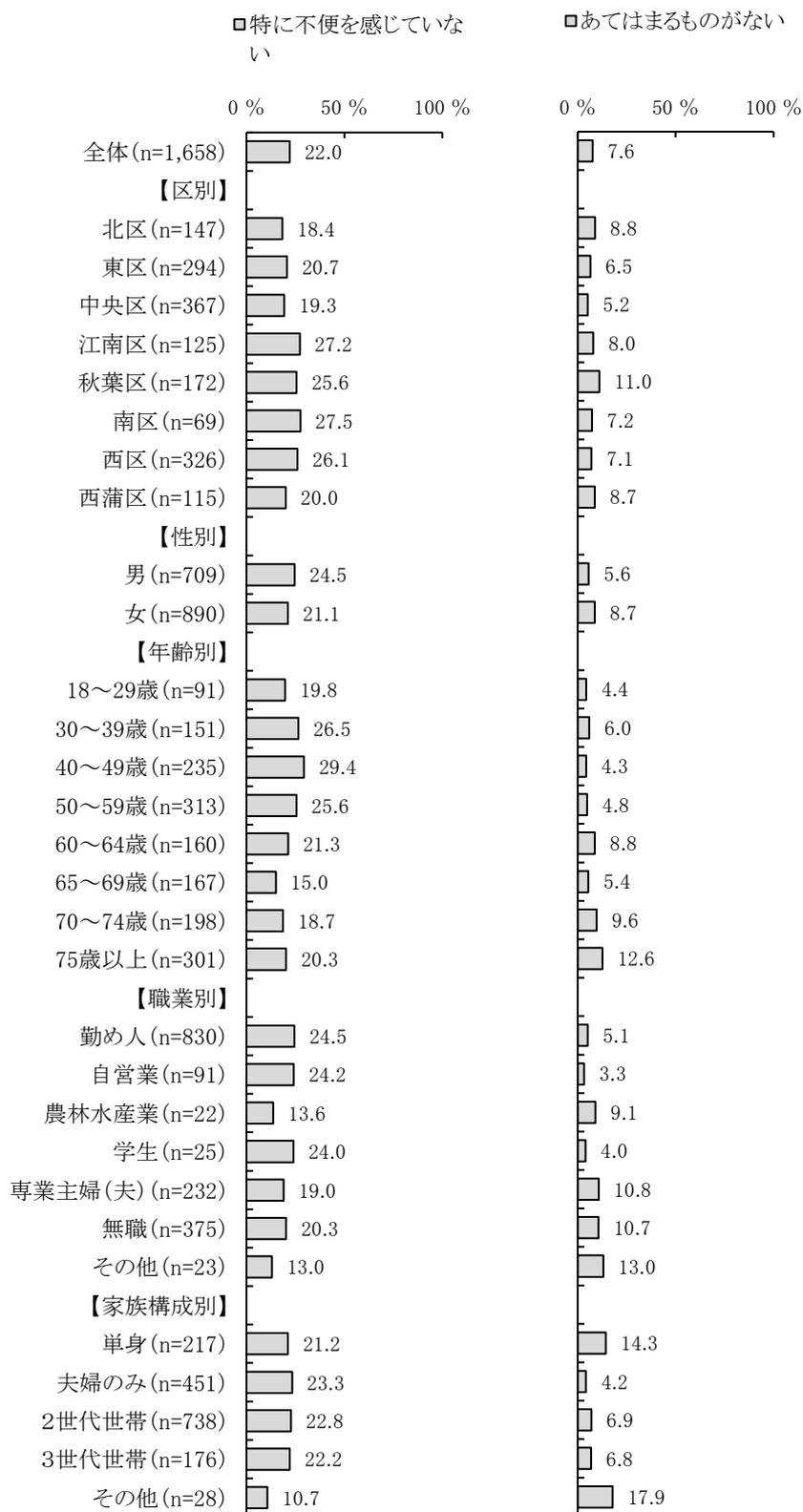


図 23.2 行政サービスのデジタル化について不便だと思うこと 3/3

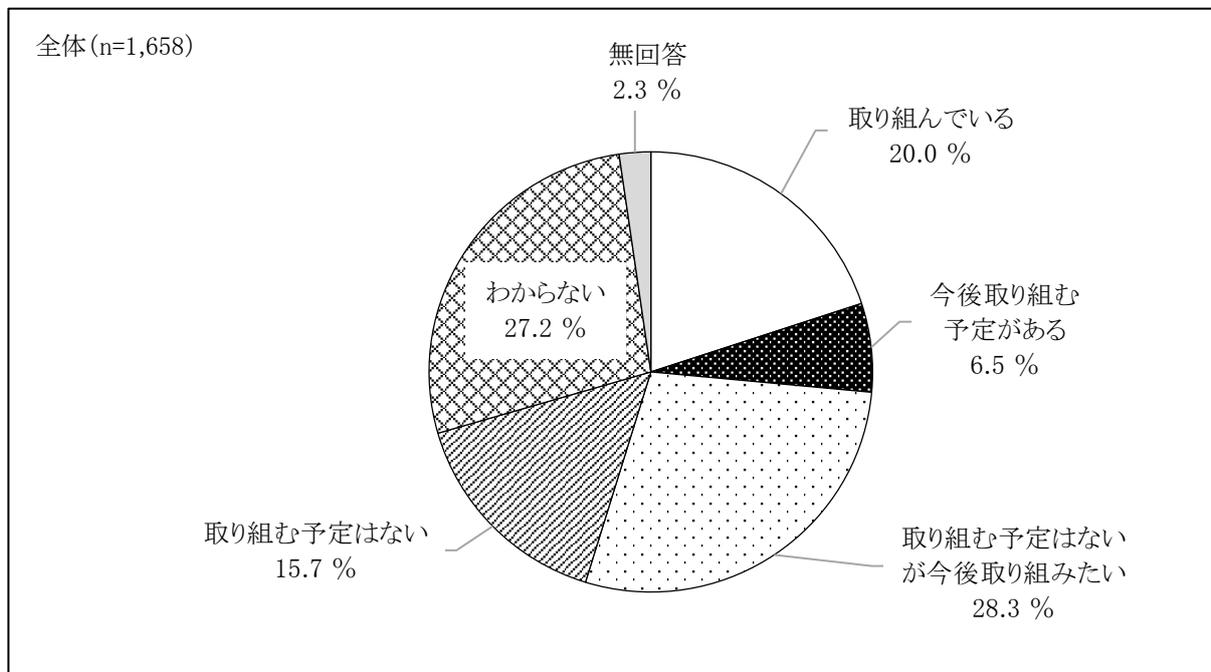
(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)



2 4. SDGs（持続可能な開発目標）について

（1）SDGs の達成に向けた取り組み

23-1 あなたは、SDGs の達成に向けて具体的に取り組んでいますか。
（○は1つだけ）



【全体結果】

SDGs の達成に向けた取り組みについて、「取り組んでいる」が 20.0%、「今後取り組む予定がある」が 6.5%、「取り組む予定はないが今後取り組みたい」が 28.3%、「取り組む予定はない」が 15.7%となった。また、「わからない」（27.2%）は 3 割弱を占めた。

【属性別結果】（次ページ図 24.1 参照）

① 区別

「取り組んでいる」と答えた割合は、中央区（25.3%）で最も高い。

② 性別

「取り組んでいる」と答えた割合は、男性（18.5%）より女性（21.9%）でやや高い。

③ 年齢別

「取り組んでいる」「今後取り組む予定がある」「取り組む予定はないが今後取り組みたい」と答えた割合は、75 歳以上（10.0%、4.3%、18.6%）で最も低く、「わからない」（42.9%）が 4 割強を占めている。

④ 職業別

「取り組んでいる」と答えた割合は、学生（28.0%）で最も高い。

⑤ 家族構成別

「取り組んでいる」と答えた割合は、単身（16.1%）でやや低く、「わからない」（33.2%）と答えた割合が高くなった。

図 24.1 SDGs の達成に向けた取り組み

(区別／性別／年齢別)

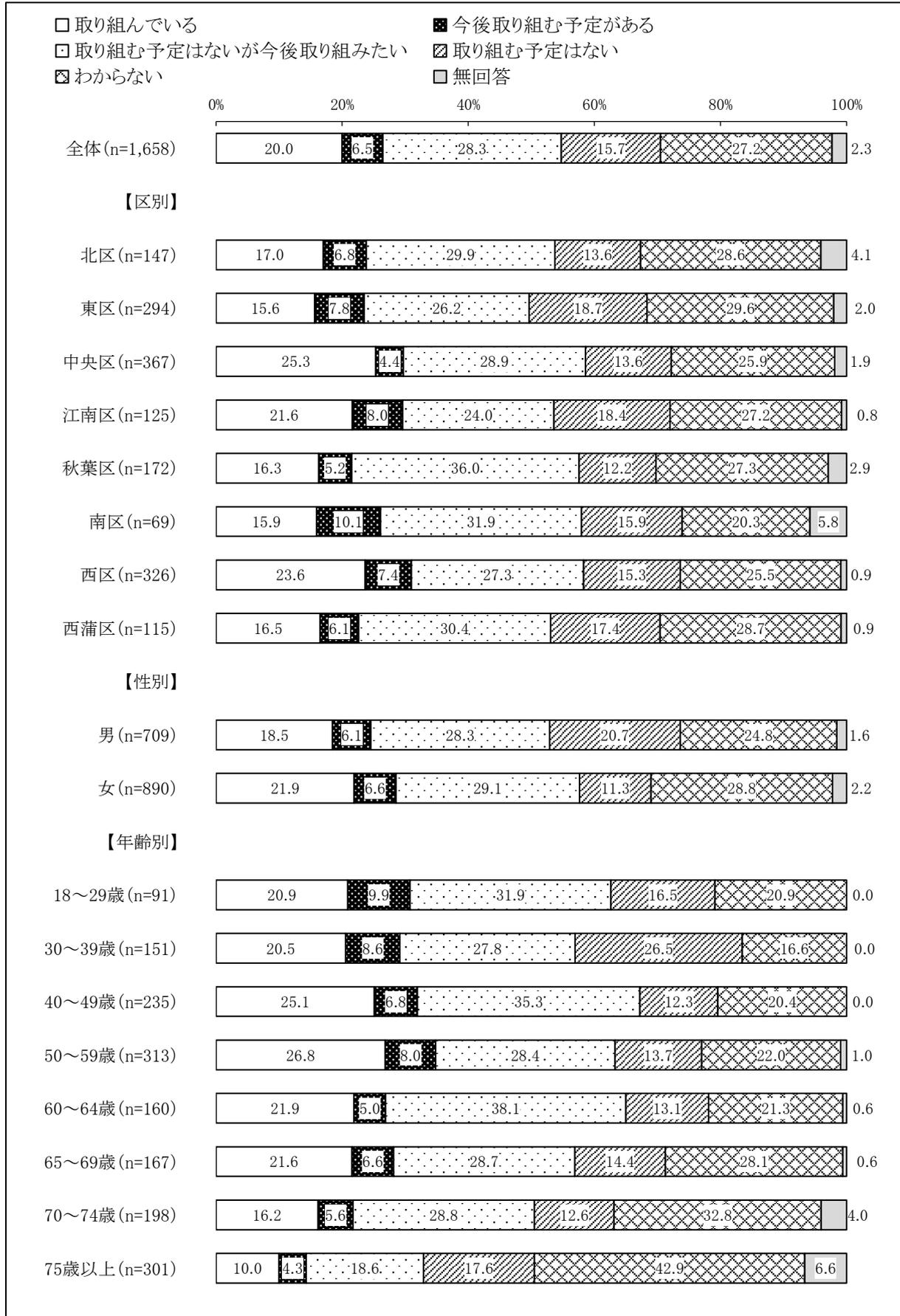
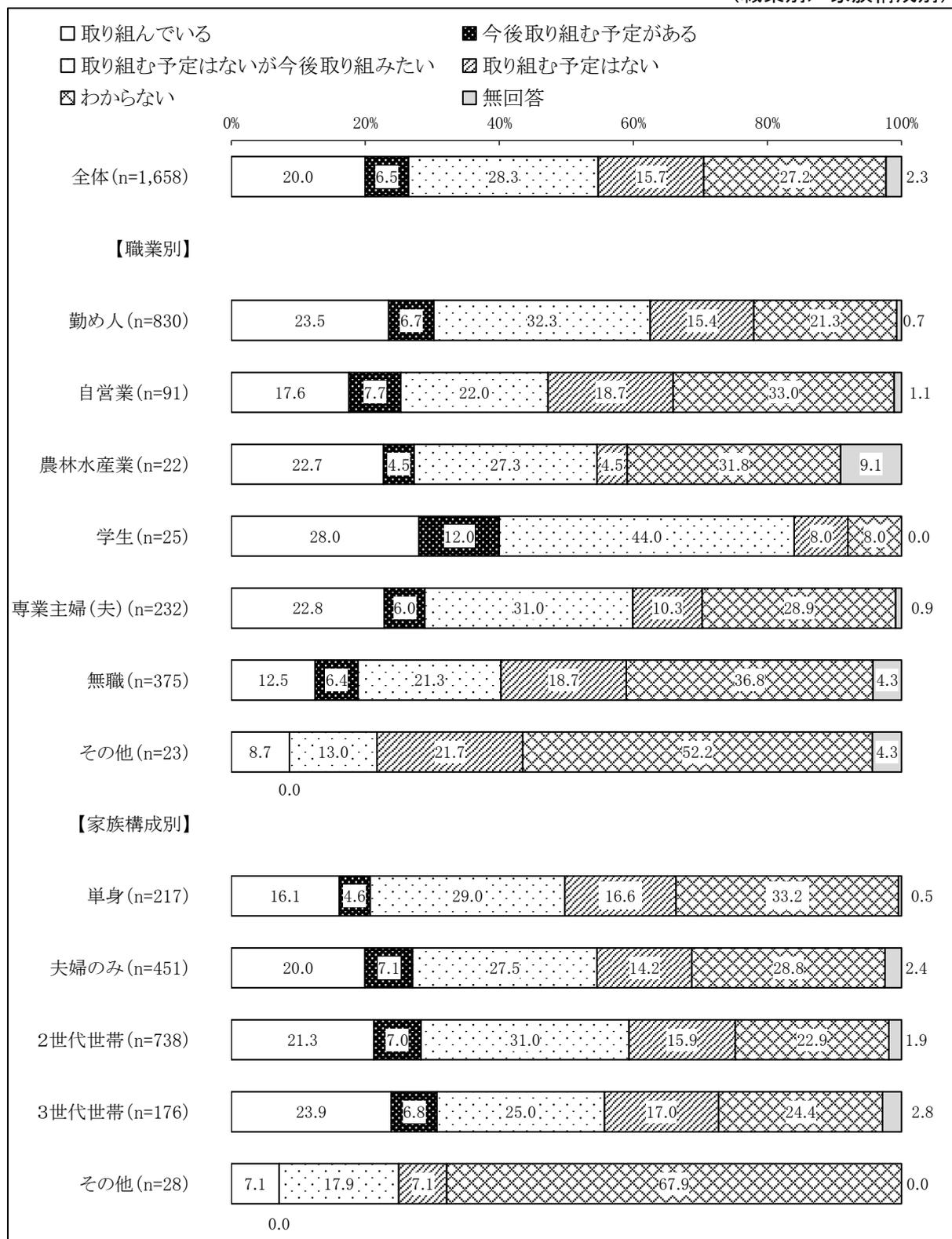


図 24.1 SDGs の達成に向けた取り組み

(職業別／家族構成別)

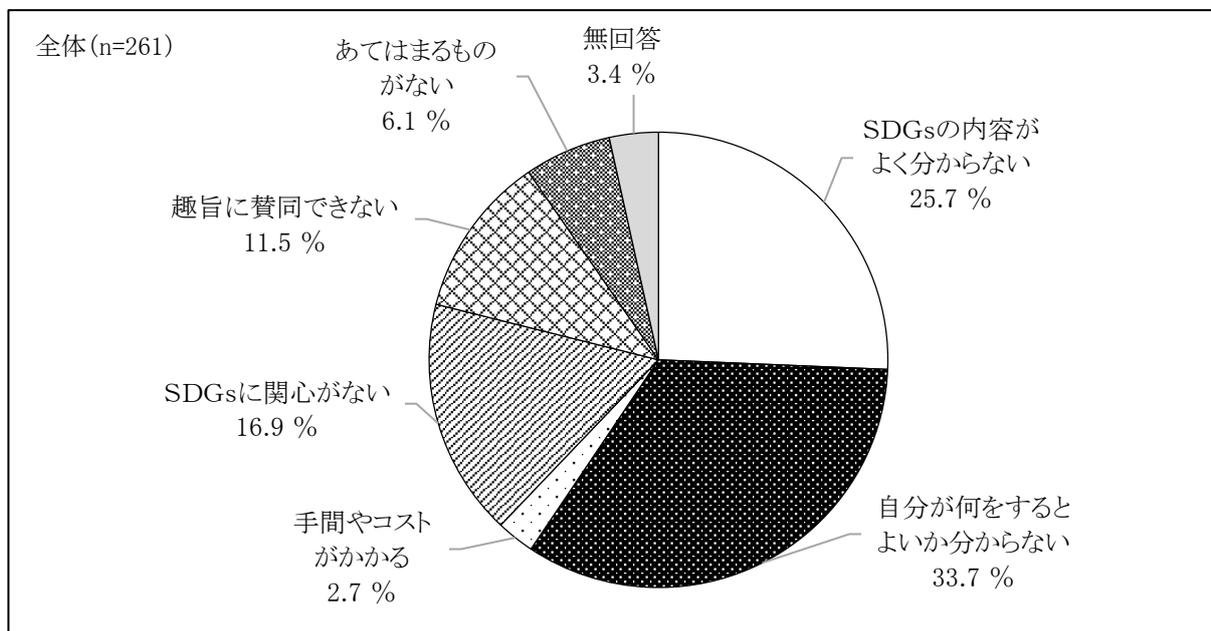


(2) 取り組む予定がない理由

上記 24-1 で④を選択した方に質問します。

24-2 次のうち、あなたの考えにもっとも近いものを選択してください。

(○は1つだけ)



【全体結果】

取り組む予定がない理由について、「自分は何をするとよいか分からない」(33.7%)と答えた割合が最も高く、3割強を占めた。次いで「SDGsの内容がよく分からない」(25.7%)、「SDGsに関心がない」(16.9%)、「趣旨に賛同できない」(11.5%)で続く。

【属性別結果】(次ページ図 24.2 参照)

① 区別

江南区、南区を除くすべての区で「自分は何をするとよいか分からない」と答えた割合が最も高い。江南区では「SDGsに関心がない」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性では「SDGsの内容がよく分からない」と答えた割合が最も高い。女性では「自分は何をするとよいか分からない」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

「自分は何をするとよいか分からない」と答えた割合は65～69歳(45.8%)で最も高く、5割弱となった。「SDGsの内容がよく分からない」と答えた割合は70～74歳(44.0%)で最も高く、4割半ばとなった。

④ 職業別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

⑤ 家族構成別

「SDGsに関心がない」、「趣旨に賛同できない」と答えた割合は、単身(それぞれ27.8%、19.4%)で最も高い。

図 24.2 取り組む予定がない理由

(区別/性別/年齢別)

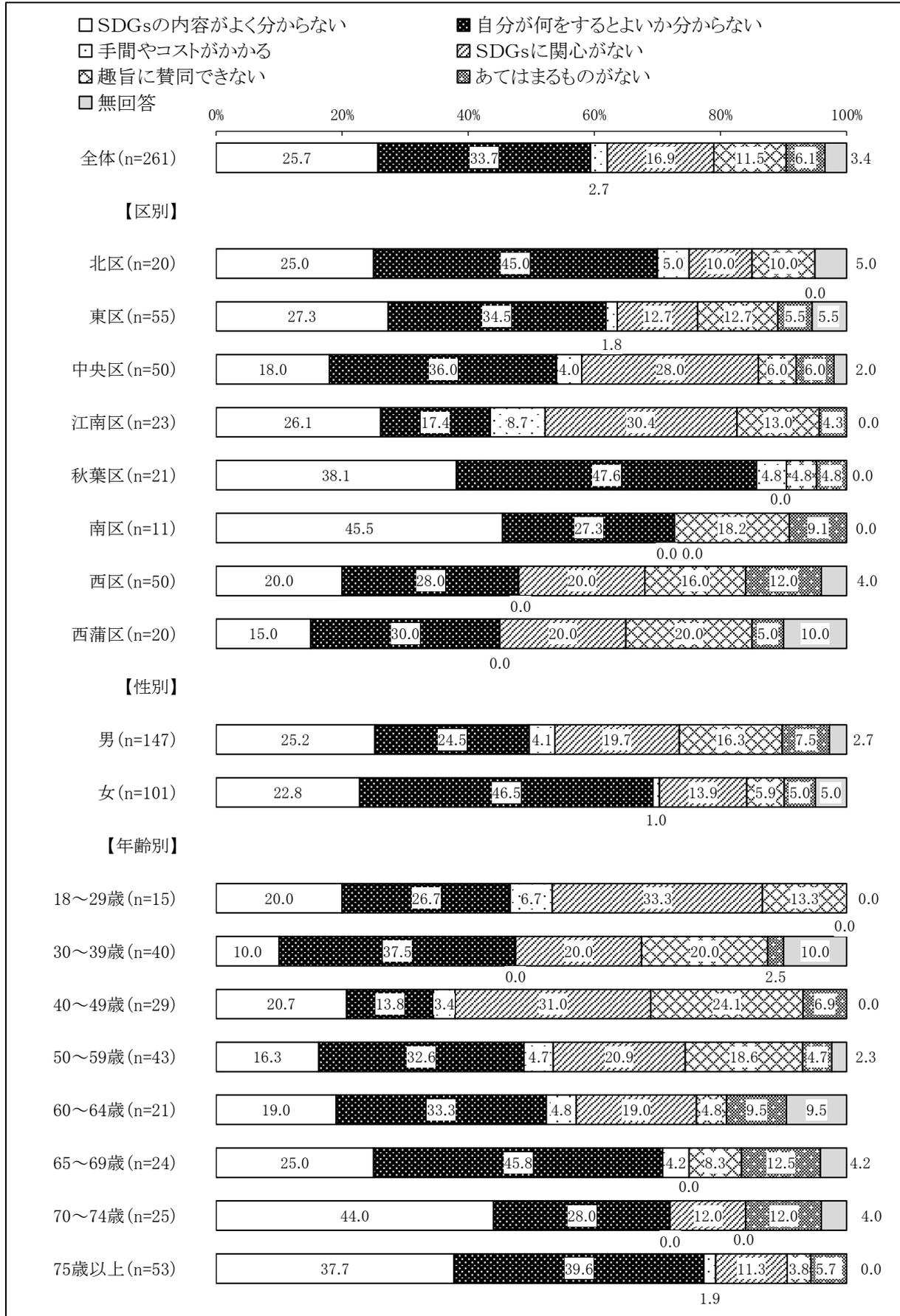
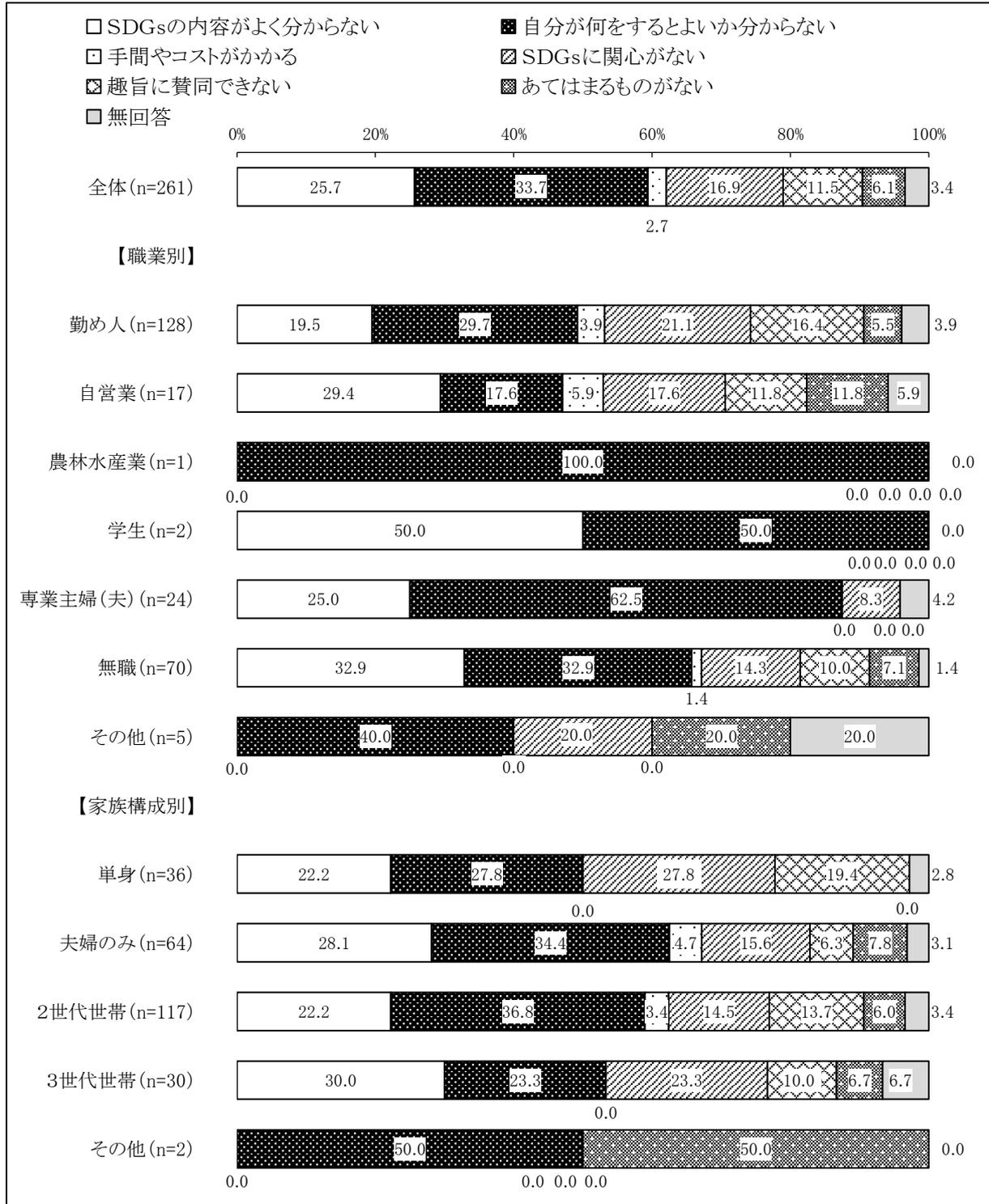


図 24.2 取り組む予定がない理由

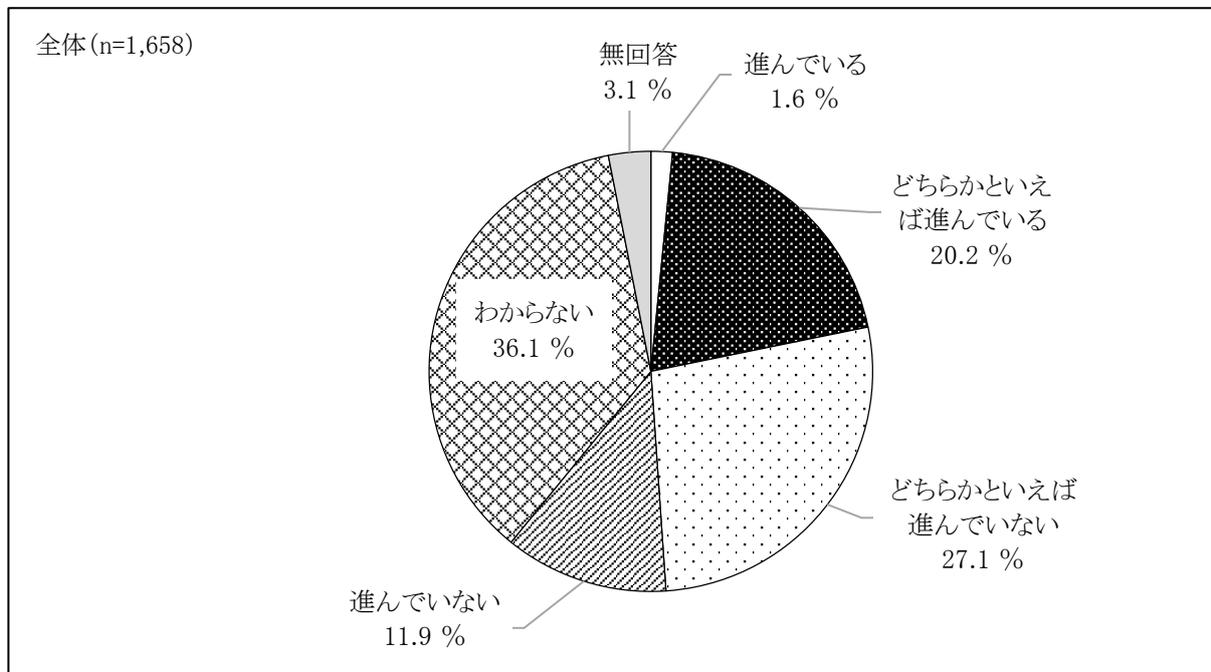
(職業別／家族構成別)



25. 新潟市の持続可能なまちづくりについて

(1) 持続可能なまちづくりは進んでいるか

25-1 あなたは、新潟市において、上記のような将来世代のことも大切にした持続可能なまちづくりが進んでいると思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

持続可能なまちづくりは進んでいるかについて、「進んでいる」が1.6%、「どちらかといえば進んでいる」が20.2%、「どちらかといえば進んでいない」が27.1%、「進んでいない」が11.9%となった。また、「わからない」(36.1%)と答えた割合が最も高く、3割以上を占めた。

【属性別結果】(次ページ図 25.1 参照)

① 区別

「どちらかといえば進んでいる」と答えた割合は、南区(27.5%)で最も高い。

② 性別

「わからない」と答えた割合は、男性(32.7%)より女性(40.6%)でやや高い。

③ 年齢別

「どちらかといえば進んでいる」と答えた割合は、18~29歳(29.7%)で最も高い。

④ 職業別

「どちらかといえば進んでいる」と答えた割合は、学生(40.0%)で最も高い。

⑤ 家族構成別

「わからない」と答えた割合は、単身(46.5%)で最も高く、4割半ばを占めた。

図 25.1 持続可能なまちづくりは進んでいるか

(区別／性別／年齢別)

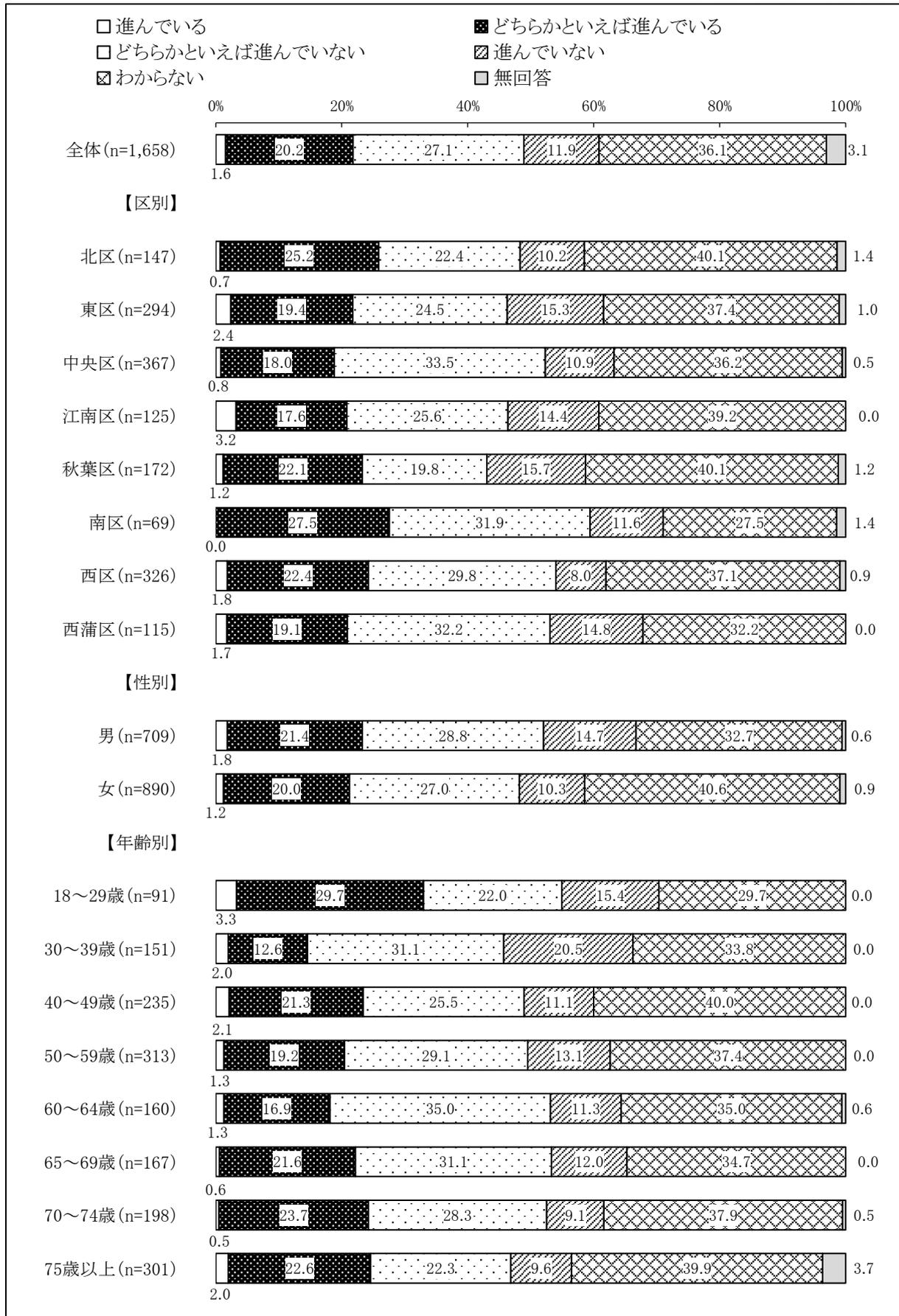
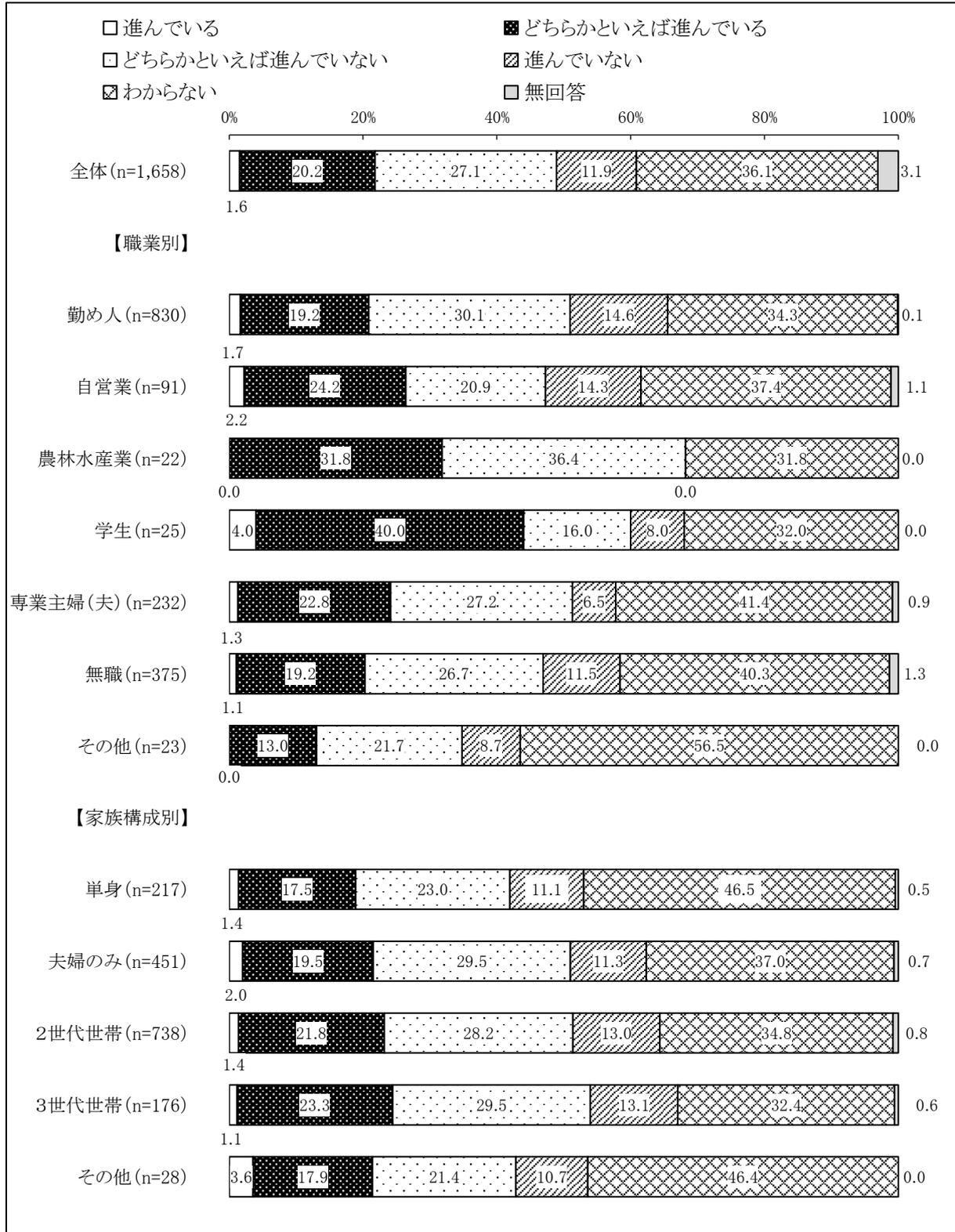


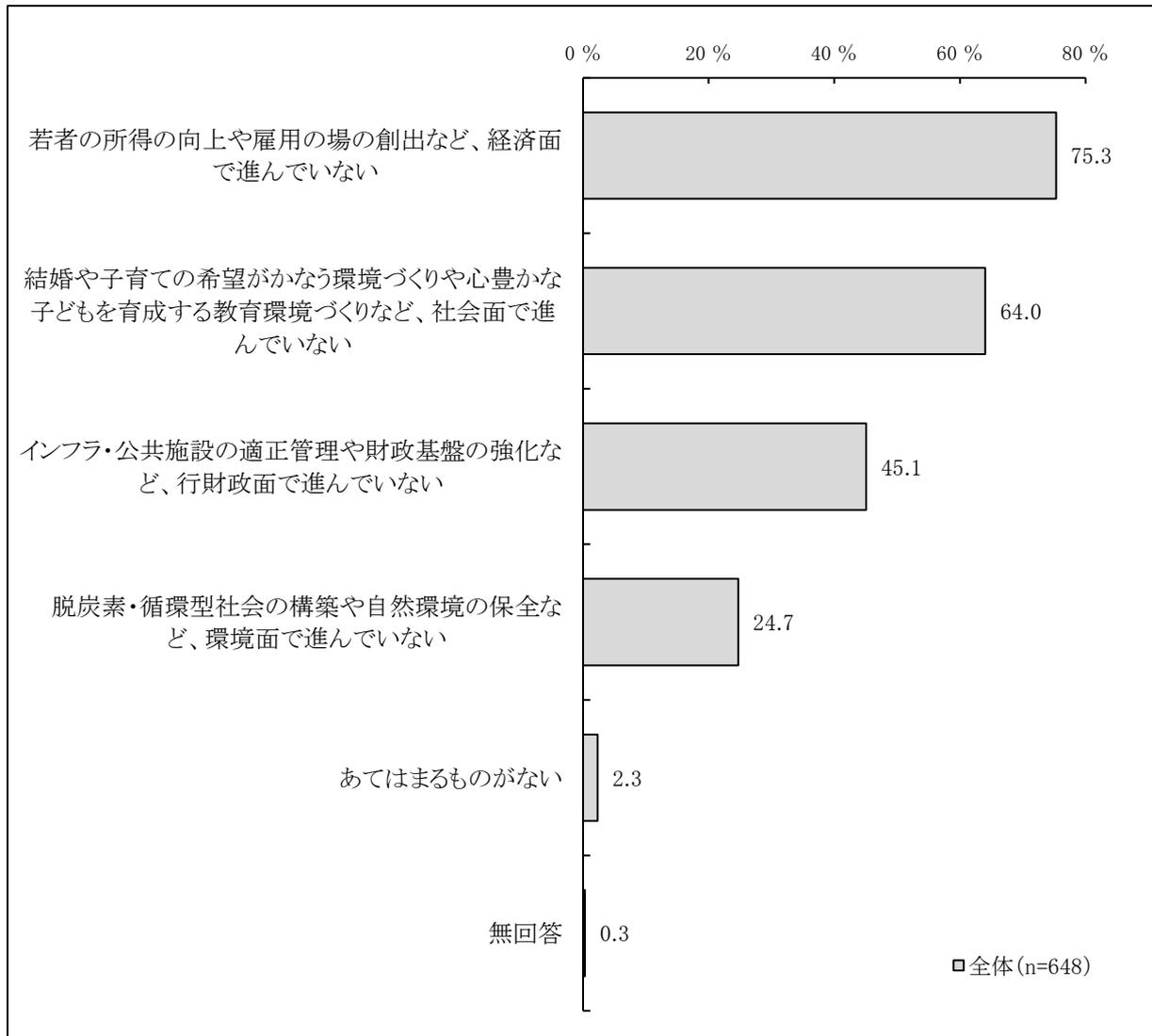
図 25.1 持続可能なまちづくりは進んでいるか

(職業別／家族構成別)



(2) 持続可能なまちづくりで進んでいないと思うこと

上記 25-1 で③または④を選択した方に質問します。
 25-2 特にどのような面で進んでいないと考えるか、あなたの考えに近いものはどれですか。
 (〇はいくつでも)



【全体結果】

持続可能なまちづくりで進んでいないと思うことについて、「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」(75.3%)と答えた割合が最も高く、7割半ばを占めた。次いで「結婚や子育ての希望がかなう環境づくりや心豊かな子どもを育成する教育環境づくりなど、社会面で進んでいない」(64.0%)、「インフラ・公共施設の適正管理や財政基盤の強化など、行財政面で進んでいない」(45.1%)、「脱炭素・循環型社会の構築や自然環境の保全など、環境面で進んでいない」(24.7%)となった。

【属性別結果】（次ページ図 25.2 参照）

① 区別

南区を除くすべての区で「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」と答えた割合が最も高い。南区では「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」と「結婚や子育ての希望がかなう環境づくりや心豊かな子どもを育成する教育環境づくりなど、社会面で進んでいない」と答えた割合が最も高い。

② 性別

男性女性とも「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」と答えた割合が最も高い。

③ 年齢別

18～29 歳、70～74 歳を除くすべての年代で「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」と答えた割合が最も高い。18～29 歳では「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」と「結婚や子育ての希望がかなう環境づくりや心豊かな子どもを育成する教育環境づくりなど、社会面で進んでいない」、70～74 歳では「結婚や子育ての希望がかなう環境づくりや心豊かな子どもを育成する教育環境づくりなど、社会面で進んでいない」と答えた割合が最も高い。

④ 職業別

勤め人（パートも含む）、専業主婦（夫）、無職では「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」、自営業では「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」と「結婚や子育ての希望がかなう環境づくりや心豊かな子どもを育成する教育環境づくりなど、社会面で進んでいない」と答えた割合が最も高い。

（農林水産業と学生は該当者数が少ないため除く。）

⑤ 家族構成別

すべての家族構成で「若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない」と答えた割合が最も高い。

図 25.2 持続可能なまちづくりで進んでいないと思うこと 1/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

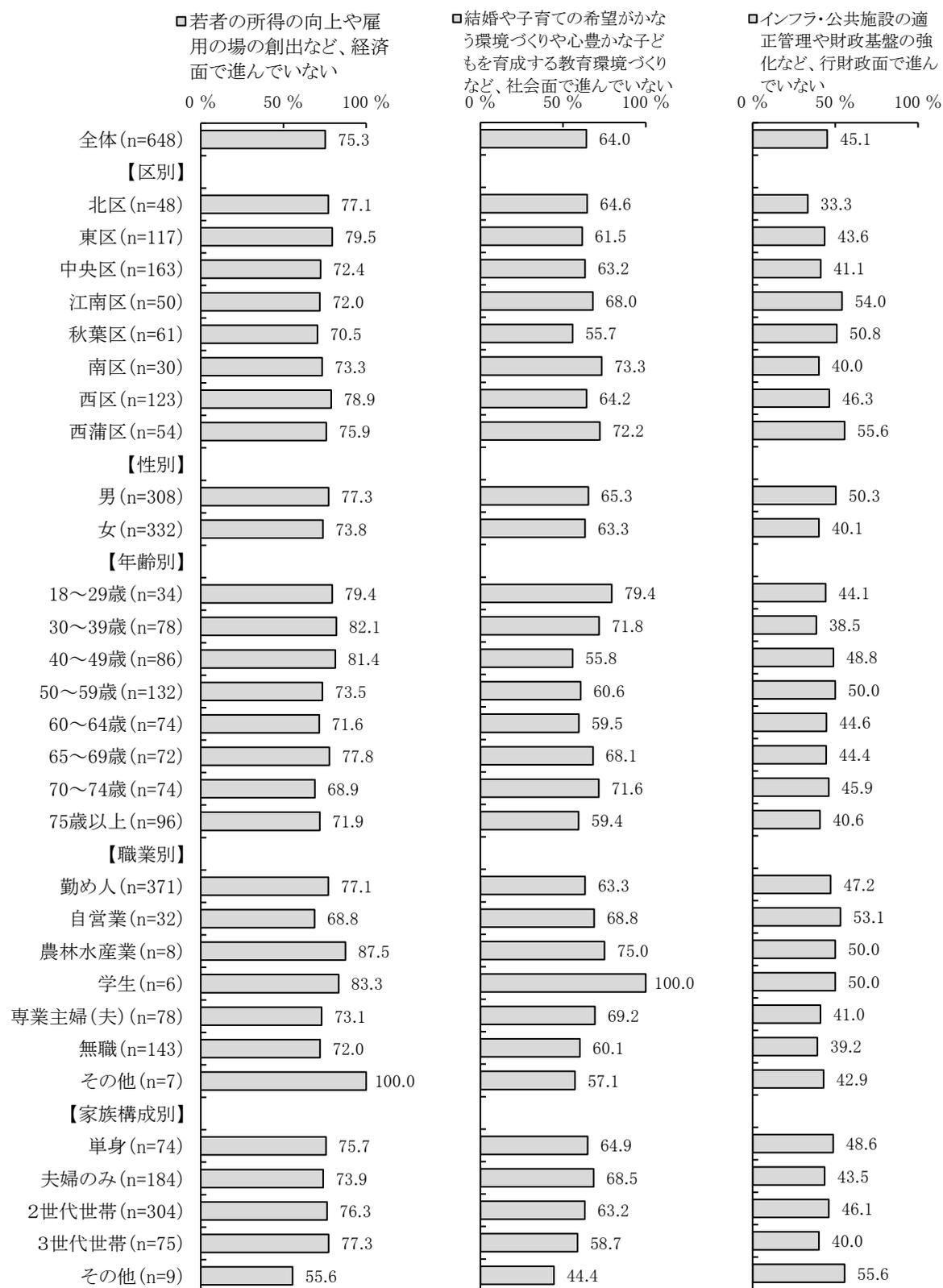


図 25.2 持続可能なまちづくりで進んでいないと思うこと 2/2

(区別／性別／年齢別／職業別／家族構成別)

